

# 現地観測に基づく日野市の 水環境保全に関する水文学的研究

1996年

山本由美子

浅川勉強会代表

# 目 次

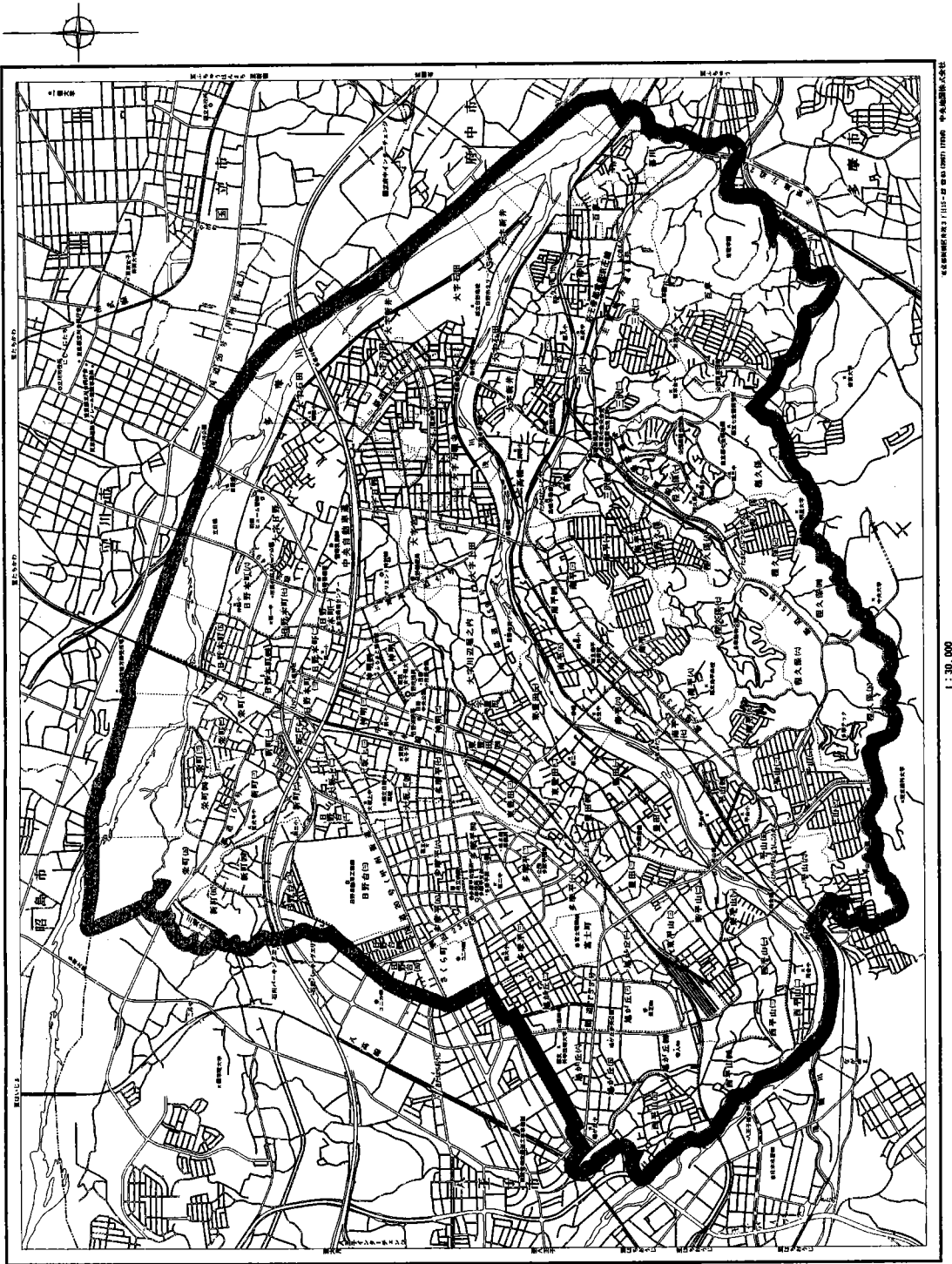
1. はじめに .....	1
2. 日野市全図（白地図のみ） .....	2
2. 1 流域の中の日野市 .....	3
2. 2 標高図・地形・地質図 .....	6
2. 3 湧水・井戸の既存データ .....	13
2. 4 流域の土地利用及び市街地の変遷 .....	38
3. 調査と研究の目的・方法 .....	45
3. 1 円卓会議「水・そこが問題」（資料別添） .....	45
4. 井戸の決まるまで .....	102
4. 1 地図にしるす .....	102
4. 2 井戸実踏調査より .....	107
4. 2. 1 井戸台帳 .....	108
4. 3 手計り水位計と自記水位計 .....	133
4. 4 観測井戸標高模式図 .....	134
4. 5 継続可能になった井戸 .....	135
4. 6 丘陵・沖積地・台地の井戸 .....	151
4. 7 各井戸の地図とその付近の柱状図 .....	154
4. 8 日野宿周辺 .....	182
5. 聞き取り調査一覧 .....	185
6. 降雨と井戸の水位の関係 .....	189
6. 1 井戸別降雨と水位の変動グラフ .....	190
6. 2 浅川の水位の変動と降雨量 .....	222
7. 浅川の雨量グラフ .....	224
7. 1 日野と八王子の比較 .....	225
8. 調査を通して .....	229
8. 1 丘陵・沖積地・台地（流域の水の光と影） .....	231
8. 2 流域の俯瞰図と河床勾配 .....	233
9. 提 言 .....	234
10. まとめ .....	235
参 考 書 .....	236
参考資料 1. 日野市地質図 .....	237
2. 地質断面図 .....	238
3. 実測による日野市内の井戸の水位表 .....	239

## 1. はじめに

浅川は八王子・日野という二つの市のほぼ中心を大きくうねりながら31.5km流れ下り、多摩川に合流する多摩川右岸中流域の支流だ。西方に連なる関東山地の一角、陣馬山（標高857m）の山ふところから流れ出している。建設省が指定した管理区間の起点を示す石柱が、標高315m地点の中ノ橋際にある。流域面積156.1km<sup>2</sup>の92%は、八王子市が占め、日野市は8%にしか過ぎない。支川の一級河川7本はその支々川から流入する水と共に、本川浅川の水量を支えている。下流日野市は、周囲25.5kmの市域に丘陵・沖積低地・段丘と多様な地形を有し、浅川の伏流水ともいわれる段丘崖の湧水群は、豊富な水量を稲作やワサビ栽培、飲料水や洗い場、魚の養殖と、生活の中に生かしてきた。今の大人たちの中には、用水でとれたシジミや小魚が、食卓を賑やかにしていたことを記憶している方も多い。夏の農作業のあと、作業衣を着たまま用水に飛び込んで汗を流したり、母が洗い物をするかたわらで水遊びをしていた幼い日のことなど、話すほど興がのってくる。日野の原風景の多くは、水に彩られていた。

今回のとうきゅう環境浄化財団の助成に先立ち、1989年（平成1年）にも助成を受け、多摩美術大学の渡部教授をキャップに「日野市における水路の生物環境・景観要素及び利用意識調査による環境特性の研究」をまとめることができた。日野の用水を多角的な視点から取り上げる作業で、その際痛感したのは、この多様な地形を結ぶ水を見事に生かし、利用してきた先人たちの知恵、そしてたゆみない努力だった。地の利を読み切った用水の仕組みと管理には、多摩川・浅川から取水された水ばかりでなく、豊富な湧水の利用も組み込まれていた。相互に育み育まれ、二つの市を結ぶ浅川は、流域の人々の歴史と共に大きな水の循環、目に触れる水と、大地の下の目に触れない水の広がりを感じさせた。周辺地域の土地利用の変遷にともない、このまちの骨格とも言える水環境の量・質とも将来的展望に対する調査・方向づけなど、市民の立場からそれらを知る努力と、多くの人々の共感を深めた。今回の取り組みはそんな思いから始まった。

## 2. 日野市全図



平成五年三月

日野市役所

## 2.1 流域の中の日野市

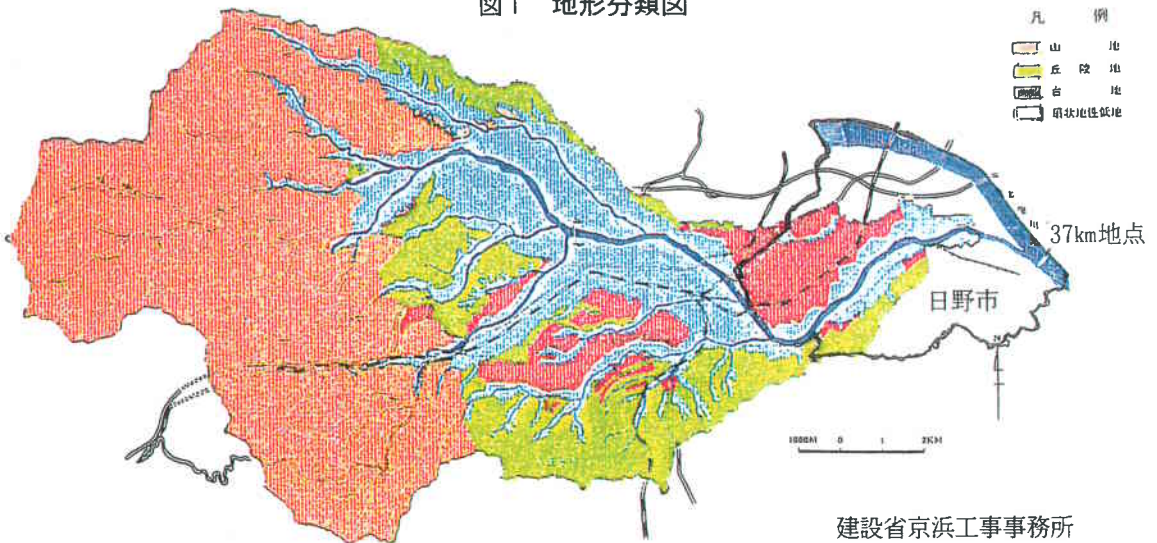
浅川の流域には、日野と八王子の2市があるのみだが、市域の広さから見ると八王子が186km<sup>2</sup>、日野市は27.5km<sup>2</sup>、比率は約7：1。人口から見ると、八王子48万人、日野は16万人、約4：1の割合になる。広大な山地を抱える上流の町のこれからは、下流のまちにとって大きな関心を寄せざるをえない。流域の大きな水循環のバランスにどのような影響が現れるのだろうか。（表1、図1）

この調査をとうして、両市の人の関心を喚起できるなら、川と山もけして無関係ではない、足元を流れる小川のように、見えない地下の流れで結ばれていることを、流域で考えるきっかけにもなるのではと思う。幸い？日野市は目の届く大きさだと、ここを訪れる人々に指摘されている。湧き水の多さについても関心を寄せる市民が多い。

表1

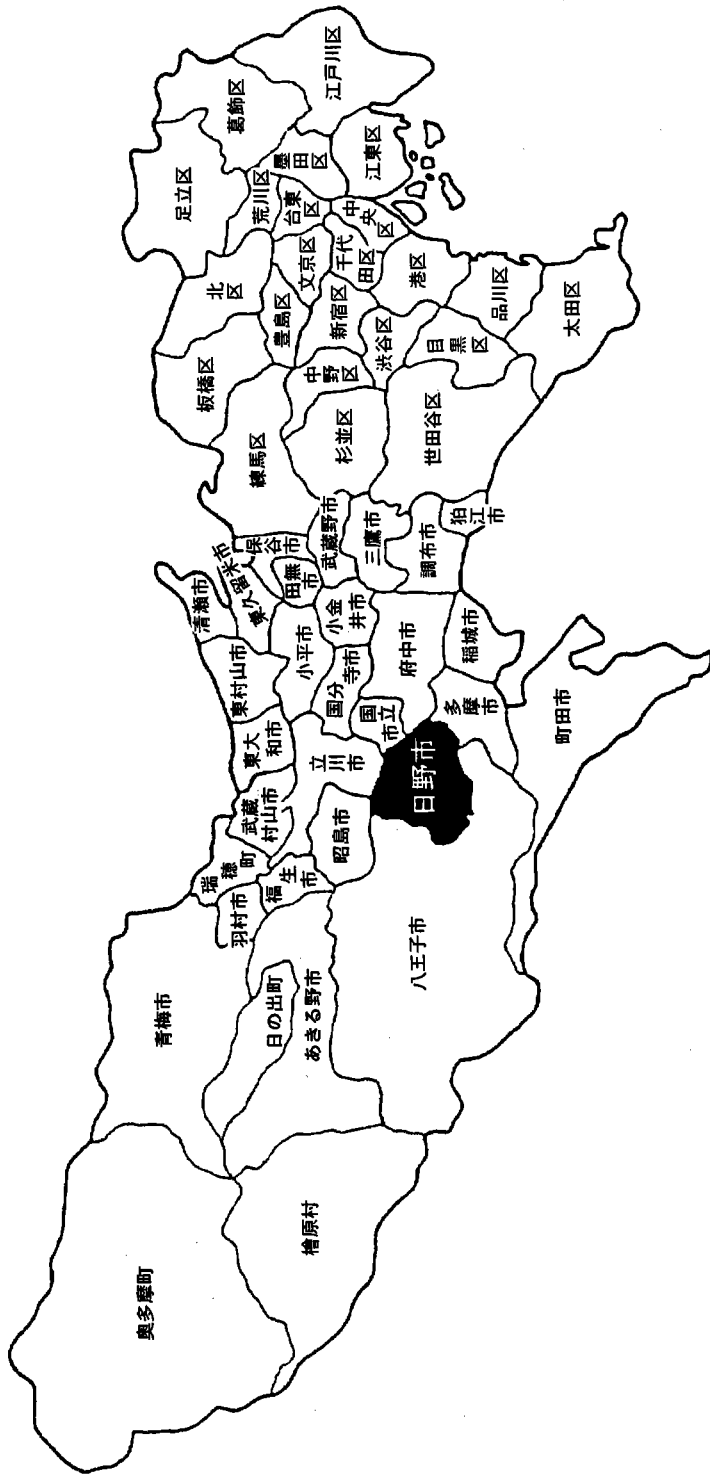
流域特性	流域諸元	摘要
流域面積	156.1 km <sup>2</sup>	
流域地形		分水界標高150 m～870 m
山地	71.76 km <sup>2</sup>	45.9 %
丘陵	25.28 km <sup>2</sup>	16.2 %
台地	14.10 km <sup>2</sup>	9.0 %
扇状地性低地	42.60 km <sup>2</sup>	27.3 % (他河道1.6 %)
市街化区域面積	59.46 km <sup>2</sup>	流域の38.1 %
本川流路延長	30.15 km	幹線流路総延長119.8 km
直轄区間延長	13.20 km	
指定区間延長	16.95 km	
流路勾配（直轄区間）	I = 1/230～1/150	多摩川合流点～南浅川合流点
“（指定区間）	I = 1/140～1/100	南浅川合流点～八王子福祉センター
流域内関係市町村	八王子市 144.2 km <sup>2</sup> 日野市 11.9 km <sup>2</sup>	流域の92.4 % “ 7.6 %

図1 地形分類図



建設省京浜工事事務所  
「浅川の概要」から

# 日野市の位置



日野市役所の位置から  
 東京駅まで約33.5km  
 東京都東端（江戸川区）まで44.5km  
 東京都西端（奥多摩町）まで43.0km

日野市の境界	東経	139度21分40秒	(西端)
	"	139度26分40秒	(東端)
	北緯	35度38分20秒	(南端)
	"	35度41分30秒	(北端)
広がり	東西	7.59キロメートル	
	南北	5.85キロメートル	
周囲	囲	25.5キロメートル	

## 2.2 標高図・地形・地質図

市域をほぼ二分している浅川の右岸は丘陵、左岸は二面からなる段丘地だ。地図を見ても台地は標高差の殆どない事がよく分かる。それに比べると丘陵は入り組んだ複雑な地形だ。(図2-2-1・3)

多摩川と浅川二本の川が残した沖積低地はそれぞれの川に張り付くように細くつづく。台地の下から今の合流地点まで、広いデルタが残っている。川が積み残した土砂がこの土地を造っていることは容易に見て取れる。ずいぶん昔からこの土地には稲作が始められていた。川から取水された水と豊富な湧水が、高低差を巧みに読み込んで田をめぐって川へ戻されていった。(図2-2-2)

日野市の浅川の河床勾配を図にしてみると(図2-2-4)それがよく分かる。日野市水路清流課で行った調査の中に丘陵地の地質推定断面図(図2-2-5~図2-2-7)でその高低差と複雑な地形が読み取れる。

日野市は秋田犬によく似ている。少し慣れるとそこがどこにあたるかおおよその見当がつく。

日野市「とうけい日野」より



(単位=海拔m)

図2-2-1 日野市の地形・標高図

資料：都市整備部下水道計画課(日野市公共下水道基本計画・調査編)

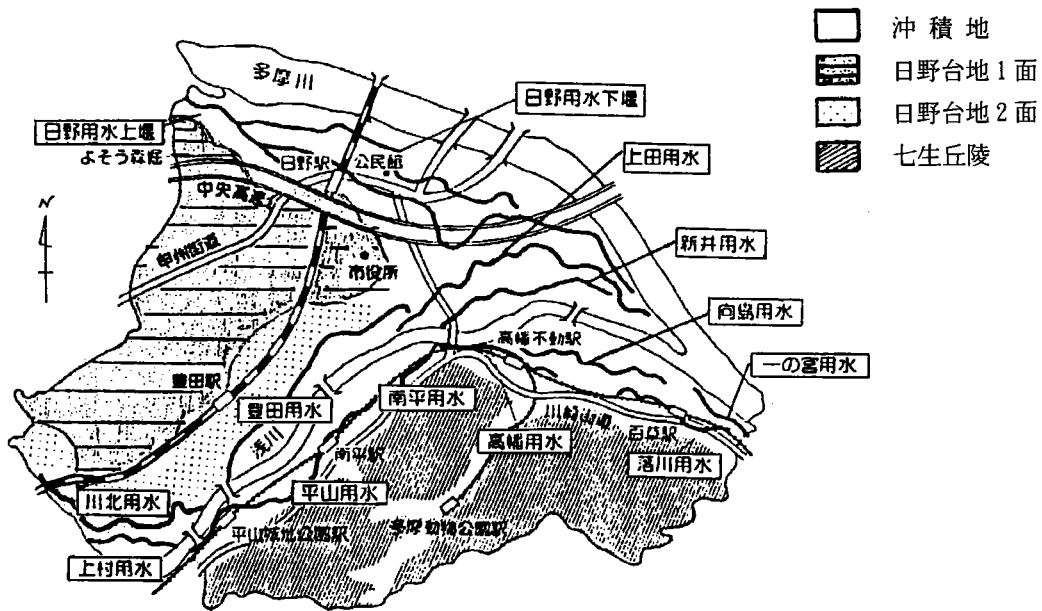


図2-2-2 日野市の地形と幹線用水路

資料 (財)とうきゅう環境浄化財団「多摩川の概要1994年」

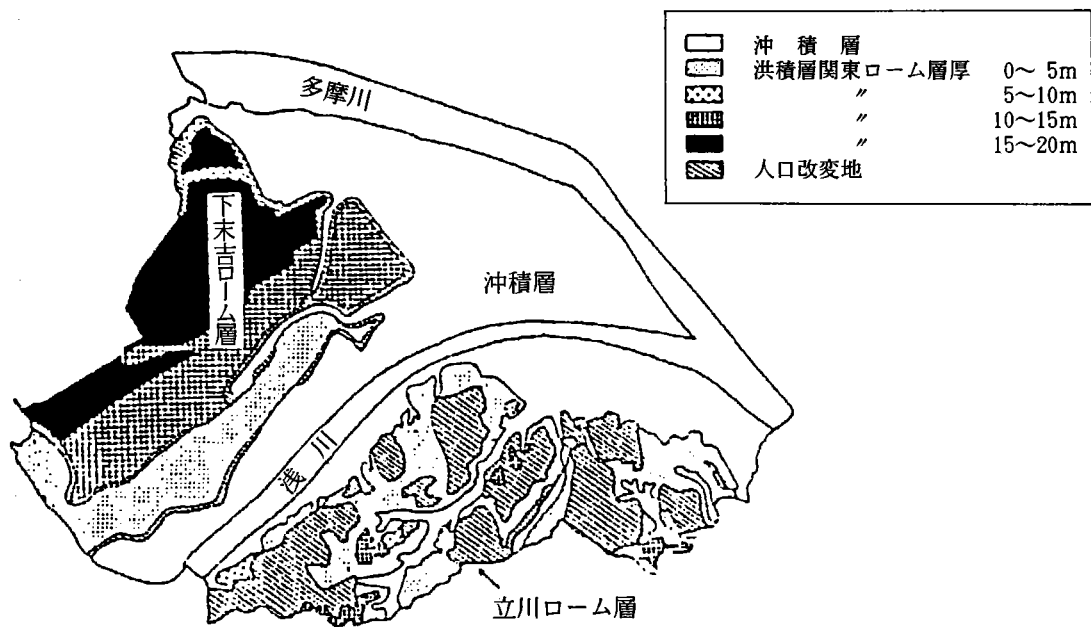
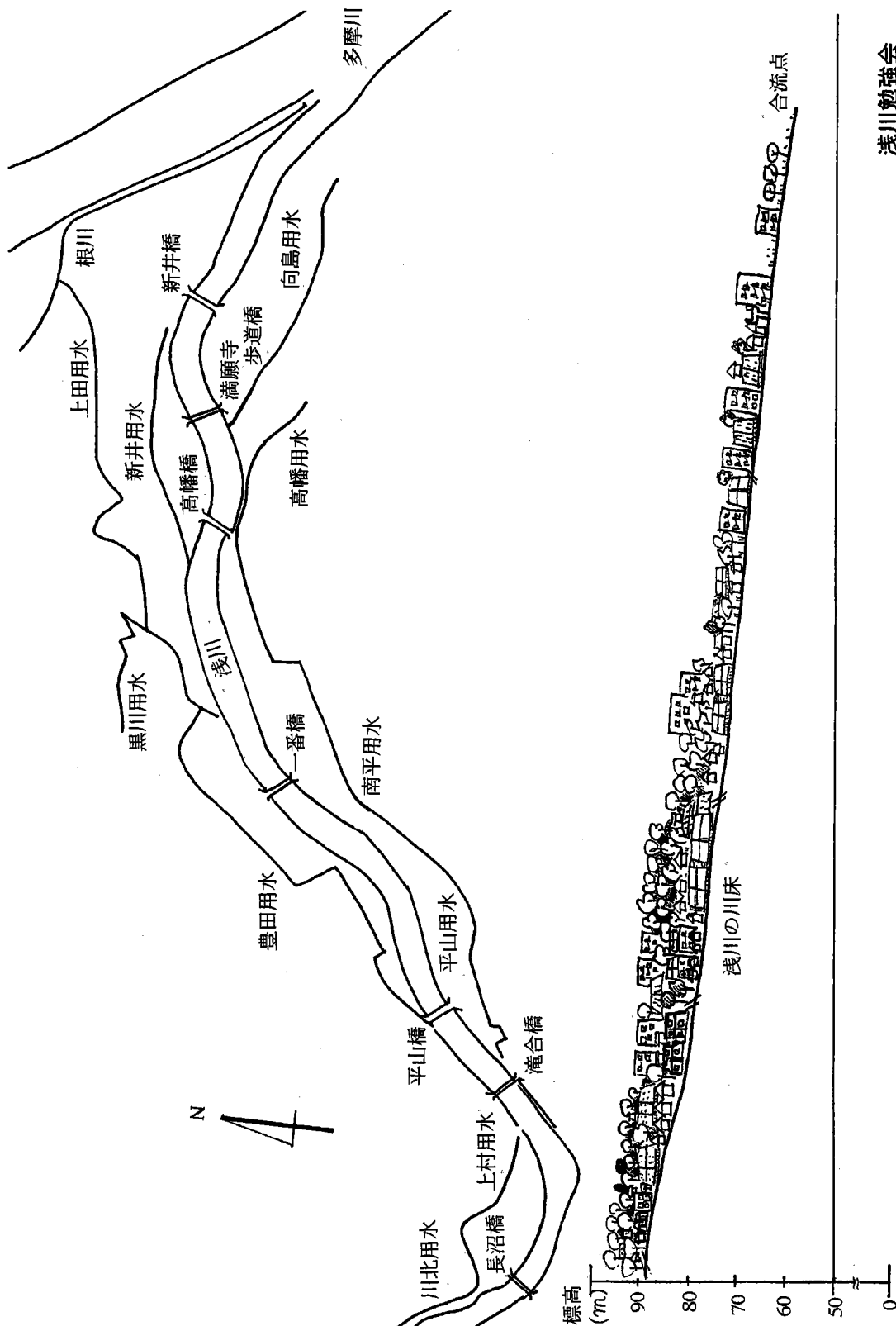


図2-2-3 日野市の地質

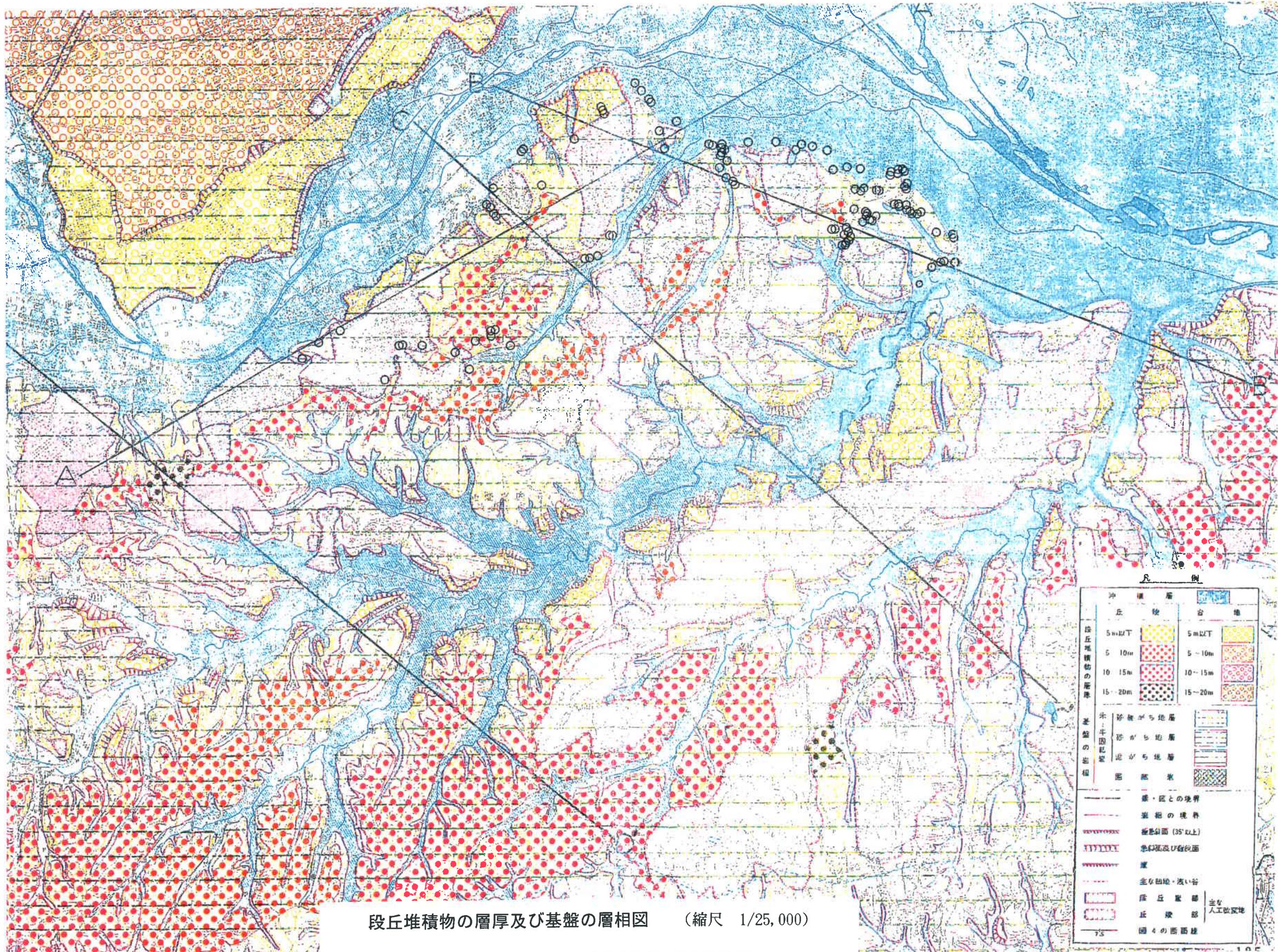
資料：都市整備部下水道課（日野市公共下水道基本計画・調査編）





浅川勉強会

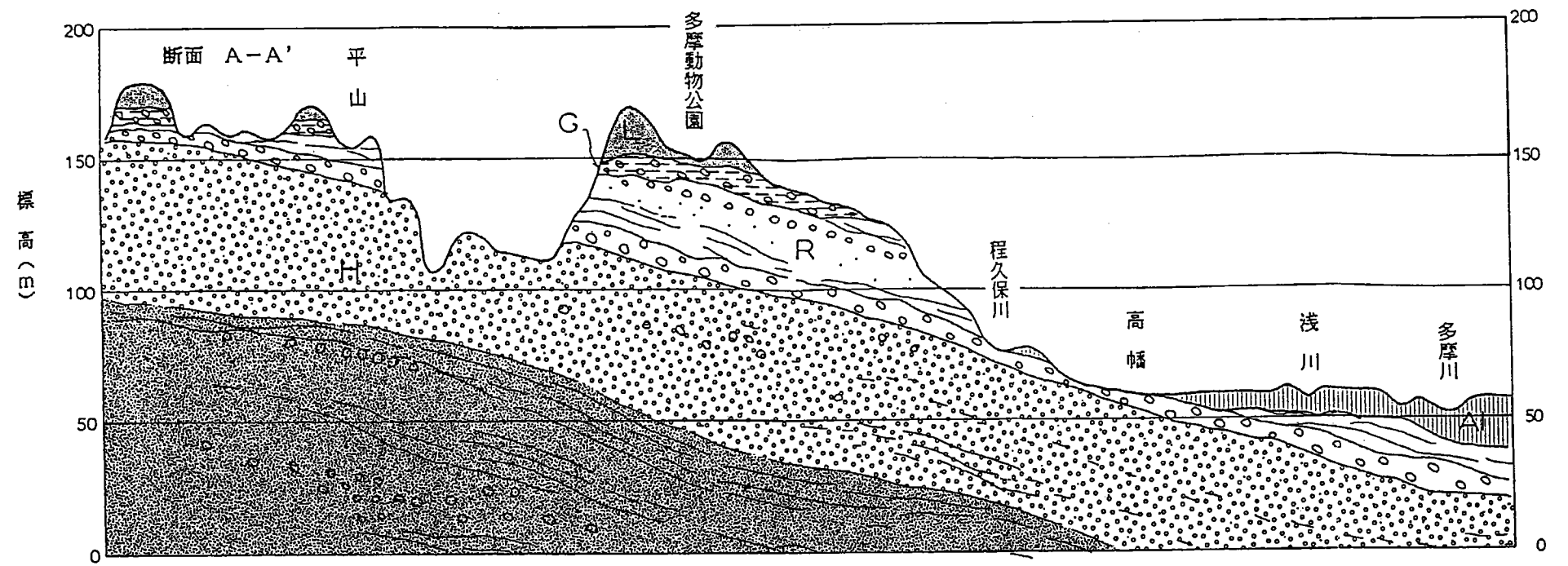
図 2 - 2 - 4 日野市内浅川の河床勾配



段丘堆積物の層厚及び基盤の層相図 (縮尺 1/25,000)

図2-2-5 東京都 東京都地盤地質図(三多摩地区)より

湧水地点 ○



凡例

地時 質代	地区 層分	地層名	記号
第四紀	沖積層	沖積層	A1
	洪積層	関東ローム層	L
		御殿峠礫層	G
第三紀	上総層群	稲城砂層	In
		連光寺互層	R
		平山砂層	H
		大矢部層	Oy

礫	砂	泥

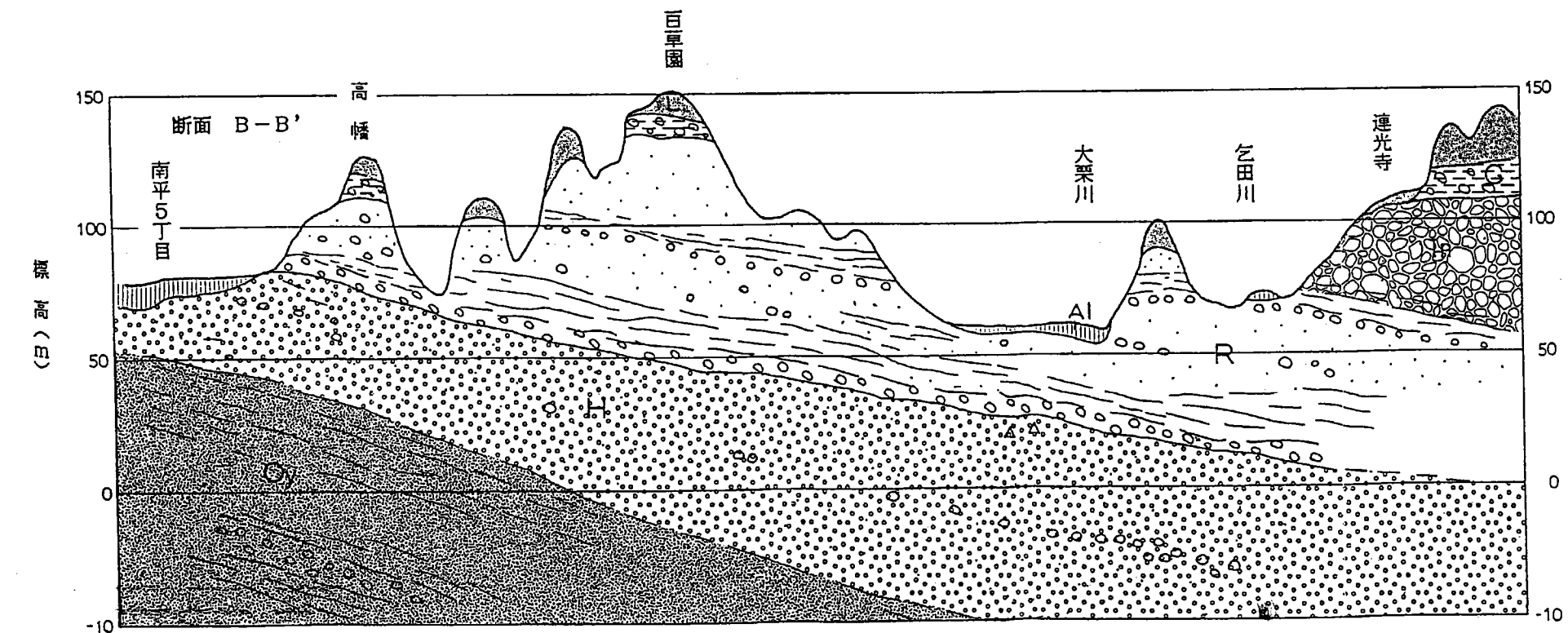
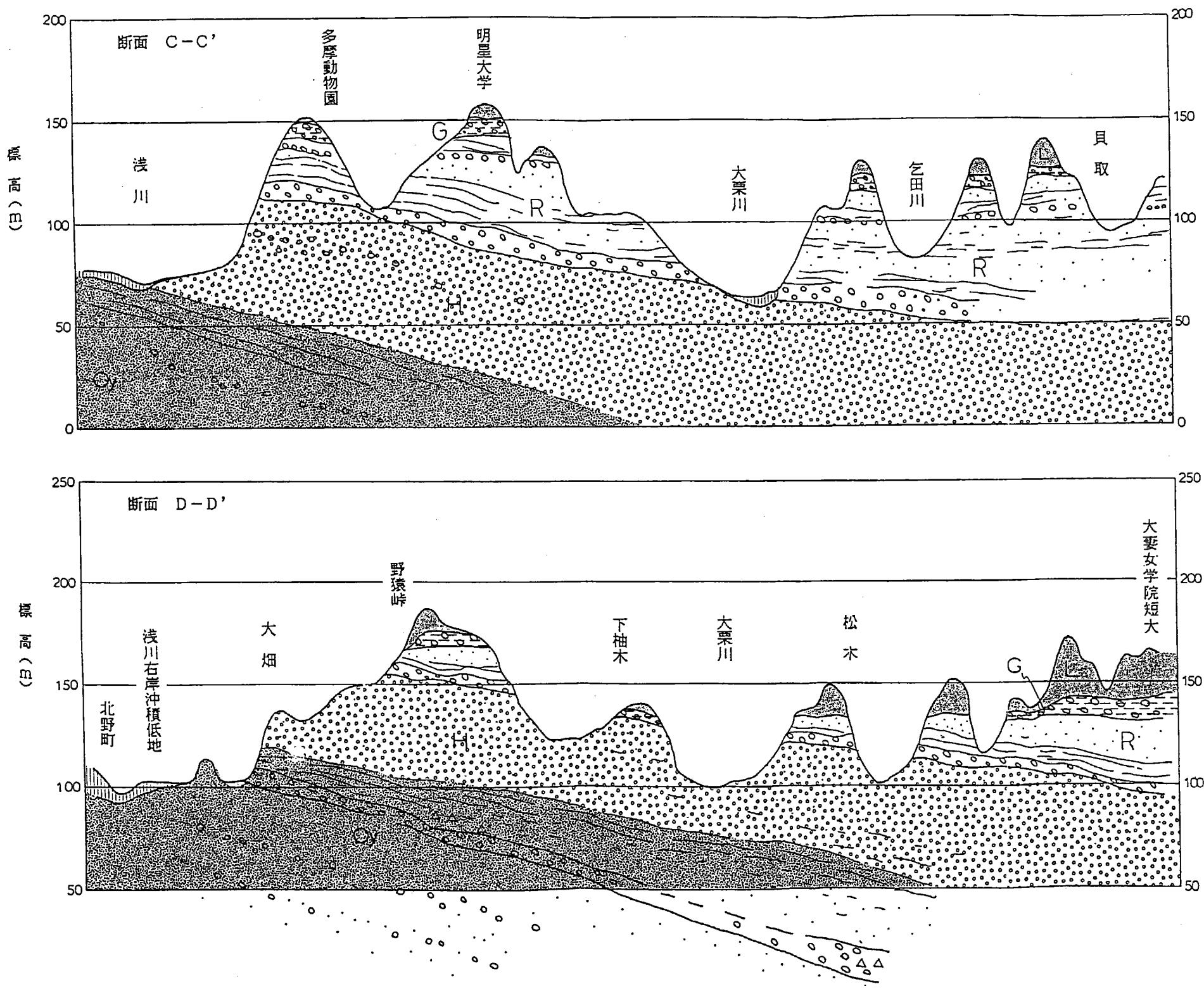


図2-2-6 地質推定断面図(その1)

(縮尺 縦 1/2,000 横 1/25,000)



凡例

地時代	地区層分	地層名	記号
第四紀	沖積層	沖積層	A1
	洪積層	関東ローム層	L
		御殿峠礫層	G
第三紀	上総層群	連光寺互層	R
		平山砂層	H
		大矢部層	Oy

礫	砂	泥
○○○○ ○○○○	●●●●	———

図2-2-7 地質推定断面図(その2)  
(縮尺 縦 1/2,000 横 1/25,000)

## 2.3 湧水・井戸の既存データ

日野市の湧水の多さは知られている。上流部の八王子市は市域の広さでは日野市の約7倍あり、浅川の支川、支々川の全てがこの上流の町にある。湧水の多さは日野市の何十倍あるか判らない。下流の町が湧水で有名になったのは、コンパクトにまとまった中で人々の生活の場に密着していたからにすぎないのだろうか。やはりそればかりではない。背後に広大な地下水の涵養域があり、台地も丘陵も大きな眼で見ると東に傾いた地形を持っていると、いわれているのは事実なのだろう。その流域の東のはずれで地層の断面から水が湧くのは至極当然なこと。市当局の調査も行き届いている。湧水個所は200。井戸も現在使われているものが500以上ある。

### 日野市の湧水湧出量

日野市全域 200カ所

	(TON/DAY)		(TON/DAY)		年間総量
1993年度	夏(1993. 7月末)	17,868.6	冬(1994. 2月)	9,053.6	26,922.2
1994年度	夏(1994. 7月末)	11,848.0	冬(1995. 2月)	8,685.1	20,533.1
1995年度	夏(1995. 7月末)	17,538.8	冬(1996. 2月)	未	—

日野市水路清流課調査

### 日野市域多摩丘陵周辺の湧水地点(その1)

通番号	湧水地点 No.	標高 TP+m	湧水量 ton/day	所在地	地点名称
1	41R01	89.5	1.7	南平3-2	中原信雄宅前
2	41R02	88.5	13.0	南平3-2	志村要宅先
3	41R03	86.0	非測定	南平3-2	富樫孝夫宅先
4	42L01	75.0	29.4	高幡700	高幡不動尊1
5	42L02	75.0	6.9	高幡700	高幡不動尊2
6	42L03	74.0	49.2	高幡700	高幡不動尊水路
7	42L04	72.0	11.2	高幡700	高幡不動尊脇
8	52L01	75.0	0.7	南平2-68	畜舎脇1
9	52L02	75.0	0.2	南平2-68	畜舎脇2
10	52L03	106.0	未測定	南平2-24	原野正男宅前
11	51R01	94.0	未測定	南平3-8	大東ガス裏
12	53L01	84.0	6.9	三沢700	駐車場斜め前
13	53L02	78.0	2.6	三沢700	駐車場脇
14	53R01	74.0	45.8	三沢670	原田圭介宅西南
15	53R02	74.0	5.2	三沢670	土方墓横
16	53R03	70.0	8.6	高幡700	豊住理髪店裏
17	54L01	71.0	5.2	三沢670	守屋隆夫宅1
18	54L02	71.5	5.2	三沢670	守屋隆夫宅2
19	54L03	73.0	5.2	三沢670	守屋正夫宅駐車場横

日野市域多摩丘陵周辺の湧水地点（その2）

通番号	湧水地点 No.	標高 TP+m	湧水量 ton/day	所在地	地点名称
20	54L04	74.0	1.7	三沢670	守屋金次宅横
21	54L05	78.0	非測定	三沢670	平義光宅
22	54L06	83.0	3.5	三沢860	うどん屋
23	54L07	87.0	74.3	三沢860	百草台小学校入口東
24	54L08	86.0	11.2	三沢860	駐車場前
25	54L09	86.0	4.3	三沢920	守屋宅裏
26	54L10	74.0	58.8	三沢925	ピノキオ宅脇
27	54L11	76.0	29.4	三沢950	八幡神社脇
28	54R01	69.8	7.8	三沢1000	守屋直人宅脇
29	54R02	70.0	4.3	三沢1040	一宮英夫宅脇
30	54R03	68.0	5.2	三沢1070	伊藤千尋宅奥
31	55L01	64.0	38.0	三沢1080	伊藤今男宅
32	55L02	63.5	26.8	三沢1200	土方コーポ脇
33	55L03	71.0	396.6	三沢1300	沢
34	55L04	67.0	3.5	三沢1300	佐野宅脇
35	55L05	64.0	50.1	三沢1300	横山良夫宅
36	55R01	62.0	0.3	落川1100	大宮神社入口脇
37	55R02	68.0	0.2	落川1100	高松宅前
38	55R03	64.0	6.9	落川1100	大宮神社東側合流前
39	55R04	61.5	25.9	落川1100	大宮神社東側合流後
40	55R05	60.0	38.9	落川940	駐車場東側
41	55R06	60.0	0.7	落川940	わかくさ幼稚園西
42	55R07	66.0	7.2	落川1100	真照寺池南側
43	61R01	84.0	非測定	南平2-59	馬場宅前道路
44	61R02	83.5	63.9	南平8-8	木津宅前
45	61R03	86.0	0.9	南平8-8	築地宅前
46	61R04	90.0	9.5	南平8-11	公園内1
47	61R05	98.0	6.0	南平8-11	公園内2
48	65L01	105.0	33.7	百草870	伊藤宅東側土管
49	65L02	105.0	8.6	百草870	伊藤宅東側石垣下
50	65L03	107.5	非測定	百草870	岡田宅崖下
51	65L04	96.0	20.7	百草860	増島家光宅西
52	65L05	88.0	44.1	百草860	矢崎文彦宅
53	65L06	100.0	非測定	百草860	佐藤俊男宅横
54	65L07	96.0	非測定	百草860	小島善太郎宅崖下
55	65L08	94.0	2.5	百草860	東電学園寮脇1
56	65L09	94.0	7.3	百草860	東電学園寮脇2
57	65L10	92.0	3.5	百草860	中野正俊宅前
58	65L11	108.0	非測定	百草570	百草園通り1

日野市域多摩丘陵周辺の湧水地点（その3）

通番号	湧水地点 No.	標高 TP+m	湧水量 ton/day	所在地	地点名称
59	65L12	96.0	52.7	三沢1300	百草園通り2
60	65R01	80.0	8.6	三沢1300	中村宅
61	65R02	80.0	17.3	三沢1300	中村宅合流後
62	65R03	80.0	3.5	落川1100	佐藤宅裏西
63	65R04	80.0	0.3	落川1100	佐藤宅裏
64	65R05	70.0	4.9	落川1100	真照寺墓地西側
65	65R06	72.0	2.2	落川1100	真照寺墓地南側
66	65R07	92.0	非測定	百草500	川添務宅北側
67	65R08	90.0	非測定	百草500	守屋隆次宅西側
68	65R09	89.0	38.0	百草500	西村宅北東側
69	65R10	85.0	非測定	百草500	守屋隆次宅東下
70	65R11	85.5	非測定	百草500	村岡耕一朗宅南側
71	65R12	99.0	非測定	百草600	中田宅北側放棄田
72	65R13	97.0	非測定	百草600	岩堀齒科北側1
73	65R14	97.0	8.2	百草600	岩堀齒科北側2
74	65R15	97.0	非測定	百草600	岩堀齒科前道路中央
75	65R16	101.5	非測定	百草600	荒井保子宅南崖下
76	65R17	96.0	48.4	百草600	岩堀齒科南側
77	65R18	92.0	76.9	百草600	竹茂樹宅南側
78	65R19	96.0	非測定	百草500	大木洋宅前
79	66L01	83.0	非測定	百草400	大木利雄宅裏
80	66L02	63.0	非測定	百草300	アパート裏
81	66L03	62.0	6.8	百草300	大塚健夫宅
82	66L03	62.0	非測定	百草300	大塚造園内
83	66L04	64.0	非測定	百草300	ガーデンビュー石神南
84	66L05	84.0	非測定	百草400	八木五一宅
85	66L06	80.5	25.1	百草400	八木五一宅前
86	66L07	82.0	32.8	百草400	吉原建設作業所上1
87	66L08	82.0	85.5	百草400	吉原建設作業所上2
88	72R01	110.0	未測定	程久保8-49	天狗ビリヤード裏
89	72R02	107.0	未測定	程久保8-49	マージャン天狗裏
90	72R03	105.0	未測定	程久保8-48	増田屋裏駐車場
91	72R04	97.5	未測定	程久保8-21	駐車場事務所脇
92	76L01	55.0	13.0	和田19号1700	沼倉宅下
93	76L02	56.0	5.2	和田19号1700	丘陵斜面下1
94	76L03	56.0	0.4	和田19号1700	丘陵斜面下2
95	76L04	59.0	2.6	和田19号1700	スターライトビル前
96	76L05	62.0	35.4	百草600	杉山宅先
97	78R01	106.0	1.1	平山6-17	田中宅南

日野市域多摩丘陵周辺の湧水地点（その４）

通番号	湧水地点 No.	標 高 TP+m	湧水量 ton/day	所 在 地	地 点 名 称
98	78R02	110.0	0.6	平山 6-16	宋印禅寺神の水
99	79L01	106.0	0.2	平山 2-38	おくやま公園階段脇
100	79R01	132.5	2.6	平山 1-19	桑山宅前 1
101	79R02	132.5	5.6	平山 1-19	桑山宅前 2
102	79R03	136.0	1.9	平山 1-19	平山 2-6 T字路脇
103	80L01	138.0	38.0	平山 1-2	間瀬宅前
104	80L02	138.0	未測定	程久保 5-25	側溝脇
105	80L03	138.0	未測定	程久保 5-20	多摩テック駐車場脇
106	80R01	138.0	未測定	程久保 6-13	立川明宅奥
107	80R02	140.0	未測定	程久保 6-10	田倉明宅奥 1
108	80R03	140.0	未測定	程久保 6-10	田倉明宅奥 2
109	80R04	137.0	未測定	程久保 6-10	田倉明宅横
110	80R05	128.5	未測定	程久保 6-7	杉本利治宅北

備考：湧水地点のデータは湧水現況調査結果より引用



日野台地周辺の湧水地点とそのタイプ（その1）

通番号	湧水地点 No.	標高 TP+m	湧水量 ton/day	所在地	地点名称	湧水地点の タイプ
1	02L01	90.0	未測定	新町5-10	早川グット対岸擁壁	1
2	02L02	85.0	未測定	新町5-18先	山口幸夫宅南	1
3	02L03	88.5	未測定	新町5-18先	山口幸夫宅南対岸	1
4	02R01	90.5	未測定	栄町5-20	新旭橋脇	1
5	02R02	83.5	未測定	栄町5-20	和田溝夫宅	1
6	02R03	87.5	未測定	栄町5-11	奥住栄助宅	1
7	02R04	90.0	未測定	栄町5-10	カシマ商店先	1
8	07L01	94.5	未測定	新町2-12	由田静雄宅	1
9	07L02	92.0	未測定	新町2-12	和田利夫宅	1
10	07L03	92.0	未測定	新町2-15	和田七郎宅	1
11	07L04	81.0	未測定	新町2-7	高速脇側溝	1
12	15L01	80.0	未測定	日野本町3-6	宝泉寺内	1
13	15L02	78.0	未測定	日野本町3-6	宝泉寺内	1
14	15R01	77.5	未測定	日野本町3-6	神明上第3緑地	1
15	15R02	78.0	未測定	日野本町3-6	いなげ屋駐車場先	1
16	15R03	80.0	未測定	日野本町2-8	神明上第4緑地1	1
17	15R04	77.0	未測定	日野本町2-8	神明上第4緑地2	1
18	15R05	75.5	未測定	日野本町2-8	高速脇側溝	1
19	23L01	72.0	未測定	神明1-20	神明上第6緑地	1
20	23L02	72.0	未測定	日野6000	小幡武一宅脇	1
21	23L03	72.0	未測定	日野6000	関谷孝介宅脇	1
22	23L04	71.0	未測定	日野6000	遠藤潔宅脇	1
23	23L05	70.0	未測定	日野6000	浅野義雄宅脇	1
24	23L06	72.5	未測定	日野6000	玉南正久宅奥	1
25	23L07	80.0	未測定	日野6000	栗原浩宅前	1
26	23L08	76.0	未測定	川辺堀之内350	伊藤幸夫宅	1
27	23L09	74.0	未測定	川辺堀之内350	伊藤定宅1	1
28	23L10	74.0	未測定	川辺堀之内350	伊藤定宅2	1
29	23L11	70.5	未測定	上田100	内田吉久宅先	1
30	29L01	86.0	275.0	東豊田3-16	黒川公園1	2
31	29L02	84.0	211.7	東豊田3-28	黒川公園2	2
32	29R01	84.0	541.4	東豊田3-29	黒川公園3	2
33	29R02	84.5	439.2	東豊田3-29	黒川公園4	2
34	29R03	85.5	31.7	東豊田3-29	黒川公園5	2
35	30R01	79.0	未測定	川辺堀之内400	市川勘之助宅	2
36	38R01		30.2	多摩平2-14	清水谷公園	2
37	39L01	84.0	86.4	豊田4-16	一ノ瀬公男宅	3
38	39L02	84.0	146.9	豊田4-16	一ノ瀬宅裏	3
39	39L03	82.0	302.4	豊田4-30	星谷俊雄宅	3

日野台地周辺の湧水地点とそのタイプ（その2）

通番号	湧水地点 No.	標高 TP+m	湧水量 ton/day	所在地	地点名称	湧水地点の タイプ
40	39L04	89.0	1.4	多摩平 2-14	若宮神社下	2
41	39L05	89.0	711.4	多摩平 2-14	下水道事務所南	2
42	39L06	88.0	102.2	東豊田 3-27	下水道事務所北 1	2
43	39L07	88.0	161.3	東豊田 3-27	下水道事務所北 2	2
44	39L08	86.0	923.5	東豊田 3-16	下水道事務所北 3	2
45	49R01	82.0	1,244.2	豊田 2-48	岩田栄一宅 2	3
46	49R02	82.0	1,149.1	豊田 2-50	中央図書館下 2	3
47	50L01	80.5	2,937.6	豊田 2-50	中央図書館下 1	3
48	50L02	84.0	216.0	豊田 2-55	村野正次宅	3
49	50L03	84.0	414.7	豊田 2-55	花下耕一宅	3
50	50L04	84.0	8.6	豊田 4-9	白鬚神社脇	3
51	50L05	84.0	非測定	豊田 4-9	並木武雄宅脇	3
52	50L06	81.0	146.9	豊田 4-8	駐車場斜め前	3
53	50L07	82.0	328.3	豊田 4-9	室岡信義宅	3
54	50L08	80.5	604.8	豊田 4-12	中島寅吉宅南	3
55	50L09	82.0	112.3	豊田 4-11	鈴木健一宅	3
56	50L10	82.0	198.7	豊田 4-11	石井安治宅	3
57	50L11	82.0	414.7	豊田 4-11	石井安治宅	3
58	59R01	80.5	未測定	豊田 2-24	滝元清透宅前	3
59	59R02	80.5	未測定	豊田 2-26	ビニールハウス北	3
60	59R03	84.0	207.4	豊田 2-26	一ノ瀬忠重宅	3
61	59R04	84.0	423.4	豊田 2-26	一ノ瀬忠重宅下流	3
62	59R05	85.0	112.3	豊田 2-27	進藤三郎宅	3
63	59R06	84.0	34.6	豊田 2-27	工藤二三宅脇	3
64	59R07	85.0	非測定	豊田 2-27	熊谷仁子宅裏	3
65	59R08	85.0	非測定	豊田 2-48	曾我治雄宅裏	3
66	59R09	84.0	483.8	豊田 2-48	岩田栄一宅 1	3

備考：1. 湧水地点の諸データは湧水現況調査結果より引用

2. 湧水地点のタイプは現地踏査により、一部修正・変更される可能性がある。

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
新井 56	A-1	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和23年	電動	30
新井 85-1	A-2	家庭用	雑用水		大正15年	電動	
新井 114	A-3		その他		昭和07年		
新井 123-10	A-4	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和35年	電動	
新井 144	A-5	家庭用	雑用水		昭和	電動	14
新井 145-4	A-6	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和37年		
新井 338	A-7	家庭用	雑用水		昭和43年	電動	10
新井 360	A-8	家庭用	雑用水	掘抜き井戸		電動	5
新井 389	A-9	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和30年	電動	
新井	A-10	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和16年	電動	10
新井 579	A-11		雑用水		昭和40年	電動	18
新井 626	A-12	家庭用	雑用水		昭和	電動	
新井 664-2	A-13		雑用水		昭和47年	電動	
新井 666	A-14	家庭用	雑用水	その他	昭和55年	電動	18
新井 677-1	A-15	家庭用	雑用水		昭和41年	電動	7
新井 720	A-16	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	22
新井 737	A-17	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和62年	電動	
新井 737-8	A-18	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	
新井 863	A-19	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	3
新井	A-20	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	5
新井	A-21	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和41年		
新井 905-7	A-22	家庭用	雑用水		昭和47年	電動	
新井 905-13	A-23	家庭用	雑用水		昭和47年	電動	
新井 928	A-24	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	8
新井 237	A-25	家庭用	雑用水	その他	昭和46年	電動	6
新井 456	A-26	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	5
新井 794	A-27		雑用水	掘抜き井戸		電動	
新井 881-14	A-28	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	
新井 947	A-29	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和47年		

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
新井 67-6	A-30	家庭用	不使用				
新井 125	A-31		不使用			電動	
新井 695	A-32		不使用				
新井 883-7	A-33	家庭用	不使用				
新井 58	A-34	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和30年	電動	30
新井 62	A-35	家庭用	飲み水	その他	昭和40年	電動	10
新井 80	A-36	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和49年	電動	80
新井 134	A-37	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和60年	電動	90
新井 238-8	A-38	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和45年	電動	
新井 728-2	A-39	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和42年	電動	80
新井 929	A-40	家庭用	飲み水 雑用水	その他	昭和31年	電動	10
新井 685	A-41	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和38年	電動	7
新井 748	A-42	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和33年	電動	6
新井 623	A-43	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和34年	電動	約7
新井 387	A-44	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和15年	電動	18~20
新井 355	A-45	家庭用	飲み水 雑用水	その他	昭和35年		
新井 348	A-46	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和43年	電動	
新井 130	A-47	家庭用	飲み水 雑用水		昭和	電動	
新井 120	A-48	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和12年	電動	100
新井 59	A-49	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	20
新井 39	A-50	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	明治	電動	6.5
新井 31	A-51		雑用水	掘抜き井戸		電動	約6
新町 3-34-4	B-1	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	7
新町 2-12-1	B-2						
新町 5-6	B-3	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	120

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
旭が丘 1-7-15	C-1	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和31年	電動手押し	9.3
旭が丘 1-7-24	C-2	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	15
旭が丘 2-8-1	C-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	15
旭が丘	C-4	家庭用	雑用水		昭和33年	電動	18
旭が丘 3-1-10	C-5	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和45年	電動	120
旭が丘 3-1-25	C-6	事業所用	雑用水	掘抜き井戸	昭和49年	電動	140
旭が丘 5-14-1	C-7	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和36年	電動	80
旭が丘 5-3-10	C-8	家庭用	雑用水		大正15年	電動	
旭が丘 1-7-11	C-9	家庭用	不使用				
旭が丘 1-12-8	C-10	家庭用	不使用				
旭が丘 1-19-1	C-11		不使用		昭和19年	電動	30
旭が丘 1-20-2	C-12	家庭用	不使用				
旭が丘 1-20-19	C-13	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和44年	電動	75
旭が丘 2-6	C-14	事業所用		掘削井戸	昭和40年	電動	200
旭が丘 3-1-1	C-15	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	120
旭が丘 3-1-1	C-16	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	120
旭が丘 3-1-1	C-17	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	180
旭が丘 3-1-8	C-18	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和43年	電動	200
旭が丘 4-3-2	C-19	事業所用	その他	掘削井戸	昭和38年	電動	130
旭が丘 4-3-2	C-20	事業所用	その他	掘削井戸	昭和38年	電動	150
旭が丘 4-3-2	C-21	事業所用	その他	掘削井戸	昭和38年	電動	160
旭が丘 4-3-2	C-22	事業所用	その他	掘削井戸	昭和38年	電動	130
旭が丘 5-15-1	C-23	家庭用	飲み水	掘削井戸			100
旭が丘 4-7-1	C-24	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和36年	電動	120
旭が丘 4-7-1	C-25	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和46年	電動	180
旭が丘 5-17-14	C-26	事業所用	飲み水 その他	掘削井戸	昭和43年	電動	50
旭が丘 149	C-27	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和42年	電動	80
旭が丘 2-31-4	C-28	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和34年	電動	9
旭が丘 1-5-1	C-29	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
石田 426	D-1	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	6
石田 329	D-2	家庭用	飲み水 雑用水		昭和42年	電動	約10
石田 256	D-3	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	5
石田 134	D-4	家庭用	飲み水 雑用水		明治	電動	6
石田 129	D-5	家庭用	飲み水 雑用水			電動	
石田 83	D-6	家庭用 店舗用	飲み水 雑用水		昭和42年	電動	20
石田 94	D-7	家庭用	不使用	掘削井戸	昭和41年	電動	
石田 115	D-8	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和47年	電動	105
石田 119	D-9	家庭用 事業所用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	100
石田 119	D-10	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和20年	電動	
石田 128	D-11	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和30年	電動	100
栄 5-18-4	E-1	家庭用	飲み水		大正13年	電動	7
栄 1-21-14	E-2	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和55年	電動	60
川辺堀之内 525	F-1	家庭用	飲み水 雑用水		明治	電動	
川辺堀之内 390-7	F-2	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和32年	電動	10
川辺堀之内 480-2	F-3	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和30年	電動	
川辺堀之内 566	F-4	家庭用	飲み水	掘削井戸	大正	電動	85
上田 487	G-1	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和60年	電動	55
落川 1396	H-1	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和47年	電動	7.5
落川 1113	H-2	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和45年	電動	70
落川 1005	H-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和41年	電動	40
落川 722	H-4	家庭用	飲み水		昭和43年	電動	
落川 711-9	H-5	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	
落川 711	H-6	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和40年	電動	

日野の井戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
落川 666	H-7	家庭用	飲み水		昭和49年	電動	30
落川 634	H-8	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和40年	電動	15
落川 408-12	H-9	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸			
落川 350-4	H-10	家庭用	飲み水 雑用水		昭和47年	電動	
落川 348	H-11	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和34年	電動	
落川 345	H-12	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和49年	電動	120
落川 344	H-13	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和	電動	
落川 330	H-14	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	大正13年	電動	
落川 310-3	H-15	家庭用	飲み水 雑用水		昭和42年	電動	
落川 79-2	H-16	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	不明	電動	10
落川 77	H-17	家庭用	飲み水	掘抜き井戸		電動	5.5~6
落川 77	H-18	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和44年	電動	10
落川 67-3	H-19	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	
落川 77-1	H-20		不使用				
落川 332	H-21		不使用				
落川 636	H-22		不使用				
落川 650	H-23		不使用				
落川 661	H-24		不使用	掘削井戸	昭和40年	電動	
落川 950-1	H-25	家庭用	不使用		昭和41年	電動	
落川 324	H-26	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	5
落川 329	H-27	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和30年	電動	6
落川 367	H-28	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和46年	電動	5
落川 404-2	H-29	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和38年	電動	50
落川 405	H-30	家庭用	飲み水 雑用水			電動	
落川 435	H-31	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	12
落川 436	H-32	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	
落川 437	H-33	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	60
落川 630	H-34	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	不明	電動	
落川 663	H-35	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和39年		30

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
大坂上 2-12-6	I-1	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和33年	電動	15
大坂上 2-7-1	I-2	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和35年	電動	25
大坂上 1-5-19	I-3	家庭用	雑用水		昭和16年		20
大坂上 4-19-6	I-4	家庭用	飲み水			電動	
大坂上 4-18-35	I-5			掘削井戸	昭和37年	電動	95
大坂上 3-7-12	I-6		不使用				
大字下田 186-2	I-7	家庭用	不使用		昭和30年	電動	10
大字日野 311-3	I-8	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和63年	電動	80
本町 1-14-12	I'-1	家庭用	雑用水		昭和30年	電動	8
万願寺 128	J-1	家庭用	雑用水		昭和10年	手押し	
万願寺 85	J-2	家庭用	雑用水		昭和21年	電動	10
万願寺 187-3	J-3		雑用水	掘削井戸	昭和62年	電動	
万願寺 132	J-4	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和	電動	36
万願寺 140	J-5	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和49年	電動	
万願寺 134	J-6				平成03年	電動	55
万願寺 132	J-7				平成03年	電動	55
万願寺 125	J-8	家庭用 事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	60
神明 2-15-5	K-1	店舗用	雑用水	掘抜き井戸	昭和59年	電動	
神明 4-14-24	K-2		不使用				
神明 4-18-3	K-3	家庭用	飲み水 雑用水		昭和50年	電動	
神明 4-18-2	K-4	家庭用	飲み水 雑用水		昭和48年	電動	60
神明 1-16-9	K-5	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和49年	電動	60



日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
西平山 4-4-7	L-1	家庭用	飲み水			電動	20
西平山 2-2-46	L-2	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和61年	電動	5
西平山 1-31-2	L-3	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	
西平山 1-22-5	L-4	家庭用	飲み水 雑用水		昭和30年	電動	
西平山 1-8-13	L-5	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	10
西平山 1-8-3	L-6	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和12年	電動	80
西平山 2-2-5	L-7		雑用水	掘抜き井戸		電動	
西平山 1-19-5	L-8	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和43年	電動	12
西平山 1-7-3	L-9	家庭用	雑用水	その他	不明	電動	5・10
西平山 1-7-4	L-10	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	3
西平山 1-19-10	L-11	家庭用	雑用水		明治35年	電動	10
西平山 2-2-24	L-12	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和55年	電動	12
西平山 4-4-8	L-13	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和45年	電動	
西平山 2-5-10	L-14		不使用				
多摩平 2-14-10	M-1	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和23年	電動	
多摩平 6-16-4	M-2	家庭用 事業所用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和36年	電動	100
百草 129-3	N-1	家庭用	不使用				
百草 318-4	N-2	家庭用	不使用				
百草 332	N-3	家庭用	不使用		不明	電動	
百草 349	N-4	家庭用	不使用				
百草 414	N-5	家庭用	不使用				
百草 416	N-6	家庭用	不使用				
百草 434	N-7	家庭用	不使用				
百草 1280-1	N-8	家庭用	不使用		昭和45年	電動	
百草 1248-6	N-9	家庭用	不使用			電動	
百草 1248-9	N-10	家庭用	不使用	掘削井戸	昭和40年	手押し	3
百草 1250	N-11	家庭用	不使用				

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
百草 460	N-12	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和40年	電動	170
百草 460	N-13	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	170
百草 60	N-14	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和43年	電動	6
百草 61	N-15	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	30
百草 81-63	N-16	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和30年	電動	
百草 104	N-17	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和35年	電動	78
百草 363	N-18	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和	電動	80
百草 1242-6	N-19	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	4.5
百草 1286	N-20	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和	電動	
百草 1289	N-21	家庭用	飲み水 雑用水		昭和30年	電動	5.6
百草 556	N-22	家庭用	不使用		昭和17年	電動	12.5
下田 359-4	O-1	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	
下田	O-2	家庭用	雑用水		昭和49年	電動	
下田 361	O-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	9
下田 374	O-4	家庭用	雑用水				
下田 396	O-5	家庭用	雑用水	その他	大正05年	電動	7
下田 398-2	O-6	家庭用	雑用水		昭和38年	電動	
下田 404	O-7	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	
下田 119-4	O-8	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	13
下田 163	O-9	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	8
下田 167	O-10	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	
下田 171	O-11	家庭用 事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	5
下田 172	O-12	家庭用 事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和	電動	10
下田 305	O-13		不使用				
下田 339	O-14		不使用				
下田 345-5	O-15	家庭用	飲み水 雑用水		昭和	電動	
下田 345-3	O-16	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和43年	電動	100
下田 373-4	O-17	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和45年	電動	
下田 166	O-18	家庭用	飲み水		昭和29年	電動	10

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
豊田 3-17-5	P-1						
豊田 3-1-1	P-2	事業所用	雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	
豊田 3-3-13	P-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	76
豊田 4-39-16	P-4	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和32年	電動	3
豊田 2-50-3	P-5	事業所用	その他	掘抜き井戸	昭和40年	電動	
豊田 2-27-12	P-6	家庭用	雑用水		明治	電動	15
豊田 3-23-3	P-7	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	100
豊田 4-33-13	P-8	家庭用	雑用水			電動	15'20
豊田 4-16-1	P-9	家庭用	雑用水			電動	200
豊田 2-47-3	P-10		雑用水	掘抜き井戸	昭和07年	電動	
豊田 3-40-13	P-11	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	
豊田 3-34-15	P-12	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和24年	電動	12
豊田 3-3-10	P-13	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和30年	電動	15
豊田 3-40-7	P-14	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	
豊田 2-4-3	P-15		雑用水		昭和29年	電動	
豊田 2-3-2	P-16	家庭用	飲み水		昭和50年	電動	
豊田 2-3-4	P-17	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和50年	電動	65
豊田 4-14-2	P-18	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和13年		60
豊田 2-14-10	P-19	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和52年	電動	70
豊田 2-4-3	P-20			掘削井戸	昭和51年	電動	60
豊田 2-24-10	P-21		不使用				
豊田 2-23-13	P-22		不使用				
豊田 1-25-6	P-23		不使用				
豊田 3-31-3	P-24		不使用			電動	11
豊田 4-36-12	P-25	家庭用 店舗用	飲み水 雑用水		昭和26年	電動	11
豊田 4-36-9	P-26	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和12年	電動	10
豊田 4-33-6	P-27	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和24年	電動	11

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
豊田 4-5-3	P-28	家庭用	飲み水 雑用水		不明		
豊田 3-40-11	P-29	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和26年	電動 手押し	
豊田 3-28-7	P-30	家庭用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和21年	電動	
豊田 3-17-2	P-31	家庭用	飲み水 雑用水		不明	電動	
豊田 3-2-5	P-32	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和38年	電動	10
豊田 2-55-23	P-33	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和15年	電動	約7
豊田 2-49-1	P-34	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和30年		7
高幡 725	Q-1	家庭用	飲み水 雑用水	その他			
高幡 581	Q-2	家庭用	飲み水 雑用水		大正	電動	6
高幡 566-71	Q-3	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和	電動	
高幡 394-2	Q-4	家庭用	飲み水 雑用水		昭和20年	電動	
高幡 707	Q-5		雑用水			電動	6
高幡 159-1	Q-6	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和	電動	8
高幡 580	Q-7	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和34年	電動	50
高幡 305	Q-8	家庭用 事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和47年	電動	
高幡 374	Q-9	家庭用	飲み水				
高幡 667	Q-10		不使用				
高幡 672	Q-11		不使用				
三沢 1012-2	R-1	家庭用	雑用水		昭和42年	電動	60
三沢 696	R-2	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	
三沢 630	R-3	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和09年	電動	130
三沢 631	R-4	家庭用	雑用水		明治	電動	
三沢 636	R-5	家庭用	雑用水	掘削井戸	大正	電動	8.5
三沢 644	R-6	家庭用	雑用水		昭和35年	電動	20
三沢 646	R-7	家庭用	雑用水		昭和36年	電動	5

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
三沢 669	R-8	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	
三沢 863-10	R-9		雑用水		昭和	電動	
三沢 612	R-10	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和38年	電動	50
三沢 936	R-11	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和03年	電動	7
三沢 950	R-12	家庭用	雑用水		昭和20年	手押し	
三沢 958	R-13		雑用水			電動	2
三沢 1295	R-14	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和36年	電動	5.5
三沢 740-9	R-15	家庭用	飲み水 雑用水		昭和60年	電動	
三沢 914	R-16	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和37年	電動	70
三沢 914	R-17	共同住宅			昭和38年		
三沢 914	R-18	共同住宅			昭和38年		
三沢 914	R-19	共同住宅			昭和38年		
三沢 1210	R-20	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	70
三沢 309	R-21			掘削井戸	昭和47年	電動	不明
三沢 1254	R-22	家庭用	飲み水		不明	電動	
三沢 1295-17	R-23	家庭用	不使用	掘削井戸	不明	電動	
三沢 741-21	R-24		不使用				
三沢 637	R-25		不使用				
三沢 626	R-26		不使用				
三沢 934	R-27		不使用				
三沢 979-8	R-28		不使用				
三沢 1140-4	R-29		不使用				
三沢 1282	R-30		不使用				
三沢 1283	R-31	家庭用	不使用	掘抜き井戸	昭和30年	電動	10
三沢 1295	R-32		不使用				
三沢 1295	R-33		不使用				

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
三沢 1291	R-34	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和35年	電動	3
三沢 1254	R-35	家庭用 事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年		60
三沢 1214	R-36	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和41年	電動	70
三沢 931	R-37	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	62
三沢 865-2	R-38	家庭用	飲み水		昭和43年	電動	
三沢 863	R-39	家庭用	飲み水	掘削井戸	3335年1月1日	電動	15
三沢 699-4	R-40	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和35年	電動	60
三沢 624	R-41	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和45年	電動	42
日野 1077-53	S-1	家庭用	雑用水			電動	
日野 1096	S-2	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和	電動	5
日野 1144	S-3	家庭用 事業所用	雑用水	掘削井戸		電動	60
日野 1137	S-4	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	10
日野 182	S-5	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和25年	電動	5
日野 7773	S-6		雑用水		昭和	電動	
日野 23	S-7	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和36年	電動	10
日野 347	S-8	事業所用	その他	掘削井戸	昭和40年	電動	150
日野 347	S-9	事業所用	その他	掘削井戸	昭和44年	電動	220
日野 1459	S-10	事業所用	雑用水	掘抜き井戸	昭和36年	電動	25
日野	S-11						
日野 817	S-12			打ち込み	昭和46年		15
日野 1417	S-13			掘削井戸	昭和57年		60
日野 2762	S-14		不使用				
日野 168-2	S-15		不使用				
日野 1077	S-16	家庭用	不使用	掘抜き井戸	昭和12年	電動	
日野 5893-3	S-17		不使用				

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
日野 7773	S-18	家庭用 事業所用	飲み水	掘抜き井戸	昭和24年		
日野 5975	S-19	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和38年	電動	10
日野 1539	S-20	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和35年	電動	20
日野 1320	S-21	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和52年	電動	16.75
日野 1097	S-22	事業所用	飲み水	掘削井戸		電動	100
日野 988	S-23	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和17年	電動	8~10
日野 543	S-24	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	7
日野 515	S-25	家庭用 事業所用			昭和37年	電動	30
日野本町	T-1	家庭用	雑用水			電動	
日野本町 4-14-11	T-2		雑用水		昭和07年		15
日野本町 5-5-2	T-3	家庭用	雑用水	掘抜き井戸			5
日野本町 4-1-11	T-4	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	明治	電動	7.5
日野本町 4-15-36	T-5	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和25年	電動	20
日野本町 4-13-3	T-6	家庭用	飲み水 雑用水		昭和05年	手押し	
日野本町 3-3-2	T-7	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和44年	電動	100
平山 4-1-11	U-1	家庭用	雑用水	掘抜き井戸		電動	
平山 5-12-9	U-2	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	
平山 5-13-4	U-3	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	10
平山 5-20-9	U-4	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和39年	電動	25
平山 5-23-6	U-5	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	65
平山 5-12-6	U-6	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和	電動	80
平山 5-12-17	U-7	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	
平山 6-10-7	U-8	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	25
平山 6-51-5	U-9	家庭用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和63年	電動	220

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
平山 6-15-11	U-10	家庭用	飲み水		昭和38年	電動	90
平山 6-8-1	U-11	家庭用	飲み水		昭和42年		60
平山 5-20-19	U-12	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	85~90
平山 5-20-16	U-13	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	大正14年	電動	80
平山 5-19-10	U-14	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和41年	電動	90
平山 5-15-8	U-15	家庭用	飲み水	掘削井戸	明治	電動	60
平山 5-12-16	U-16	家庭用	飲み水 雑用水		昭和35年	電動	12
平山 4-1-8	U-17	家庭用	飲み水 雑用水		昭和35年	電動	
平山 3-7-17	U-18	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和25年	電動	15
平山 5-24-7	U-19	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和50年	手押し	150
平山 4-1-8	U-20		不使用	掘抜き井戸	昭和30年	電動	
平山 6-7-14	U-21		不使用				
平山 6-1-5	U-22		不使用				
平山 5-20-8	U-23	家庭用	不使用	掘抜き井戸	昭和30年	電動	60
平山 6-1-5	U-24		不使用				
東平山 3-22-11	V-1	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和47年	電動	60
東平山 2-18-2	V-2		飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和34年	電動	100
東平山 2-18-14	V-3	家庭用	飲み水 雑用水	その他	昭和39年	電動	7~8?
東平山 2-6-1	V-4	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	その他	40
東平山 1-4-3	V-5	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	80
東平山 2-7-20	V-6	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	20
東平山 3-9-15	V-7	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和45年	電動	
東平山 3-18-2	V-8	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和49年	電動	65
東平山 3-9-15	V-9			掘抜き井戸	昭和45年		9
東平山 3-24-1	V-10	事業所用	雑用水				



日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
東豊田 1-53-14	W-1						
東豊田 1-5-14	W-2	家庭用	雑用水				
東豊田 1-5-7	W-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和44年	電動	6
東豊田 1-53-15	W-4		不使用				
東豊田 1-5-6	W-5		不使用				
東豊田 2-29-10	W-6	家庭用	雑用水	掘削井戸	不明	電動	150
東豊田 2-24-2	W-7	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和10年	電動	60
東豊田 1-52-5	W-8	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	大正	電動	7
南平 2-52-8	X-1	事業所用	雑用水		昭和48年	電動	40
南平 3-18-6	X-2	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和	電動	9
南平 5-6-45	X-3	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	
南平 9-36-1	X-4	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	30
南平 5-35-9	X-5	家庭用	雑用水	その他	昭和43年	電動	4
南平 5-1-31	X-6	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和37年	電動	3
南平 5-15-5	X-7	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和34年		
南平 6-23-2	X-8	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	10
南平 6-15-3	X-9	家庭用	雑用水				
南平 7-11-1	X-10		雑用水	掘抜き井戸	昭和37年	電動	100
南平 7-15-4	X-11		雑用水			電動	4
南平 7-18-3	X-12	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	大正	電動	5
南平 7-20-2	X-13		雑用水			電動	4.5
南平 7-25-1	X-14	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和43年	電動	
南平 7-25-3	X-15	家庭用	雑用水	その他	昭和43年	電動	3
南平 7-25-6	X-16	家庭用	雑用水	その他	昭和	電動	
南平	X-17	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和43年	電動	45

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
南平 8-17-23	X-18		雑用水	掘抜き井戸	昭和37年	電動	
南平 8-19-13	X-19	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	4
南平 8-19-26	X-20	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和45年	電動	5
南平 9-34-4	X-21	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	25年1月1日	電動	70
南平 9-39-10	X-22	家庭用	雑用水				4
南平 6-5-4	X-23	家庭用	雑用水		昭和38年	電動 手押し	6
南平 5-3-54	X-24	家庭用	雑用水	その他	昭和33年	電動	5
南平 6-15-5	X-25	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和45年	電動	
南平 3-9-6	X-26	家庭用	雑用水		昭和40年	電動	12
南平 5-32-42	X-27	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	5
南平 5-33-29	X-28	家庭用	雑用水				
南平 3-19-8	X-29	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和39年	電動	
南平 4-7-15	X-30	家庭用	雑用水	掘抜き井戸	昭和49年	電動	5
南平 4-28-1	X-31	事業所用	雑用水	掘抜き井戸	昭和33年	電動	6
南平 5-25-47	X-32	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和62年	電動	70
南平 8-18-16	X-33	家庭用	飲み水	掘削井戸	昭和37年	電動	70
南平 6-14-45	X-34		不使用				
南平 6-23-6	X-35		不使用				
南平 7-10-10	X-36		不使用				
南平 8-6-25	X-37		不使用				
南平 8-19-9	X-38		不使用				
南平 8-19-19	X-39		不使用				
南平 2-62-6	X-40		不使用				
南平 3-19-13	X-41		不使用		昭和30年	電動	12

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
程久保 843	Y-1	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	
程久保 843	Y-2	事業所用	雑用水	掘削井戸	昭和38年	電動	185
程久保 1-792	Y-3	家庭用	雑用水		昭和05年	電動	
程久保 5-25-2	Y-4	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和	電動	
程久保 6-9-3	Y-5	家庭用	雑用水				
程久保 1-613-3	Y-6	家庭用	雑用水	掘削井戸	昭和42年	電動	9
程久保 1-615-3	Y-7	家庭用	雑用水		昭和37年	電動	25
程久保 2-1-1	Y-8	大学生活用水	飲み水		昭和	電動	200
程久保 2-1-1	Y-9	大学生活用水	飲み水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	120
程久保 2-1-1	Y-10	大学生活用水	飲み水	掘抜き井戸	昭和42年	電動	203
程久保 5-9-2	Y-11	家庭用	飲み水		昭和50年	電動	
程久保 5-22-1	Y-12	事業所用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	220
程久保 5-22-1	Y-13	事業所用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	180
程久保 5-22-1	Y-14	事業所用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	200
程久保 5-22-1	Y-15	事業所用 店舗用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	200
程久保 6-3-3	Y-16	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	5
程久保 7-1-1	Y-17	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和32年	電動	160
程久保 7-1-1	Y-18	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	182
程久保 7-1-1	Y-19	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	171
程久保 7-1-1	Y-20	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和45年	電動	180
程久保 7-1-1	Y-21	事業所用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和49年	電動	200
程久保 1-609-1	Y-22		不使用				
程久保 8-14-7	Y-23		不使用				
程久保 612-5	Y-24		不使用				
程久保 6-12-8	Y-25		不使用				
程久保 6-8-1	Y-26		不使用				

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
程久保 6-8-1	Y-27	家庭用	不使用				
程久保 6-7-10	Y-28		不使用				
程久保 36-39	Y-29		不使用				
程久保 662-5	Y-30		不使用				
程久保 662-4	Y-31		不使用				
程久保 630	Y-32		不使用				
程久保 6-8-5	Y-33	家庭用	飲み水	掘削井戸	明治	電動	
程久保 6-12-3	Y-34	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	不明	電動	5~6
程久保 6-10-8	Y-35	家庭用	飲み水 雑用水	掘抜き井戸	昭和38年	電動	4.6
程久保 769-1	Y-36	家庭用	飲み水	掘抜き井戸	昭和40年	電動	55
程久保 1-612-9	Y-37	家庭用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	85

日 野 の 井 戸

所在地	所有者	用途	使用状況	種別	掘削年次	ポンプ	深さ
さくら町1	Z-1	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和12年	電動	121
さくら町1	Z-2	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和13年	電動	121
さくら町1	Z-3	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和14年	電動	121
さくら町1	Z-4	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和44年	電動	121
さくら町1	Z-5	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和35年	電動	121
さくら町1	Z-6	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和37年	電動	121
さくら町1	Z-7	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	121
さくら町1	Z-8	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	121
さくら町1	Z-9	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和40年	電動	121
さくら町1	Z-10	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和41年	電動	121
さくら町1	Z-11	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	165
さくら町1	Z-12	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和46年	電動	165
さくら町1	Z-13	事業所用	飲み水 雑用水	掘削井戸	昭和47年	電動	200
宮248	Z-14		不使用			手押し	18
宮289	Z-15		不使用 雑用水		昭和	電動	60
日野台1-23-8	Z-16			掘抜き井戸	昭和30年		5
日野台1-10-12	Z-17	事業所用	不使用	掘削井戸	不明	電動	20
日野大字日野753	Z-18	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和38年	電動	120
日野大字日野753	Z-19	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和39年	電動	180
富士町1	Z-20	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和45年	電動	110
富士町1	Z-21	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和43年	電動	110
富士町1	Z-22	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和36年	電動	110
富士町1	Z-23	事業所用	飲み水	掘削井戸	昭和18年	電動	110

## 2.4 流域の土地利用及び市街地の変遷

日野市「緑と文化の市民都市」より 1947～1989年



大正14年に京王線が開通しその沿線に市街化が進んだ。日野自動車などの大企業の進出が始まった。

図2-4-1 昭和22年頃



中央自動車道が開通し、多摩平・旭が丘・京王線駅周辺に市街化が進む。

図2-4-2 昭和42年頃



南側の丘陵地帯にも市街化が進む。

図2-4-3 昭和50年頃



多摩動物公園周辺を除いて  
全面的に市街化が進む。

図2-4-4 平成元年頃

建設省京浜工事事務所 浅川の概要

年	市街化率
昭和2年	5%
昭和28年	9%
昭和41年	19%
昭和50年	30%
昭和62年	37%
平成5年	42%
将来想定	47%
最大想定	51%

図2-4-5 市街地面積の推移

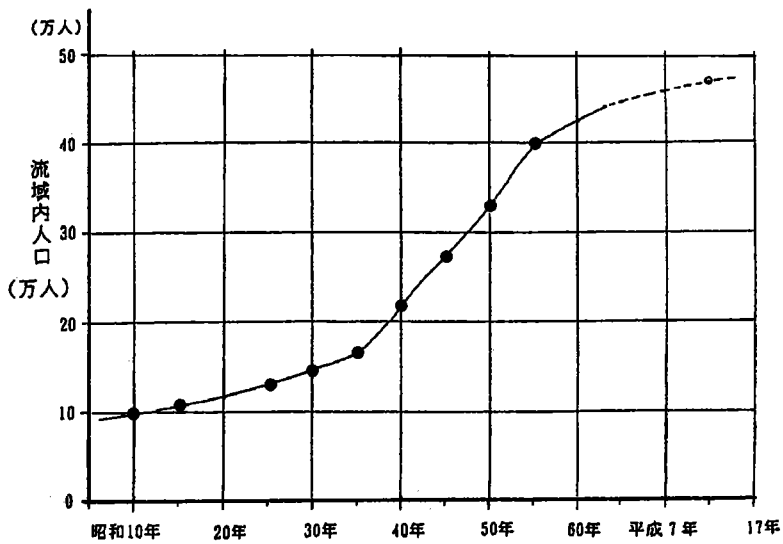
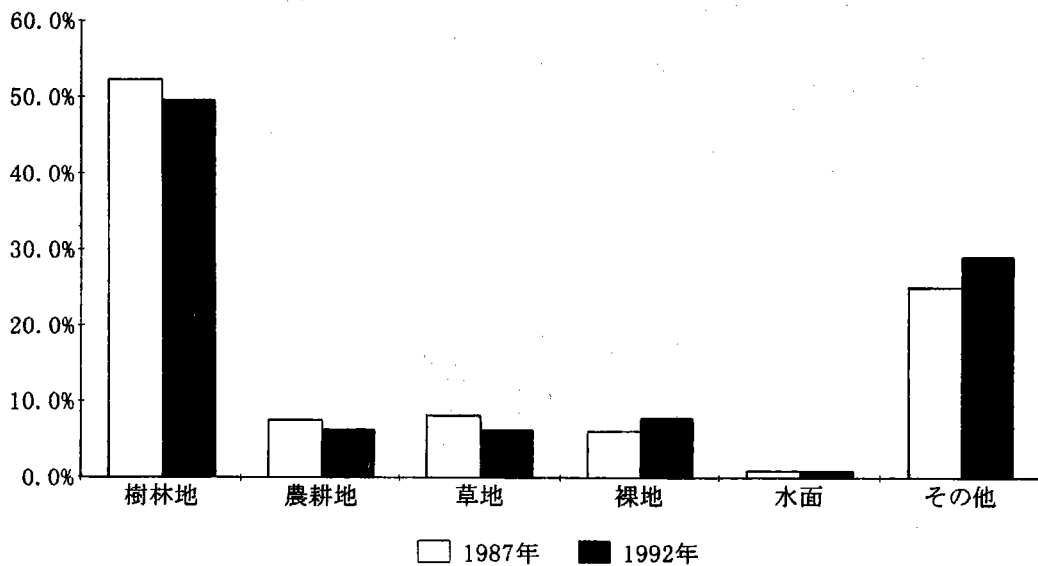


図2-4-6 浅川流域内の人口の変遷

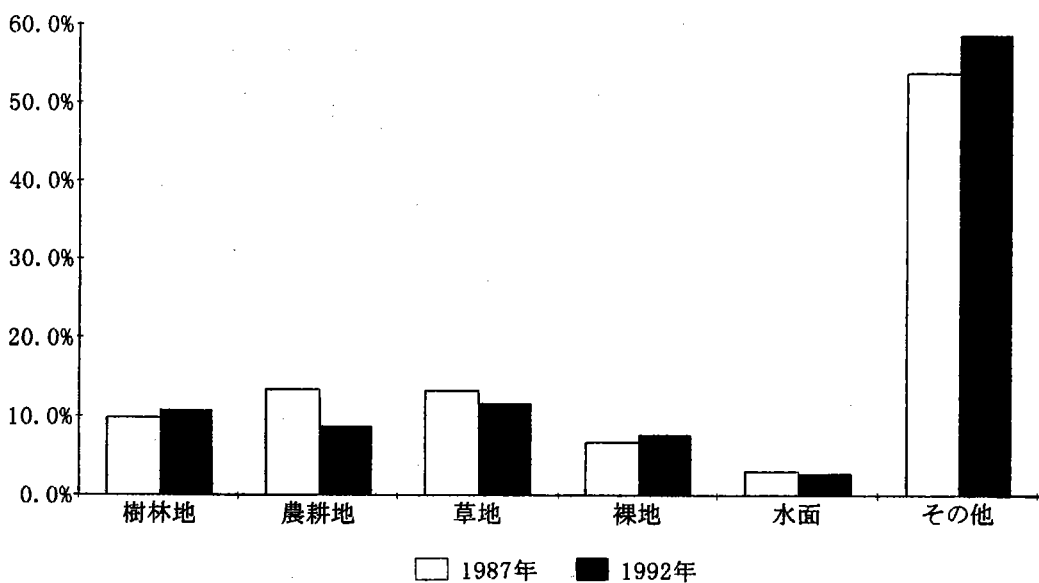
### 土地利用区分比率（八王子市）

	樹林地	農耕地	草地	裸地	水面	その他
1987年	52.2%	7.6%	8.1%	6.1%	0.9%	25.1%
1992年	49.7%	6.3%	6.3%	7.7%	0.9%	29.1%



### 土地利用区分比率（日野市）

	樹林地	農耕地	草地	裸地	水面	その他
1987年	9.8%	13.5%	13.3%	6.8%	3.0%	53.6%
1992年	10.8%	8.7%	11.6%	7.7%	2.7%	58.5%





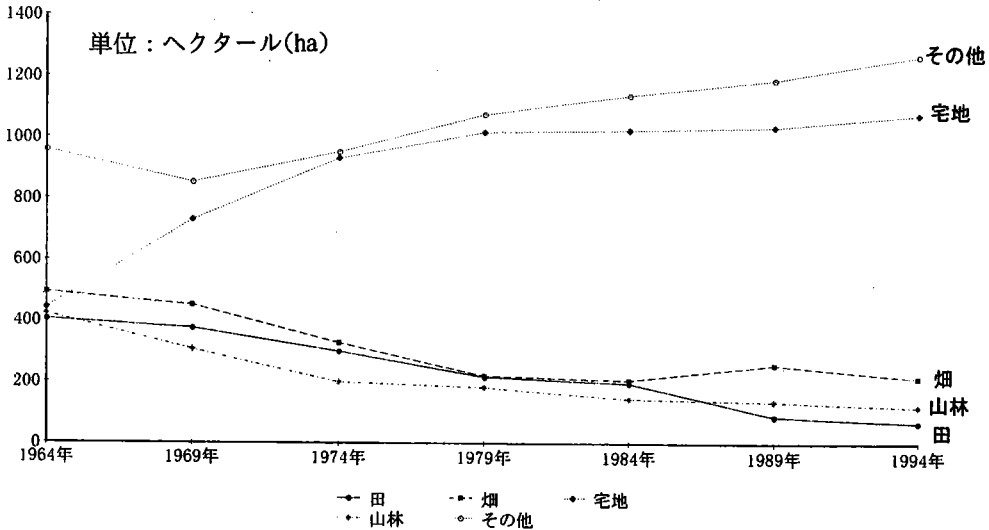
## 日野市地目別土地面積推移

	1964年	1969年	1974年	1979年	1984年	1989年	1994年
田	403	374	298	215	195	91	70
畑	492	449	328	220	207	257	216
宅地	440	730	932	1019	1024	1036	1076
山林	418	305	201	182	146	136	121
その他	958	853	952	1075	1139	1190	1270
合計	2711	2711	2711	2711	2711	2710	2753

各年1月1日現在

単位：ヘクタール (ha)

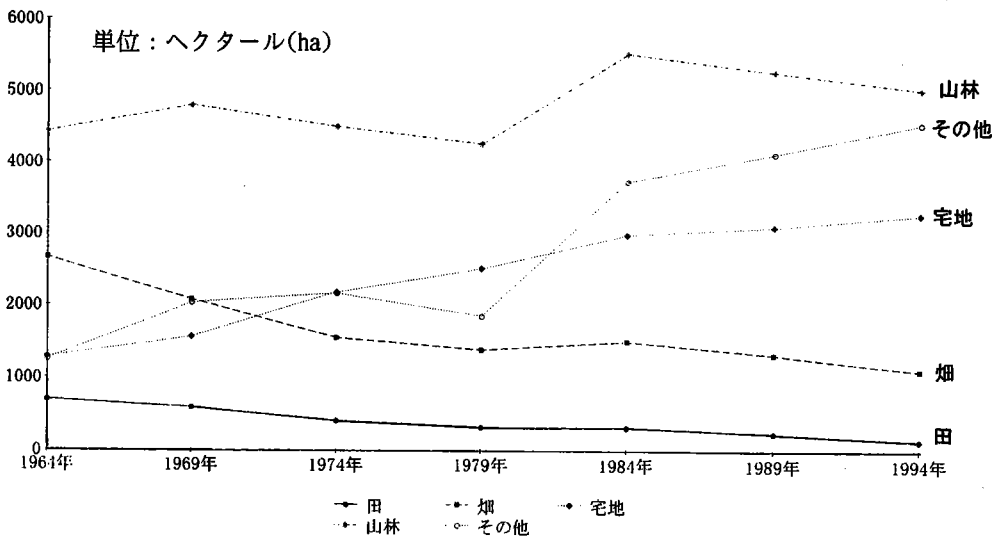
注記：平成元年11月10日付け官報で建設省国土地理院から「昭和63年全国都道府県市区町村別面積調査」が公告されたのに伴い日野市の面積をこれまでの27.11km<sup>2</sup>から27.53km<sup>2</sup>に改め、平成2年4月1日から使用している。



## 八王子市地目別土地面積推移

	1964年	1969年	1974年	1979年	1984年	1989年	1994年
田	690.64	584.2	406.72	328.16	322	244	147
畑	2656.26	2076.6	1543.19	1376.27	1503	1318	1112
宅地	1272.1	1554.7	2183.77	2512.38	2981	3107	3277
山林	4424.4	4786.8	4506.51	4269.96	5523	5284	5045
その他	1249.09	2025.5	2158.09	1860.07	3738	4136	4555
合計	10292.49	11027.8	10798.28	10346.84	14067	14089	14136

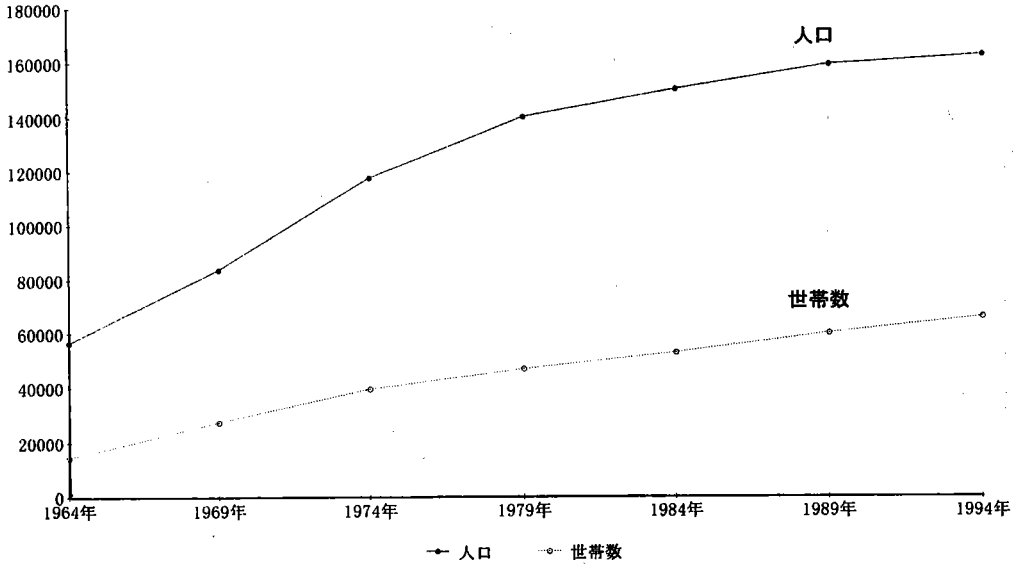
各年1月1日現在



## 日野市人口 & 世帯数推移

第25回統計日野より 各年1月1日現在

	1964年	1969年	1974年	1979年	1984年	1989年	1994年
人口	56597	83566	117840	140244	150266	159265	162966
世帯数	14471	27324	39422	46782	52666	59780	65546



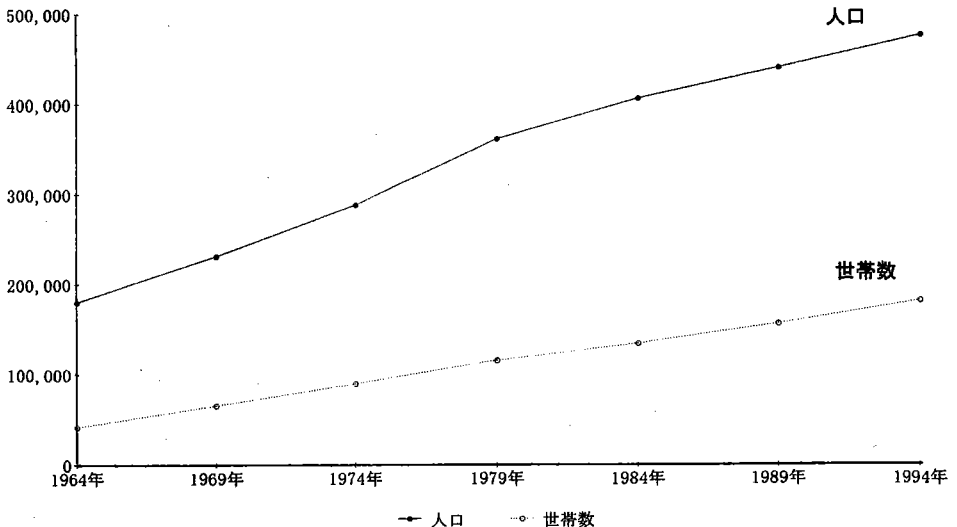
## 八王子市人口 & 世帯数推移

1993年版統計八王子 各年1月1日現在

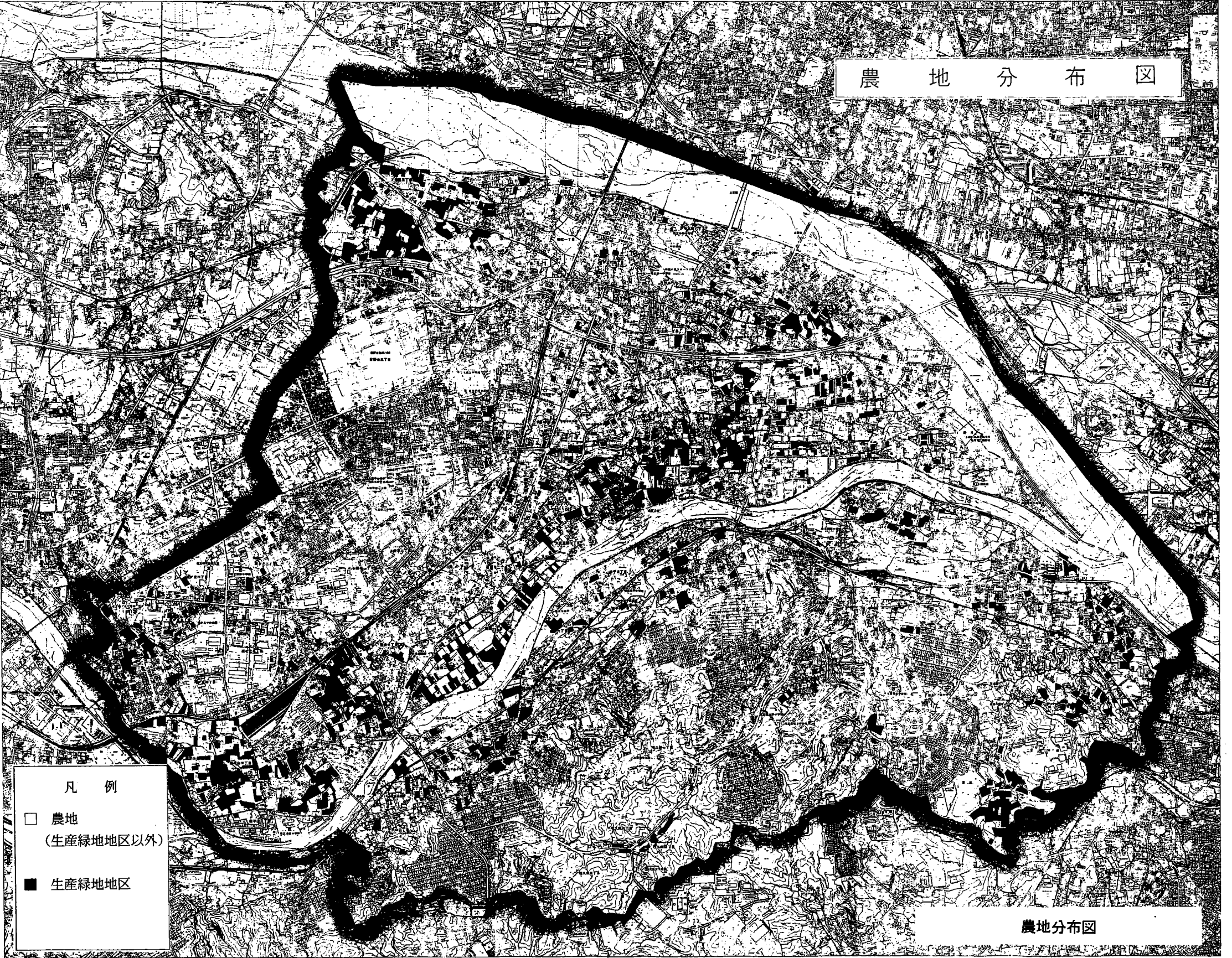
1964年8月1日 由木村合併

1971年4月1日 秋多町へ一部編入

	1964年	1969年	1974年	1979年	1984年	1989年	1994年
人口	179,889	231,263	287,869	361,684	406,337	440,031	476,986
世帯数	41,552	65,569	89,395	115,059	133,922	155,703	181,449



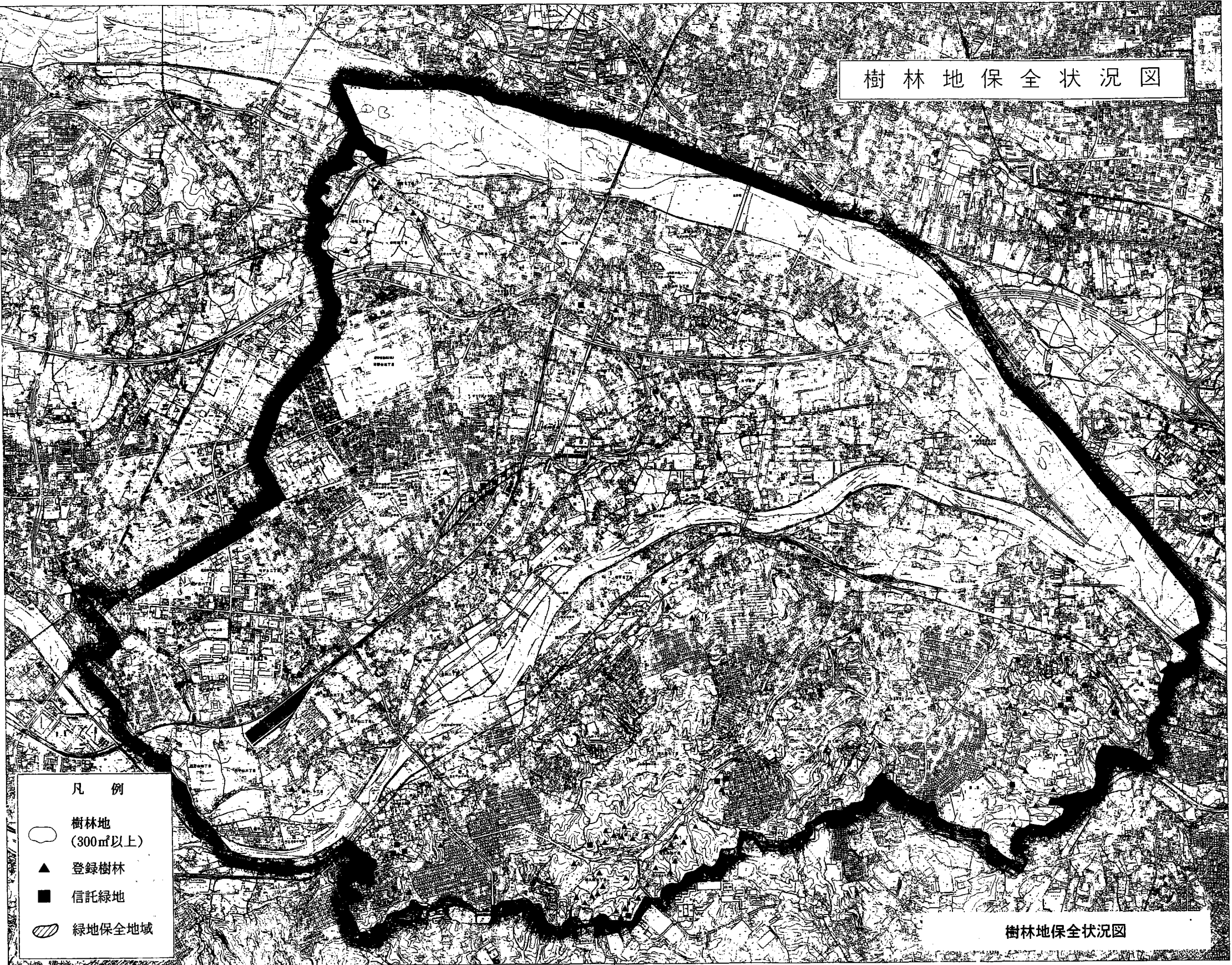
農地分布図



- 凡例
- 農地  
(生産緑地地区以外)
  - 生産緑地地区

農地分布図

樹林地保全状況図



- 凡 例
- 樹林地 (300㎡以上)
  - ▲ 登録樹林
  - 信託緑地
  - ▨ 緑地保全地域

樹林地保全状況図

### 3. 調査と研究の目的・方法

今回助成を申請した主な目的は、日野市における水循環の仕組みを、目に見える降水や川、湧水など、不圧地下水と呼ばれる地下20mより上の浅いところを流れる地下水との関連を調べてみたいと考えたことに始まった。具体的には、地下水の目玉のような井戸に焦点をあてた。

多摩川と浅川2本の川が造ったといっても過言ではないこのまち。そこに住む人々が、地域の貴重な水環境を、自分たちがどのように考え、これからのまちづくりに活かしてゆくのが大事だ。それをいっしょに考えられるよう、誰でもできる分かりやすい方法を提起し、多くの人に知ってもらい、参加してもらえることを目的とした。

#### 〈調査の方法〉

1. 調査の方法として、既存の井戸・湧水、そして大小の川などを確認してゆく。
2. そのため、初年度に、水環境に対するそれぞれの分野の研究者から話を聞く。重ねて市民会議のような場を設定する。
3. 計測する井戸を、既存のデータ、人づての情報、そして実踏でリストアップする。
4. その器材は、簡便なものを自分たちで考案する。
5. 場所は、丘陵地を主に設定する。細かく情報を収集したいところに、自記水位計を配置する。

#### 3.1 円卓会議「水・そこが問題」

「水・そこが問題」と題した円卓会議は、日野市の後援を得、各方面の研究者の賛同によって、1993年10月23日、日野市潤徳小学校で開くことができた。遠くからの一般参加者に子どもを加えると、500人近い参加となった。

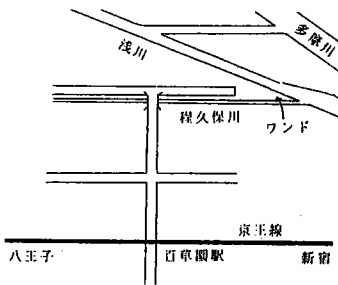
- テーマは、(1)川といえる水の量は？                      (2)生物のすめる条件構造  
(3)水辺の自然環境を復元する                      (4)住民参加のネットワークづくり  
(5)子供達は生き物とどうつきあうか。

具体的には、午前中のフィールドワーク、午後の円卓会議を行った。

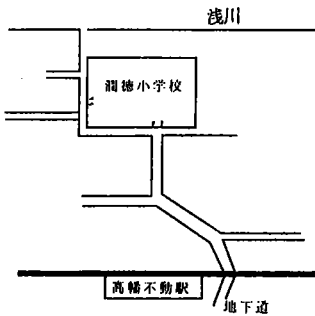
円卓会議では、各専門分野の研究者からの発言を得て、水をめぐる問題が、立体像として伝わってきた。パネラーとして参加された研究者の中からも、面白かったというご意見を頂いて、企画から運営まで奔走した一同は感激した。

(資料別添)

第1部 コース 9:30~12:00



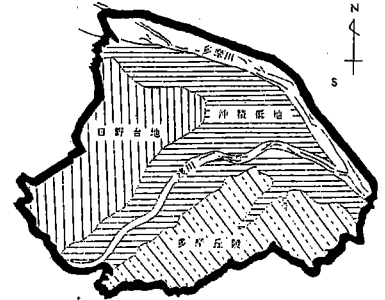
第2部 会場 13:00~17:30



## 円卓会議

# 水・そこが問題

<日野は小さな地球です>



問い合わせ … 浅川勉強会事務局  
 申し込み 〒191 日野市万願寺 159  
 ・山本由美子(昼)  
 ☎ 0425(83)6788  
 FAX 0425(87)0330  
 ・神保エミ子(夜)  
 ☎ 0425(81)2177

日時 … 1993.10.23(土) 9:30~17:30  
 場所 … 浅川・程久保川合流点 12:00まで  
 潤徳小学校体育館 13:00より  
 参加費 … 300円 弁当持参

(主催) 浅川勉強会 (後援) 日野市

### (趣旨)

高低差の大きな日野市には、湧き水、  
 沢水も多く、それらは地形上あるべくし  
 てある水の姿です。この町のあらゆる命  
 は、この壮大な水循環のなかにしっか  
 りと抱え込まれているのです。有り余るも  
 ののなかに暮らすと、人はその恵みに気  
 が付きません。同じような状況が多摩の  
 なかで多く見られます。いま、失われた  
 ら再び戻すことが不可能な水環境の保全  
 について、各分野で優れた業績を積み上  
 げていらっしゃる専門家にその問題点を  
 答えていただく予定です。

### <テーマ>

- (1) 川といえる水の量は?
- (2) 生物のすめる条件構造
- (3) 水辺の自然環境を復元する
- (4) 住民参加のネットワークづくり
- (5) 子供達は生き物とどうつきあうか

### (講師)

円卓の中の輪(順不同)

- 石田幸彦(八王子ラバー研究會)  
 吉村伸一(よこはま川を考える會)  
 北村真一(山梨大学・河川工学)  
 大熊 孝(新潟大学・土木工学)  
 広井敏男(東京経済大学・植物生態学)  
 小倉紀雄(東京農工大学・地球物理)  
 君塚芳輝(二松学舎大学・魚類学)  
 桜井善雄(信州大学・応用生態学)  
 蓮池守一(日本教育新聞・小学校教育)  
 渡部一二(多摩美術大学・農業土木)  
 小島貞男(日水コン・水の浄化)  
 小林正典(京浜工事事務所・河川管理)  
 新藤静夫(千葉大学・地下水)

コーディネーター

山道省三(とうきゅう環境浄化財団)

### (プログラム)

第1部 AM 9:30~12:00

京王線百草園駅 改札出て左階段上集合

ワンドと浅川のフィールドワーク、現地  
を見ながらおおくの視点から講師の話  
を聞く。

(昼食)

第2部 AM 13:00~17:30

京王線高幡不動駅裏 潤徳小学校体育館

「水・そこが問題」円卓の内と外の輪と  
の対話

(展示) 親と子、先生と生徒、PTAと学  
童、公民館と市民、それぞれ皆ん  
な自然から何を学んだか-

円卓会議

# 水、そこが問題

<日野は小さな地球です>

## 記録集

1 9 9 3 . 1 0 . 2 3

主催：浅川勉強会  
後援：日野市  
(於 日野市立潤徳小学校体育館)

==== プログラム ====

- ・午前 フィールドワーク  
程久保川・浅川合流点 ワンド～浅川～向島用水
- ・午後 「水・そこが問題」  
円卓の内と外の輪との対話

コーディネーター  
第一部 山道 省三氏  
第二部 石田 幸彦氏



<講師プロフィール> (敬称略50音順)

石田 幸彦(いしだ ゆきひこ)～八王子ランドマーク研究会

1951年福岡県に生まれる。会費なし、会則なし、代表なし、の三原則でやっている八王子ランドマーク研究会の呼びかけ人三人のうちの一人。市民運動と地方公務員の二足のわらじをはく。カウンターを乗り越える運動を実践中。

大熊 孝(おおくま たかし)～新潟大学・土木工学

1942年台北市に生まれる。  
67年東京大学工学部土木工学科卒業。  
74年同大学院工学系研究科土木工学専攻博士課程修了、工学博士。  
85年新潟大学工学部教授。  
91年新潟大学自然科学研究科環境科学専攻長(任期2年)。  
93年新潟大学評議員。  
専門:河川工学、土木史。新潟に移り住んでからは雪氷工学、土質力学にも研究対象を広げる。  
主な著書:「利根川治水の変遷と水害」「洪水と治水の河川史」その他、共著多数  
学会等:土木学会、日本河川開発調査会(理事)、国民森林会議、日本自然保護協会、自然環境復元研究会(幹事)  
新潟の水辺を考える会(会長)、日本ビオトープ協会(顧問)その他。

小倉 紀雄(おぐら のりお)～東京農工大学・地球科学

1940年東京都に生まれる。62年東京都立大学理学部卒業後、同大学院にて分析化学を専攻し博士課程修了。  
67年同大学の助手、73年東京農工大学農学部の新設の環境保護学科(現環境・資源)となり、85年に教授。同学科の土壌水界環境のかかわりを科学的に明らかにする研究に携わる。専門的な研究と同時に、さまざまな環境保護活動にも積極的にかかわり日本における市民の科学的な環境保護運動の育成に努めている。  
75年に若手研究者に贈られる日本海洋学会岡田賞を、88年に環境賞(優良賞)を受賞。著書に「水質調査法」(共著)「調べる・身近な水」(ブルーバック)がある。

北村 真一(きたむら しんいち)～山梨大学・河川工学

1950年東京都墨田区に生まれる。74年東京工業大学工学部社会工学科卒業。  
79年東京工業大学大学院理工学研究科社会学専攻博士課程修了。  
89年山梨大学工学部土木環境工学科助教授。  
専門分野:景観工学、地域・都市計画、環境心理学。  
主な著書:「空間移動の心理学」(共著)「21世紀の国づくりを考える」(共著)「土木工学ハンドブック」(共著)「水辺の景観設計」(共著・編)。  
実務:河川・街路・公園・橋・住宅地などの設計に携わる。  
最近の研究:エコロジカルデザイン、サウンドスケープ。

君塚 芳輝(きみづか よしてる)～二松学舎大学・魚類学

日本大学農獣医学部水産学科卒業。同大学院修士課程修了。

現在、二松学舎大学講師。

専門:魚類学

専攻:淡水魚類の動物地理学的研究。

河川の問題について勉強中。

小島 貞男(こじま さだお)～日水コン・水の浄化

1961年埼玉県に生まれる。39年東京高等師範学校(現筑波大学)卒業、61年、農学博士。

専攻:水処理生物学。46年国立公衆衛生院衛生工学部勤務。48年東京都水道局勤務を経て現在(株)日水コン専務取締役・中央研究所長。

なお、73年よりインドネシア、エチオピア等、アジア・アフリカ各国の水道計画・水質管理など海外技術協力に従事。

主な著書:「用水排水便覧」(共著)「水処理実験法」(共著)「環境工学」(共著)「おいしい水の探究」ほか。

小林 正典(こばやし まさのり)～京浜工事事務所・河川管理

1948年岡山県に生まれる。73年東京大学工学部土木工学科卒業。建設省入省。

83年建設省関東地方建設局河川調整課長。85年同局河川計画課長。

86年本省河川局治水課長補佐。

88年中国地方工事事務所長。

92年関東地方建設局京浜工事事務所長、現在に至る。

桜井 善雄(さくらい よしお)～信州大学・応用生物学

1928年長野県に生まれる。

48年上田繊維専門学校卒業。現在、信州大学繊維学部応用生物学科教授。

応用生態学専攻。農学博士。

91年6月、水質汚濁防止法施行20周年記念・水質保全功労者賞(環境庁長官賞)受賞。

主な著書:「自然保護を考える」(分担執筆)「続・自然保護を考える」(分担執筆)「自然保護ハンドブック」(共訳)「最先端の緑化技術」(分担執筆)「ゴルフ場・リゾート開発ー地球に何をもちたすか」(編著)「地域開発と水環境」(編著)ほか。

新藤 静夫(しんどう しずお)～千葉大学・地下水

前日本地下水学会会長。

1933年生まれ。58年東京教育大学理学部卒業。筑波大学教授を経て、86年から千葉大学理学部教授。日本学術会議委員。

主な研究内容は乾燥地域の水文学、地下水の人工涵養、地下水汚染など。

主な著書:「地下水資源学」「都市の水文環境」「応用地質学」など。

**蓮池 守一(はすいけ もりかず)～日本教育新聞・小学校教育**

1955年東京学芸大学卒業、府中市立府中第2小学校教諭。  
73～82年、日野市教育委員会指導主事、稲城市教育委員会学務課長兼室長。  
82～93年、日野市立平山台小学、同平山小学校、千代田区立永田小学校校長。  
91～93年、東京都公立小学校長会、ほか。  
現在、日本教育新聞社会調査研究部主幹。

**山道 省三(やまみち しょうぞう)～とうきゅう環境浄化財団**

1949年長崎県に生まれる。  
72年東京農業大学造園学科卒業。  
75年環境計画事務所山道省三アトリエ主宰。77年(財)とうきゅう環境浄化財団専任研究員、現在に至る。  
主な著書:「東京の川」(共著)「川から発想するまち」(共著)「環境創造・環境管理・復元技術集成」(共著)  
近年の主な役職:92年～治水指標に関する検討委員会(建設省)。  
92年～TAMARAいふ21協会実行委員(東京都)。  
93年～水・河川フォーラム実行委員(東久留米市)

**吉村 伸一(よしむら しんいち)～よこはま川を考える会**

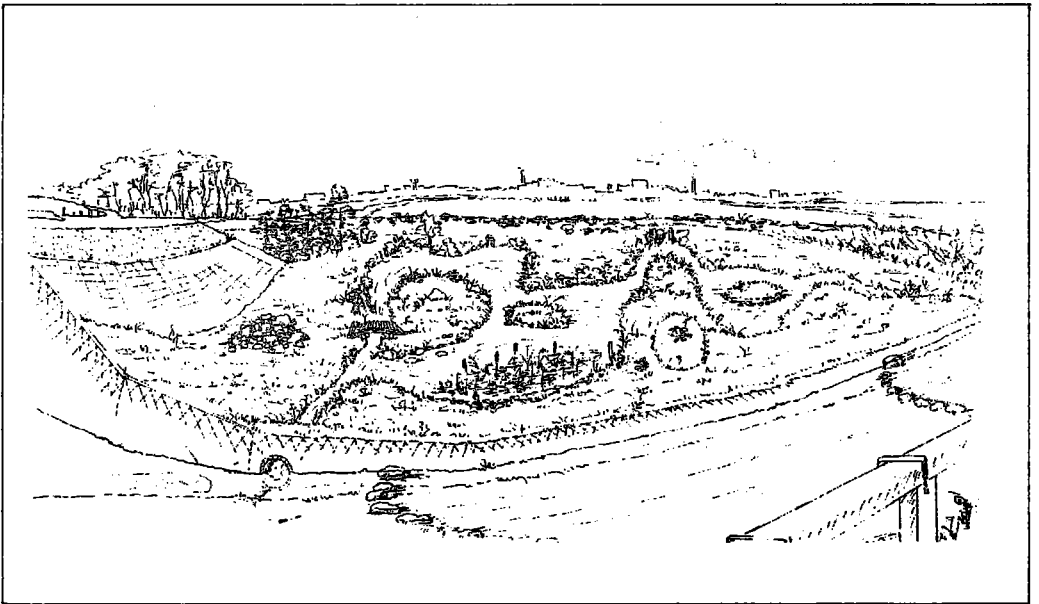
1948年北海道に生まれる。71年横浜市下水道局建設部勤務。  
77年から同局河川部。主として河川環境整備等の計画、設計業務に携わる。  
82年の独川低水路整備を始めとして、独自に河川の自然復元(近自然河川工法)を実践する。和泉川親水広場/手づくり郷土賞、梅田川/人と自然に優しい川づくり大賞など。  
技術士(建設部門・河川)。よこはまかわを考える会会員  
主な著書:「自然環境復元の技術」杉山・進士編。「ホタルの里づくり」自然環境復元研究会編「水と緑の読本」「緑の読本19/ポストモダンの川づくり」共著、公害対策技術同友会。

**渡部 一二(わたべ かつじ)～多摩美術大学・農業土木**

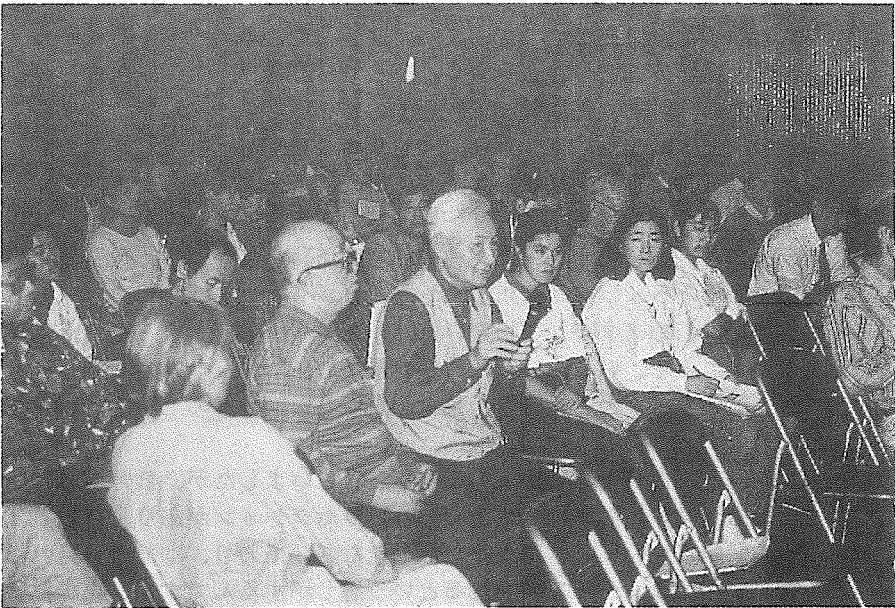
1938年北海道に生まれる。72年東京芸術大学美術学部修士課程卒業。  
専攻:建築学、環境設計。  
現在、多摩美術大学美術学部教授。農学博士。  
郡上八幡・水のポケットパークの設計。  
宮城県大河原町白石川修景デザイン、その他。  
テーマ:水空間の設計、デザイン。  
主な著書:「生きている水路」「川と人間」(親水)  
「八王子湧水ネックレス構想」「水縁空間」「日野市における水路の生物環境、景観要素および利用意識調査による環境特性の研究」(とうきゅう環境浄化財団助成による報告書)

## 展示・発表

- 公民館と市民・公民館職員島田五十美
- 四小120周年記念マップづくりの会・中島ひろ子
- 「課外活動を通して川を知る」 南平小先生と生徒
- 親と子・流域をつないだ川下りレース実行委員長 大津和文



程久保川～浅川合流点 ワンド原図



## ＜ 第 1 部 ＞

＜山道＞ 私は、第一部のコーディネーターをおおせつかりました山道でございます。よろしく願い致します。最初、気軽な浅川についての勉強会と思っておりましたところ、フタを開けましたら、大変な方々がお集まり頂いていたんですね。

お名前をお聞きしまして、一瞬、絶句をしてしまいました。一体、どうすればいいんだろうかと、大変、困ったわけなんですけど、とにかく、皆さんと一緒に、日野の、あるいは浅川、あるいはその他の河川、用水が抱える問題、悩みなどを出しあって、今日、ここにおられる専門家の方々に、どういうふうに答えていただくかという、やりとりをやってみようという主旨でございます。そういうスタンスで、コーディネーター役をやっていきたいと思っております。

フォーラムを始めます前に、今日ご出席いただきましたパネラーのご紹介をさせていただきます。私の左の方から、多摩美術大の渡部先生です。水路の設計、環境デザイン等のご専門です。次に、横浜市にお勤めの吉村伸一さんです。河川設計が担当で、横浜市内の中小河川の様々なデザインの設計をなさっていらっしゃいます。今や、多自然型工法では、最先端をいっていらっしゃいます。続きまして、蓮池守一さんです。日本教育新聞社にお勤めです。教育関係が専門でございます。続いて、新藤静夫先生でございます。千葉大学にお勤めで、地下水がご専門です。信州大学の桜井善雄先生は、応用生態学がご専門です。お隣りは、建設省京浜工事事務所の小林所長でございます。続いて、日水コンにお勤めの小島貞勇先生でございます。水処理がご専門です。それから、二松學舎大学の君塚芳輝先生です。淡水魚がご専門です。続きまして、山梨大学の北村真一先生で、景観工学のご専門です。そして、東京農工大学の小倉紀雄先生です。水質調査も含めての地球化学がご専門です。お隣りの新潟大学の大熊孝先生は、河川工学、土木工学のご専門です。最後は、2部のコーディネーターも担当なさる石田幸彦さんです。八王子ランドマーク研究会のメンバーで、住民活動をしながら、八王子市役所に勤めていらっしゃいます。

早速はじめますが、ご指定いただいたテーマは、「水・そこが問題」ということで、いったい、なにが問題なのかわからないのですが、“そこ”というのがどこなのか、分析しながら議論を進めていきたいと思っています。

先ほど、市役所の方からもご挨拶がございましたが、日野市には、全国でも非常に珍しい、水路清流課というセクションがあり、行政的にも水の問題について、ユニークな活動をなさっており、はたから見れば、官民一体でよくやっておられるという感じがするんですが、実際は、そうでもない。もう少しいろいろなことが複雑に入り組んでいるということでございます。

また、日野の水について言えば、湧水が豊かである。しかも、浅川、多摩川に囲まれ、沖積低地での水田開発のために、用水が縦横に走っており、言ってみれば日野は、水の都という言われかたもされています。ただ、日野の場合、宿命的にですね、八王子という地域とセットに考えてみないと、何ともいかんしがたい。つまり、下流の街であるということがありまして、浅川水系の中で物を考えていかないと、水はよくなるという立場にあるわけですので、いかに、湧水を守り、川の水を良くし、豊かにし、あるいは、使われなくなった農業用水も含めて大事にしていきたいというなかで、表面を流れている川の水と地下水の問題、言ってみれば、大きな水の巡りを考えていかなければ、日野の水だけを守ってはいけないという感じがいたします。

今日、お越しいただいた先生方には午前中、日野を流れている向島用水、程久保川、浅川を見ていただいたわけですが、それぞれが抱えている課題を、皆さんが思っていることも含め、日野の水環境、水問題、水循環といったテーマを通して、どんなご感想をお持ちになられたでしょうか。大熊先生から口火を切っていただけませんかでしょうか。

<大熊>

私も関東育ちですが、新潟に行って20年になります。行くときは、裏日本ということで、三国山脈の影になっていて陽が当たらないのではと思っていたのですが、陽は当たっている所でした。しかし、今こうして、皆さんの活動を見ていると、やっぱり日本海側は裏日本と言われてもしょうがないのかなというのが、実感です。こういったボランティア活動というのはほとんどありませんし、ましてや、市民と行政の方が一緒になっていろいろ活動されている。今日、見せていただいたワンドを造ったり、小学校の校庭に新しい水路を造りなおして、なかなか素敵な空間を造られているのを見せていただいて、やっぱり、太平洋側は表日本なのかなというふうに考えていたところです。とにかく、皆さんの活動には敬意を表します。

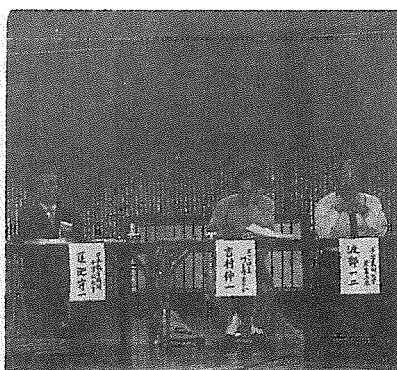
最初に口火を切れということなので、マクロの話しをしておきたいと思います。細かい数字をぜんぜん持ち合わせないので、大雑把な話しに



パネラーの方々：左から石田、大熊、小倉、北村、君塚、小島の各先生

なりますが、まず、日野を通過する水の量はどれくらいかなということを考えてみてください。浅川の流域面積は、先ほど手に入れた資料によりますと、約156平方キロメートル。ここに降る雨は、1年間に2000ミリはないと思います。1700-1800ミリくらいじゃないかと思います。その掛け算をしますと、おそらく、浅川流域に降る雨量というのはだいたい3億立方メートル水の量は1立方メートル1トンの重さになりますから、だいたい3億トン弱で、そのうち蒸発が3分の1くらいあり日野市内の、浅川を通過する水の量は年間2億トン。多分これは、多めだと思います。1億5~6000万トンがいいところじゃないかと思います。そこで、皆さんが使われている水道の量を考えてみてください。日野市が年間2000万トンくらい使っているということです。八王子を加えると、8000万トンくらい。そのうち、7-8割を利根川から持ってきている水だということです。ですから、1億5~6000万トン流れているところに、その半分くらいの量の別の水を、他の流域から持ちこんでいるということです。

最近どこへ行っても、川の水が少なくなったと言われるのですが、1億5~6000万トンのうち、洪水で出て行く量を差し引くと、ふだん流れる水の量は1億トンあるかないか。水道の水は8000万トンぐらいですから、ほとんど、外から持ってきた量と流れる量とは、匹敵します。逆にいうと、皆さんが水道を全部とめて下流に流さなければ、あるいは今から30年くらい前の昔の状態に、当時は人も少なくて、先ほどちょっと聞いたところによると、昭和30年頃は日野市でも2万人位だったということです。そのころの状況を考えると、利根川から持ってくる水の量はないわけですから、多分、川の水は少ないということになっていたのではないかと思います。逆にいうと、水量的には現在、日野市を通過する水の量は増えていると思います。ただし、汚れている水ですから、近付いて見たとき、あまりいい感じではないかもしれません。けれども、そういうことを頭のすみにおいていただき、そんな状況にあるのかということをも、認識しておいていただきたいと思



左端 コーディネーター 山道。小林、桜井、新藤、蓮池、吉村、渡部の各先生



います。

<山道> ありがとうございます。小倉先生、今、大熊先生がおっしゃったことも含めて課題点や問題点などを、かいつまんでお願いいたします。

<小倉> 私は、日野に住んで15年になるんですが、日野市内で知らないところがたくさんあります。

私の専門は水質です。見える水ということで、八王子と日野市の市民グループがもう10年近く、浅川の水質はどうかと年に4回程水質調査を行なっています。その結果を持ち寄って、汚れの大きさを丸の大小で表わし、地図に落としていきます。それによると、八王子上流よりむしろ、下流の日野市に入るとどんどん汚れてくるんですね。人口の増加にともなって、下水道の整備が十分でないというのが最大の原因だと思うのですが。水質マップは私たちに何をすればいいかという問いかけをしていると思います。汚染マップを通して、市民と行政が話し合う材料にもなっています。今後、水の汚れをなくするためにはどうしたらいいかを考える、そういうお手伝いをしてきているわけですが、たしかに、見える浅川の水質を見ると、八王子にくらべて日野の方で汚れてきていることが、現状だと思いますね。

見えない水では地下水ですが、一般的には地表の汚れた水は地下にもぐりますときれいになります。そういう伏流水を八王子では水道水用の原水として使っているところもあります。日野でも使っていますね。そのように、水はもぐればきれいになるのです。問題がないわけではありませんが。

浅川は日野だけの問題ではなく、地下水というのは地下を通過してつながっているわけですから、八王子と一体となって、浅川流域全体として水環境を守っていく考え方が必要ではないか。地下水を考えていくとき、土壌を汚さないことが、地下水を汚さないことにつながります。

<山道> 大熊先生のお話しの中で、もともと浅川は水がそんなに流れていなかったのではないかとのご指摘がありました。今の状況からいいますと、相当、生活排水も入っておりますし、今日見ても、私に言わせれば、水はあるほうかなという感じがしないでもないのですが、先生もそうお感じになりましたか。

<大熊> 今日は結構、良く流れていると思えましたね。この程度の規模の河川では逆に水量は多い方ですね。

<山道> 地下水の話ではひとつは、八王子との関連が大切と言われましたが、新藤先生日野の地下水については、いくつかの研究報告書もありますが、なにか特徴はございますでしょうか。

<新藤> 私は、隣りの八王子の東のはずれに近いところに住んでいます。もう昔ですけれど、このあたりの地下水や地質について調べたことがあります。地下水の話のバックグラウンドとして、日野の地質を理解しておいていただきたいと思います。このあたりの地層は、北東に向かって、1度から2度くらい、場合によっては5度くらいの勾配ではぼ一様に関

東平野の中心に向かって傾斜しています。ですからこのあたりの地下水はおおよそ北東に向かって流れています。例えば、八王子の浅川の晁橋上流さらに本郷辺りから日野にかけた河床に近い所には現在の河床礫とはちがう地層が顔を出しているんです。河床にある礫層は新しい川が運んで出来たものですが、以前砂利を採掘したためにどんどん河床が下がってきて、下の地層、つまり基盤の地層が顔を出してきているんですね。その最もいい例が、八王子の西の方にあるメタセコイアという100万年くらい前の化石を含む地層です。その中に何枚かの礫層が顔を出しておりまして、それをさきほどいった地層の勾配に従って追跡してみますと、立川あたりでは100メートルくらいの深さになっているんです。これらの基盤の地層に浸透した浅川の水は、じわじわと地下水になっていき、昔は立川から国立辺りの多摩川低地に自噴して深井戸から水が吹き出していました。かつて国立市の水道水源井が多摩川低地に何本かありましたが、その自噴水が、浅川の水なんですね。

先ほども話しが出来ましたけれど、日野付近の地下水、湧水の水というのは、上流は八王子と関係し、下流は立川や国立と関係していた。要するに地下水には行政区というのが全くないということです。

もう一つ知っておいてもらいたいのは、多摩丘陵のことで。多摩丘陵をつくっている地層というのは、先ほど述べた地層よりも、さらに古い時代のもので。つまり多摩川や浅川の河床に出ていた地層より、もうひとつ古い時代の地層が、多摩丘陵をつくっています。これはやはり北東に傾き、多摩丘陵の地下水を少しずつ少しずつ北東の方へ向かって流しています。ここでぜひ知っておいていただきたいのは、多摩丘陵の地層は柔らかく、水を海綿のようにタプリアい込んでいるということです。大雨の時は流れてしましますが、普通の雨量の時はほとんど吸い込んでしまい、あたかも天然のダムが、多摩丘陵に存在しているというように考えてもいい。実際、只今、私は多摩丘陵の長沼付近にある東京農工大の実験地で観測していますが、山の頂上でも数メートル下にはほとんど常時水があるんです。山全体がそのままの形で地下水を海綿状態のように含んでいるんです。これが、じわじわと流れ出て、浅川の水にかなり貢献しているんです。多摩丘陵の小さな河川や谷地田のチョロチョロとした流れを支えているわけです。

こういうように、自然というのは水循環を緩和しているというか、水循環を治めているといえます。水環境を守るためにはこの考え方が必要で、自然が有する水循環制御機能をきちんと把握しておくことが大切です。そのためには、水循環の経路を遮断してはいけません。河川というのは地下水の、いわば排水路なんですね。降った雨をいかに外に吐き出すかということで、自然が造ったネットワークなんです。したがって河川と地下水は切り離してはならないし、循環経路を遮断することは色々問題があると感じています。

<山道> 小倉先生、地下水の水質的な変化はありますか。

<小倉> 日野の個々のデータは持っていませんが、国分寺の地下水のデータでは、例えば有機塩素系化合物などがかなり増えていますね。今まで予想できなかったような汚染物質が増えてきています。それともうひとつは、窒素がどうしても取りきれいていませんね。硝酸性窒素が、色々な所で増えていることは問題です。化学肥料、生活排水を土壤に浸透させてきた結果、地下水に溶け込み、環境基準が10ppmですが、それを越える数値が見つかっている。それだけみても、地下土壤を汚さないということが今、必要になってきています。

<山道> 表流水は分かりやすいが、地下水の問題はなかなか分かりにくい構造になっていますが、最近、雨水浸透を積極的に考えるようになってきているようです。

一方で、質を考えなくてはいかんという話もあります。また、地下水の水脈を断つようなやり方は考えなおさなければいけないというお話もありました。ところで、桜井先生、今日歩かれて、生態学の方からご覧になった浅川の環境はいかがでしたか。都市河川として見たとき、どんな感じですか。

<桜井> 中流域は、一番バラエティに富んだ生物の住みか、したがってそれが造る自然環境をもっている流域ではないかと思えます。そういう観点から見ますと、昔から流域にかなり人が住んでいるにもかかわらず、植生から見ても川の構造から見ても、かなり豊かなという色々問題があると思えますが、バラエティに富んだ生息環境を持っていると感じます。

今日のテーマの「そこが問題」ということですが、問題はいっぱいあると思うんです。そこで、大きく、地上の水ということで考えてみますと、4つの大きなポイントがあげられると思えます。1つは水の量とそのあり方。2つ目は水質。3つ目は水の入れ物、あるいは樋としての川。4つ目はそれ全体を支配する流域の問題があると思えます。

この日野市の川の問題としては、そのうちの3つ目くらいを市民が意識的に、そこに問題があるということを取り上げて考えている点で、非常に進んでいるというか、感銘を得ています。

そこで先ほど司会者の方からどんな感じを持ったかという問いがありましたので、3つ目の水の入れ物を取り上げて考えてみると、川の流れの中で流路の問題、河岸の植物、あるいは植物が与えている下の構造の問題、これら河床の改良をして造りましたワンド、程久保川の湾曲部など、中流の特性をいかした作り方があったのではないかと思います。

先ほど、浅川の中でも、日野に来た時、水質が汚れるというお話がありました。今、流域下水道工事が進められています。川の水の70%が利根川から来ているということです。水処理の方から見た時の下水道の水質について小島先生、コメントをいただきたいのですが。

<小島> 私は八王子に住んで、勤め先は日野です。ですから体のために歩いて通っています。その途中で、浅川を横切ります。その時、川をのぞいて、水を見たり魚の数や鳥を見たり、たいへん道草をくいながらのんび

り通っています。昔は、浅川でも多摩川でも大変きれいでした。飲めるくらいきれいでした。本当に私たちは子供の頃は飲みました。親も何も言いませんでした。親も一緒に飲みました。病気になる人はおりません。それくらい日本の川はきれいでした。今はもちろん飲めなくなりましたが、それでもね、見ておきますと浅川でもね、やっぱりきれいになる時があるんですよ。今年なんかは特にそうですけどね。普通、川は冬になるときれいになるんですよ。冬になるときれいになって、石が数えられるくらい透き通って見えるんです。ところが、浅川は反対でしてね。冬になると汚くなる。真っ白な綿のようなものがいっぱい浮かぶ。石どころか魚も見えなくなる。

これはどういうことかと言いますとね、この白い綿は水綿とか下水綿とか言いますけれどね汚い川に出てくるんです。川底いっぱいに出て、ちぎれて流れてくる。丁度、ポタン雪のように流れてくるんですから川底が見えなくなる。こういう状態になる。しかし、雨が降りますとね、それが全部流れてきれいになる。今年なんかとてもきれいですよ。石が数えられるくらい。これはどういうことかと言いますとね。人間の数はかわらず、同じように汚れを出しているわけですが、それを受け取るほうの川の流れの量によってこんなにも違うんだというひとつの教えです。つまり、十分希釈するだけの水量があったら、川はきれいになります。下水処理場で処理した水はだいたい7倍位希釈したらまあまあ泳いでも水道が利用してもいい水になる。そういう基礎で、BOD20というのは決まっているんですよ。ところが川で7倍希釈出来るかと言うと、とても浅川は希釈出来ない。多摩川全体を一昨年、計ってみましたが、一番濁水になった時が問題です。これは平均流量じゃないですよ。濁水で7倍なくてはいけません。ところが計ってみたら、下水の方が多かったんですよ。これじゃ、今の下水処理場が全部出来たととしても、きれいな水にはならないと私は思います。しかも、不思議なことには、塩分を計ってみますと、人間が一日にとる塩分は分かっていますから、それと、流れてくる水で薄まるはず。下水には人間がとった塩分が加わる訳ですから、多摩川の塩分は分かっていますから、それだけの塩分の量になるはずだと思って計ってみると、合わないんですね。これは、利根川から来ているなど分かるんですね。利根川は多摩川に比べて10倍くらい塩分が多いんです。昔は10倍、多摩川は3ppmなかったその頃、利根川は30ppm、今は多摩川もちょっと増えています。上流で計っても5ppmくらいありますけれどね。

いずれにしても、利根川の水が下水になって多摩川に来ているんです。これではね、量が増えてもきれいにはならない。希釈するのではなくて、今度は負担が重くなるんですから、こういう事を考えると、容易な事ではないなという気がします。試みに計算してみますと、私は浅川の流量が分からないので、多摩川が最濁水になった時100万トンになったとします。それで薄められる下水の量は7倍でなくて5倍としま

すね。5倍薄めればよいとすると20万トン。1トンはだいたい3人分のですから、60万人、多摩川の流域には60万人しか住めないことになる。八王子とニュータウンでいっぱいですよ。あとの人はみんなどこかへ行かなくてはならない。川が昔のようにきれいになるためには、それだけの人が住めないことになる。どうやったらもっと、住めるようになるかという、最低流量を増やす工夫をするか、入れるほうの下水をもっときれいにしなければならない。今のような処理ではダメ。どっかでしか解決方法はないと思います。

<山道> 浅川の水はきれいになりにくいというお話でしたが、出す水をきれいにし、希釈する水を多くしていくことしかないように思います。そこで、湧水の保全が大事になってくると思います。新藤先生、地下水を阻害する要因、水みちを遮断するということはどういう事でしょうか。

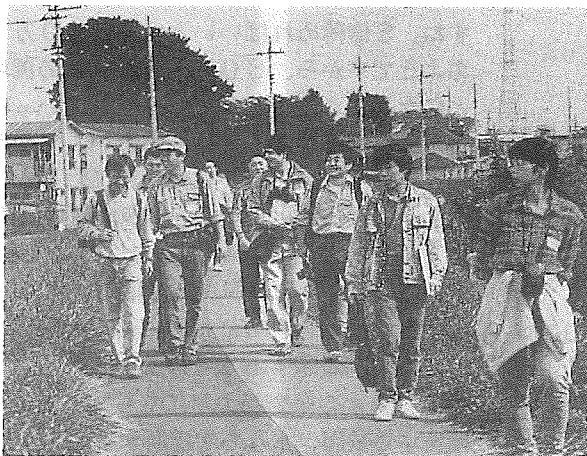
<新藤> 一番問題になるのは、河川と地下水の交流を遮断する護岸工事があります。この地域に限らず、武蔵野にはいくつかの湧水を起源とする小さな河川があります。それらの河川はいわば地下水の排水路ですから、両面だけではなく、底までがコンクリートにされては最悪な状態になります。水みちを遮断するという点では、地下工事があげられます。今問題になっている中央線の地下化ですね。地下工事をやれば当然、一時的に水をくみ上げる事もあるだろうし、その後、コンクリートで固めます。地下水はその回りを回りこむというようなことをよく言いますが、そんな簡単なものではない。

さきほど言い忘れたのですが、地下水の流速ですね、地下水はどれだけの速さで流れているかと言いますと、武蔵野台地で実際に観測したところによると、一日に数センチ程度で速くても数10センチです。一日に1m流れたらかなり活発に流れていると思っていいですから、だいたい10cm、20cmのオーダーというのが、一般的な地下水の流れなんです。もっとも古い地層になりますと、人間が人工的に水を揚水しない限り、動かないといってもよい。そういうような、ゆっくりとした動きなものですから、ちょっとした障害物で容易に水の流れは変わる。これを逆に利用したのが地下ダムです。これは、地表に造るようなかたちのダムを地下に造るのではなく地下水の流れを少しでも弱めてやることで、水を利用するというものです。地下水の流れを測る透水係数というインデックスを一桁か二桁下げることで地下の水を利用する条件をよくすることが可能になるのです。

<山道> 今、新藤さんから護岸の話でしたが、あの新井橋上流の湧水の流れ等を含め、良い雰囲気のところがありますが、河川改修で環境に配慮するなど建設省でも努力なさっていると思いますが、伏流水なども含めて、小林さん、お話し下さい。

<小林> 私が所属している京浜工事事務所は浅川も含めて多摩川の他に神奈川県内に入りますが、鶴見川、相模川の三つの川を管理しています。管理の中の治水、いわゆる洪水対策が主な仕事で、今年は台風が平年になく

本土に上陸しまして、しょっちゅう、事務所に泊まり込んだりということがあったんですが、実は、河川を管理している中で一番心配なのが浅川なんです。浅川は、洪水対策を考える上で、非常にむずかしい要素を持っているということなんです。



浅川堤防上を歩く

一つは、川の中を見ていただくと良く分かると思いますが、ドタンという、岩石ではないんですが、固い土層、物質があります。このドタンという地層が、相当浅川全体に出てきています。川底にこういうドタンが出てきているという事は、洪水対策上、非常に危険なんです。と言いますのは、昭和49年に多摩川の狛江市部分の堤防が決壊しましたが、現地をご覧になった方はお分かりと思いますが、川底がドタンでした。ドタン層が川底にありますと、洪水が持つエネルギーが下に行かず横に伝わり、堤防の安全性を脅かす恐れが非常に高いという事です。地質に問題があります。

もう一つは、都市部に流れる川としては、急勾配の川です。流速が非常に速い。ですから、多摩川本川と浅川と見比べていただけるとお分かりになるように、浅川は、荒れた印象をお持ちになるのではないのでしょうか。多摩川はどっしりして広い河川というか、高水敷があったり、広い河原があるんですけども、それに比べ浅川は荒れているといいたいでしょうか、いったん洪水がきますと川の様相が一変します。そういう特徴があります。

それでは、我々はどうしているかといいますと、危険が予測される堤防の補強をやっているわけです。それが、これからの議論になっていくんだらうと思いますが、我々の河川の改修の考え方というのは、従来は堤防を造り洪水に対処しようという考え方が強かったわけです。ところが、浅川のように、日野市、八王子市など首都圏のベッドタウンということで、開発がどんどん進んで参りますと、当然、降った雨は一度に川に入ります。ということは、洪水の比は大きくなっていくということです。しかも、降ってから洪水になるまでの時間は短くなる。そうになると、すべて堤防一枚で洪水に対処しようというのは、難しくなってきます。そこで我々は総合治水対策といっていますが、洪水対策というのは流域の土地利用問題だという考えに変わりつつあります。堤防一枚造れ

ば洪水対策はすべてすむ、という発想はダメで、流域全体で洪水対策というものを考えていこうという方向に大きく動きつつあります。

具体的には、流域の中に降った雨が一気に流れ込まないようにダム池を造ったり、浸透させたりというような努力を続けているわけです。先程のお話しにありました平常時の川の水が減ってきている現象については、多摩川本川や浅川の本川では下水が入っていますので、むしろ傾向としては量的には、若干ではありますが増えてきています。ただ、支川での流量の減少は確かに見られると思います。そういったところでは、平常時の流量を少しでも確保するという意味からも、各自治体に取り組んでいただいております。

それから、川の中の問題なんですが、三面張りというお話がありましたが、確かに小さな水路では三面張りになっている所もありますが、最近では三面張りの水路は出来るだけ造らないようにしております。多摩川ではありませんけれど、昔は住血吸虫対策という意味もあったようですが…。三面張りの問題だけでなく建設省が力を入れておりますのは環境に配慮した川づくりということです。コンクリートでガチガチに固めていた構造は止めて、木とか石とか使って、どうしてもコンクリートが必要な場合はその前面を土などでカバーするなど、景観ですとか、生態ですとか、あるいは川に住む魚のことを考えた川造りをやっというこうと、多摩川本川ではその対策を徐々に進めているところです。

#### <山道>

程久保川のワンドのことで地元の方との協議を持ったりされたということですが、北村先生、水循環に考慮した工法とかデザインの可能性について伺えればと思います 北村：私育ちは隅田川の畔で、大きくなって下流から多摩川の中流へそして富士川の中流へ移りました。川の風景、生物相、治水をふくめた川の全体像はどうあるべきかというのが、一番の問題だと思います。いろんな所でいろんな地域のいろんな川とかかわってきましたが、結論はそう思って来ています。浅川がある地域は中流で、中流の都市の中での水とのかかわりということだと思います。

先ほど小林さんがおっしゃったように、浅川は護岸とか水の問題が川に対して非常にきつい。護岸というのはがちり固めなければいけないのに、そのわりに川幅が広いところなんだと思うんです。もう少し河原に自然があって、自由に流れて河原にも自然が残る川があるというようなイメージがあるのですが、実際行って見ますと、なかなか厳しい状況です。そして河原自身が寂しい自然なんじゃないかと思う。都会の人が川に求める自然というのは、都市公園とはちがった全くの野生の自然で、庭のような風景とか生き物がいない環境でなく、川に行くと魚がいたり、野草があるという風景を求めているのかなと思います。

それに対して、浅川の河原は全体として少し都会化していると思います。人間の手が加わっていない自然に接する場として、川というものが本来あるんじゃないかと思うんです今の浅川は川に手を加えたために、

かなり自然の姿から遠ざかってしまっている。

<山道> デザインする場合ハッキリしたほうがいいということでしょうか？利用とか活用とか、また本来のポテンシャル例えば自然を活かしたものが…。

<北村> そこらへんが大変難しい。(笑い)

<山道> 川の場合横断的に見た場合捉え易いが、縦断的に見た場合水循環とかそこらへんが絡んで来ると思いますが、水質や水量、水循環を考慮した川のデザインについて吉村さんいかがでしょうか。

<吉村> 横浜は小さな川ばかりでして、小さな川を相手にしてきました。浅川や多摩川とは違います。例えば、水質の問題をデザインどうしようかといっても、あそこに300万人住んでいるという中ではデザインのしようがない。ただ、水循環や水というものを考える時、科学的な循環系だけの話しではなく、私は川にこだわっていますので、水問題という時と水をテーマにする時、川をテーマにする時と、ちょっと違う。水をテーマにする時はどうしても飲み水の水質などの話しになる。川といった場合は、トータルなイメージがしている。水循環の水を中心にした流れというものが川の基本で、流れる水があってはじめて川であって、流れる水がなければ川でない。汚い水が流れていても、汚い水がある限り川だ。私はそこからスタートする。

循環といった場合、降った雨が地下にもぐって清冽な水が川に出てくるという視点と、生き物がそこで、川という水と交流しているというか、人が関わっていくという中で、生物的活動とか人間の活動も含めてとらえて考えていく。現実的な水質、水量の問題はあるんだけど、この汚い川の中でそんな事やって意味があるのか、と見る人は見ると思う。少しでも植生が戻ってくる、ゆっくりしたり速くなったり蛇行したり川としての生きた水を復元していけばと考えて、水は汚いんだけど流れていけば川なんだという考え方でスタートしていかざるを得ないと思っている。

今日見たワンドの取り込みに、程久保川から出ている2本のパイプは、もう少しデザインのしようがあったのではないかと思っていますが、程久保川の流れからヒューム管を通してワンドの中に入った水はその勢いで深掘りして運んだ土砂で瀬を造り、何か生命を取り戻したような感じがした。

<山道> 向島用水の新水路を数百メートルにわたって改修する計画があるようですが、その点で、吉村さん、ご意見ございませんか。

<吉村> 日野の用水を歩いて見ると、形そのものはそのままいいという気がしています水質の問題は大事ですが、家庭排水がだいぶ入り込んでいるようですね。手を加えていない昔の用水は、両側に木があったり、人家にも接して、暗い非常に良い雰囲気がありあの雰囲気を大事にしていったら良いのでは。全部オープンする必要はないと思う。

<山道> 玉川上水をはじめ、日野の農業用水を主体に調査なさったりデザイン



をしておられる渡部先生にお聞きしたいんですが、農業用水を保全し活用していく視点を、水問題も含めてご意見お願い致します。

<渡部>

今までのお話しは大半が、自然河川の治水の重要性についてでしたが、一方利水という水を徹底して使う目的で、かつての日野の3割ちかくの水田地帯に張り巡らされた水路網は、農業のみならず各集落の飲み水、時には洗いものなど生活用水とし、あるときは防火用、鑑賞用として庭の溜め池に水を引いて、また子供達にとっては魚を追う春の小川、虫やホタル、トンボなどを育む生態系が最も身近な所で再生して自然に近づけた川にしていくという大変魅力的な川、これが水路なんですね。

その水路が日野市では全長200キロもある、東京では珍しい水路網の街として羨ましい環境にある、水の恩恵、河川の水、水路の水、大地からの湧水、三つの水源、水空間を多面的に使うという知恵をもった人達が日野の人達と私は思っている。そんなことから、前々から日野の水路網の活用の仕方の中に、日本人が水と深くつきあい育んできた知恵が隠れている。そんなことから完全に調べようと、大きなテーマとしては水路の景観、水生植物の成育状況、水を利用する人達の意識調査、それをビデオで撮影する作業を、私はむしろ補助的な立場で行ってきた。水循環という話しの中で人が造った水路は大変見事な循環方式を取っていた。農業用水に使う水路は、どんなに大雨が降っても氾濫することのない仕組みが施されていた。その水路は無計画に手をいれることで氾濫を招くことはあったが、大変な知恵だった。農業用水は管理する人々によって水門の開け閉めが行われ、水の分配が実に巧みに行われていた。農業に使いながら親水空間として優れた知恵と形態が今でも残っていますね。

日本国内の水路網を数百カ所も調べておりますが、人口密度の高いところで今のような水路網が残っているのは非常に珍しいと申し上げておきたい。これを今後どのように活用して、水の街日野として再生するか、これはひとえに皆さんの知恵と努力にかかっています。また、私達もこれをサポートしたい、このキーポイントは役所の方々がどれだけ今のような視点を重視して未来の街づくりの構想計画をたてられるか、その辺に話題が行くのではないかなと思うんですが。

<山道>

君塚先生にお聞きしたいのですが、今、水循環の話しをしているんですけども農業用水も含めて良いのか分かりませんが、生物学的水循環とおっしゃっているんですが水との関係の中では大変重要な話しだという気がするんですね。そのへんのご説明と日野の用水もしくは河川を含めてコメントをいただきたいのですが。

<君塚>

生物学的水循環という問題の認識は未だ定着しないと思うんですけども、先程から諸先生がおっしゃっている水の巡り合わせですね、降った雨が地下水あるいは表流水川になってまた私達が利用してまた捨てさせてもらって、海へ下って大気に戻って雨が降る。こういう物理的な作用ですね、まあ、人間が途中に介入しますけれども、そういう自然作用

による循環を普通水循環と呼んでいるんですけど、しいて分ければこれを物理的水循環といい、それに対して生物の利用の立場の水循環、私は魚屋で魚を勉強しているのですが、魚の目から見ますと水がつながっていること、落差なくつながっているということがとても大切で、ダムが開いたときだけ、上り下りできるというのは、魚の目から見た水循環は断絶している訳ですね。

今朝9時半に百草園駅に集合されて、程久保川に出られてちょっと下流へ、憩いの水辺というところの下に堰がありましたね。落差工と言いますが、ああいうところを見ますと物理的水循環は問題ないです。しかし、魚の目から見ますと一段目は上れますが、二段目三段目、四段目は全く魚がないんです。上れないんです。魚の目から見て双方向の自由通行が出来る状態、上ることも或は堰を下っても大きな怪我をしたり、死んだりしない。魚が自分の意志で自由通行が出来る、そういった状態を我々は生物学的水循環と名づけています。魚の目から見た行き来のし易さと言いましょかね、そういう視点から見まして今回の日野の事例なんです、一つは朝見ました程久保川の合流点ですが、大事なことは吉村さんもおっしゃったことなんです、トンネルを出たら、暗渠を出たら風景は変わるだろうとおっしゃったんですが、私も魚の調査で良くあそこら辺をうろうろするのですが確かにコンクリートの二面張りヒタヒタ流れの見あげるような旧程久保川から、暗渠を通りぬけて新しい川に入りますと、早瀬があって、魚が人間の姿を見てサッと逃げるわけです。蛇行してその蛇行しながらぶつかった所に滞りがあって、そういった魚が自由に行き来出来るわけです。下流はずっと自然な落差で浅川とつながっているんです。

今回の場合あそこを曲げて掘ってやったら、僅か数カ月で、実際は完成の検査の日にもいきました。もう少し時間がかかるかと思ったのですが、二回調査をしましたけど二回とも本川より多いのです。これは決して放したのではありません。魚たちに採点してもらったわけです。川づくりが悪ければそれを気にしない奴だけが入る。造り方が良ければ、更に何回か洪水等で底質に砂が入ればうるさいシマドジョウも入ると予測しているんですが…

構造が良ければ環境問題にもうるさい魚も入って来て、ヒタヒタの程久保川より二倍以上に魚が増えて来た。魚の通り道とすみかを造ってやってあとは魚に通信簿を付けてもらう、それが生物学的水循環の評価で、その点で程久保川は草も魚も自然に任せる。この潤徳のワンドも多少杭があるが間隔があいていて、魚も十分通れ流れが広くゆるくなっているんで、既にかんりの魚が見られます。今日農工大の学生さんから伺ったのですが、石垣の間から蛇まで出てきた。そういった点では生物学的水循環が彼らの評価を得ているのではないかと思う。そういう思想のもとに掘って下さった日野市や建設省の方には、魚の代弁をしまして感謝しております。

<山道> ありがとうございます。質問の中に、最近多摩川の水がきれいになって来たと思うけれど、魚の種類がコイくらいしか居ない。ヤリタナゴなど昔は居たそうなんだけれど、そういう魚はまた戻って来る可能性はあるのだろうか。可能性があるとするればどうすればいいのだろうか。という、日野二中の鈴木君からの質問なんです。

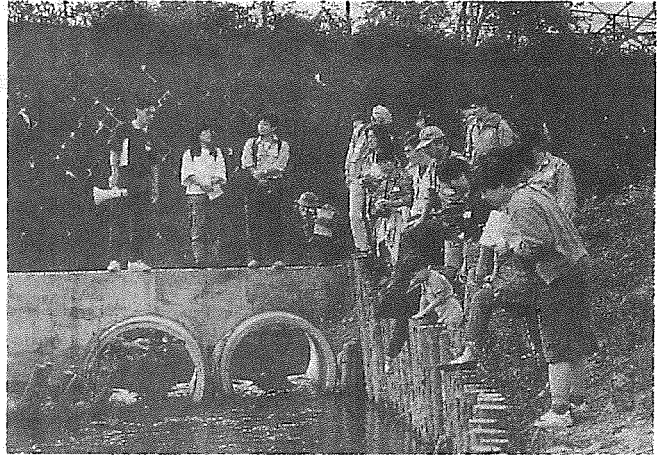
<君塚> 日野二中は確か学校の中に水族館を造っていらっしゃいますね。ヤリタナゴなんて専門用語ができましたが、ヤリタナゴは多摩川水系全域、奥多摩から大田区を含めて絶滅してしまいました。30年近く前にいなくなってしまったのです。今すぐ、いくら川を良くしても、ストックといいますが、水系内の別な生息地から帰って来てくれる連中はすでにもういませんね。多摩川最初のほうの絶滅種なのです。

川を見て行きますとコイばかり見えますけれども、実際は小さな魚もいます。資料にもありますが、10種類既に確認されていますから、良いれものを造ってやれば戻って来ることは十分ある訳ですね。ですから先程公民館からご紹介がありましたように、観察会も日野市内の皆さんやいらっしゃいますが、そんなところにも積極的に参加されて、また学校内水族館なども積極的にやって、コイ以外の魚も知っていただきたいと思います

<山道> 潤徳小学校の裏の用水の改修というのは、あちこちから注目されていますが、学校サイドの活用みたいな話しの中で野外教室をしたいという話しは最近圧倒的に多くなって来ていて、環境教育のフィールドワークとか自然観察会などあちこちで行われているようです。蓮池さんにお伺いしたいんですが、教育サイドの中で環境問題が最近言われています。川だとか水路とかの話しが試みとして幾つか出ているのですが、まだ十分とは言えません。活用する側からどんなお考えがあるかお願い致します。

<蓮池> 午前中、程久保川を中心に浅川周辺を歩かせていただきました。以前から日野市の行政施策である、緑と清流の教育的な環境づくりについては、各小中学校から市の方にお願ひし、また、市もそれに対し環境整備に当たって来ていただきました。その効果と言いますか今日中学生が自ら調べ、これからの自然と人間とのかかわりということについて発表していただいたということは大変うれしく思っています。未来に生きる子供達が従来の工業化、機械化時代から、人間の生命の時代へという、21世紀の教育に向けて、大きく日々の教育活動内容を変えていることを大変喜ばしく思っています。また、先程四小のほうでも記念行事を単なるお祭りではなく、子供達と共に地域に根ざした地域を愛する心を育てる意味での創立120周年の行事にとりくんだこと。つまり、これからの教育では机の前に向かって単に受験に強い教育ということではなく、生命の時代における自然と人間との調和した生き方を、人間らしく生きる生き方を求めての教育—そのためには子供自身が、能動的に自然に働きかけ、観察し、そこから感性やあるいは思考力を高めていこうという、そのように今教育が変わって

来ているという  
ことはご存  
知だと思います。  
そういうこと  
からして学  
校では特に、小  
中学校ともど  
も地域を学習  
するというこ  
とは以前にも  
増して多く  
なって来てい  
ます。そういう  
意味ではこの多



フンドの取入れ口（程久保川から浅川へ）

摩の、特に日野の多摩丘陵にわけ入って、子供達が色々体験し考える。あるいはきれいな多摩川、浅川を早く取り戻して川と親しみながら人間の生き方を考えていくという、こういう学習をもっと進めていかねばならないと捉えています。そういう意味での今日のように市民をあげて、山本さんが10年になったと。私も当初の頃から拘って来たわけですが、この勉強会も10年になって、市民の力で、皆の力で、自然をきれいにしていこう、創り出していこうという活動は大変うれしい事だと思っています。学校の川との関わりということになりますと、日野ではそれぞれの小学校が浅川、多摩川の野鳥の観察とか今日見ていただいた潤徳小の裏のあのような河川に、触れ親しむ環境をどんどん市の方で作っていただき、子供達が常に行きながらトンボを見てトンボのことを、あるいはそこに住むザリガニの生態を学べる環境整備を今後もしていただければということが願いの1つだと思います。あと1つはこれは大変なことなんです、もっと子供がジャブジャブとその中で遊んだり戯れることが出来る、大きな浅川の浄化ということ、時間が掛かるかも知れませんが、ミニの公園と併せて本流の浅川の中で子供が遊べる状況を創っていただけたらと思っています。

最後に学校週五日制への移行で、土曜日が休みになる、これは子供達が家族や友達と地域や自然に触れる機会、ゆとりの時間を求めます。ぜひこれからお父さん、お母さんがたも土曜に子供達と共に川に親しみ、そこから子供達に色々なことを、これからの生き方を一緒に考えていくことをしていただければ有り難いと思っています。

#### <山道>

どうもありがとうございました。先程から水の循環の話をしているのですがその循環の関わっていく中で生き物というものが、当然その循環系の中で生きているものだという話があって、更に川と人との付き合い方の中にも、色々学ぶことをきちんと自分で理解し、今度川を良くするためにそれを発揮していくというつながりというか、関わり合い

の環境というものもあろうかと思えます。循環というキーワードでちょっと引っ張ってきているので、もう少し次につながるための話として今蓮池さんから、もっと体ごとぶつかって川と付き合っていきたい、あるいはいけるような状況が欲しい、というような話しがあったのですが、そうするための川としての条件というものもある訳でしょうが使う側の条件というものも当然あるだろうという気がします。先程浅川でサバイバルレースをされていて、今年も200艇くらいの舟が出たということなのですが、カヌーフェスティバルはサバイバルレースとっていいかどうかわかりませんが、とにかく自然が壊れるとかなんとか言われるかもわからないけれども、サバイバルのごとく川にぶつかって行って、あの中で体ごと動いていくんだということが大事なことから、目をつぶってくれ、という話しがあったのですが今の蓮池さんの話とその辺の話から川との付き合い方、住民との交流の在り方、どう関わっていけばいいのか、そこらをお話しいたきたい。

#### <石田>

川と遊んでいる石田です。私が驚いたのは、横浜で下水道局にいる吉村さん。横浜では下水道局が川を管理しているのですが、どぶ川だからこそ遊ぶんだとって、カヌーフェスティバルをやっている。たまたま日野市の職員と一杯やりながら、浅川でもやりたいね、きれいだから遊ぶのは当たり前なんだけど、汚いから遊んでみようという。子供が遊んでいけば、大人はもう汚さないだろうという期待をしたのです。プライベートも含めて今年で第4回ですが、その前に毎年魚を放流しているところがあって、その前に一丁やってみようということで、手作りのいかだで下ってみました。それはなかなか大人にとっても迫力があっておもしろい。「あ、こういう遊びがあったよな、もう一度みなに開放してあげたい」と、最近では延々11キロ下る。こんなに長距離の手作りカヌーのレースは日本ではここしかない。昨年みたいに外人さんが、5時間太鼓叩きながら歩いて下ってきたり、要するに何を使ってもいい、人力であれば。視点が変わることが、先程から言われていますが、川を下ると今までは上から見ていたり、横から見ていたものが、魚の目で見えるわけです。水が巻いているところ、ぶつかっているところもあって、ぶつかっていったら、そこらいきなりかもが飛び出したり雉が飛び出したり、これは面白いなというのが実感です。こういう中で色々ドラマが生まれます。日野の小学校の先生ですか、子供が出るというんだけど心配でしょうがない。土手を子供のカヌーと一緒に走っているんです。だけどその子が11キロ完漕したときには、抱き合って泣いていたけど、ああいうのを見るのが僕はいいんだと思うんです。学校があまりにルールをしいて、教育的配慮とか、環境教育もそうですが、ルールを敷きすぎちゃうと面白くなっちゃう。八王子などでは、「川で遊んじゃいけない」と学校でいわれている。だから川で遊んでいる子は稀で、「君たちどこから来たの」なんて言うと、変なおじさんでしょ、「あ、これ、学校の先生だな、やばいな」なんて思っちゃうから、見付

けたときには自分も裸足になって川へ入ってジャブジャブやっていると「どことこの学校だよ」って教えてくれる。しかし、実際には自分の校区では遊んでないのね。学校で止められているから。

そういうヤバイことをどんどんやってみる。それはお仕着せの環境ではなくて、自分たちで作っていくことで、君塚さんに言わせると、「水ガキ」という新しい生物種だそうですが、どんどん育っている。

<山道>

ありがとうございました。あと15分しか時間がありませんが、質問の内容としては、「河川改修の様子が、どうも単なる排水施設として計画されているようなことがあるし、せっかく降った雨が還元されずに、地下水位が下がったりしているということ」また「河川改修によって地下水、伏流水が還元されないんじゃないか」という話し、そこらへんが一つ河川のほうとしてある、ということと、地下水との関係で、武蔵野台地の井戸水が場所によっては出ないところがある。玉川上水の廃止による影響なのか、あるいは地下水の汲み上げと地下水層の掘削みたいな話しというのは、多くの現状はどうなっているのか。

河川改修とか、地下水とか、維持用水の問題だとか、技術的な話しは別にして、大熊先生、治水ということ、少し発想を変えて大きな意味で見直す必要があるのではないかとということ、いくつか指摘されておりますけれども、先程の小林所長の話しとあわせて、浅川の治水の問題、あるいは護岸をどう考えれば良いか、ご意見をいただきたいのですが。

<大熊>

今朝浅川を見せていただいて思ったのは、かなり危ないところが何箇所かあるということを感じました。あの周辺に住んでいるかたは、洪水が出たときに水防活動をやれるかということを考えてみたんですがほとんどのかたが新住民ですから、できないだろうと思います。そうすると、浸食が進んできたら、昭和49年の多摩川と同じようなことが起きるかもしれないと思います。そういう意味では、はっきり言って治水的にも、利水的にも自然の状態で人間が住みうるのは、多摩川では60万人が精一杯ではないかと思えます。

多数の人間が住みすぎているということが言えると思えます。そういう意味で、浅川の治水ということから言うとやはりあの堤防が切れることがあってはいけません。ということは堅い護岸ということが出てくる必然性があると思えます。もう少し余裕があればいろんなことができるけれども、いまはっきり言って本当はこんなに多くの人が住んではいけないんですよ。そういう限界を超えているなかで、これからどうするかということなのだと思います。今まで、土木技術者はこういう状態に住めるように、安く簡単に早くできるような工法ばかり使ってきたのも事実ですが、これから、こういう中で考えているのは、水当たりのあるところはある程度堅くしなければならぬけれども、そうでないところは別な工法でやっていこうという努力をされると思う。乞うご期待ということです。

<山道>

わかりました。小倉先生。地下水の話しで、先ほど質問があったので

すが、武蔵野台地の井戸から汲み上げてもらって、たとえば、農業用水路や、玉川上水の配水に問題があるのかという質問ですが、地下水が用水路に与える影響はあるのでしょうか、たとえば、年間通水とか。

<小倉>

その点については新藤先生のほうがお詳しいと思いますが、先ほど一つ議論になかったのは、水田の水位との関連で、日野は水路に囲まれているわけですから、かつては水田はずいぶんあったのですね。いまは残念ながらだんだん減少している。

水田は水を貯留する役割と同時に地下へも浸透させる役割もあり、さらに水質を、先ほど地下水の硝酸が非常に問題だと話しましたが、脱窒素作用でチッソを除去してくれる役割も持っている。水量の調節と同時に水質のコントロールをする大変重要な役割もっている。

ですから千葉県市川市では、水田を残すために補助金を出していると、治水のために堤防を作るよりは経済的にも非常に効果があるということで、水田をぜひ残せということですね。日野では水田を水路とセットにしてぜひ残していただきたい。それが地下水の水質を良くすることにもつながるのだということです。

<山道>

ありがとうございました。北村先生なにかございますか。

<北村>

大熊先生がおっしゃったように、浅川は流域に多くの人が住みすぎたということしかも無秩序に住んだということが問題です。農村から都市へ変わるときに基盤をきっちりすることが必要です。道路もふくめて。どういうところに住むかということを考えるひまもなく、2万人から16万人と、人口が8倍になったのですが、それに対する対策がなかったということで、これからどういう政策ができるかということは今後も悲観的にならざるを得ないかも知れない。

<山道>

住みすぎたということに対する、これからの改善策はございますか。

<北村>

東京一極集中の結果だと思います。もう手遅れだということもあります。(笑)

いまから皆さんが一坪ずつ出して、道路を作ったり、下水道、公園など色々なことをやるこういう意識があればできますが、一人一人の問題となると難しい。水質の浄化にはたいへんなお金がかかるということで、わがままをやっていると環境は良くならない、こういうことではないかと思います。

<山道>

ありがとうございました。君塚さんどうぞ。

<君塚>

先程の川下りのレースで、川が痛むのではないかという質問が出るとは思いますが確かに、多少は痛むと思います。しかしそんなことより、石田さんがおっしゃったように川に下りて、普段出来ないことをしまくる、視点を変える、魚の視点は無理でも(沈すればできる?)、カルガモの視点くらいであればまわれるという、その波及効果のほうがはるかに大きくて、川の側から言えば、毎日やられては困りますが、どんどんやってもらったほうが、我々だって雷が鳴ったり、道路工事があったりするわけですから、それは生物の代弁をすれば問題はないわけで、やっ

てもらったほうがずーっと有り難いわけです。

先日熊本市にいきましたら、農業用のハウス、温室の雨水浸透桝の設置に9割補助を出していました。温室の横にモミガラを使って雨水浸透桝を設けている。農業用水路に土砂が過剰に流失することを防いで農家にも納得できるということでした。地下水涵養は生物にもいいことばかりですから、日野でもこういうことをやったらどうでしょう。

<山道>  
<小島>

では小島先生いかがでしょうか。

先程私が申し上げた、川はどうしたらきれいになるかということは、今の時点の話しですね。いつ汚れたかということは実はその前に問題があるわけです。

昔は、多摩川の水は飲めたのです。巨人軍のグラウンドのところにもいまでも渡し場があります。あの辺の人たちは無論何の処理もしないで飲んでいたので。船頭さんが、「船頭が、水筒持ってくるようじゃおしまいだよ」と嘆いていました。昔はなぜきれいだったか、人間が少なかったのです。でもね人間を減らしただけじゃあそんなにきれいにならない。さっきも言ったように60万減らしても、昔には戻らない。それはなぜかということね、それで私も困っているんですよ。実は多摩川がどんどん汚くなって、その時に玉川浄水場の責任者だったから、一番関心を持って毎日水質を測っておりました。そうしたらたった10年間で、昭和30年から10年くらい間に100倍も汚れたのです。アンモニアや大腸菌が100倍ふえたのです。それじゃ人口は100倍ふえたかと思って調べたらその時はちょうど2倍になっていたのです。人間が2倍で、どうして100倍汚れるのかとその時困りました。よく調べてみると、人の数じゃないのです。

それまでは、我々の出したものはみんな畑へ持って行っていったのです。広い武蔵野の耕地に全部ばらまかれていたのです。そして、それは分解されて作物に吸収されて、我々のところに返ってくる。土と人間の間でリサイクルが出来ていた。全然川のほうに出てこなかった。だからあの頃の川はきれいだったのです。大腸菌も、アンモニアも測っても出てこないのです。BODなんて測れなかった。BODなんか川で測るものではなくて、下水で測るものだと思っていた。そのくらいきれいだったんです。人が住んでいるところでそうなのですから、山のほうへ行けば今でもそういう川はありますよ。

昭和30年頃から下肥を畑へ持っていかなくなった。屎尿処理場へ行く。あまり自慢できることではありませんが、屎尿処理というのは日本の技術なんです。外国はみんな下水が出来ていましたからね。下水処理はやっているが、屎尿処理はやらない。

屎尿処理場を大々的に作ろうとしたのですが、「反対、反対」というから、みんな川の傍に作った。1つ作ると大体10倍汚れる。2つ出来ると20倍、全部で8個できたんですから、多摩川に。これで80倍ですよ。そのころ団地が方々に出来た。



この経済発展の時期ですから、団地がまた下水になりますから、尿尿も下水も全量入るそうしたら100倍になっちゃった。そのころの下水処理というのもお粗末でしたから、それに施設が小さいのになくさん尿尿が集まるものですから、十分な処理も出来ないから余計悪いんですが、名前は「衛生センター」というのですが、これは非衛生センターです。毎月、衛生センターが出す水を調べたのですがひどいものでした。BODなんか100以上のものが出たり、アンモニアも80ppm。こういう水が来たら、川はもたない。そのころ、下水道が出来れば川はきれいになるだろうと、みんな言ったんです。そうはいかない。下水の今の処理法というのは、昔の畑でやったようなのは出来ません。畑の処理は100%、それに比べたら処理場の処理はわずかなものです。

では、下水は要らないのかというと、文化生活をするためには絶対必要なシステムだといえます。なかったら我々は生活できません。

畑にまいたら、地下水は汚れたらろうという、汚れません。あの程度まいたんじゃ大丈夫です。あの当時は化学物質があまり特殊なものはありませんでした。何が怖いかというと、硝酸が中に入っていく。あれだけは地下に入るんですよ。あとはみな途中でとまります。で、硝酸がどれくらい増えたかという、5ppmありました。これもまた不思議なのですが、田舎にいくと、0.5か0.1東京の地下水だけは5ppmもある。不思議だ、なんでこんなにあるのだろうと、そのころわかりませんでした。

私も三多摩に住んでみて、わかった。武蔵野台地には川が少ない。そこで、みんな屋敷に穴を掘って「吸い込み」といって下水をしみ込ませていた。これが地下水に入る。



環境学習を発表する中学生

ところがあるとき急に10ppmになったことがあった。10ppmになるともう水道は使えません。赤ちゃんに病気が起きますので。ところが10までいっちゃったところがあるので。あわてて川の水で半分薄めましたが、川の水はもっと低かったの。

どうして2倍にもなったのだろうと、よく考えてみると、尿尿浄化槽が出来たのと、吸い込みに流す、こうするとチッソは2倍になります。下水道が普及した今は、パイプで持っていきますから地下に入りません。昔5だったのが今7くらいになり、10を越えていたのが逆戻りした。

田舎のほうで今でもチッソが多すぎるのは、肥料のせいです。化学肥料をいっぱい使った。野菜とか、お茶などはたくさんまきますから、多くなります。

こちらのほうでは、やっぱり我々から出たものが地下水にも、川にも大きな影響を与えます。ちょっと長くなりましたが、私の経験をお話しました。

<山道>  
{質問者}

ありがとうございました。

さっき国分寺の井戸水が、減ったということですが、それを最初に知ったのは三多摩問題調査研究会というので、「野川に清流を」ということで、農工大の本谷先生と渡辺先生が減った原因を調査をしているのですが、昔は、多摩川の国分寺の続きが野川に入っていたわけですね。日立の湧水と一緒に。

これをちゃんと書かれたことですし、それからフォーカスの映像も『武蔵野夫人』ですか、あれにも水が、上水の水がどんどん流れているわけで、国分寺なんか田圃があったんですね。あれみんなね、さっき小倉先生がおっしゃったように田がなくなってみんな住宅になったでしょ。水みちを壊してしまいました。もう玉川上水も水切ったわけで、台地は水がないからみんな流しちゃった。

<山道>

わかりました。先生方のお話しは関係ないとはいえないと思うけど、ここは詳しいことは分からないと、井戸の位置にもよるかと思いますが、要は、水田や用水等から還元されたものが地下水になって移動し、水位維持になるというのは大方の見方として、正しいだろう、こういうことになるだろうと思いますが……。

{質問者}

それで、小倉先生から多摩らいふ21で、湧水、崖線研究会というのを作られて、やっておられるのですが、そこで、多摩川の環境回復を問題にされて、復活させるか安心しているのですが、今も建設省の方も見えておられますので。

<山道>

ほかに会場のかたでいらっしゃいますか。

<新藤>

ご質問に関連して一言だけ付け加えますと、国分寺辺りだと、関東ローム層、いわゆる赤土ですね、あれが10メートル近く厚さがあるわけで、これが非常に重要な役割を持っています。すなわち10メートルの関東ローム層では3年分くらいの雨の量を貯えられます。ところが、市街化が進んでいるところでは、雨水がこのような天然の貯水槽に充分水が貯留されない事態を作っているのです。だから井戸が渴れるのは必然だったのです。このような事態は局部的というのではなく、むしろ武蔵野台地全体がそういう状況にあるというのは、たぶん間違いないといってもよいでしょう。もうひとつはそれに関連する質の問題があります。すなわち地下水の水質も確実に悪くなってきているという現状があるわけで、私も東急財団の助成を受けて、地下水の水質を調べていますが、今心配しているのは、関東ローム層は非常に水を貯める能力がある一方、地下水の浸透速度が非常に遅いため、長年にわたって汚染物質も蓄積されるということです。それらは結局湧水として出てくるわけです。

<山道>

ありがとうございました。

{質問者} 日野や豊田や、黒川の湧水は八王子からくると聞いているのですが、八王子に降った雨は日野に来るまでに何年ぐらいかかるのですか。

<山道> 新藤先生いかがですか。

<新藤> 地下水を経由して日野に来るとすれば、たぶん数10年以上はかかっていると言えます。一方、伏流水として通過してくるとすれば、それでも数年はかかる。深い地下水ともなれば、場合によっては数百年はかかるでしょう。武蔵野台地東部の地下100メートルから150メートルの地下水の年代を以前調べたことがあります。江戸時代にまでさかのぼるといったようなものでした。それ位のスピードです。このように速いのも遅いものもあります。伏流水は割合浅いところなので速く出ます。

{質問者} 程久保川のワンドの建設費用はどれくらいですか。また魚の種類が増えたとのことですが、どうして増えたのでしょうか。

<山道> それらについては2部でやりましょう。

## < 第 2 部 >

浅川勉強会 それでは第二部を始めさせていただきます。山道さんバトンタッチをお願いします。

<山道> それではちょっと遅くなりましたけれど第二部始めます。先程一部の終りに御質問ありましたけれど、高橋さん、高幡の用水組合長さんでいらっしゃる。程久保川の下流の方の工事なんです、これは日野市の施工で大体200万円程掛かっています。

それから魚の種類なんです、君塚先生、如何ですか？

<君塚> まだ2回しか調査していませんですが、新しくなりました。あの中だけで2回で延べ10種類です。詳しくはお手許の日野市で作ってあります素晴らしい資料ですけどワンドと書いてあります。湾処と書いてありますがワンドと読みます。元々語源はオランダ語ですが。

その中の4というところに出ております。具体的な種類については、そちらをご覧ください。それに10種類と書いてございます。

<山道> 有り難うございました。

休憩時間中にいくつか質問が私の机の上に来ているんですが、先程の第一部の関連事項をちょっと整理してお答になって頂こうと思っているんですが...

世田谷の方ですね、下水道の整備が地下水の硝酸性窒素の軽減に効果があるとのお話ですが、疑問を感じている。この駒沢周辺の井戸や区内の湧水の硝酸がかなり高い、ところにより20ppmからあるということで、この下水道整備との関係はどうなのでしょう？

<小島> お答えします。確かにその窒素泥と云いますが、硝酸のものは、我々の排出したものだけではありません。

例えば、武蔵野とか三鷹とか、あの辺は全部地下浸透していた。そういうところでは、それだけ下水が持って行ってくれたら減る理屈ですし、その通りになりました。

三鷹市の水道、杉並の浄水場、それは下水道がゆきわたる前は、10ppmを越えていました。それが、下水道がゆきわたってからは、段々に減って来て、今では7か8まで減りました。ですから、そういうところは効き目がある。だが農業用の肥料から来ているところは勿論減りません。それをたくさん撒いているところは減らないのです。

昔、どうして農業やってたのに大丈夫だったかということ、昔は肥料を今のように使わなかったんですよ。貧しいのでそんなに肥料を使えなかった。そのかわり尿尿を使ったんです。化学肥料というのは少ししか使えなかった。今はふんだんに使うからです。それでどんどん地下に入ってゆく訳です。ですから化学肥料あるいは有機(肥料)でもそうですが、肥料分で増えて行ったところは未だに減りません。もっと増えているところがあるかも知りません。そういう意味で、その汚染源と言いますか、硝酸がどこから来たかということによって減り方はおおいに変わります。

今、田舎の方が逆に高いところがあります。例えば果樹園あるいは野菜畑、又お茶畑の下、そういうところの地下水は10ppmを越えることが珍しくありません。それは今、下水道が一番困っている、頭を痛めている問題です。これの処理法は簡単に無いんです。むしろ下水で取って貰えばまだ処理法があるんですけど水道では取れません、まあ全く不可能ということはありませんが、今の水道料金ではそんな事は出来ません。ですから非常に困難だということです。今は硝酸は薄めるより仕方が無い状態です。

以上で宣しいでしょうか。

<山道>

まとめていくといくつかあるんですが、同時にちょっとお答えいただけるでしょうか？

先程お話があったそうですが、国分寺市の地下水の水質検査データは入手出来るかどうかという質問がありました。 . . . ?

<小島>

それは小倉先生が . . .

<山道>

あっそうですか、小倉先生。

<小倉>

それは先ほど話がつきました。お送りすることになりました。

<山道>

あっそうですか。(笑)

それからですネ。関係あるかどうか判りませんが、ペットボトルの何々名水とか、何とかの湧水とかありますが、あの水は本当に安全なのかという話なんです。

<小島>

それは飲み水の？

<山道>

はい、飲み水です。

<小島>

では、それは私の知る範囲ですから、お答えいたします。

あのペットボトルに入って居るものは大きく分けて二つあります。日本製のは全部殺菌してあります。そう義務づけられているのです。大部分が熱処理ですけれど、熱処理されて居ります。ですからそういう意味ではナチュラルではないと云われれば、ナチュラルではない。

外国のは熱処理してごさいません。そういう意味で、ナチュラルと言えばナチュラルですネ。

なぜ外国と日本はそういう風に違うのかといいますが、日本は一般細菌といって雑菌のことですが、それも、有ってはいけないことになっています。1mlの中に100個以上有ってはいけないという基準がごさいます。水道水もそれを守っている訳ですが、その基準に合わず為にはどうしても殺菌しないと合格しません。

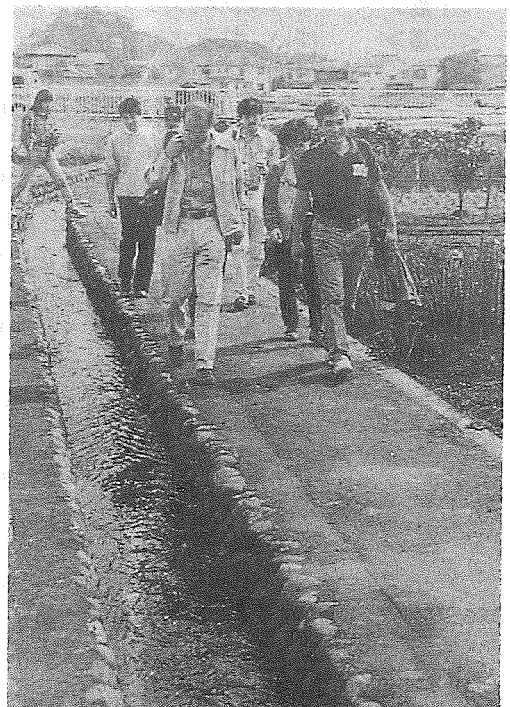
ところが外国にはこういう基準がないんです。大腸菌が無ければ良いということなんです。ここが考え方の違いですネ。外国では大腸菌さえ無ければ良い。非常にまあ合理的といえ合理的です。つまり糞便が入ってなければ良いんだと。雑菌というのは自然界にいっぱいいるんですから、自然の菌はあっても、良いんだという考え方ですネ。現に外国のボトルを調べると1mlの中に何百とか何千とか入っているのがあります。

日本は昔非常に水がきれいだったから、雑菌でもいかにと、雑菌が入っていたら、もう汚染されたんだと、こういう風に考える訳で、水が非常にきれいだったからそういう風な考えが起こったと思うんですネ。水道水も井戸水でも雑菌がいなかった。非常に少なかった。外国では皆汚れているんだから大腸菌さえ無ければよろしいと．．．。日本に入ってくるときに日本がそんな様に厳しい基準を当てはめたら入って来れないボトルもあると思うんですけれど、ここは又、あまりいわない様になっているんですネ。そうしてハネると又、関税障壁だということが問題になるかもしれませんネ。これは黙っている様ですけれど．．．。

どちらが安全かといわれると、まあ、あれを外国の人が皆飲んでいるんですから、そんなに危険なものとは私は思いません。雑菌が少々有るくらいですから、

だが大腸菌はこわいですよ。大腸菌があったらこれはいけません。ですからこれはどちらの製品にも無い事になっています。

じゃあ、ついでにお話しますが、日本の瓶詰めというのはおいしいです。確かにこれは自然の水です。ナチュラルっていうか、日本中に有った水だったんですよ。お便所に使っているのもあの水なんですよ。外国の水はあまりおいしくないけれど、こちらはミネラルが多いんです。だから健康の為と思ったら理屈に合っているわけですね。日本の水は健康の為に飲むという様なものではない様に私は思うんですね。だから良く



日野の水路（左は昔からの土の堤防、右はコンクリートの堤）

ああいう会社の人が来ると私は言うんです。

身体に良いとは言ってもおいしいと言いなさんなど、おいしいと言いたかったら身体に良いと言うな、どちらか一つだと、これはおいしくて身体に良い健康に良い、と言ったらどちらか一つ嘘だ。だから私は一つ言いなさいと、こういつも言いますけれど、...

だから日本の水はミネラルウォーターと言っちゃいけない。ミネラルが特に入ってるわけでもないし、特殊なミネラルが有る訳でもない。まあ普通の水です。昔、我々がどこでも使っていた水です。

だが、そういう水が段々無くなって来たから、昔の水がなつかしいと言う人は牛乳よりも高いお金を払って買うかも判らないですよネ。その懐かしさで飲んでいるようなもんじゃないかなと私は思います。

### <山道>

有り難うございました。それから第二部のテーマに移りたいと思うんですが、聞いて居られる方にとりましては、第一部の水循環とかそこら辺の話はどうも決定打が出なくて判りづらいことがあったかと思うのですが、いくつか質問が来て居りました、その質問と合わせて、ちょっと整理をしてみますと、水に親しもう親しもうと言っているがらどンドンコンクリートを使ったり、掘木を使ったりしているのではないかと。これは本当に水に親しむような事なのか、ひいては、どこかの看板じゃないけど、あの親水階段を作っている脇に、保健所とか教育委員会が、川は危ないから遊ぶの止めましょうといった看板があったりして一体どうすれば良いのかという質問があります。それから浅川の水を豊かにする為にどうすれば良いのか、つまり我々が出来るような話ってというのはどんなことなのか。例えば雨水の浸透などもあるかと思えます。そんな質問もあります。

下水道が整備されれば、本当に川がきれいになるんでしょうかという質問、これは住民の参加とか住民の自主活動というものと関係あるかどうか判りませんが、そういう話ですネ。

又、河川改修の工事が10月～5月位まで集中的にある様ですが、10月や5月はまだ子供が川で遊んでいるので、もう少し期間を短くしてくれないかという話なんかもございます。

これ等の水循環の話の中には、単純に地下水を川に戻してゆこうという事以外に、生きものに対しての配慮とか、又我々が川とあるいは水辺とどう関って行くのか、聞いてゆきながら、良くする為にどうすれば良いのか、その人間と川との交流、循環と申しますか、そういった課題もあるという様なことで一部は整理されたかと思えます。二部は石田さんに司会をバトンタッチ致しますが、あの、立って司会をされるということですけど、我々に出来る事という辺りの話を中心に議論して頂きますけどどうぞ宜しくお願いいたします。

### <石田>

はい、どうも第二部をやります。石田と言います。あのテーマはですネ、水循環や自然環境を保全回復する為、生活の中での役割とは何かとか、或いは市民間の交流、市民と行政との交流の模索はというので先程

あの日野の話で、行政マンと市民が非常にうまくいっているじゃないかと言ったら、そうじゃないんだという話もあったり、そこら辺の話からちょっとお聞きしてみようかなと思っております。

で、日野市の職員の方。あっ、ここにいましたネ（笑）

日野市の職員の方に、あの、内実はともかくどうやったらうまく行くように見せているのかというあたりを聞いてみましょう。

<荻原> 今日日野市の職員として来てないもんですから。一応あの一（日野市で）働いて居ります。

で、我々職員はまず謙虚にならなけりゃならないということで仕事をやっているんで、まず住民の方の言うことを謙虚に聞きますと、不思議なもので、内部では、結構生意気だというような声が出て参ります。で、住民の方、勿論私も日野市の住民なんですけれど今ある情報をきちんと正確に伝える。それから、相手の要求もきちんと受入れる。受入れるというより、きちんと聞く。その中で話を、これは出来る、これは出来ないという様にきちんとしながら地道に話を続けてゆくのが必要じゃないかと思えます。ですからお蔭様で、今日多くの先生方に御集まり頂いて、日野市の良いところ、又色々な課題などを御指摘頂いたと思うんですけども、やはり、こういう水の豊かな町を、少しずつですけど市民の方々も自分達でこの町を創ってゆかなければならないと云う意識が、少しずつ出て来ているし、行政としては、あの市の職員として出来るだけ謙虚に話を聞くと、... えーかなり言いたいことを言う市民も居ますけど、頭に来た時は、グッとまずこらえて話を聞いてみる。で、わりと私自身市民の方々から色々批判を頂いたり、話をされる、中には無茶苦茶な事もありますけれども、あまり腹が立たないですネ。それよりもどちらかという、我々職員の中で本来こうすれば出来たじゃないか、もっと一步踏み出しておけば、こんなものよりもっと良くなったというものが残ってしまった方が、腹が立つと、そんなところがあります。

まだまだ、そんなところでは勉強不足のところがあるかと思えますけど、とにかく、多くの方の声を聞いて、それを活かしてゆけるような姿勢をとりたいと思っていますところでは。

<石田> はい。行政の方々の非常にうれしい御意見でございました。出る杭は打たれる。出過ぎた杭は飛ばされることもあります（笑）

頑張ってやって下さい。それで先程までいらして展示についての発表をしてくれた中学生が、もう帰っちゃったんですが、

意識が変わって来たという話で、蓮池さん、やっぱり教育という面でどういう風に取り組もうかという視点でお話をどうぞ。

<蓮池> ええ、その前に先程石田さんの方からもっともっと子供が川に親しむ、防衛的にならないでどんどん出す、その様なことが必要だ。というご意見、全くその通りだと思いますが、どうしても学校では、ある意味で危険が予測されると子供達にそこへ行くのは止めましょうということ



になる、あるいはあまりにも川の水が汚染されていると、近寄らないようにと言う、この指導はどうしてもして置かなければならない。実はそれを止めて指導を全くしないと、何か事故があった時の責任は全部学校に来るとのことですネ。

これはやはり地域社会の、そして親の意識というものを変えていかないと、この形というものは、いつ迄経っても変わらないのかなという風に思うわけですが、さて、学校週5日制との関連で、先程、浅川川下り、あのようなことは是非地域の方々、そしてお父さんお母さんが一緒になって川に親しみ、自然に親しむということを多くやって頂ければ良いのではないかと考えています、やはりこれからは教育は学校教育だけではダメだということですね、限界がある。それぞれの家庭は家庭、地域は地域の役割と責任、そう云うものを総合して21世紀に生きる子供を育てていかなければならない。その場合一番大事なことは地域の中で学校教育では取り上げられない様な事柄、例えば先程の様なアドベンチャー的なものですネ。こういったものはお父さんと子供、地域の人々とのお互いの約束なり、責任でどんどん進めて頂ければと思っています。で、何としてでもですネ、子供の直接体験をおおいに広げてゆきたいと.....。

学校でも御存知のように生活科が、新しい教科として誕生し、飼育栽培、その様なことをどんどん進められて居ります。これは従来の教室の中だけでの勉強と違ってきていることは、お子さんをお持ちのお父さんお母さんは授業参観等で御存知だと思います。先生がああですよ、こうですよというように知識を教えるということよりも、もっともっと子供が直接、創作をしたり、或はモノに触れたりする中から感動する心や、これをどう工夫して発展させようかという子供の主体的な思考力を育ててゆく、それが教えるということをやや後に置いて、育てることへと進めていかなければならないというように今、教育が変わって来ているんですね。

子供のゆとりのある土曜、日曜、休日となった時間に一緒になって色々な体験をさせて頂ける。それが21世紀の、まさに生命の時代、心の時代に生きる新たな思考力、創造的な、主体的な人間らしい生き方ができる、そういう力がついてゆくのではないかと考えております。そういう意味ですネ、川とのつながりということを大いに地域の方、お父さん方の力を尚一層お借りしたいと思っています。

<石田> はい有難うございました、はい積極的に手を挙げて頂くと私が飛んで行く。(笑)

<桜井> 今の先生のお話にまさにぴったりの非常に良い例があるんです。

それは愛知県の安城市のおりん小学校がありまして、そこが今のお話にありました生活科の授業を利用して一年生... まあ幼稚園の終りから一年生あたりは人格形成ができる非常に重要な時期だということですが、その一年生の生活科の授業で矢作川の河原丁度その万願寺

歩道橋の下の左岸の河原、あんな感じのところでは東海道新幹線のすぐ横ですけれど、そこに連れ出しまして、自由に遊ばせ、回を重ねる毎に子供がどういう風に変ったかということ先生が記録して発表した報告があります。とにかく今の子供は、先程もお話ありました様に創造力とか或は協調性とか、思いやりとか、子供達同士で、一緒になって自然環境豊かなところで遊ぶことによって培われるものが、そういうチャンスが無い為人間として大切な基礎的なものの発育が非常に欠けていると言われますけども、今の授業が回を重ねる毎に、堤防の芝すべりやオナモミの実あそびのようなそこにあるものをそのまま使ってやる遊びはあまり発展もしなかったけれども、最初の時にはあまり子供達がしなかった探検遊びですね。河原の草の中を分け入って城を作ったり遊びの小屋を作ったりという様な、そういう遊びは、二回、三回とする毎にどんどん発展して、それをしかも一人づつでなく、グループでやる。で、その間に色々な遊びの工夫が出来たと云う報告があります。その中で特に注目されるのは、クラスの中にM君という非常に内向的で、お父さんお母さんがどちらも勤めて居り、帰っていつも一人だということで、創造性とかそれから友達と話をする、それからものごとを絵日記や何かで記録する、そういうことがあまりできなかった、非常に内向的な遅れた子供が居たんだそうですが、その河原の遊びを通して友達と積極的に付き合ったり遊びを工夫したり、それから、やった事をちゃんと絵や文に書けるようになった、そういう報告があります。まあ、たまたまM君はそういう事が引き出される時期に、この河原遊びに、遭遇したと思うんですが、万願寺歩道橋の下のああいう河原など、まさにそういう事に活用するのに非常に格好な場所じゃないかと思うんです。で、あそこの場所のそばに湧水が堤防沿いに流れていますね。ああいうものをちょっと工夫して、中に小川なりあるいは水溜まりなり等を作ったり、あの草むらの整備を多少しますと、子供たちの遊び場として非常に良い場所になるのではないかと、そういう感じをあつ橋を渡りながら思いました。

<石田>

はい、二点あると思うんですね。一つは、安全。さっき管理の話蓮池さんの方でされました。日本では何か起こるとみんな学校の責任だということで。ところが、例えばイギリスなんかに行くとなんか無くてここからは自分の責任だよというように書いているそうですね。だから管理の問題だと意識の問題だと思うんですけども、意識の問題点で情操教育みたいな或いはそういうとこまで親が立ち入っていますか、はい、はい。

<富士>

私、日野市内の中学校で何校か20数年間理科を教えてきたんですけども、今の桜井先生と蓮池先生のお話だったんですが、蓮池先生のおっしゃる事本当にもっともなんですけど建て前としてだと僕思うんですが、今お二人の先生どちらも小学校のことであるんですが、中学校の事申し上げますと、まだ小学校までは良いと思うんですが、中学校になると、もう小学校でそういう事好きだった子供の芽が殆ど潰されちゃうと

いう傾向があるんじゃないかと思うんですよね。で、私の経験でも幾つもの例があります。中学に入ってきた一年生の頃は結構野山をほっつき歩いたり、川の中で水がキミみたいなことをやったりしている子供が、中学になると殆どもうそういう事をやらなくなっちゃうんです。で、成長段階からいってそうなのかそこは判りませんが、でも心の中では話してみるとこんなことずっとやっていきたいという子が何人かいるんです。だけどそれを伸ばしてやる条件が中学校には、なんかあまりないような気がします。で、私の受け持っていたある子の例ですが、非常にその生き物の事が好きだった子がいるんですが、たまたま中学校に上がったならそういう機会が環境がなくなって、で、ちょっと非行に走りかかった子がいるんです。で、その子が二年生になってたまたま私のクラスになり、私が家庭訪問に行ったら、非常にいろんな事に詳しい。自分の飼っているものを見せてくれたりして本当に良く日野市内の自然を歩いている子なんです。で、そうしたらみるみる目が輝いて非行もピタリと止んだのです。けど残念ながらその子、途中で他県に転校してしまっただけです。中学校に入りますと一つはそういう余裕が無くなるって言うんですか、二つ理由があると思うんです。一つは部活があまりそういう自然とかそういうのが無いんですよ。だから大抵スポーツ、運動部の方に入っちゃうんです。今、男子ですとサッカーですとか、非常に人気があります。それからもう一つどうしても塾に行ったりして受験勉強そういうのがやっぱりどうしても増えてくる。まあその辺で、あとは適当な父親なんかのそれを伸ばしてやる指導者が少ない。そういう事で、中学校の事も小学校以上考えなければいけないんじゃないかと思えます。今日見ていると、さっき中学生七生中の方は小学校時代からの授業の展示の方で来ていらっしゃるようですし、二中の方の生徒は私の教え子なんですけれども、あの二中は学校の中でちょっと水族館を作っているんです。その辺のところ、今私が二中から去ってしまったん



日野市水路清流課の職員から説明を聞く

でその子供が中心になってやっているんですけど、できたら中学校でもそういう事を私なんかももっとやらなければならぬんですけども、まあそういう事やってみたいなと思っています。以上。

<石田> ありがとうございます。親子一緒に遊んでみると随分変わってくるだろうと思うんですね。あの一緒に表にこう、先程川下りの話なんかしましたけど、どうでしょう親として。そういう付き合い方してますか？

<中野> なるべくしたいと思って居ります。うちはこの用水の裏です。学校の裏手ですが今、向島用水からあの雑木林でずっとふれあい橋に行くところがとても子供にとって良い遊び場でした。ところが相続で梅林の子供たちの探検の場所になっていた所が駐車場になる事になりまして広い広い駐車場が出来ました。で、辛うじて雑木林が残ってますが、うちにはその雑木林から狸が来たり夜は虫の音がうるさいくらいよく聞こえる所で、子供たちはその自然を楽しんで居りますが、今その駐車場になってしまって様子が変わった場合に学校にはカワセミが来るようになりましたけれども、そういう鳥たちが来なくなってしまうんじゃないか、狸はどこに行っちゃうのか色々心配な事が沢山あります。

<石田> はい ありがとうございます。あの一緒に子供と付き合いながら今みたいな相続税のお話まで問題になりましたが、川を汚してきたのも僕等大人たちがやってきたと思っているのですが、最近アメニティという言葉が大分浸透していると思いますけれど、セキュリティという安全の話ですね、例えば自分たちでどうしてゆくのかという事が・・・はい大熊先生。

<大熊> う〜ん今一寸聞いてて思うのは今の我々の近代的な生活というのは、他人というか色々な所に依存して生活が成り立っていると思うんですね。例えば、この電気だって多分新潟から来ている電気だと思います。(笑)

それから浅川の水も利根川から来ているという事ですね。ここだけでは絶対成立しない生活をやっていて全て依存していて、川に落ちて死んだらそれは柵を作らなかった人の責任だとか、全部他人に転嫁して今の我々の生活が成り立っているんじゃないかっていう気がするんです。要は自分で自分の責任を取るという体制がこの30年間か40年間のうちで無くなってしまっている。ですから治水の安全を建設省に全部任せきりというか、逆に言えば建設省は全部欲しかったという気もするんですけれども・・・。(笑)

建設省は川に関しては独占企業ですからね。独占してやってきて、それを私はこれから少し住民に返すべきだという風に思っています。逆に住民の皆さんも絶対安全というのを求めては無理だと思うのです。したがって、ある程度水害に遭う事を覚悟して生活を作っていくべきだと思って居ります。特に川の近くに住んでいる人は、いつ堤防が壊れるかという事をやっぱりどこかで必ず考えて、そういう事が起きたときはどうするのか、水防活動をやるのかですね。そういう体制を作っていく限り、建設省に全部守って下さいと言っていけば、やはり川をかなり痛めつけるような事をしなければならないと思います。この前九州に行ってきたんですけども、あの甲突川という川が鹿児島市の街地を分

断というか真ん中を流れていて、これが溢れて大水害になったわけなんですけれど、これが150年間全く被害が無くて150年振りくらいに氾濫したんです。かつてはその右側に田圃があってそこに溢れるように作ってあったんですね。でも、その両岸が全部市街地化されて繁華街になっているわけで、溢れた場合は当然大被害になるのは当たり前なんですけれども、溢れることを全く考えないで生活して居りますから被害が大きくなったわけなんです。溢れることを考えて地下室の利用の仕様なんか考えておけば随分被害が少なかったらと思うんです。先程もちょっと言いましたけれど、浅川の場合もここまで人間が住んでしまってくるとそうした対策はなかなか難しいと思うんですけれどね。もう一つは治水安全度のレベルというものを住民の皆さんでよく考えて、それで決めてみたらどうかかなあと思います。

私の持論は、まあ床下浸水ぐらいなら20~30年に一辺あったとしてもそれは我慢しなさいよと、いう前提で治水計画を立てればだいぶ楽になるんじゃないかなあという気がします。まあ安全はやはり自分が責任を持って確保して行くべきではないかという事でちょっと。

<石田>

えー、アメニティもセキュリティも市民の手に取り戻そうといったところですがあの行政は市民の信託を得て仕事をしているわけですよね、小林さん。(笑)

<小林>

あの今あの大熊先生の話に若干補足いたします、セキュリティという事で今先生の方から洪水に対する安全性という事をおっしゃった訳です。で、それでももう一つ事故ですね、例えば子供さんが川に落ちるとか、二つあると思うんです。先ずあの洪水の事で申し上げますと、今この浅川は将来的には我々は150年に一回の洪水がきても大丈夫なようにする。そういう考え方を持っています。本当に150年に一回という洪水を想定してそれに対して丈夫な川岸にしようと言いますと、堤防をもっと高くしなきゃならない。或いは場合によっては川底を掘る必要があります。川底を掘ると言いますと、先程一部の方で私も申しましたけれど、いわゆるドタンというのがほぼ全面的に出てきます。そうしますと、川の底が一面ドタンという丁度三面張りのような形になってしまいます。で、本当にそういった川の姿にしまって1/150のセキュリティを確保すべきなのか、それが実は我々自身も悩んでいるところなのです。勿論我々行政がある一定の権限を持って居りますし、それを裏返せばその責任を持っているわけです。最後のジャッチをこれはやはり行政側の責任かなという気がして居ります。と申しますのはジャッチの部分で住民がそこへこられますとどうしても責任問題というのがついて参りますので、私の個人的な考え方ではありますが、ジャッチは行政が行うとして、その前段で地域全体としてどういう選択をするのか、そのところを我々行政側が充分な情報を出した上で、地域との議論を踏まえて、行政自身も考えていく必要がこれから益々大事になっていと思います。それから二つ目のセキュリティの、その事故の事ですが、我々は

川の管理の中で、是非川に来て遊んで下さいという事を言うわけですけども、実際はこの子供さん小さな子供さんの事故というのがいつも頭の中にあります。私は実際に現地に行ったことがないので本当かどうか知りませんが、イタリアのあの水の都ベニスというのがありますが、それはもう街中に水路が縦横に走っていて、その水路の横にすぐ道路がありまして、そこには柵が一切無いんだそうです。つまり落ちるか落ちないかのその防備は、その市民一人一人の責任にある、こういう意識、社会的な意識というのが浸透しているわけで、本当に転落という事故を一切無くそうと思えば、それこそ柵を作るということもやってやれない事はないのですが、そういった形で町と河川とを分断する、それは是非避けたいと思って居ります。そうしますと又、転落という問題事故という問題が起きてきますが、それは例え国側が裁判で負けても、私は個人的には負けても良いと思っっているのですが、例え裁判で負けても柵は作らないというのが私の考えなのですが、是非何ていうのですか社会的なコンセンサス、意識づくり、大きく教育に期待する面もあるのですが、それは又我々行政と地域との対話の中で新しい方法が出てくれば良いなと思っっているんです。

<石田>

はい ありがとうございます。あの実に前向きなご回答だったと思うのですがよく住民とですね行政が対決してという話がよく出てきますよね。その中で情報量は行政が一番持っている。さっき言ったドタンの話なんかでも情報を市民に開放していない。そんな部分があるだろうと思うんですね。又、市民の側でも毎日のように現場見ているんだから一番よく知っているんですね。で、その情報もどうせ行政マンは嘘を言うんだからと思っっている。行政の方も正確には情報を与えてない部分があると思うんですがどうですか？(笑)

<新藤>

只今の発言について間違いがあるんで指摘させていただきます。さっきドタンと云われておりましたが、まずこの用語は地質学では正式な言葉ではないんです。これは粘土や泥の固まった様なものですが、これが川底に一面にあるというのは誤りで、実際に多摩川流域を調べてみますとそういう地層が露出しているところも確かにありますが、多摩川の日野橋鉄橋付近とか、それから浅川で言うと八王子の暁橋近辺等では礫層が出ている所もありいわゆるドタンと言っている地層と互層状態になっています。したがって川底を掘るとドタン層ばかり出てくるというのは訂正した方がよい。

<石田>

前の方でやり取り始まりましたね。実はこういうのが面白いんですけどね。

{質問者}

あの、ではすみません。住民と行政との合意というか情報の話をしたのですがどうですか？

はい、えーと私はあの審議員の方のお仕事をして居りますけれど、市民運動の方はボランティアなんですけれど、今日の話を持って居りましてどうも建て前の方をおっしゃっている方が多いんじゃないかと思いま

すが、本当にやはり川は三面張りではなく150年に1回の洪水に備えるのではなく子供が楽しめる小さいときから自然に親しむ、先程からあの水に住んでいる魚、虫それにはどんな風に川を作ったら良いんだろうという先程から話が出ているんですから、そういう風に話を持っていく。ところがなかなか行政と市民というのは同じテーブルについて話をするというのはなかなか出来ませんが、やはり住民から声をよく聞く。先程の日野市の職員の方の様に。(拍手)又、その場合又ちょっと意見が過ぎたらこっちも引こう、だけれどもやはりこれは通して頂けないだろうか、親もやはり責任を持って自分の子供を育ててくれないといけない。これは勿論常識なんですけれども、責任を転嫁するのではなく本当に子供の事を考えたらやはり三面張りの工事は私は反対です。そういう事で行政側の人たちはよく考えて頂き、又市民は声を大きく持ってやはりやっていきたいという気持ちで居ります。

<石田>

はい ありがとうございます。ただ、えー市民の方が今までで、ポイントだけで動いていたのが、もうちょっと広域で見た方が良いという事があるかと思うんですが。小倉先生、どうですか？広域でものを見る、流域で考える。例えば川下りなんか八王子と日野でやっている訳ですが浅川はそこしかない訳ですが。

<小倉>

えーですから先程水の例で言いましたけれども、水は地球上で廻っているわけですね。ですからそういう地球化学的な見方でものは循環をしていくんだと、そういう考え方でやっぱり総合的に見ていかなければいけないんですね。ですから行政区域を越えた形でものの自然の流れに沿って眺めていくという事で、それが一番大切なんですね。それから今合意形成の事が盛んに出てきましたけれども、ちょっと良いですか、多摩らいふの話も先程ちょっと出たので。今、多摩らいふ21というのが始まってまして、VOICE93というようなイベントの他に真面目な研究会がありましてね、湧水、崖線など多摩にある水と緑を守るために市民、行政それぞれの立場からどういう事をやれば良いかという事を研究をしてきたんです。けれどもその際にいろいろ役に立ったのはあの、原則。三つの原則七つのルールというのを決めまして。例えば自由な発言、徹底した議論、合意形成という三つの原則に則って徹底的な議論が出来た。そういうテーブルづくりができたと思うんですね。ですから一つのテーブルで色々な立場の違う人が議論できる場ができたので、それを参考にしてそれぞれ市民の立場、行政の立場から一緒になって本当の水の循環の事を広域的に考えていくと、そういう事がこれから求められるのではないかと思います。

<石田>

え……

<蓮池>

えー今のお話と全然違うんですが、実は別の会合が5時からありまして、大変申し訳ないんですが失礼しますので最後に、先程申しました様に学校教育が大きく変わっていきこうとしている時に一番大事なものは、昔からありました「良く学び良く遊び」ということをもう一度、遊びの人

間形成における役割というものを、価値というものを大事にしていきたい。遊びながら考え遊びながら学んでいくという、その子供のゆとり、時間というものをですね、是非つくりだして頂いてご支援頂きたい。そして、子供の遊びが地域における山との関係或いは川との関係の中くりひろげられ、グループになって遊んでいる姿がみられるよう、その教育的な意味というものをご理解頂ければ、ご支援頂ければありがたいと願っています。その間に先程出ました中学校の生徒の問題もですね、単に受験に強い受験受験という事ではなく、本当に人間形成における大事な自然とのふれあいを子供たちに与えるように、この会を通しながらおおいにご協力頂ければと思って居ります。大変申し訳ないのですが、次の会がありますのでここで失礼させて頂くお詫びと同時にお願い申し上げます。大変失礼致しました。

<石田> はい ありがとうございます。合意形成の話を続けましょう。先程司会をされていて自分の自由な発言ができなかった山道さん、合意形成の場の設定はどうしましょう。

<山道> はぁ、場の設立ですか？

<石田> 場の設定はどうやって作っていったら良いでしょうね。

<山道> あの合意形成ができるかどうかは別としましても、合意形成を目指すべく良い時期ではないかなとは思うんです。今まではどうも、行政、住民という常にこの二極対立みたいな話で、すべて建設省が悪いんだとかですね。いやぁ住民に話したってしょうがないっていつとか色々あったんだと思うんですがね。

あのそれはこういう会を続けながら、お互いの情報を少しづつ知り合っていくということがまず大事だろうと思うんです。その中で住民にとって大事な役割というのは先程、石田さんがちらっとおっしゃったけど、毎日浅川を見ておられる方が居る訳ですから、浅川の状況とか瀬とか淵の変わり方とか水の出具合なんていうのは地元の方が一番詳しいんだと思うんですネ。

で、肝心な事はそれを対役所なら役所がかまわないんですが説得出来るぐらいの科学性を持つぐらいの情報としてストックをしてゆく姿勢が必要だろうと思うんです。



潤徳小学校裏の向島用水を見学



ですから、そこら辺をもう少しプラスアルファの例えばデータの積み上げや情報への積み上げみたいなものに、もう一工夫されると、ちゃんとその資料を元にして、例えば悪い表現で言えばチャンバラが出来るんだろうという風に思う訳です。ですからそこら辺でそれぞれ勉強して、そういう情報を積み上げてゆくということ、それから同時にその積み上げたものを発信してゆく、例えば新旧住民のその意識の違いみたいな話ですとか年齢差にも違いがあるというのを少し判りやすい形で交流してゆく。そういう積み重ねが必要だと思うんです。

そうして初めて、自分達の要求というものが、具体的に工事だとか設計だとかになった時に、反映されてゆくだろうという気がしますので、いきなり合意形成と云う話でテーブル作れば済むという話じゃないだろうと思うんです。ですから一番住民の持つ強みという、いつも見ているということと常にそこにずっと長い間張り付いているということの、時間だろうと。役人さんは二年に一回ぐらい代って行きますので、基本的なその川に対する情報一つ持てない訳です。ですからいずれはこの多分住民の方にこういうデータは無いかと聞いてくる様な状況が生まれて来るんじゃないかと思えます、多分それは十年か二十年かかるんじゃないかと思うんですけれども、そういうスタンスでやってく方が自ずと色々な問題が見えてくるだろうし、議論しなけりゃいかん課題っていうのも鮮明になってゆくだろうと思うんです。ですから、いきなりテーブルを作るんじゃなくて、その為のステップっていうものを、十分に理解をして、プログラムを作ってゆく、そういう活動をやりたいと思う訳です。

<石田>  
<渡部>

はい

飛び入りの話題提供という形になるかも知れないけれど、今合意形成の場の設定の話の中で、私は河川と水路の未来像をどう位置付けるかという点が今、問われているんじゃないかと思えます。その合意形成を得る為にマスタープランを作ってゆく必要があるでしょう。水環境、水循環システム、親水空間と云った様なアメニティあるいはセキュリティを重視した未来像を今作らなければ、日野の持っている水環境の特性は失われてしまうと心配しています。さきほど、日野の水路を丹念に五年ほど前から調べたと申しましたが、一言で言いますと、これから約十年もたつと、永年にわたって親水空間を提供してくれたこれらの水路網は半減するだろうと思えます。今水田になっているところは宅地として盛んに整備されて、現存している水路は春の小川として親しまれている非常に魅力的な水辺が殆ど無くなってしまおうという状況が進んでいます。この様な世論が盛り上がった時に、これ等の水路はこうすれば守れるのだ、水路の水質はこうすれば過去の川魚達が飛び跳ねていたような、ふる里の川にできるという具体的計画が必要です。このことを今取り組まなければ行政関係者や住民の合意形成は得られないのではないかと思います。そういった面で私はマスタープランをこれから皆さん方と共に

作ってゆくというプロセス中に合意形成をし、様々なマイナス要因を取り払ってゆく、そういう必要性があるんじゃないかということを、私は申し上げたいと思います。

<新藤> ちょっとよいですか？

<石田> はいどうぞ。

<新藤> 水循環という話で大事な点を落としているんじゃないかということで気になっていることがあります。すなわち、水は物質の運搬者でもあるという点です。皆さんが家庭から排出するものの中には色々なものが溶けてたり、或は溶けてないまでも浮かんでいる訳です。それらが水とともに移動してゆく訳ですから、その先を見ることも重要だと思うんです。今までの水をめぐる環境問題というと、向こうから、こちらに向かって来るという見方をしてくているんじゃないかと思うんです。しかし、自分からスタートしたものは水と共に先どういう風になっているのかという事に対しても、目を向けるべきだと思うんです。例えば地下水が汚染してる。安心して飲める水が全国的にどんどん少なくなっているという事がニュースになっていますが、この中には住民一人一人責任を負うべき点が多いといえます。例えばトリクロロエチレン等の物質はそれはハイテク産業だけじゃなくてクリーニング店からも出るし、それからガソリンスタンドからも出るし、中に殺虫剤にも入っています。そういうのを我々が知らないで使って居ります、あの中に入っている量は少ないようですがトータルとしては相当な量になります。その先がどうなっているかという事を皆さん考えたことがあるでしょうか。先程から行政に対しての注文がいろいろ述べられましたが、我々にも責任の一端があるという意識が必要です。水に流すという言葉がありますが、あれは都合が悪いものは皆、水に流したら、自然が解決してくれるという、自然に対する甘えの一つの表れではないかと思います。私は地下水汚染の問題をやって非常に気になっているのはそこなんです。家庭から出る生活雑排水がこの先どうなっているんだろうか、どのような経路で流域の外に出て行くんだろうかということを各家庭で子供と共に考えてみる事が、これから環境教育上必要になってくるんじゃないかと思うんです。これらの問題に関心を持つことが、結果として大きな問題の解決っていうか糸口になるのではないかという風に思っています。

<石田> はい、有難うございます。

はい、今行きますよ、情報がなかなかアノ市民には伝わらないところで専門家の役目はあると思うんですネ、情報を如何にして伝えるかという通訳者として。

{質問者} 私あの東京都下水道局に勤めて居りまして水質管理の仕事をして居ります。

で、今朝ほど程久保川の改修工事を見に行った時に、日野市の方が、東京都がこんな設計をして工事をしてというんで、都に対して耳の痛い事をおっしゃってまして、似たようなことで世田谷の母の家のそばで六

郷用水というのがあるんですが、そこが大田区と世田谷区の境で改修工事の仕方がまるっきり違うんですね。コンクリートでザーっとなっている一面と、丸い石をこう積み重ねると、やはり行政区の枠を取り払うというか、そういうのは仲々大変だなと思います。で下水道の方はですね、今年8月の末に台風11号で大手町の方で水が流れ、お堀の水が溢れてあちこちで、確か大手町で78mm降ったんですね。あれが50mmを超えてたから良かったって胸をなでおろした職員がいっぱい居ると思うんです。

東京都下水道局は時間あたり50mmの雨に対応する為に今何とかという段階ですので、で、まあうちの責任は少し免れていると思ってる人も居るかもしれませんが、まあ下水道も流してしまえば下水処理場は何でもきれいにする訳ではありませんし、能力もありませんし、これとこれは除れるけど、これとこれは除れないというものがありますし、そして多摩川の方から考えると、流域にある処理場は、下水処理水として川へ、窒素か燐を流してる、それは浅川と同じ様に多摩川の汚濁源の一つだろうって言われ方を水道局や環境保全局の人達に言われます。今日たまたま通って来ました浅川の対岸に日野高校の向うに昨年浅川処理場というのが稼働していて、日野の上流部の水が流れる、八王子処理場っていうのもやはり去年の11月に通水しているんですけど、その処理場二つとも分流式ですので汚水だけが処理場に流れてゆく事になっています。

そうしますと、普通の雨水等も流れる合流式よりは、維持管理する者にとっては難しいんですけども、雨水は雨水管を通してそれぞれ川へ流れることになっています。で先程御挨拶の時に助役さんが、来年度から雨水浸透柵の予算を取ってという様なお話がありましたから、マア、どこの御家庭にもという訳にはゆかないと思いますけど、わざわざ捨てなくても良いきれいな水は地下へ涵養する地下水へ戻すという方法が採れるんでしたら採って頂きたいなと思います。

で合流式の処理場が出来ると雨が降った時に水を処理しないで流すから、却って川を汚すという様にこう言われる事もありますけれども、今はかなり処理能力は余裕を持って色んなことをやっていますけど、やはりおっかない事もありますので、先程の合成洗剤のお話じゃありませんですけど、あの一余分なものは流さない、油は流さないとか、ちょっと一年間二年間御家庭のお台所、お風呂場、お洗濯の時にやって頂けると、そのあと引き受ける者が、少しはきれいな水を作る事が出来るかと思えます。

<石田> はい、有難うございました。下水道も万能じゃないというお話だと思いますが。

あの、桜井先生、ちょっと話は逸れますが、ちょっと早めにお帰りになるということなので、

<桜井> えー私は、今の家を出てから今日で五日目なので、ポツポツ帰りたい

りましたが、せっかくですから今日見せて頂きましたが、程久保川河口の人工ワンドの事でちょっと具体的な提案をして失礼させて頂きたい思います。

先ず、一つは、あの川は人には非常にすばらしいと思うのですが、更にすばらしくして魚を住みやすくする為に、あるいは景観的にも良くする為に、是非あの水路の特に水衝部のあたりに、水辺に生えていておかしくない、まあ、柳、ハンノキみたいなもんだと思うんですが、特に柳が良いと思います。そういうものを植栽して頂けるとよいと思います。細かいことは省略します。

それからもう一つ、あそこにもぶつかって来る浅川の方の本流があの人工の湾曲部を作りましたすぐ上流の右岸にぶつかって居りまして、どうもあのあそこのところが段々侵食しそうな感じがします。で、前はあそこに本流がぶつかって無かったそうですが、出来れば合流点の三角州といますか中州、あれがもっと大きくなって、そこにあの湾曲部を出た水が更に流れて、先程挙げました様な事で利用できると良いと思います。浅川の今申上げました部分に水制を作るなり、それからあの流路を昔の様に、左岸の方に振り向けるような河床の掘削の様な事をして、あそこを今よりも瘦せさせない様に、出来ればもっと太るように、その様な対策もして頂ければという様な感じを受けるわけで、そう提案させて頂きます。

<石田>

有難うございました。ああいう提案をして頂くというのは、次から日野の市民だけじゃないと思うんですが、あの集まっていらっしゃる方が、じゃあ次にはこうしたら良いんじゃないとか、やはりあのある程度、情報が見えていても市民には、仲々判らないで、専門家というのは、それをこう両方読み取って或は、咀嚼してですね、伝えてゆく、翻訳家の役目もあるんだろうと思います。

これで最後になりますので、皆さん一人ずつこれからに向けた提案をして頂きたいと思います。大熊先生。(笑)

あの日野のワンド造りも含めて、日野は小さな地球ですというのが、はいテーマということですから。はい、桜井先生どうも有難うございました。

<大熊>

ここで、桜井先生が帰っちゃうとちょっと言い難くなっちゃうんですけど(笑)

うーん先程のところなんですけれども、地図や現地などから見てやっぱりあの流れの方が自然な流れなのかも知れません。逆に左に振ると多摩川の流れの本流にぶつかる時に直角にぶつかるような形になるんですよ、だからその辺ちょっと難しいかなーという気もするんです。

あれ以上浸食をさせないような簡単な方法があるだろうと思いますが、流れはどうなんかなァー、もう一度航空写真やなんかを見て判断する必要がありますけど...

まあ建設省の専門家があそこにおられますから(笑)

(桜井先生、出口へ)

是非提案としては、先程、山道さんが言っていたように、そこに住んでる方が一番情報を持つ筈だということですが、現実には持っていないのではないかと思います。はっきり言って、橋脚を造ったら水がどっちに流れて、どこが浸食されたかという様なことをずーっと蓄積を持っておられれば、それは大したものだと思います。川の観察をし続けて建設省を抜く情報を積み重ねられることを期待致します。一方、建設省とか、それから県と、ここは県ではない、都ですネ、とかやはり情報は出来るだけ公開すると同時に住民の意見をくみあげるべきだと思います。しかし、はっきり申上げてまだ住民の意見を吸い取る場所がないですよネ、私自身、例えば信濃川の改修工事に意見があったとしても言いに行く場所が無いですよネ。私は住民の意見を聞く制度を早速に作るべきだろうと思います。そこで、河川法の中で、とても無理なのかも知れませんが、今、治水という言葉と利水という言葉はたくさんあるんですけど、環境という言葉はございません。環境という言葉を先ず河川法の中に入れる必要があると思うんです。そして更に住民参加というものをとり込んでいく、そういう法体系をやっぱり作っていかねばならないんじゃないかと思います。

まあ、それはおいそれと出来ませんから、住民側で情報をしっかりと蓄積してゆくより仕方ないだろうという風に思います。

<石田>

はい、有難うございました。小倉先生どうぞ

<小倉>

えーと私も大学に居りますけれど、出来るだけ大学で得られた知識を判り易い形で、翻訳をして行きたいとこれからも思って居ります。ですから、市民の方も色々な現象を掴んで居られますので、それを科学的な目で見られるように一緒に学習をし、勉強をして頂きたいと思って居ります。その為のお手伝いはこれからもしてゆきたいと思って居ります。

それから私は日野市の市民なので、日野市の行政同士の、最初に意見が出ましたけれどテーブルづくり、話し合いの場づくりですネ、それが是非必要だろうと思います。例えばユニークな水路清流課がありますけど、ここでは多分水質等の測定はやっていないんですよ。これは別の課なんです。だから環境を全体として捉らえる、例えば環境保全課を作り、その中で水路の整備を行うし、水質の測定や改善、更に水だけではなくて緑、それからさらに大気の事まで扱う。日野市の環境をどう眺めて行ったら良いのか、そういう形の行政の課、新しいシステムを作って頂きたい。市民の方々は非常に情報を持っているし、学習をして居られますので、市民の意見を是非採り入れるような形でですネ、新しい日野の環境を守ってゆくというシステムを是非作って頂きたいと思います。

<石田>

はい、有難うございました。どうぞ

<北村>

私も色々言いたいことはいっぱいあって、一つは子供の安全とか川での遊びについては、小林さんおっしゃったような学校からの規制はとにかく遊ばせるということですね。

学校からパイプを作ってあげたいという事、蓮池先生が居られないところでなってしまうんですが（笑）、子供に時間を返せ、まあ週休2日をもっと徹底して、塾もどこもありますけどネ、やはり子供が忙し過ぎる。中学へ行ったら本当に忙しくて遊んでるひまないんですよ、そういう風になっている。まあ大人になってからもそんなこと馬鹿馬鹿しいと思うことあるかも知れませんが、私生活まであまり関与しない事が良いかも知れません。学校は責任とれないんですからどうぞ。

それから2番目にですネ、市民の意見とか合意形成のことなんですけども、市民は誰かという様な問題、今、行政内部の合意形成という話があるんですが、市民内部での合意形成がハッキリ言ってまだ無いんです。ですからコンクリートの護岸にしてくれと言う人と、自然の護岸にしてくれと言う人と、目茶苦茶で色んな人が居る。そんな意見を行政が、先程おっしゃった様にですネ、謙虚に受け賜ると頭の中がクルクルパーでどうしようもなくなるんですよ、本当は住民内部でもっと話し合わなければいけないと思います。勿論行政内部でもそうです。そういう点では住民と行政となった時に、とにかく100歩譲って歩み寄るしかないんです。合意が出来るか出来ないかは歩み寄るしかないんです。えー絶対歩み寄らなければ、絶対無理ですネ。もう私色々な例を、色々なところでお伺いしたり、わたしもタッチしてるのもあるんですが、とにかく両方譲らなければ、調停の仕様が無い。あとは喧嘩だけ。まあ大きくは長良川取水堰の行政裁判。

それから3番目にですネ。住民がまずやったらと、申し上げたいのは、地域の防災計画からやってみたらということです。自分達が川が溢れたらどこへ逃げるといことは誰も考えてくれてないと思います。防災のこと、まず火事とか地震の時にはどう逃げるかから始まるんです。川が溢れたらどう逃げるのか、どういう風にするか。建設省サイドではどうやって川をあふれないようにするかとか、堤防を守ってゆきましようというのは有るんですが、その先の計画は有るんですかという事を伺うとどうも無いらしい。地域の側でも考えているのかというと、そこんところは考えてないらしい。そんなこともありまして自分達が自分達でどう守るかということから始めて良いのではないかと。

4番目はですネ、実は言いたくないことなんですけども、程久保川でもそうですが、こちらの向島用水もとっても良い事例で、本当にはめたいというところでして、向島用水を私三月、四月ですか一度見に来まして、今日、私来たのは、雑草がどれくらい生えているのかという事を見に来たんです。そしたらきれいに雑草が管理されている、ということで、わたしは庭は別として川に雑草があるのは普通の事だと思います。雑草という言葉はいけないと思ひまして「野草」と言うべきかと思ひますが。雑草をどうして抜くのか。自然の川を作ろうと、或は自然に近い川を作るのが良いということを考えているのならば、自然に近い植生にしてゆくべきだと思います。草をあまり人間の目で雑草だなんだと差別

しない方が良くいんだと、私は思って居ります。そればかりが気掛かりで、あとは本当に良く出来ているという風に思っています。まあ細かいことを申しますと、まあ色々なデザイン上の事は云っておく必要があるかも知れませんが、今回はこのくらいで。

<大熊> 今もその話が出てたんですが、やっぱり蛇籠を用水の流れの真中に入れて置くのは良くないですネあれは意味無いからせめて端っこに置いた方が良いと思います。やはり蛇籠というものがどういう役目を持っているかを正しく子供達に教えるべきで、真中に放り込んで置くというのは僕はナンセンスだと思いますネ。その草を切ったのと同じで。 (笑)

<石田> はい

<君塚> 上流取り入れ側の、あのはでやかな外来植物、あれは明日にでも抜くべきですね前にも1回無断で植えられて今度で2回目ですね、外来植物を植えられたのは…。何のためにこの潤徳小でこういう自然を取り戻す努力をしているのか。きれいな花を見るため、錦鯉を見るためじゃないということです。あれは住民がやったそうですが、住民も勉強すべきです。無知な住民の自然破壊行為は排除すべき… (笑) いやあ、理論的にですね。協力をしていただく。

住民が勉強しないから、さっきから三面張り三面張りという言葉がでていますが、ここで小林さんを弁護しますけれど、今日歩いた所で建設省が行なった三面張りは一箇所もないんです。あれは東京都がやった所です。それも全く意味なくやったわけではないのですその意味を知ったうえで、果たしてあの方法しかないのか、例えば大熊先生や小林さんとも相談して、あれをやった担当者（東京都）に相談または文句を言うべきで、三面張りも今日は一箇所だけです。誰がその川の管理を任されているかを知る必要があります。住民は勉強したうえで悪い例は責める。良い例は誉める。ネズミ講方式と言いますけれど、一人が二人に話すとかは四人になる。良い例はどんどん誉めてここの校長先生や教頭先生をまわりからサポートする、この勇気を…。あるいは建設省が1か月弱で許可を出したこと環境のために1級河川を曲げることを日本で初めてやって、それを認めたというところをまず皆が誉めるべきで、けなすときはけなす、誉めるときは誉めないとせっかくの良い事例が拡がっていかなくなってしまいます。今日の議論の中でも、その両方がまだ混在しているので、まず住民が勉強すべきであると思う。そのために、小倉先生が東京では先鞭を付けた方ですから、我々若い者も先生を見習って、翻訳家の役割を努めていきたいと思います。

<石田> はい、ありがとうございます。シビアに行きましょうね。どうぞ。

<小島> 私は二つ提案をしたいと思います。

一つは、この学校のそばのワンドは確かにワンドらしい良い環境ですが、水がまだ…。あの水ではちょっと良いとは言えない。入っても抵抗感のない水にしたら良いのではないか。それには方法がある。50m程上流に暗渠がある。あの中を使って改善することが出来る。本当は何に

もしない方が良いのですが、それを待っていると後何年かかるか分からないから、このワンドの中だけでも昔のような水にしたらどうだろうかというのが一つです。

もう一つは浅川の水でこういうのを作ったらどうかと、考えているのが一つです。本当に昔のような川のサンプルを一つ作る。それはこの向島用水の取り入れ口にある堰は2mくらいありますね。あの中に伏流水がいっぱい入っている、それを取り出す訳です。無限にあるわけではなく、流域で見込むだけの量ですが、その水を取り出して、それこそ飲むような水が出て来る訳です。その水を溜めれば、小さな子も中で遊べるような安全な水が出来る訳です。

<君塚>

浅川の場合も、あそこだけ浄化してよくしようという考え方は、親水の間違った根本じゃあないか。やはり浅川全体をきれいにする。源流からそういう考え方のできるまで、それが実現できるまで、あそこは汚くてかまわないと思うんですね。そういう議論をすべきだと思うんです。

小島説、君塚説とががんやって。今日と同じような、もっと狭いスペースで論議を重ねなければいけない。

それ（水路に浄化施設を設けること）をやりますと、生物学的水環境が破壊されて、魚が浅川の本流から入ってこられなくなります。今の魚は浅川からすべて供給されていることをお忘れなく。ですから化学系と生物系の話し合いが足りないということがこれでもわかると思うんです。

<石田>

そうですね。本当に論議があるようでないところがあると思います。論議の必要なところはやっぱりやっていこうと思います。では山道さんどうぞ。

<山道>

さっきの話しに付け加えるような形の提案なのですが、いい事例を作っていくというのは時間がかかると思います。

それは使い勝手がどうだこうだというような意見があるかと思いますが、潤徳小の例を解説するのではなくて、潤徳小のやったようなことをもっと他の小学校に展開するような市民パワーを発揮してもらいたいと思います。その時大事なことは、ここがいったい何がまずくて何が良かったかをきちんと掌握すべきだと思うんです。

程久保川のワンドの成果についても同じことです。単純に何種類ふえたという発想ではやっぱりいかんだろうと思うんです。

あれは全体に影響を与えたということをきちんとモニタリングして、これはマンパワーで住民の皆さんがやってくださると同時に、少なくともそれを行政が主導してきちんと調査する。そういうソフトに対する対策をぜひやってもらいたい。もうひとつは「浅川勉強会」というふうになっていますが、今日、浅川の中の日野の話しをしています。浅川の話をするとき、やはり、日野と八王子をセットにしてやらなければいかんと思います。こういう勉強会ももちろん浅川ネットワークがあると思いますが、やはり行政単位の発想でなく、浅川なら浅川流域の発想



で、市民ネット活動のやれるような発想でいろいろな活動をやれたら、と、ふたつの提案です。

<石田>

ありがとうございました。

<小林>

私も行政の立場におりまして、地元の方とある問題について議論することがありますが、ひとつ感じますことは、最近世界的な傾向として環境問題が大きなウエイトをしめてきました。我々行政の側が河川を管理するときに、環境も無論大きな柱ですけれども、いわゆる治水、洪水に対して、また、水利用、そういう治水、利水、環境、という三つの柱をもっていますが、この三つの観点をふまえて我々なりに判断をしているわけですが、場合によっては地元の声というものは、環境オンリーというか、そういった狭い形の議論になり、まったく議論が噛みあわなくなってしまう。お互いに言いつばなし、聞きつばなしということでそれがまたお互いの不信といいますか、言っても聞いてくれないといわれる一面があると思います。

先程来のしっかり勉強というご意見がありました。ぜひ広い視野に立って自分たちの住んでいる地域を今後どうしていくのか、環境問題だけでなく、安全の問題も含めてしっかり勉強していただくと我々もお話ししやすくなってくるわけです。

情報量という意味から言いますと行政の側が圧倒的に情報量を持っています。ただおそらく我々がもっている情報量というのは、血が通っていないのが多いと思います。行政と地元とは対立すべきものではありませんから、互いに知恵を出しあうというか、そういう姿勢が我々にも必要です。地元の方もそういう気持ちで行政と接していただけたらと思います。

<新藤>

私の考え方は、山道さんと同じです。浅川の上流には八王子があり、そちらの自然を守り、悪いところを直すことが必要なのですが、行政には、残念ながらひとつの縄張りみたいなものがあるんでしょうね、これを動かすのは住民だと思います。私は八王子の住民です。今日の司会者も八王子市の職員だそうですが、八王子市にもっと頑張ってもらわなくては。あえて申しますが、環境問題に関して八王子市は非常に遅れている。今のような八王子の開発状況が続くかぎり、下流の日野の地域だけでは自然を守ることはできない。限界があるというより、むしろ悪くなる。これを動かすのは、住民パワーであり、住民が流域単位でまとまって浅川を中心に活動を広めていただきたいと思います。これがいちばん重要なことで、ぜひ頑張ってください。

<石田>

はい、ありがとうございました。

<吉村>

合意形成ということでさっき北村先生が言いましたが、おっしゃるように、市民同士の合意形成と、市民と行政の合意形成、行政内の縦割りの中での合意形成、そして、行政と行政、たとえば日野市と東京都、あるいは建設省、それぞれの問題を含めてどういう仕組みを作っていくか、ということを検討していく必要があるんじゃないかと思います。

こういう場では常に市民と行政の合意形成だけが問題になりますが、実は、市民の中でそういう人たちが市民権を得て、力をバツと持っていったらいいなという気がしますし、合意形成にはそういうことがありますし、ここに小林所長がきておられますが、鶴見川の場合は鶴見川ネットワークというものが立ち上がっており、鶴見川を楽しくする会とか、鶴見川中流の会、鶴見川源流自然の会とかいう市民運動があるのですが、それ以外にも歩け歩け協会も関係がある。20数団体が協力し、ものすごい活動をやっています。それに京浜工事事務所が協力しながらやっていくという関係をとつつ、鶴見川をよくしていく。都市河川、一級河川ではお荷物ですよ、あんな小さな川を一級河川にしているというのはきわめて深刻な川なんですよ。それを抱えている京浜工事事務所が、そういう形で市民運動と一緒にやって行く関係ができたんです。

それに較べて横浜市河川部は関わっていないというか極めてお粗末なんです。そういう意味では、建設省の組織としてしっかり関係を切り結んでいる関係はとても大事なところであって、そういうものをうまく、あの一、所長を前にしてなんですが、建設省を取り込んだ市民運動の戦略というものを持っていきたい。そういう点は新しい動きとしてとてもいい関係だと思います。で、たとえばそれで合意形成というものを言われるのですけれど実はそのどうやって合意形成をしていったらいいのかということを経験していないわけなんですよ。はっきり言って行政の方も…。私なんかこの所2週間くらい毎日12時まで起きて設計しているんですが、とにかく忙しいわけですね。その中で、たとえば私の担当している設計を住民と合意形成でやろうなどと設計段階から、その計画段階からやろうなんてとてもそんな事業執行はやってられないわけなんです。

みんなそういう形で仕事をしていますから、その中でその計画のプロセスでどうしていくのかっていうのは、そういう仕組みが入り込んでくるような仕事の仕組みだとかもっとスピードを遅くするとか、色々なことを含めてこちらは経験していない、それから市民のほうも対立関係しか経験していないんです。こういう状況がずっと続い



ていい街づくりができるわけがないんです。そういう意味では日常的に、たとえば今日も日野市役所の方が大挙してこれを支えているわけですね。このところが大事だと思うんです。建設省の京浜とネットワークとの関係のようなそういうようないまの仕組みを大事に使って作りあげていく。この川をどうするという、まずその問題から始まるのではなくて、いっしょに物事を考えられるような、テーマは別にして、そういう関係をとにかく人と人との関係あるいは組織と組織との関係を作りあげるところで、知恵を働かして行って、最初は、まあこの問題は置いていきましょう、その内そういう問題を東京都と切り結ぶ、そういう関係ができてくると思うんですが、そういうことがこれからは大事になると思います。

必ずしも子供が親しめる川ということで代表するようなことはあまりないんじゃないかという気がしてきます。実はあの川ってことをやりはじめますとね、私なんかやっているととにかく、雑草の生えている川を作ろう、生えちゃうととにかく固めないわけなんです。ということはある意味では、煩わしい環境を川の中に取り戻す、だからもともと川などというものは意識的にいかない、草があれば刈って、自分が魚釣りをしたければしょっちゅう行くところを、鎌持って刈って、用水をひくために人が入って手入れをしていたということがあって、そのシビルミニマムのようにみんなが親しめる川というのはほとんどない。そういうことだから万願寺橋のところにああいう階段護岸ができてしまう、だれでも安全にハイヒールでも下りられる、むしろ子供が親しめるという点では安全、子供が親しめば危ない川というのができてくるかもしれない。洪水に対しては危険な川になるかもしれないし、そのことを全部ひっくるめて考えていく必要があるかなあという気がしています。

それから、川の多自然型川づくりということが言われていますが、私も今大事なのは方法とか技術の問題よりも、実はその感性的な技術というものでしょうか。たとえばイメージトレーニングというものがあって、私もスキーをやっていたのですが、スキーの選手がレッスンをする時、イメージトレーニングをする。どこにポールがあって、どんな勾配とか、やっていますよね。あのテレビなんかでそういうイメージトレーニングといいますか、その川ならその川のあるべき姿とか、これまでであった、今ある姿の大事なところとか、こういう川だというイメージをトレーニングする。それは市民も技術者も含めてやる、そのところが大事なんで、あとはその作り方ということも大事ですが、そちらが大事だなあと思っています。

<石田> はい、ありがとうございます。次の方どうぞ。

<渡部> 時間も迫っていますけど、私の話しも聞いていただきたいと思います。今までの先生方の、話題の関心が浅川のほうにむけられて、日野の水路のほうの未来像とか、水辺空間が持っている価値、それから未来に対する保全の具体的な提案がでなかったのが、残念です。しかし今後

やっていただきたいと思います。日野市には、浅川、多摩川から取水している幹線水路が12ありますが、この12の水路はどうしても次の代へ残していくべきだと思います。そのためには、みなさん方の手でつくられた環境マップ、図鑑がありますが、いかにこれらの水路沿いの環境が貴重な自然環境であるか、生態的にも非常に魅力ある環境になっているか、多くの市民が認識する必要があるでしょう。また会場の女の方が「梅林」が駐車場になったということを嘆かれておりましたが、今後そういう貴重な環境資源には、私は「環境の宝物」と名付けてその環境を手厚く保全する手だてがいきます。この環境の宝物の中には昔の人たちが水を利用する知恵、ノウハウとも言いましょうか、そういったものがつめ込まれています。川の魚たちがたくさん住んでいたところも環境の宝物ですし、蛍の飛んでいたところ、水車の回っていたところもそうです。学童がたちよって座る足元の水神様が祀ってあるところも環境の宝物です。そういった宝物が図鑑には示されています。12の幹線水路、場合によってはその枝川も環境の宝物がいっぱいありますので、それらを加えながらこういったものを未来にどう受け継ぐかという知恵を働かせることによって、未来の子供達に歴史的遺産がのこせるのです。このような視点に立脚した水路再生のマスタープランを作っていくことを期待します。

もう一点は、水を徹底して人間がコントロールするという考え方がありましたが、水のほうにも命がある、人間と同じように意識があるとみる思想が私たちに求められていますね。地球を循環しながら、人間自身に文明をもたらしてくれる有り難い存在であり、子をいたわる母親のような気持ちをもって、水を生命体と捉え、その水が喜んでくれるにはどうやったらよいのか、という考え方にたって、水循環や水路再生の合意形成、マスタープランづくりにむけてけば、非常に夢のある地上（日野）の宝物になっていくのではないかと思います。

<石田>

どうもありがとうございます。もう一度拍手。私からも提案がありますが、ここは異様なんですよね。前のパネラーに全然女性がないのは。今度からは是非半分は、女性を入れていただきたいと思います。

浅川勉強会

早朝から参加してくださった方、もう8時間にもなりました。かたい椅子に長時間、お疲れになったことと思います。参加者の皆さん、それにもまして遠くからこの催しに貴重な時間をさいてくださった先生方、ありがとうございました。

円卓会議「水・そこが問題」記録集

1994年3月発行

編集発行 浅川勉強会

事務局 山本由美子  
〒191日野市万願寺159  
☎0425(83)6788 FAX 0425(87)0330

## 4. 井戸の決まるまで

まず、既存のデータの収集・整理を行い、それを地図に落としていった。

ともかくそのデータをもとに、実際の井戸探しから始めなければならない。会員の家や近所にも井戸はあり、市内にはまだたくさんの井戸があるが、細い管の掘り抜き井戸で計測できない。そこで、

- (1) ふたが開けられて、中の水面が見えること
- (2) 手計り水位計を下ろせるくらいの穴がふたにあること
- (3) 家の外にあって、家人が留守でも計測ができること

以上の条件を設定し、この条件に合う井戸を、地縁や口コミを総動員して聞き込み、また、担当地域の家を覗き込むようにして歩き回った。

平山地区では、付き合いの長い米屋さんを訪ねた。ここでは、前年の改築時に井戸は壊してしまって、いまはない。近所の井戸をいくつか教えてもらった。1軒目は、現役の立派な手押しポンプの井戸。老婦人に話を伺いながら、ポンプを押してみると、水が溢れてきた。残念ながら、塵が入らないようにコンクリートで封がされ、中が見られない。分家の井戸を紹介され、行ってみると、掘り抜き井戸だった。ここは丘陵のふもとにあり、さらに上の中腹の家には、それぞれ井戸もっていると教えられ、条件に合うものを見つけることができた。

程久保地域では、話を聞いた老人が井戸を見せてくれたが、毎日飲んでいる大切な井戸水だから、計測器を入れるなんてまっぴらと断られた。当然である。

知人のいない担当地域では、家の裏庭ばかりを見て歩き、何かと、尋ねられたこともあった。

丘陵地の井戸に関しては、実踏による情報の収集が主であった。中でも状況の違う所で計るべきか、同じような水みちを選ぶべきか、あるいは条件の異なるポイントにするべきか、迷った。最終的には、専門家の意見を取り入れて決定した。

### 4.1 地図にしるす

データをもとに、はじめに湧水、井戸の所在地を地図に記すことになった。等高線を確認するために日野市の $\frac{1}{10000}$ の水路網図を用いたが、なにしろ細かい。全隣地図でしっかり確認して印を置く、かなり目に来る作業になり、時間をとる。

そこで、日野市域を縦横に罫線で区割することになった。このときアドバイスしてくれる方があり、後でコンピュータ処理がしやすく、いろいろな情報と重ねられるので経緯度を用いることにした。

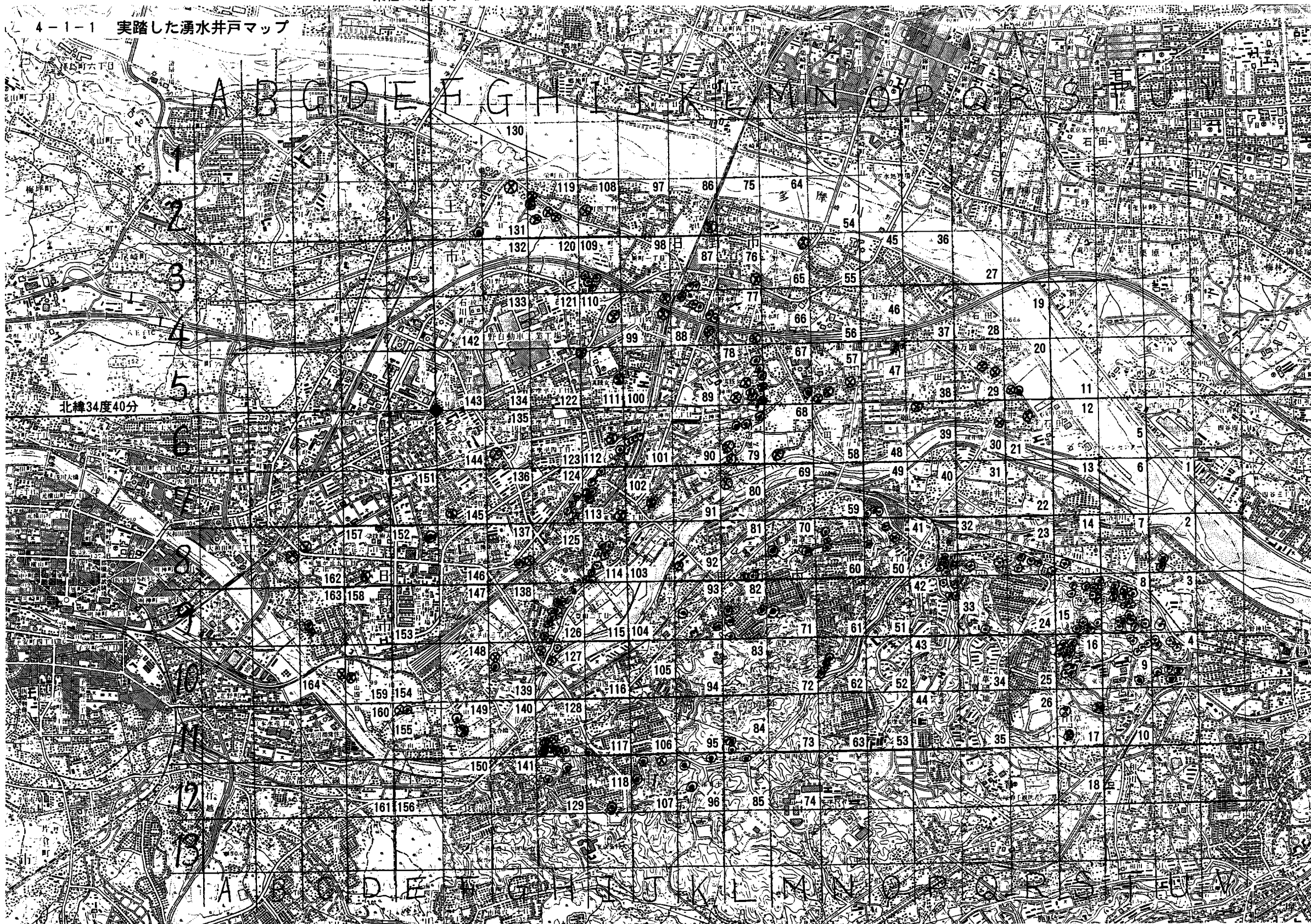
経度・緯度を正確にするため、国土地理院の $\frac{1}{25000}$ 地図を用意した。日野市域は、拝島・立川・八王子・武蔵府中の4枚をはりあわせなければならない。その各図のすみに緯度経度がしるされている。拝島・立川の接ぎ合わせめは、東経139度22分30秒、北緯34度40分。そこを基点に次の緯度・経度の分を確認し、15秒ごとの罫線を引いて、1区画とした。

経度の15秒=横375m、緯度の15秒=456.25m。横のA～Vの22、縦No.1～13の286区画、そのう

ち日野市域にかかる区画のみにナンバーをふり、164に決定。

川を挟んで左岸右岸の平坦な部分が少なく、標高差の大きい町の地図に、正確に点でおとすのは大変なことだと、作業に携わった一同目を赤くして嘆いた。湧水は◎、井戸は⊗で現した。継続して観測可能となった井戸を判りやすくする為、手書きのイラストに整理した。

4-1-1 実踏した湧水井戸マップ

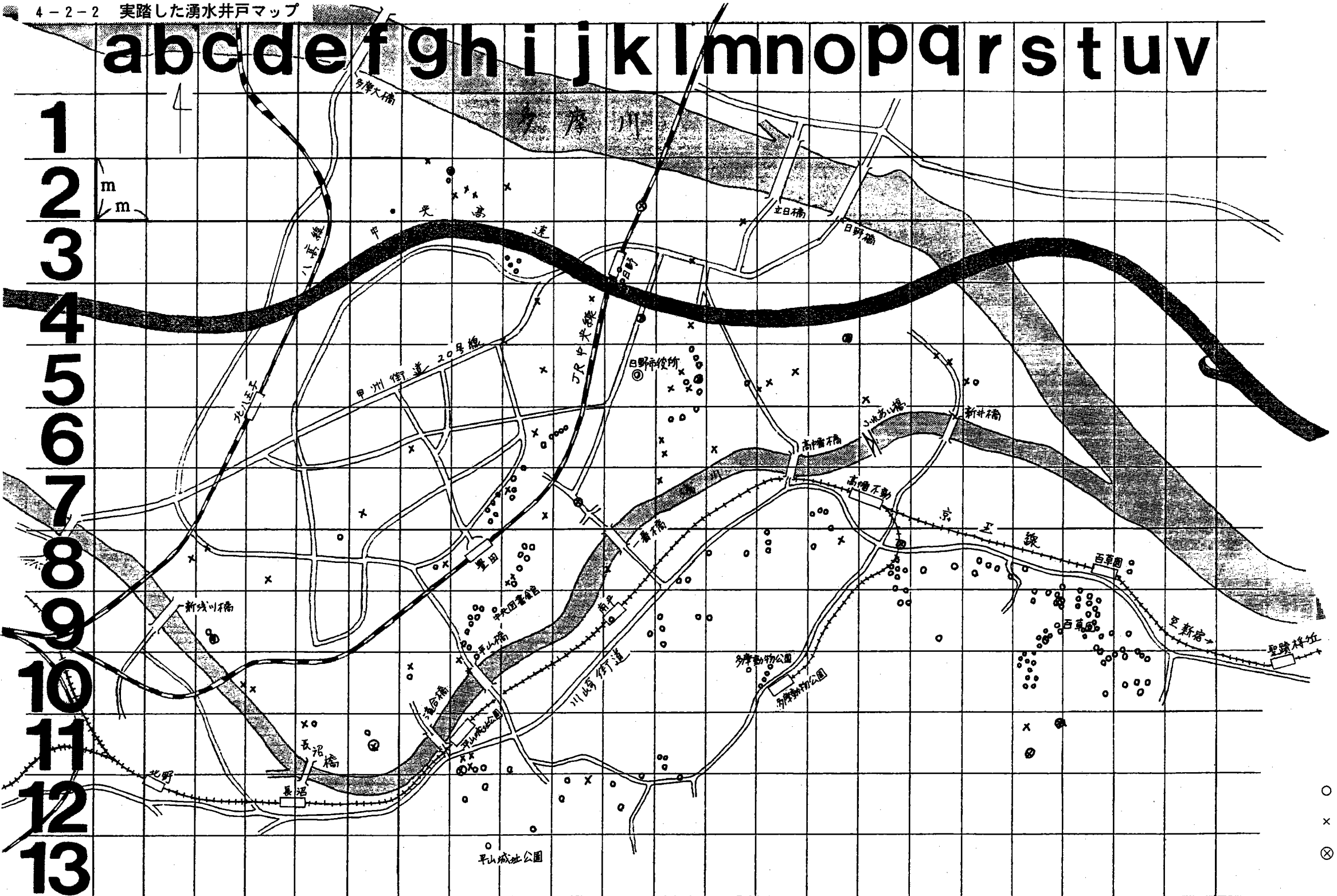


北緯34度40分



abcdefghijklmnopqrstu

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13



abcdefghijklmnopqrstu

- 凡例
- 湧水
  - × 井戸
  - ⊗ 観測井

## 4.2 井戸実踏調査より

集められた資料を見るかぎり、左岸の台地側の井戸・湧水は、さまざまな角度から研究者がとり組んでいるようだ。

右岸の丘陵地は、地質的にも複雑で、比較的なだらかとはいえ、沢筋に入ると崖地も多く、足繁く通うわけにはいかない。そればかりではない。小さな雨でも降り続く場合には、もろい砂層、礫層の箇所は崩れやすく危険だ。湧水量が多いということは、地下水の通る道も空隙が大きいからではないだろうか。川を見ている大きな台風より、長雨の方が深く大きく削られるようだ。

ともかく素人の私たちには、身近な行き易いところを選ぶ方が長続きする。とり敢えず、丘陵と沖積地、台地、と手分けして探した。区画整理地の井戸は電動式で、蓋が動かせないものが多く、既に埋められてしまったもの、これから埋められようとしているもの、本当にもったいない話だ。原因の一つに、下水道使用量の問題があるようだ。

### 井戸のみ使用の家庭

家族3人まで月使用量15トンと見込み、1人増すごとに5トン追加  
その2分の1を下水使用量として徴収

### 水道と併用の家庭

水道使用量は2分の1を下水使用量と見込む  
更に井戸分の上記料金を徴収

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者: 山本・山田 記帳年月日: 94/03

井戸番号: 2 場所: 丘陵 観測井名:

所有者: 山中正吉 電話番号: 91-0356

所在地: 三沢1291 メッシュ番号: S-9 15

設置年月日: 昭和34年 井戸深度: 3m 07cm

基準点標高: 65.5 m 枠高: 23cm

構造 口径: 小 単管: 継ぎ足し: 開放: 閉鎖:

用途: 雑

地下水形態 不圧: 被圧: 帯水層:

井戸枯れ 有: 無: 備考1:

使用状況 使用可: 使用不可: 現在使用中: 不使用:

備考2:

設置状況 屋外: 屋内: 観測可: 観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者: 観測形態 連続観測: 定期観測:

観測期間 開始: 終了:

観測記録の所在:

特記事項: 水面から地表まで77cm (3mセンサー)  
自記水位計設置

観測方法 連続: 定期: 観測計器: 自記水位計

観測開始: 94/6

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)  
裏手崖 マトリックフロー 沢ガニいる  
昭和34年頃、掘って、今は電気で汲み上げ  
平成7年裏山でマンション工事始まる

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者: 神保エミ子

記帳年月日: 94/03/22

井戸番号: 3 場所: 丘陵

観測井名:

所有者: 大沢進

電話番号: 91-2182

所在地: 平山6-13-3

メッシュ番号: H-11 128

設置年月日: 昭和15年

井戸深度: 6m 75cm

基準点標高: 96 m

杵高: 43cm

構造 口径: 単管: 継ぎ足し: 開放: 閉鎖:

用途: 雑

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者: 観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始: 94/06 終了:

観測記録の所在:

特記事項: 周辺に井戸多い  
自記水位計設置

観測方法 連続:  定期:  観測計器: 自記水位計

観測開始: 94/

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)  
カントリークラブで吸い上げているので少なくなった  
平山宗印寺下、中腹付近、よく水が湧く。手掘りとの事

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造  口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項: 湧水の多い地点  
以前からあった古井戸から2メートルずれたあたりに堀田井戸屋さんに深く掘って貰った。

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)  
百草園正門から倉沢へ少し下る。東電西に井戸3ヶ所。  
道路脇に湧水。

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項: 万蔵院当主。養鶏場  
昔は水深3m、今は1m程  
300年続いているが、いつ頃掘られたか不明

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)  
万蔵院台中央  
周辺畑、10年程前まで飲料。

浅川勉強会



浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造  口径:   単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ  有:   無:  備考1:

使用状況  使用可:   使用不可:   現在使用中:   不使用:

備考2:

設置状況  屋外:   屋内:   観測可:   観測不可:

備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:   定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:   観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

# 井戸台帳

NO:

浅川流域

記帳者:	山本	記帳年月日:	94/04/01						
井戸番号:	8	場所:	段丘中	観測井名:					
所有者:	谷 実	電話番号:	81-5914						
所在地:	日野5985	メッシュ番号:	L-5 78						
設置年月日:	100年ほど前	井戸深度:	7m 40cm						
基準点標高:	82.0 m	枠高:	26cm						
構造	口径: 1100mm	単管:	<input type="checkbox"/>	継ぎ足し:	<input type="checkbox"/>	開放:	<input type="checkbox"/>	閉鎖:	<input checked="" type="radio"/>
用途:	雑								
地下水形態	不圧: <input checked="" type="radio"/>	被圧:	<input type="checkbox"/>	帯水層:					
井戸枯れ	有: <input type="checkbox"/>	無: <input checked="" type="radio"/>	備考1:	掘り抜き					
使用状況	使用可: <input checked="" type="radio"/>	使用不可: <input type="checkbox"/>	現在使用中: <input checked="" type="radio"/>	不使用: <input type="checkbox"/>					
備考2:									
設置状況	屋外: <input checked="" type="radio"/>	屋内: <input type="checkbox"/>	観測可: <input checked="" type="radio"/>	観測不可: <input type="checkbox"/>					
備考3:									
観測履歴	観測者:		観測形態	連続観測: <input type="checkbox"/>	定期観測: <input type="checkbox"/>				
観測期間	開始:		終了:						
観測記録の所在:									
特記事項:	水面見える。量れる。 枯れること無し。掘り抜き。 台地中段谷仲山								
観測方法	連続: <input type="checkbox"/>	定期: <input checked="" type="radio"/>	観測計器:						
観測開始:	94/								
備考4:	(観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)								

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者: 石黒・神保

記帳年月日: 94/04

井戸番号: 9 場所: 段丘下

観測井名:

所有者: 大真元継

電話番号: 82-3074

所在地: 東豊田1-52-5

メッシュ番号: J-7 102

設置年月日:

井戸深度: 2m 83cm

基準点標高: 78.5 m

枠高: 30cm

構造 口径: 1050mm 単管: 継ぎ足し: 開放: 閉鎖:

用途: 雑

地下水形態 不圧: 被圧: 帯水層:

井戸枯れ 有: 無: 備考1:

使用状況 使用可: 使用不可: 現在使用中: 不使用:

備考2:

設置状況 屋外: 屋内: 観測可: 観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者: 観測形態 連続観測: 定期観測:

観測期間 開始: 終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続: 定期: 観測計器:

観測開始:

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)  
昔はつるべ。

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:   
昭和35年頃周辺は家がなかった。  
掘ったけれど、金気の多い水で少なかったので、  
2, 3年しか使用していない。

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  粹高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造  口径:   単管:   継ぎ足し:   開放:   閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:   被圧:  帯水層:

井戸枯れ  有:   無:  備考1:

使用状況  使用可:   使用不可:   現在使用中:   不使用:

備考2:

設置状況  屋外:   屋内:   観測可:   観測不可:

備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:   定期観測:

観測期間  開始:   終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:   観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会



浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者: 石黒・神保 記帳年月日: 94/03/29

井戸番号: 15 場所: 段丘 観測井名:

所有者: 須藤まさ 電話番号: 83-0535

所在地: 西平山町1-22-6 メッシュ番号: F-11 149

設置年月日: 井戸深度: 4m

基準点標高: 86.5 m 杵高: 15.0cm

構造 口径: 900mm 単管: 継ぎ足し: 開放: 閉鎖:

用途: 植木・庭の水撒き

地下水形態 不圧:  被圧: 帯水層:

井戸枯れ 有: 無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可: 現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内: 観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者: 観測形態 連続観測: 定期観測:

観測期間 開始: 終了:

観測記録の所在:

特記事項: 八幡様下

観測方法 連続: 定期:  観測計器:

観測開始: 94/6

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)

浅川勉強会

# 井戸台帳

浅川流域

NO:

記帳者:	石黒・神保	記帳年月日:	94/03/29						
井戸番号:	16	場所:	段丘	観測井名:					
所有者:	宮川定夫	電話番号:	82-1494						
所在地:	西平山町4-18-10	メッシュ番号:	C-10 164						
設置年月日:		井戸深度:	13m 68cm						
基準点標高:	96.5 m	枠高:	13.0cm						
構造	口径: 1100mm	単管:	<input type="checkbox"/>	継ぎ足し:	<input type="checkbox"/>	開放:	<input type="checkbox"/>	閉鎖:	<input type="checkbox"/>
用途:	雑								
地下水形態	不圧:	<input type="checkbox"/>	被圧:	<input type="checkbox"/>	帯水層:				
井戸枯れ	有:	<input type="checkbox"/>	無:	<input checked="" type="radio"/>	備考1:				
使用状況	使用可:	<input checked="" type="radio"/>	使用不可:	<input type="checkbox"/>	現在使用中:	<input checked="" type="radio"/>	不使用:	<input type="checkbox"/>	
	備考2:								
設置状況	屋外:	<input checked="" type="radio"/>	屋内:	<input type="checkbox"/>	観測可:	<input checked="" type="radio"/>	観測不可:	<input type="checkbox"/>	
	備考3:								
観測履歴	観測者:		観測形態	連続観測:	<input type="checkbox"/>	定期観測:	<input type="checkbox"/>		
	観測期間	開始:		終了:					
	観測記録の所在:								
特記事項:	川北用水取水口近く、日野市最上流。浅川近く、水の上下が激しい。この家で生まれた奥さん(1932年生まれ)が物心ついた時には在った。ずいぶん昔、一度水枯れをおこした時に掘り直した。								
観測方法	連続:	<input type="checkbox"/>	定期:	<input checked="" type="radio"/>	観測計器:				
観測開始:	94/								
備考4:	(観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他) 水の上下動が大きいため、計器を降ろす時、要注意。								

浅川勉強会

継続出来なくなったもの

# 井戸台帳

浅川流域

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造  口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:   被圧:  帯水層:

井戸枯れ  有:   無:  備考1:

使用状況  使用可:    使用不可:   現在使用中:    不使用:

備考2:

設置状況  屋外:    屋内:   観測可:   観測不可:

備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:   定期観測:

観測期間  開始:   終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:   観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

継続出来なくなったもの

# 井戸台帳

浅川流域

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  杵高:

構造  口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:   被圧:  帯水層:

井戸枯れ  有:   無:   備考1:

使用状況  使用可:   使用不可:   現在使用中:   不使用:

備考2:

設置状況  屋外:   屋内:   観測可:   観測不可:

備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:   定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:   観測計器:

観測開始:

備考4:   
家内になるので観測中止

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項: 昭和40年春60m掘る。  
観測中止(コンクリート蓋に穴)。  
井戸の中に障害物があつて測れない。

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:   
備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:   
備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:   
観測期間 開始:  終了:   
観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:   
観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者: 山本・山田

記帳年月日: 94/04/23

井戸番号: 場所: 丘陵下

観測井名:

所有者: 井手禄朗

電話番号: 91-0594

所在地: 高幡707

メッシュ番号: 0-8 50

設置年月日: 昭和39年

井戸深度:

基準点標高:

枠高: 60CM

構造 口径: 850mm 単管:  継ぎ足し:

開放:  閉鎖:

用途: 雑

地下水形態 不圧:  被圧:

帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:

観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:

観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:

終了:

観測記録の所在:

特記事項: 屋内で納屋にある。  
お不動様並び。  
モーターが乗っているが穴が空いているので計測可。  
家人留守がちの為、中止。

観測方法 連続:  定期:

観測計器:

観測開始:

備考4: (観測日・定期点検日・欠測・故障の記録・その他)

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造  口径:   単管:   継ぎ足し:   開放:   閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:   被圧:  帯水層:

井戸枯れ  有:   無:   備考1:

使用状況  使用可:   使用不可:   現在使用中:    不使用:    
備考2:

設置状況  屋外:   屋内:    観測可:    観測不可:    
備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:   定期観測:   
 観測期間 開始:   終了:   
 観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:   観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会



浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  杵高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO: \_\_\_\_\_

記帳者:

記帳年月日:

井戸番号:  場所:

観測井名:

所有者:

電話番号:

所在地:

メッシュ番号:

設置年月日:

井戸深度:

基準点標高:

枠高:

構造  口径:   単管:  継ぎ足し:   開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態  不圧:   被圧:   帯水層:

井戸枯れ  有:   無:   備考1:

使用状況  使用可:    使用不可:    現在使用中:    不使用:

備考2:

設置状況  屋外:    屋内:    観測可:    観測不可:

備考3:

観測履歴  観測者:   観測形態  連続観測:    定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法  連続:   定期:    観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

浅川流域

# 井戸台帳

NO:

記帳者:  記帳年月日:

井戸番号:  場所:  観測井名:

所有者:  電話番号:

所在地:  メッシュ番号:

設置年月日:  井戸深度:

基準点標高:  枠高:

構造 口径:  単管:  継ぎ足し:  開放:  閉鎖:

用途:

地下水形態 不圧:  被圧:  帯水層:

井戸枯れ 有:  無:  備考1:

使用状況 使用可:  使用不可:  現在使用中:  不使用:

備考2:

設置状況 屋外:  屋内:  観測可:  観測不可:

備考3:

観測履歴 観測者:  観測形態 連続観測:  定期観測:

観測期間 開始:  終了:

観測記録の所在:

特記事項:

観測方法 連続:  定期:  観測計器:

観測開始:

備考4:

浅川勉強会

### 4.3 手計り水位計と自記水位計

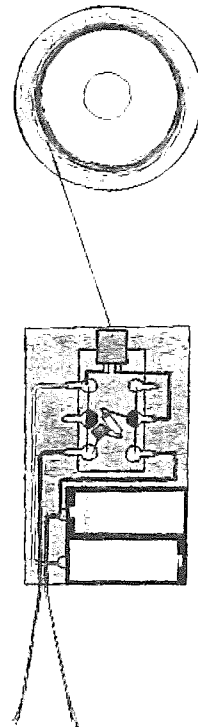
1998年10月1日 水田

#### 手計り水位計

- (1) 小さくて軽いこと。
- (2) 暗い中でも水に触れたら分かること。
- (3) 扱いが易しいこと。

幸いメンバーの中にメカに詳しい人がいた。なんとなく見本を送ってきた。見かけは頼りなげだが、正確に計れるし、扱いやすく軽い。上部に穴を開け、釣り用のテグスを通して吊り下げることにした。暗い井戸の中で、細い二本の電極が水に触れると赤い小さな電気が点く。単5の乾電池2本を使用。

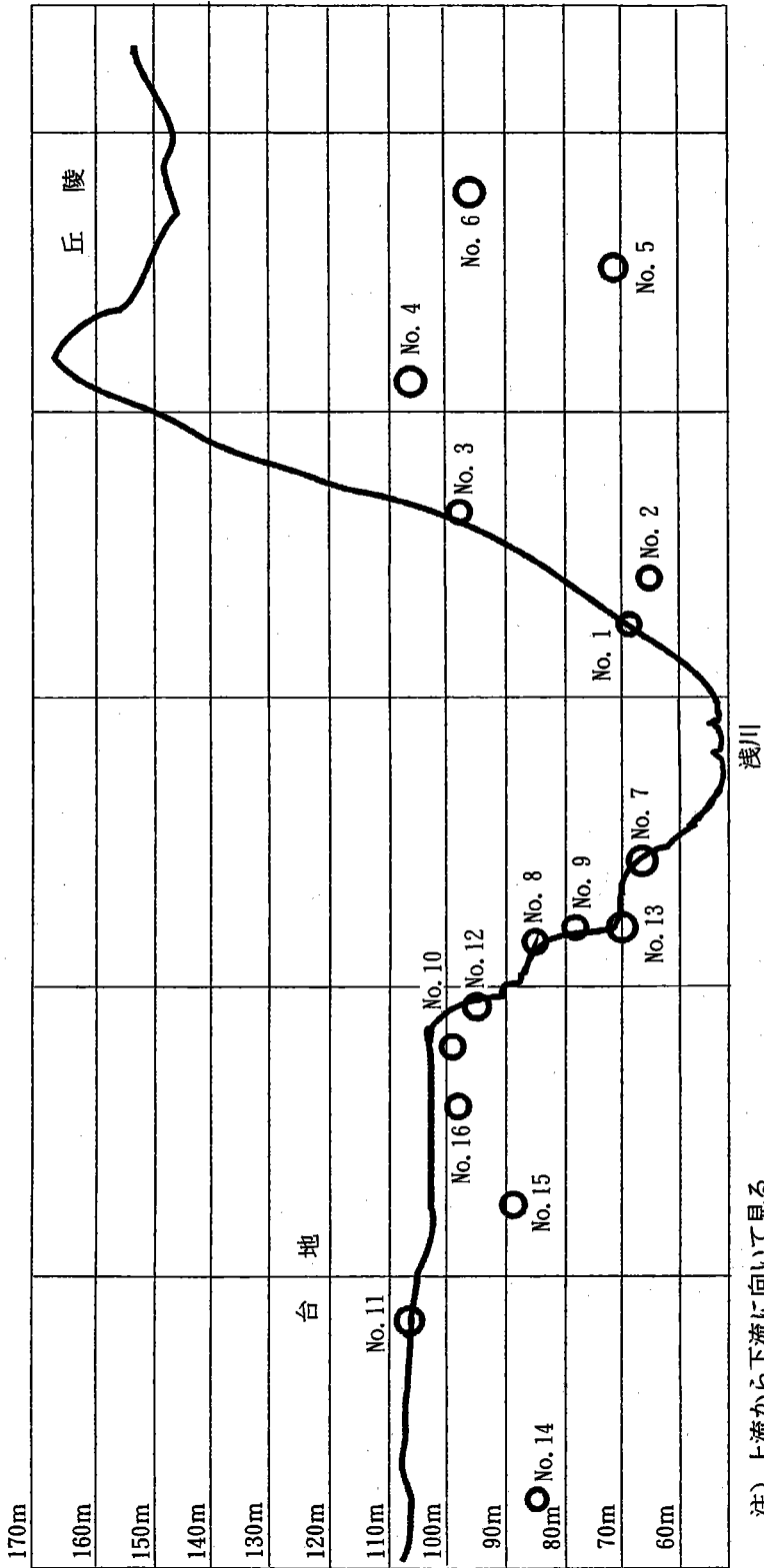
20mもある井戸の場合は、巻き上げるのが大変だったが、今回、浅層地下水が対象なので、これ以上深くなるときには、リールでもつけないと、時間がかかって雨のときは憂うつ。防水が完全でないので、変動が激しい井戸の場合、うっかり普段の水位の感覚で下ろして、水の中に入れ電池をぬらしてしまうこともあった。予備を持たない時には乾かすのに時間を費やして、暗くなるまでに作業が終わらないこともあった。



#### 自記水位計

丘陵地に3箇所1時間おきに水位を記録する水位計を設置した。専門家の助言で機種を決め、太陽電池という話だったが、場所をとるとのことで自動車用のバッテリーになり、2週間に1度のバッテリー交換が必要となった。初めのうちは扱いなれないコンピュータとノートパソコンにミスの連続、少し慣れてもトラブルには対応できなくて大事な記録を収録できないことが重なった。

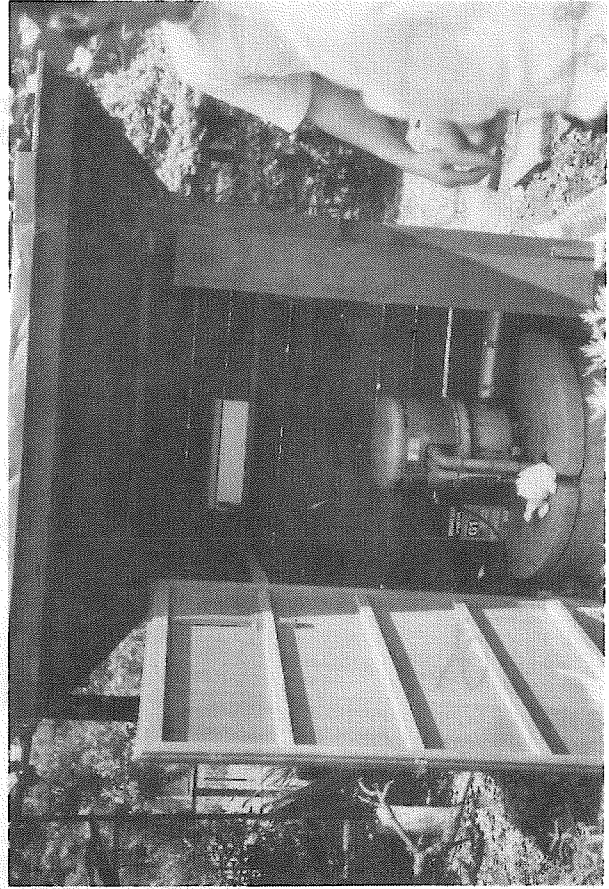
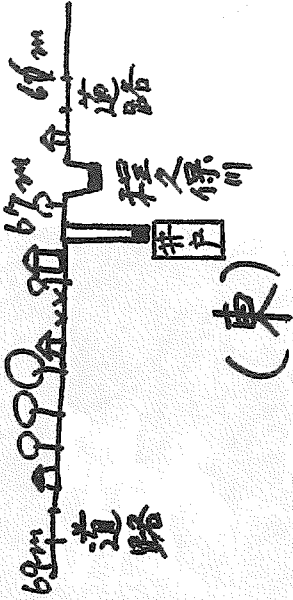
4. 4 観測井戸標高模式図



注) 上流から下流に向けて見る

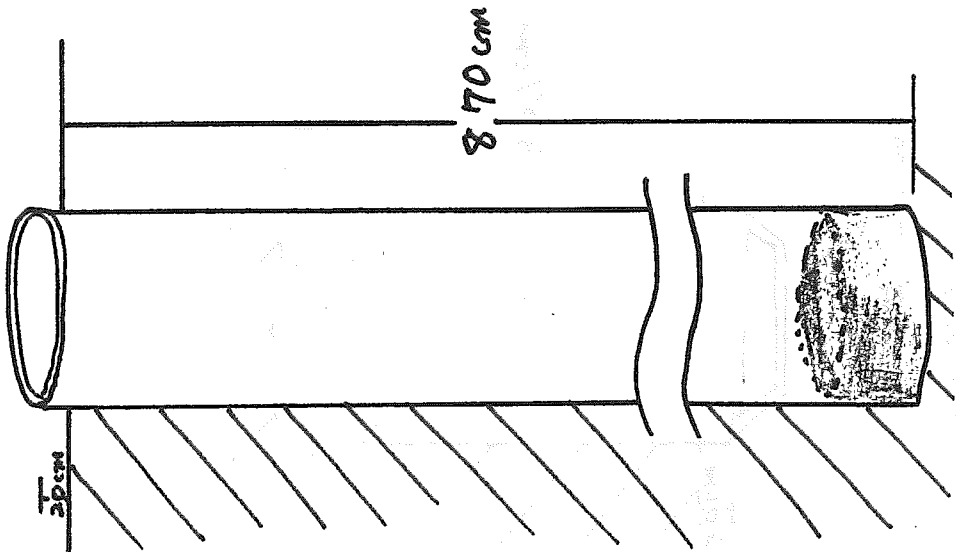
4. 5 継続可能になった井戸

浅川右岸 標高 = m



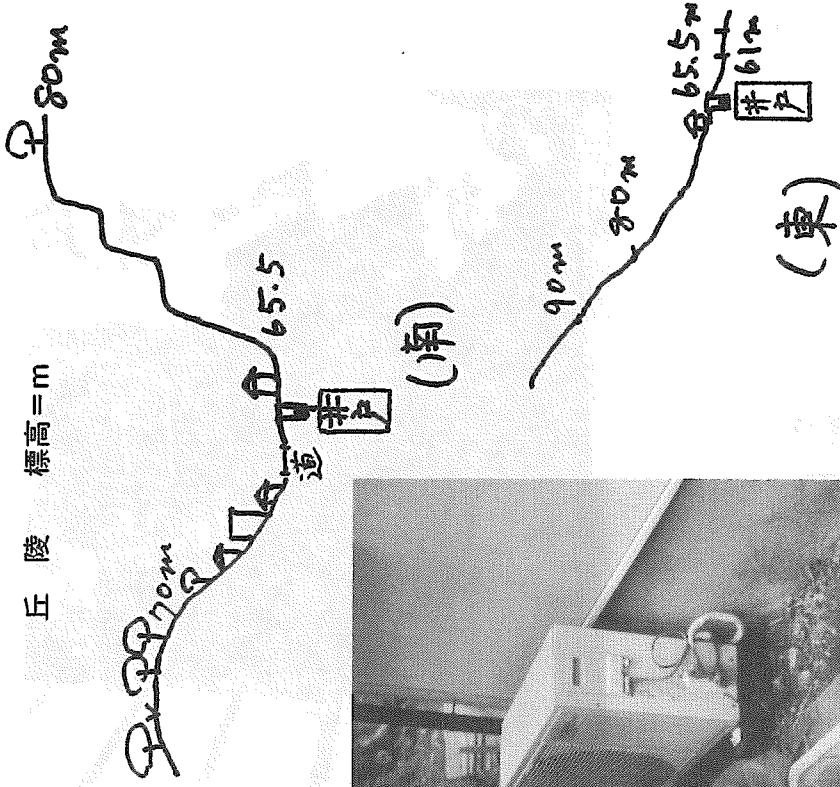
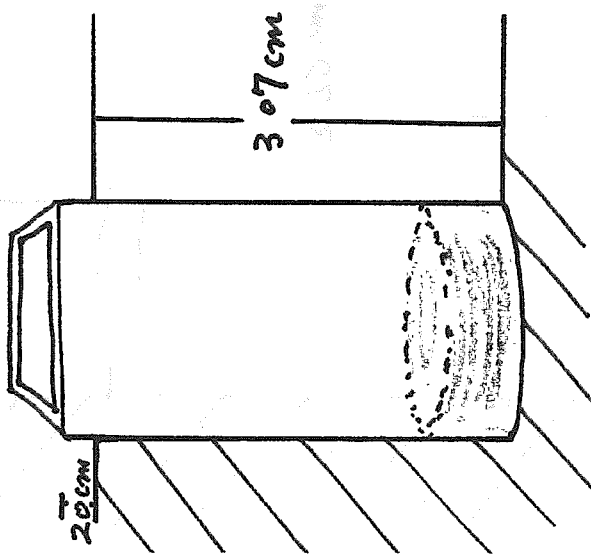
井戸 No. 1

守屋宅・三沢 1-36-4



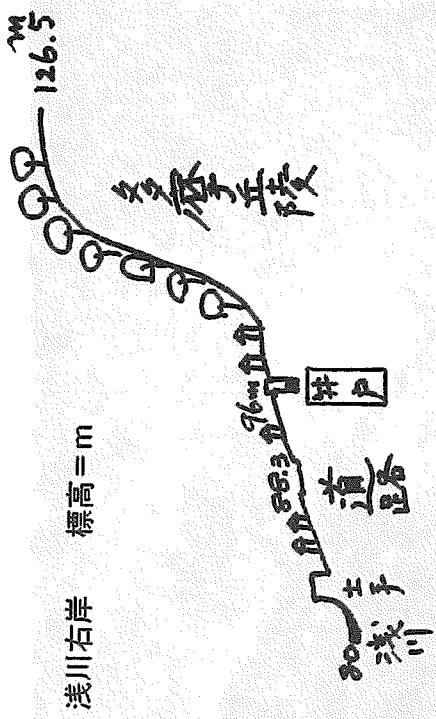
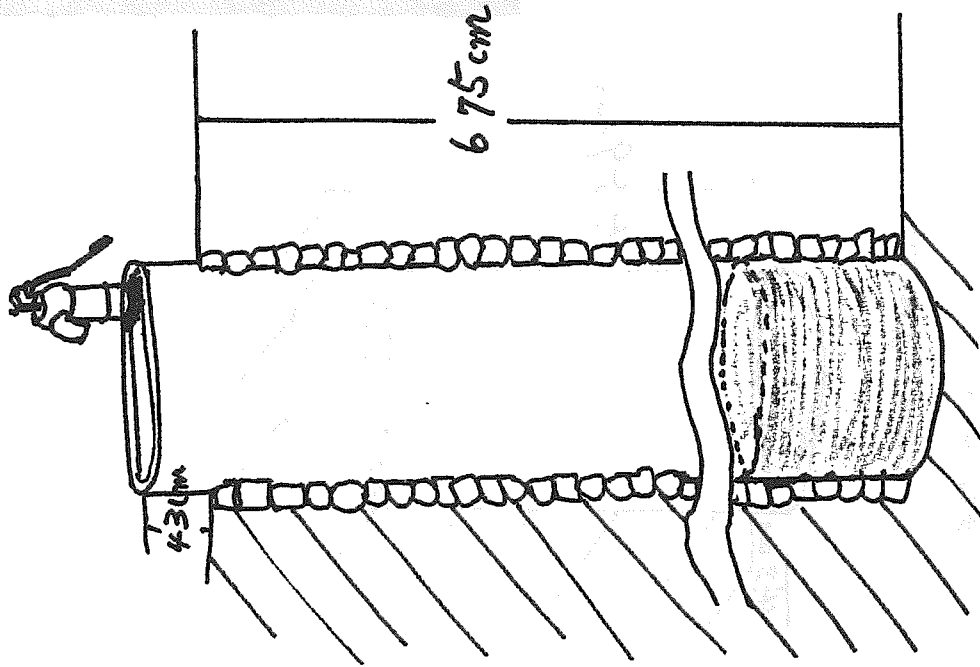
井戸 No. 2

山中宅・三沢1291

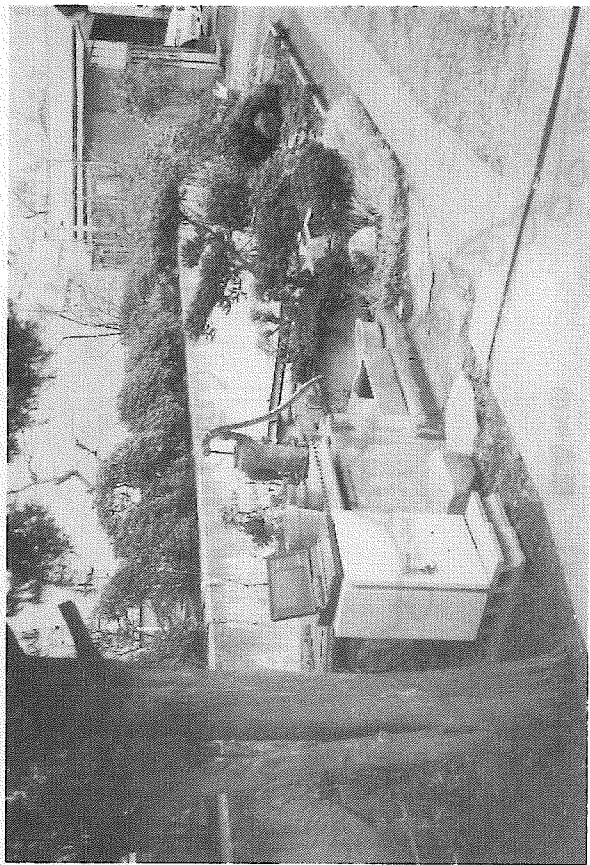


井戸 No. 3

大沢宅・平山6-13-3



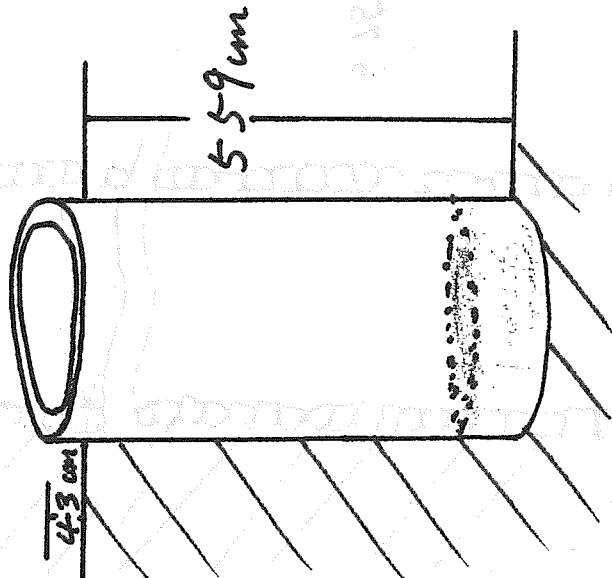
(西)



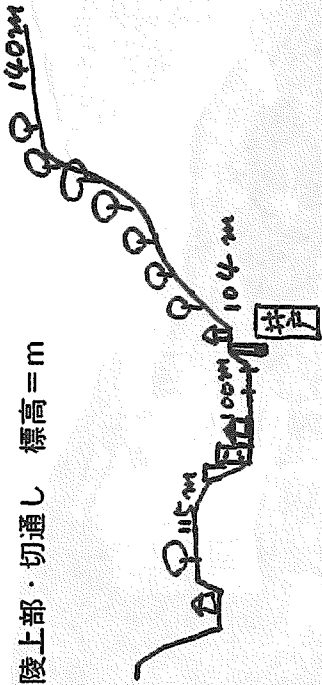


井戸 No. 4

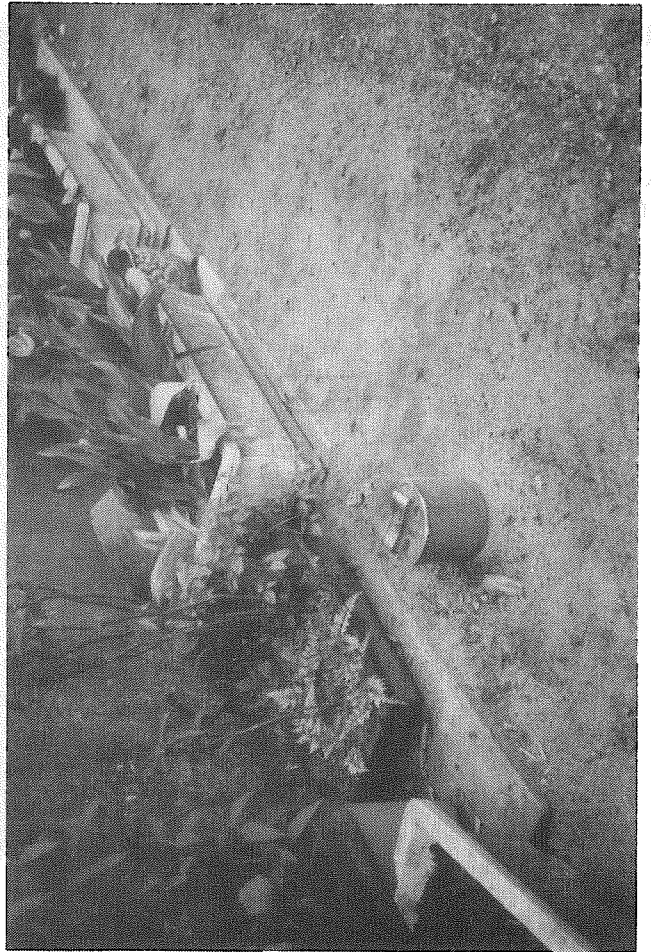
小島宅・百草 777



丘陵上部・切通し 標高 = m

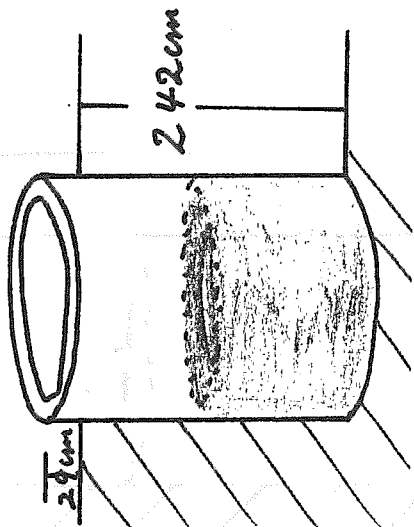


(南)

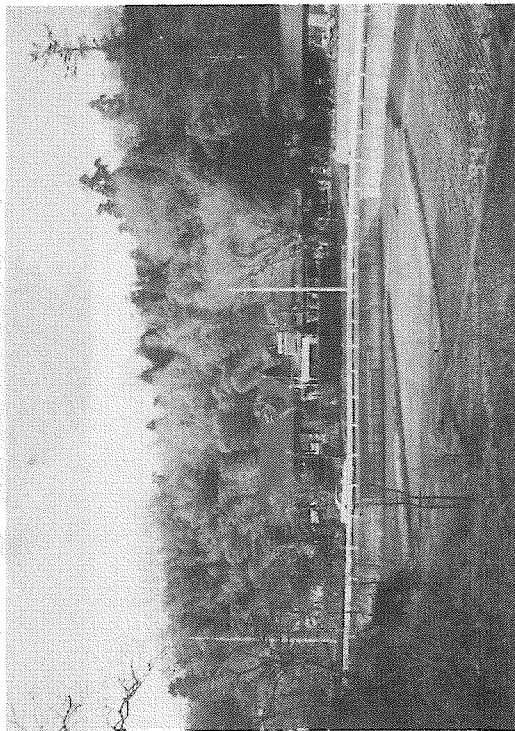
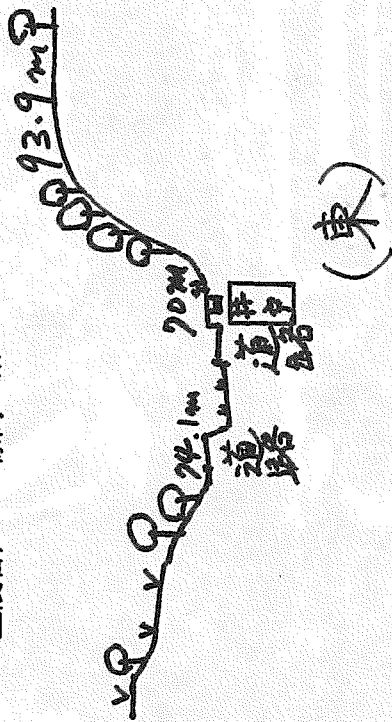


井戸 No. 5

石坂宅・百草 671

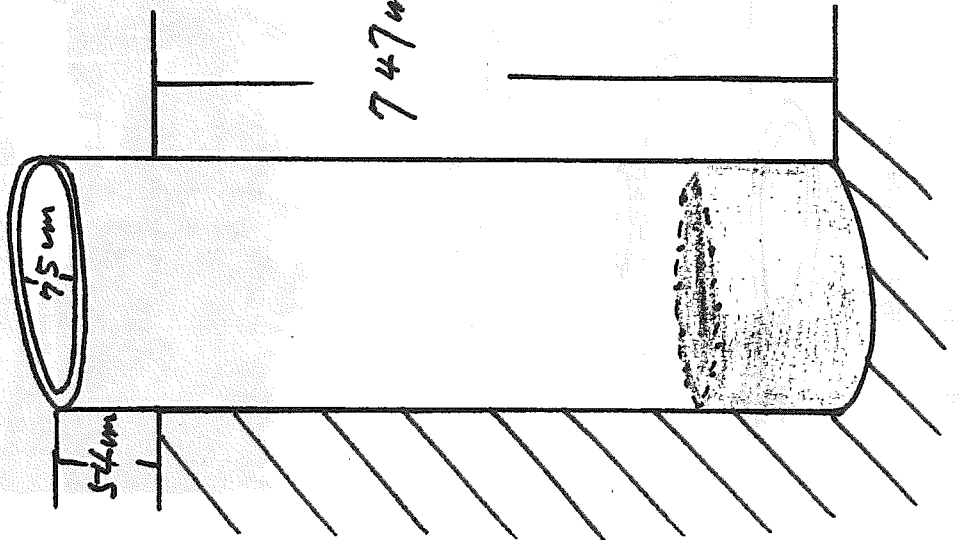


丘陵谷戸 標高=m

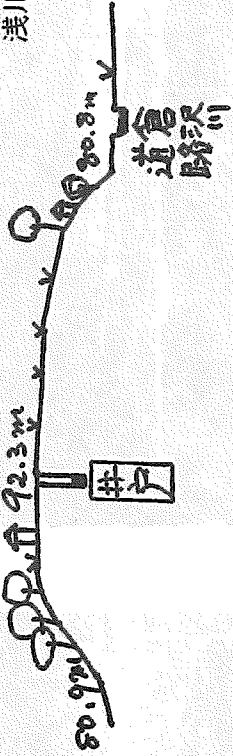


井戸 No. 6

由木宅・百草 1072



浅川右岸・丘陵東南端  
谷戸・台地  
標高 = m

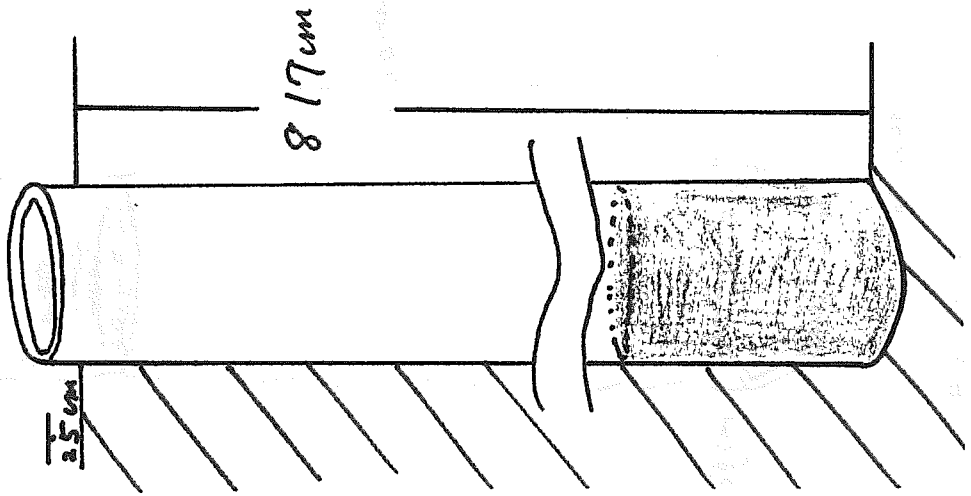


(東)



井戸 No. 7

篠崎宅・日野 101



沖積低地・多摩川と浅川のデルタ

標高 = m

72.7m

浅川

66m

67.5m

68m

69m

70m

71m

72.7m

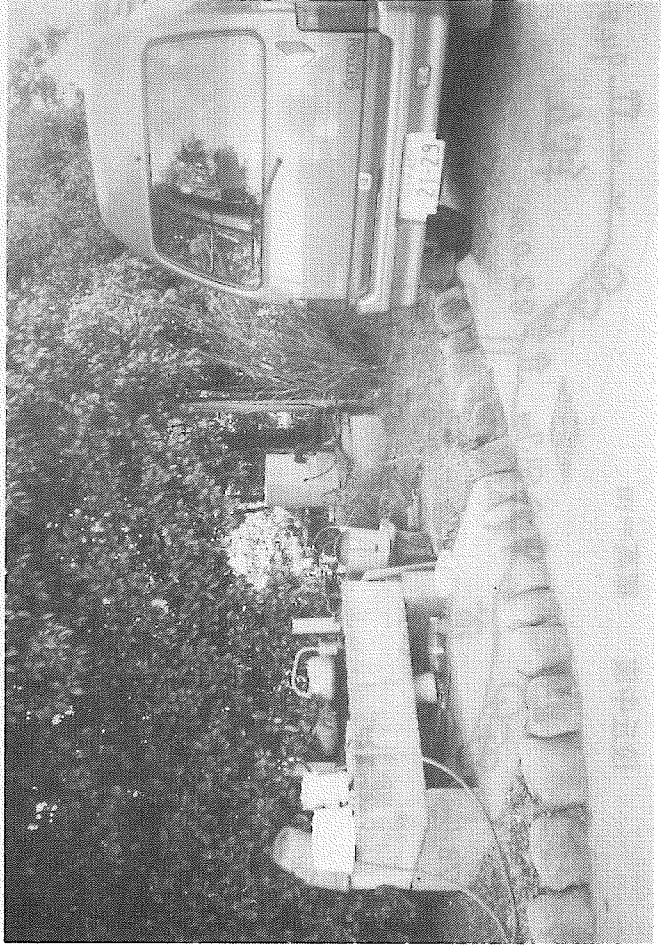
高速道

井戸

(東)

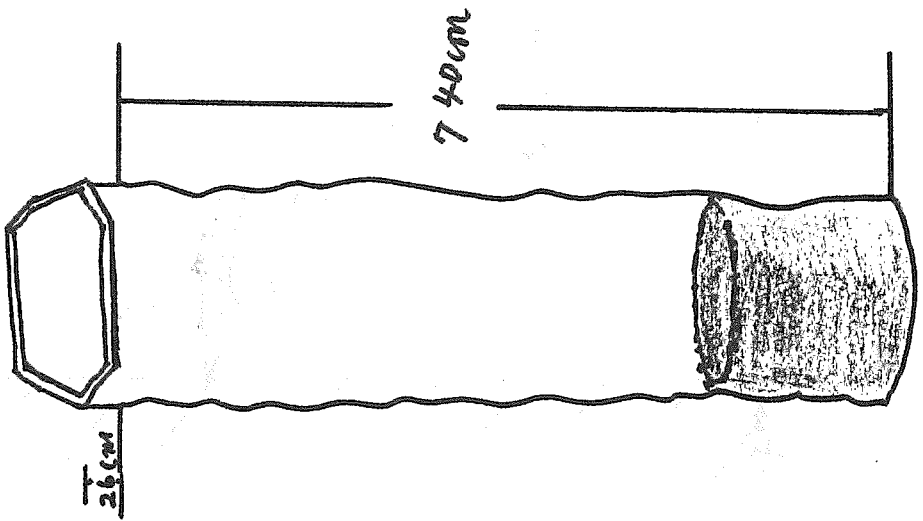
63m

多摩川

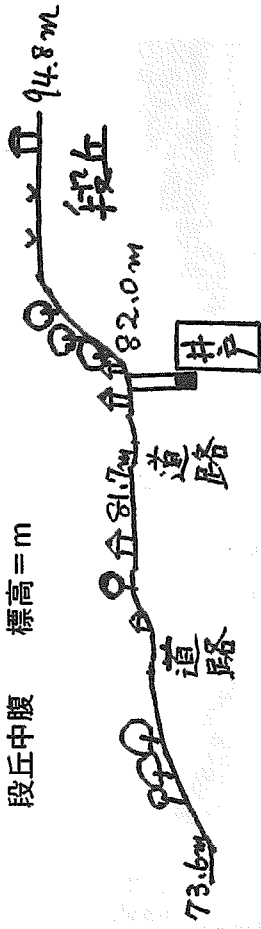


井戸 No. 8

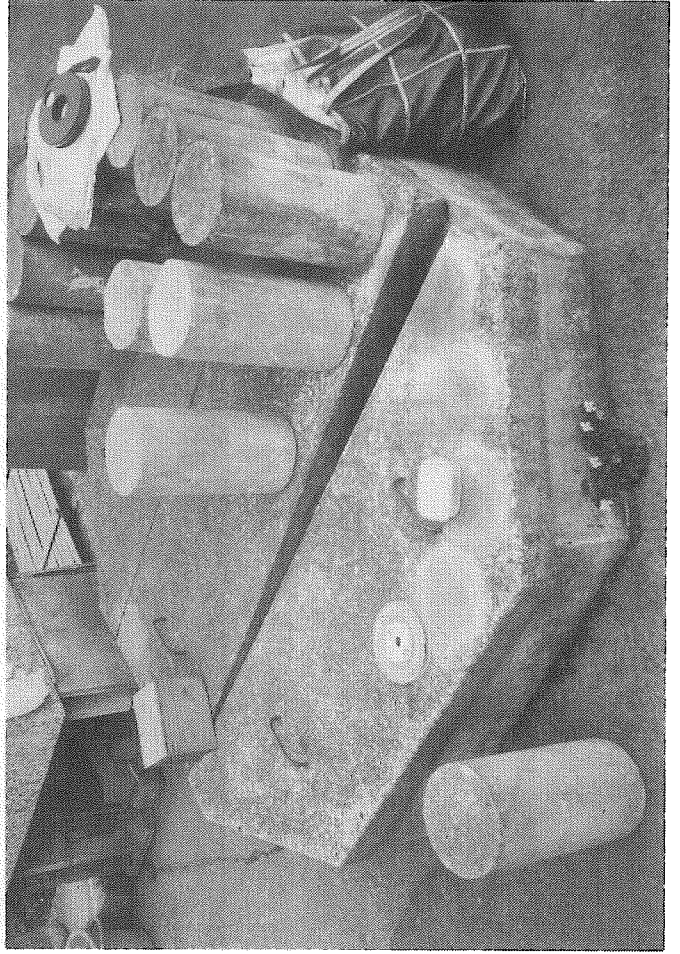
谷宅・日野 5985



段丘中腹 標高 = m



(東)

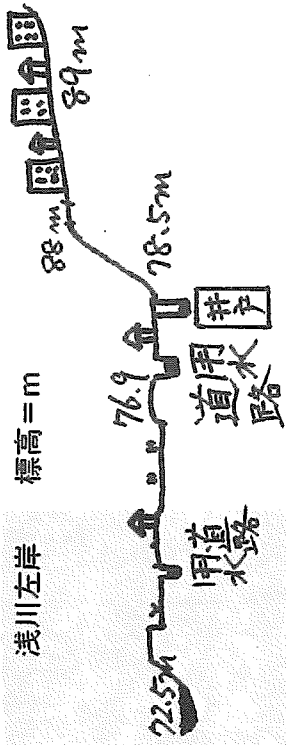


井戸 No. 9

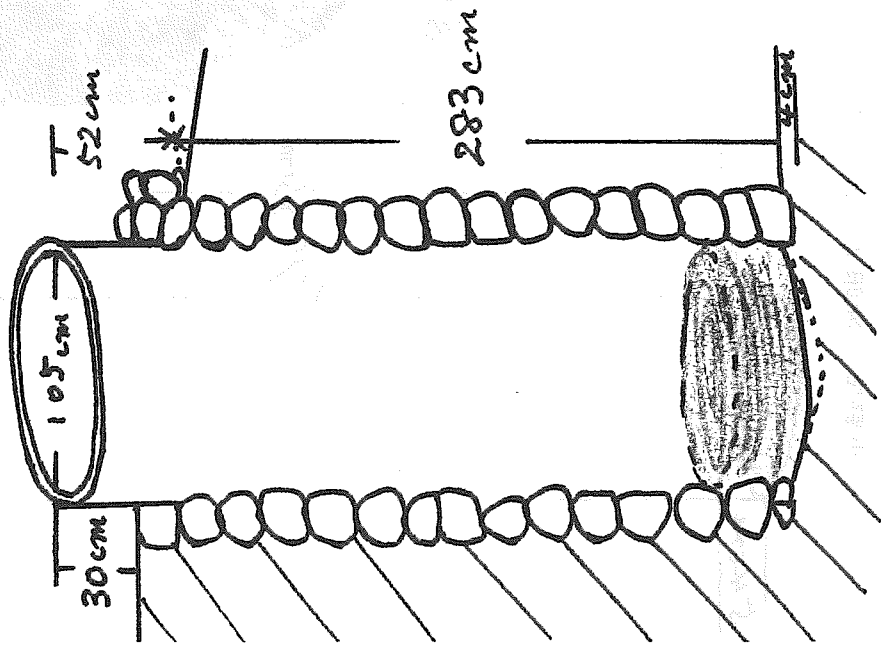
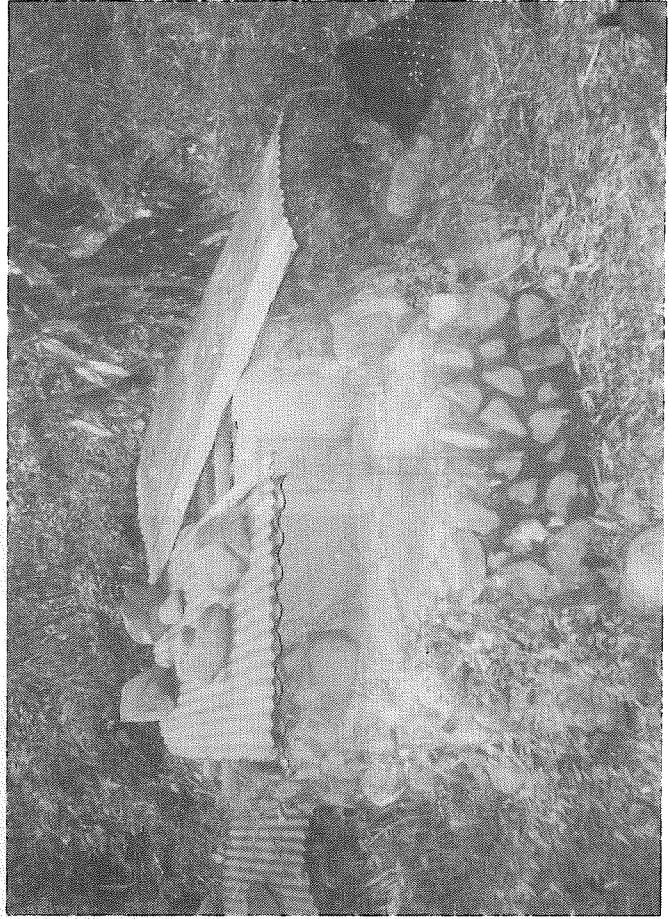
大貫宅・東豊田 1-52-5

浅川左岸

標高 = m

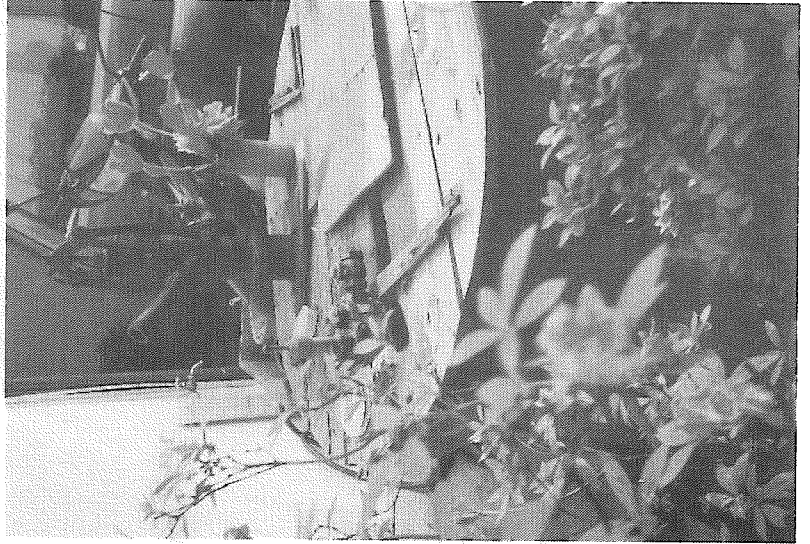
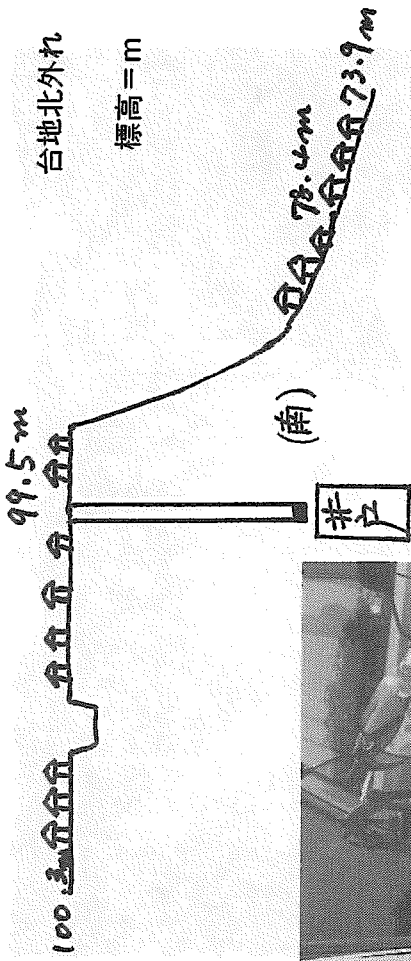
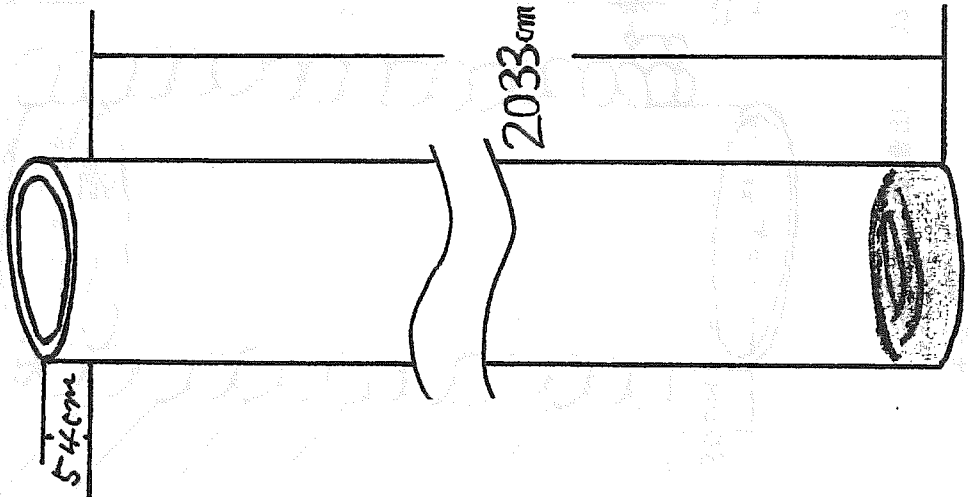


(北東)



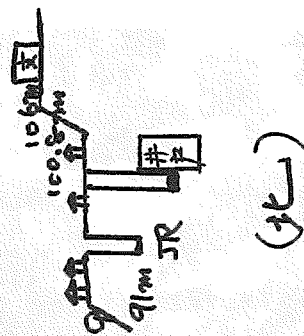
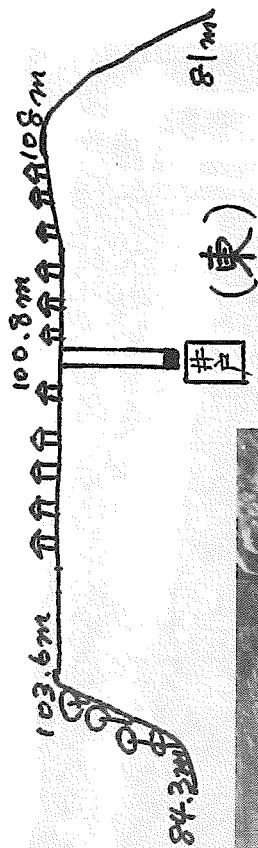
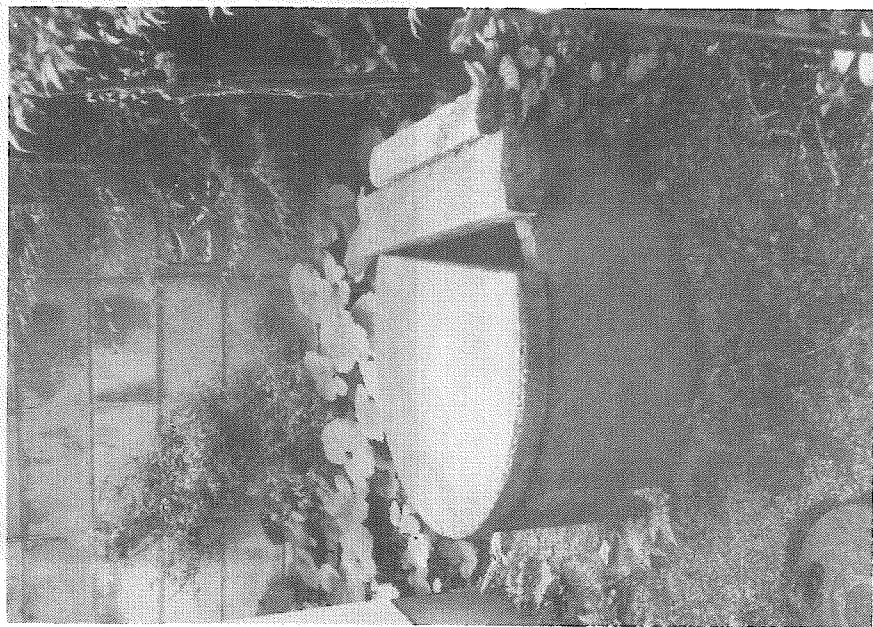
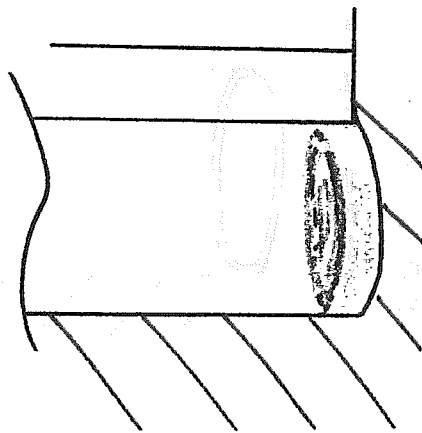
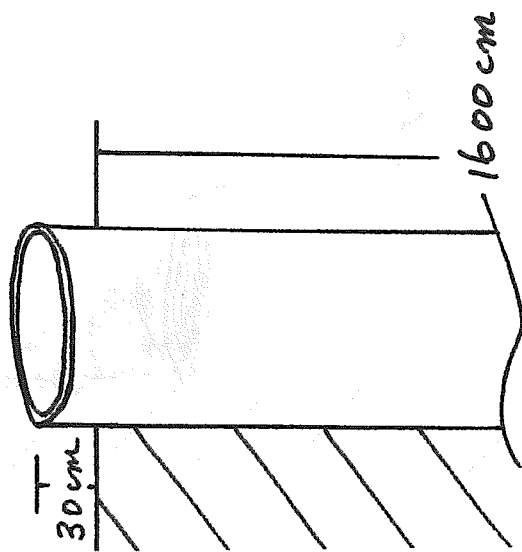
井戸 No. 10

小野宅・神明 4-25-11



井戸 No. 11

柴田宅・大坂上 4-5-17



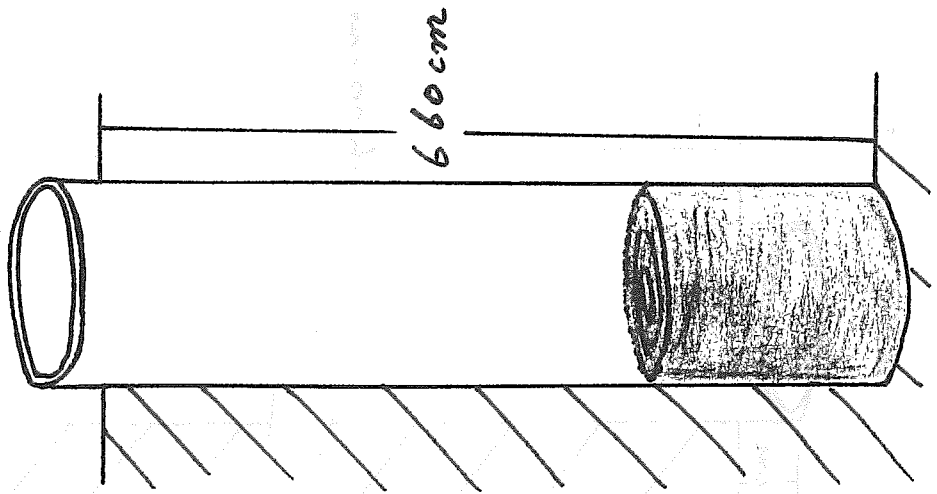
甲州街道寄り台地

標高 = m

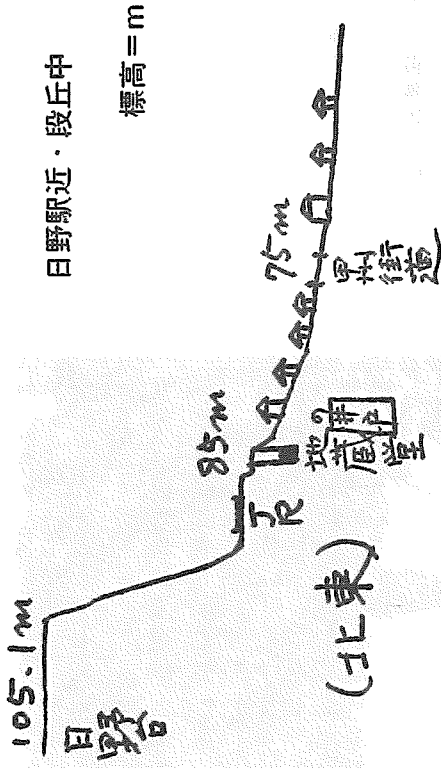


井戸 No. 12

地藏堂・日野本町3-5

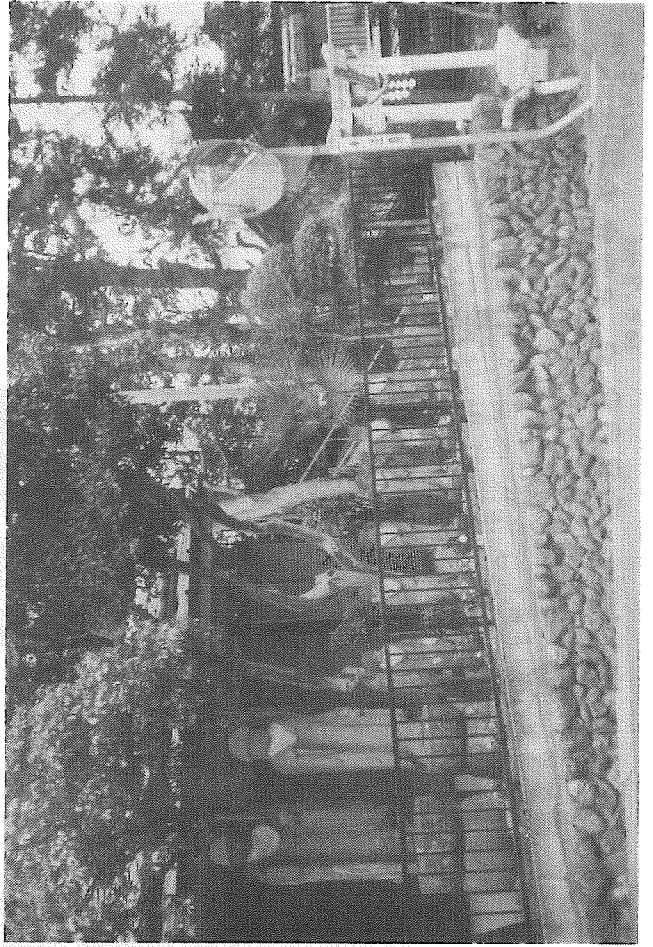


心懸子(井戸)



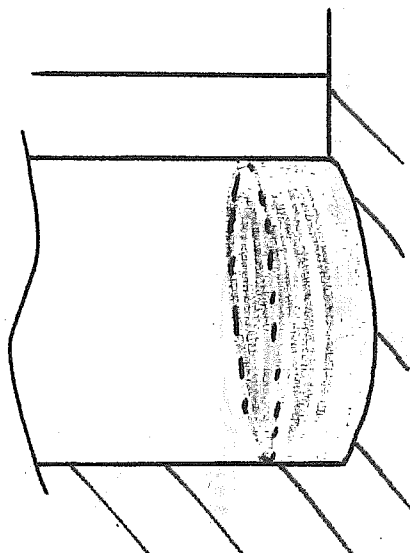
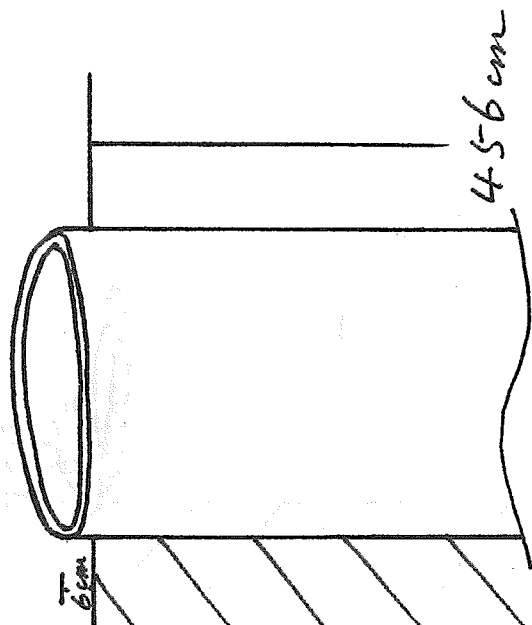
日野駅近・段丘中

標高 = m

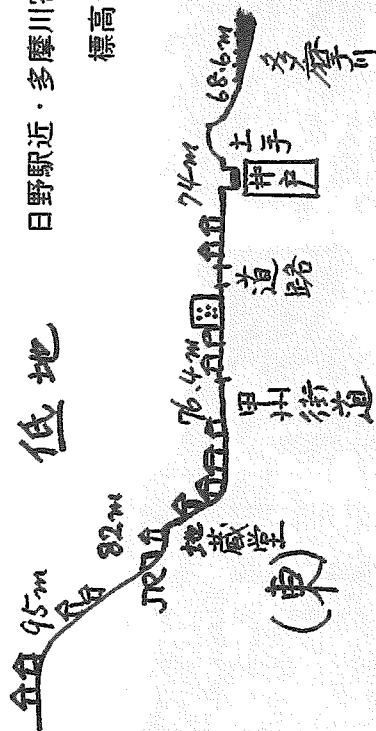


井戸 No. 13

天野宅・日野本町5-6-5

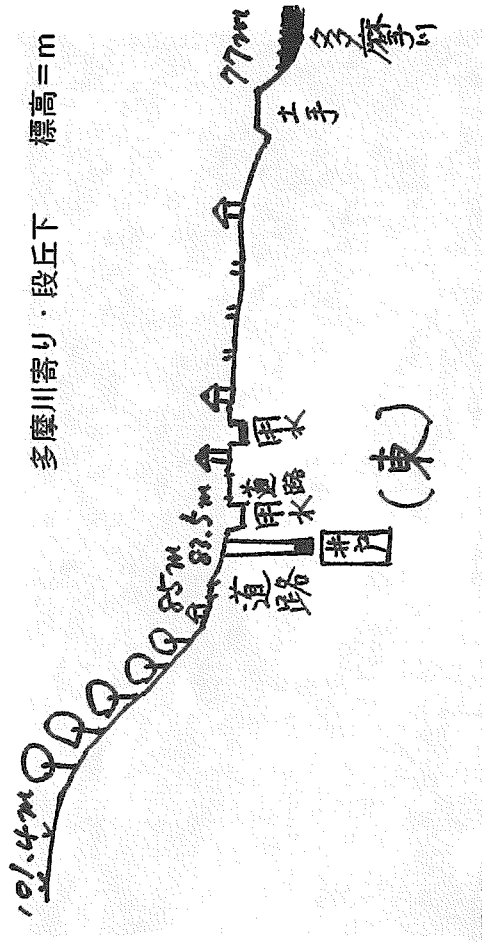
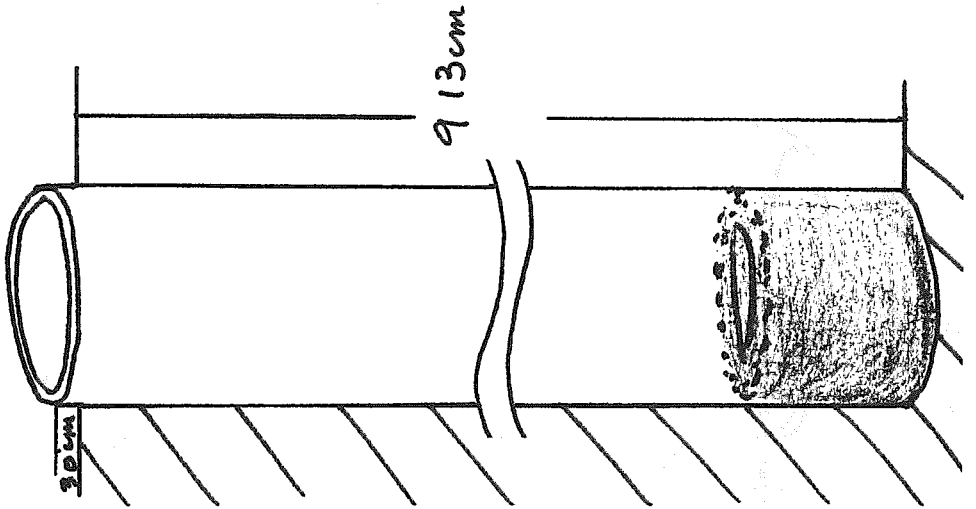


低地  
 日野駅近・多摩川寄り  
 標高 = m



井戸 No. 14

一ノ瀬宅・栄町5-18-2

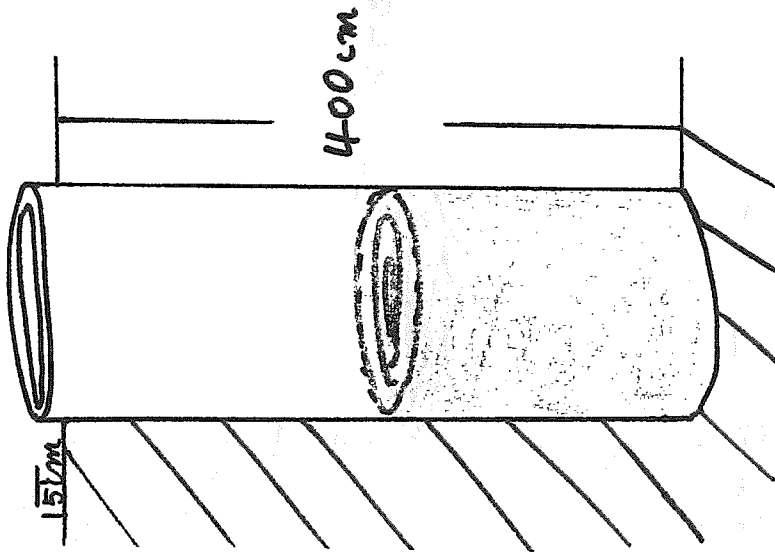


多摩川寄り・段丘下 標高 = m

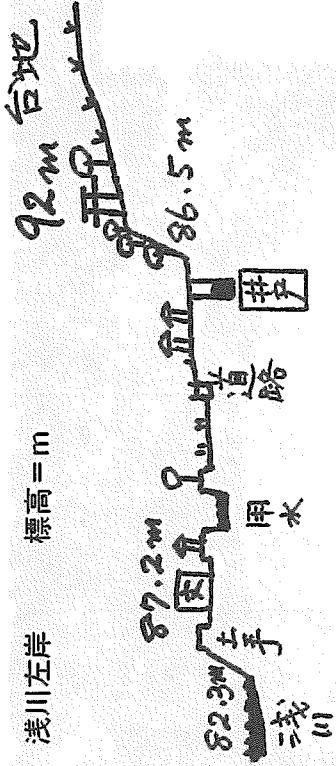


井戸 No. 15

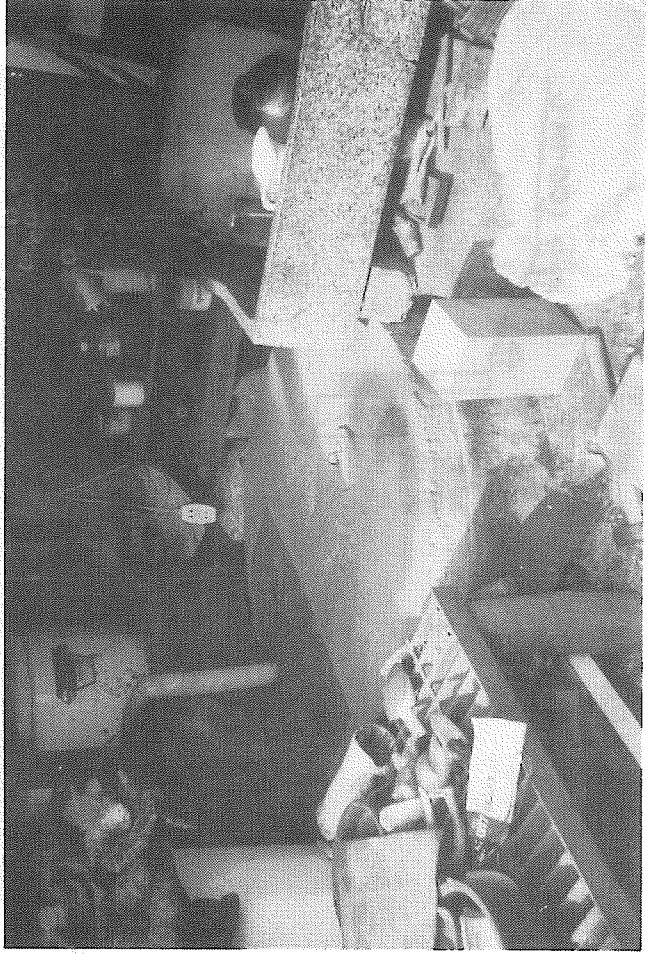
須藤宅・西平山1-22-6



浅川左岸 標高 = m

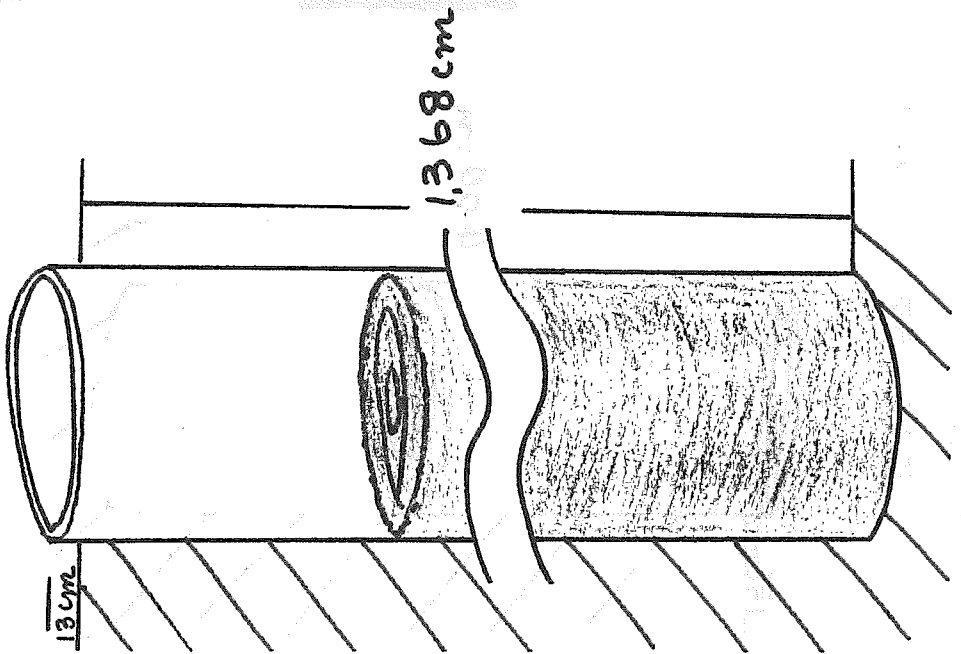


(東)

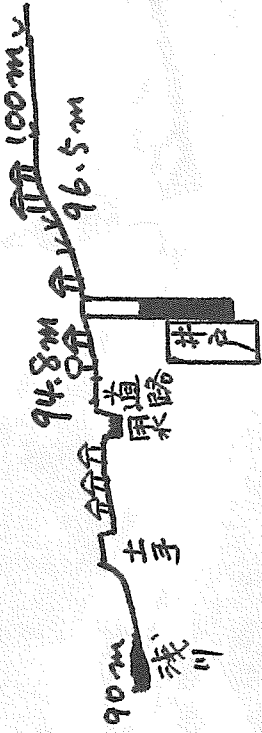


井戸 No. 16

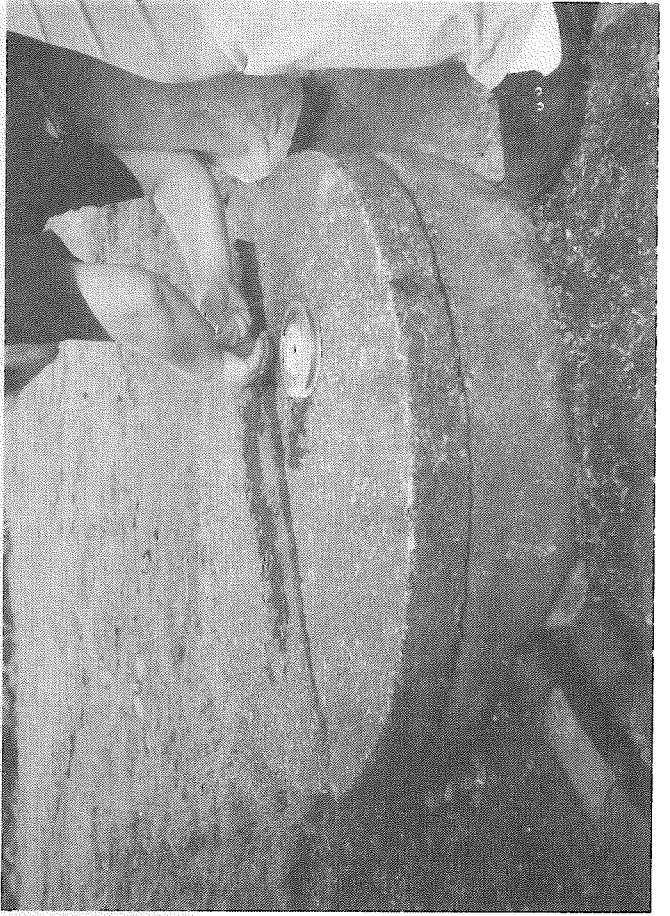
宮川宅・西平山 4-18-10



浅川左岸・沖積低地 標高 = m



(東)



## 4.6 丘陵・沖積地・台地の井戸

### (1) 丘陵の井戸 (No.1～6)

台地には比較的古くから人々が住み、街道筋に商いをする家も多かったので、井戸が多く残っていた。しかしこれも区画整理の進行とともに数を減らしている。丘陵地の開発は1995年頃から急速に進み、かつての「多摩のよこやま」の面影を一変させた。それも一因だが丘陵地の井戸は思ったより少なかった。かつては沢から引いたり、斜面に管をさしておくだけで湧水が出ていた。丘陵に建てられた家の庭や裏の崖には、必ず水が流れる細い溝が出来ていた。濃い緑の中の切り通しには濡れた岩肌や、粘土が固くなったような黄白色や緑に近い灰色の層が見える。そんな崖の中にはハッキリした穴がいくつか見られ、大雨のあと吹き出した水で周辺が削り取られた様子がよく判るものもある。

- ① 程久保川沿いの竹藪の近くに、小さな家のように井戸が囲ってあった。兼業農家のお宅は草花の多い手入れの行き届いたお庭を持ち、近くに寺ヶ背戸という橋の名があった。お尋ねすると、やはり、今は無いが大きなお寺があったそうだ。寺社は必ず水に困らない地の利を選んで造られている。丘陵の裾や沖積低地のこの辺りに用水が残っている。昔は湧き水の流れる小川だったという。
- ② この井戸は上記のような崖の近くにあった。ブロックで囲んだ小さい四角な穴から覗くと水面は波立つように動いて、見た目にもハッキリ流れている。裏の崖には水がしたり、サワガニが住んでいるのを見せて下さった。湿度は高いけれど、その小さな流れに生きものがいるのを楽しんで大事にしていらっしゃる。山裾のお宅は、毎回お訪ねするのが楽しい気さくなお宅だった。
- ③ 平山の宗印寺の下にある。昔の農道周辺に家が立ち並んだ様子で、道は狭いがお庭は広い。コノテガシワ（常緑高木）の傍に、一族総出で「兄と協力して作った」と申される四角い井戸枠に手こぎポンプがついたご自慢の井戸はある。近くに小さな鉄管を差し込んだ斜面から絶えず細い流れが小さな池に落ちていた。夏の夜、その湧水を庭にひいておくと「一面が水になる。凄いもんだねえ」、気さくで面倒みの良いご夫妻は、暗くなって伺うと外灯を必ず点けて下さった。丘陵が浅川に向かって裾を引く。その途中といった場所。昔から良い水が出ると言われ、雨の多いときは溢れる井戸もあるという。「不思議だねえ。こっちからほんのチョット沢筋の違う井戸なんだが、水も黒っぽくて味も落ちるって、友達から聞いたよ」と教えて下さった。
- ④ 丘陵のほぼ頂上、百草園近くにある。石垣を組んだ敷地の中に井戸が3ヶ所あり、その門に一番近い井戸は、直径10cm、高さ6～7cmの管に蓋がされているだけ。細い手計りの水位計で注意して降ろさないと、途中の汲み上げパイプにひっかかる。雨が多いと「石垣から水が吹き出す」とおっしゃるほど、近くは水脈が多いらしい。道端の崖に水抜きの管があり、絶えず湧水が流れ、近所の方が利用していた。裏の崖は雑木林で礫が多くたっぷり水を含んでいるようだ。ここからは聖蹟桜ヶ丘駅に出るのが近い。

- ⑤ いくつか見たことがある風景。日野で最後の谷戸田がある。ここに来ると、日野の原風景ってこんなところなのだろうと思う。篤農家の多いこの地でも古い専業農家。樹齢500歳といわれる榎が入口にある。裏山の斜面の下に井戸があった。使用されていないが、水は静かに上下している。色々な種類の違う作物を手がけ、研究熱心な奥さんと、無口で優しいご主人。二人とも働き者で、広い農地を切り盛りしている。どうしたら、こんな「農のある風景」を未来に残すことが出来るのだろうか。
- ⑥ 養鶏家としても知られるお家。母屋と仕事部屋の間に大きな井戸がある。若いご夫婦、そのご両親とともに休む暇なく働いていらっしゃる。秋には長芋畑でムカゴを摘ませて頂いたり、銀杏の実を頒けて頂いたり、広く豊かな農地の広がる丘陵は歴史的な遺構も多いと聞く。この井戸は他の井戸と違った動きをするので、糸を降ろすときいつも恐る恐るだった。前回と同じつもりでもスルスル降ろして電池を濡らして困ったことがあった。ここの卵は美味しいので周辺地域にも知られている。

## (2) 沖積低地の井戸 (No.7)

- ⑦ 今回の調査では唯一の沖積低地。しかも多摩川、浅川のデルタにあたるお宅で、ちょっとした森を思わせる屋敷林の一隅に井戸はある。手計りの水位計の糸が切れて、井戸水を掻い出す騒ぎにまでつきあって下さった。底の方に発見された水位計を役所の人が錨のように曲げた針金で吊りあげ皆が一斉に拍手という忘れられない思い出がある。その折、8m17cmの深さを持つ井戸の管のつなぎ目から茶色い固まりがぐるっと見えていた。よく見たら、細かい絡み合った木の根だった。風の谷のナウシカを思わせる情景は、木々の生命力と水の関係を裏付けるものとして私たちを感動させた。農業を殆ど使わない野菜を頒けて頂いた。

## (3) 台地の井戸 (No.8~16)

- ⑧ 段丘地の斜面の背に雑木林と竹林をめぐらし、東南向きに開けたハケの上に立つ古くからの農家の井戸。珍しく井戸の形が八角形である。大正の始めにはすでにあり、掘られた時期は不明。水位は安定。現在はモーターだが、昔は手押しポンプだった。風呂の水汲みは子供の仕事で、大変だったとご主人の話。また、以前は一面に田んぼで、あちこちに清水が湧き、ホタルもたくさん飛んだそうだ。
- ⑨ 家の裏手の斜面に大きな木々と竹林がある。その脇にある井戸は、江戸時代からのもので、口径が広く、丸石組がいかにも古そう。昔は3軒で使っていた。掘り抜き井戸を使っていたので、これはずいぶん前から使っていない。家の西側に道路用の大きな陸橋ができ、その橋脚工事の後、井戸の水量がぐんと少なくなった。以前には、梅雨や大雨のときには、噴き出すほどだった。もう一本、上総掘りの井戸があって、とてもいい水で飲み水に使っていたが、工事のときに潰された。非常に残念だったとのこと。水脈を切ってしまったらしく、橋の向こうの寺

の湧水も止まった。

- ⑩ 日野市の高い台地にあり、住宅地の中の井戸。平地の井戸に比べるとかなり深い。すぐ北側は崖になって、崖沿いに中央高速道が走っている。1965年頃当家がここに越してきた時には、すでに井戸があったが、4軒で使い、水涸れを起こしたことがある。1975年頃、水道が入り、現在は使っていない。
- ⑪ ⑩と同じ条件の台地にあるが、中央線を挟んで北側にある。1955年以降に掘った。鉄分が多くて、その上水が少なくて苦労した。1992年頃水道が入り、現在は使っていない。
- ⑫ 地藏堂裏は日野駅のホームでその間に井戸がある。地藏堂は地区集会場として利用され、表通りに六地藏がまつられている。地区役員の方の話によれば、昔は井戸の水が噴き上げていたが、今は減ってしまった。戦後は堂に人が住み井戸を使っていた。その後、ポンプが壊れて、1995年3月にポンプを取り替えるまで、2、30年間使っていなかった。また、地藏堂のあたりは大変よく水の湧く所で、用水には小魚やトンボ、シジミなどが多くいた。農家は米をといたり、洗い物をしたりして生活に欠かせなかった。駅前の用水は2mもの深さがあり、水量も豊富だった。
- ⑬ 中央線に沿った日野駅近く、台地が多摩川に向かってなだらかな傾斜を見せる所、大きな低い枠の井戸が広いお庭にある。重い蓋は一人でずらすことは不可能だった。屋敷の中にお稲荷様が奉られ、お正月は井戸の上に御幣とお餅が供えられている。古い農家で、村中で掘った井戸に深い愛着を持って話される。最近まで周辺には田が広がっていた。多摩川に向かう地下水だとのこと。水位の変動が少ない井戸だ。
- ⑭ 調査地点としては市域の北端、台地から急な坂が下がり、多摩川沿いに通る大きな道にぶつかる。車の往来が激しい一角。お年を召したご夫婦が住む静かなお宅で、母屋と風呂場をつなぐ屋根つきの水屋に井戸はあった。冬場にはモーターに毛布が掛けられ、小さなお地藏様のように見える。井戸はそれぞれ大事にされ生活の中で生きている。台地の上は東光寺大根の畑、最近葉ものの栽培も増え、黒々とした肥沃な土が気持ちよく広がり、かつてのノロシ台ともいわれる見晴らしのよい台地と、斜面林の緑は人を惹きつける。
- ⑮ 浅い井戸だが、水量は1年を通じて安定している。以前は井戸水も手が届きそうなところまであったが、半減したようだ。その家の北側は林に被われた斜面で、下に小さなお宮があり、湧水がある。昔、南側は一面田んぼで、湧水は豊富に出て、ホタルが多く飛んだ。お宮の続きの斜面は雑木林で、鮫陵源（現在の西平山団地あたりにあった料亭で、湧水のいけすで魚を飼っていた）から大名淵まで続いていた。平山橋上流左岸、川の中へせり出した崖の下に淵はある。
- ⑯ 浅川に近く、用水にも近い井戸。この井戸には3方向から水が流れ込んでいるようだ。上からの水の波紋が見える。水位は大きく変化するが、水量はある。大雨で川の水量が上がると、すぐに井戸の水位が上がるなど、川との関連が深い。



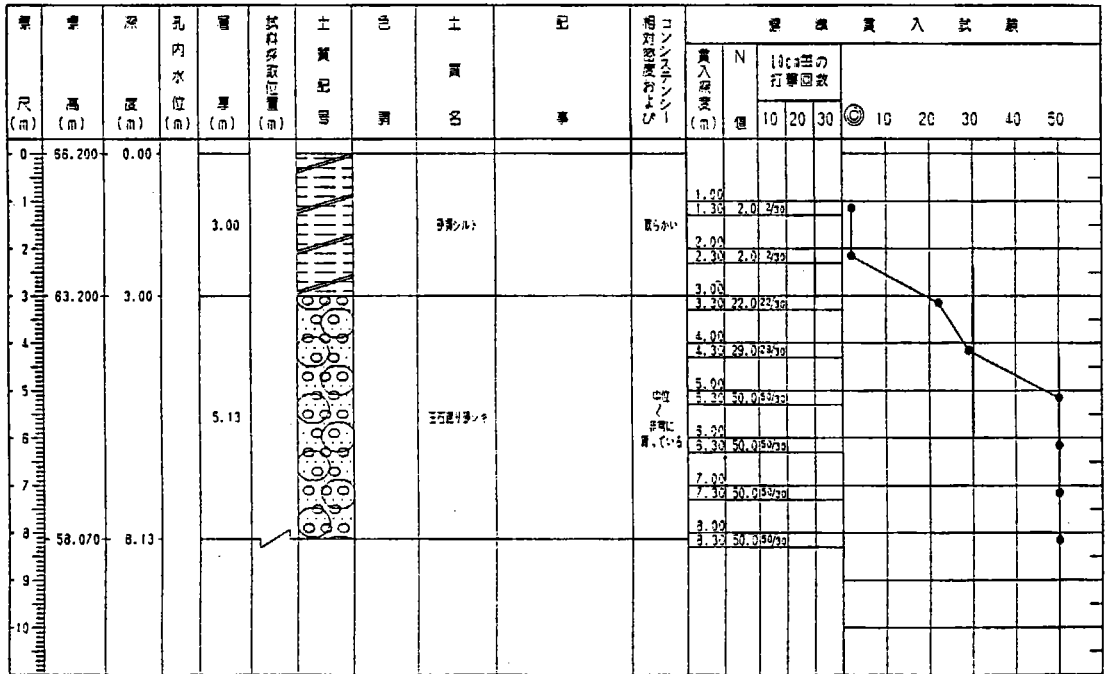
#### 4.7 各井戸の地図とその付近の柱状図

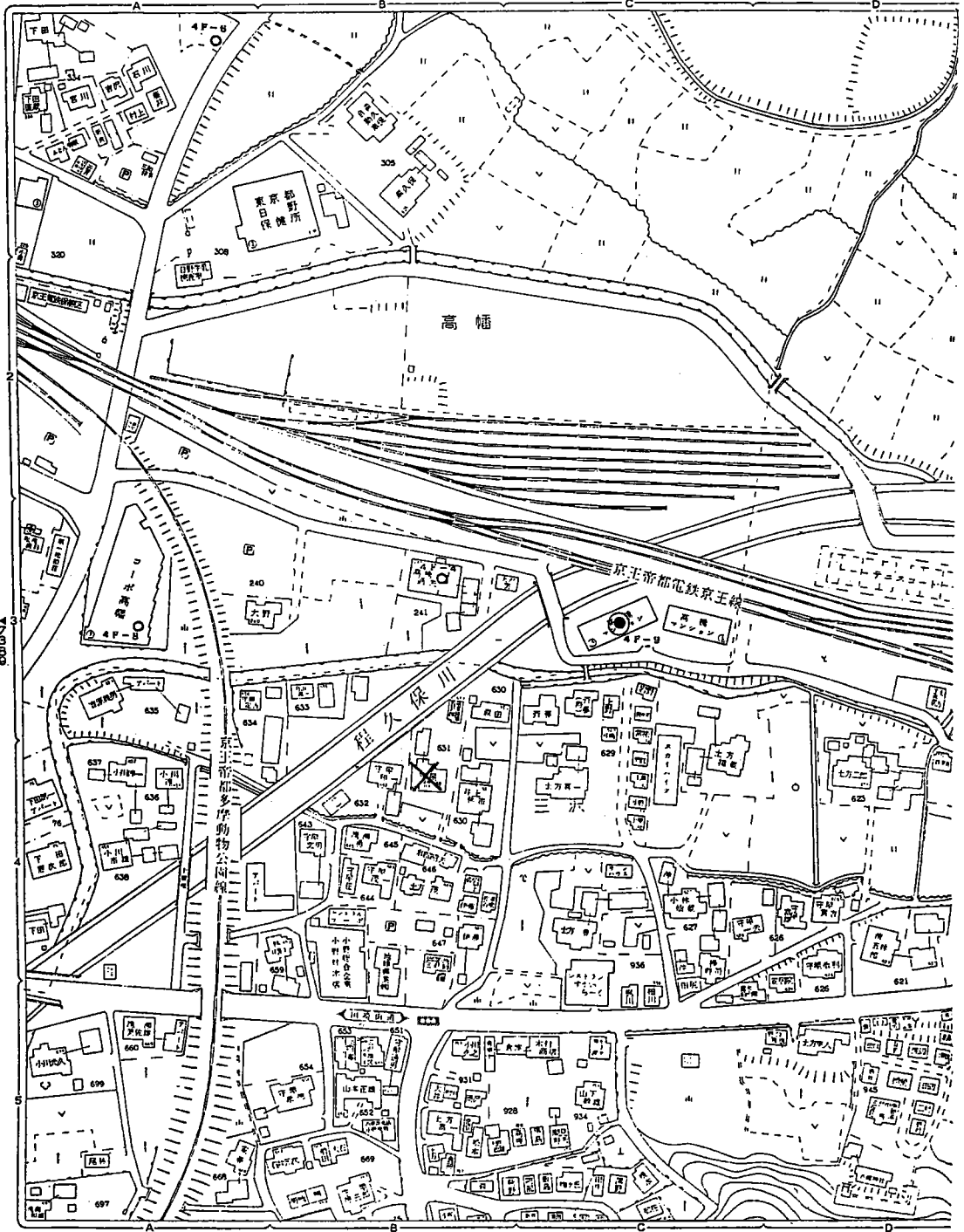
● ボーリング地点

× 井戸

#### 井戸 No. 1

ボーリング番号	No. 4F-9		備 考
費 用 名	日野町の地質		TW-シンワールサンプリング
所 在 地	東京都日野町高橋243-1		P-掘削試料採取
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		D-デニソンサンプリング
標 高	+56.200 m	基 礎	S-サンドサンプリング
ボーリング工法	ロータリー式	実施者	C-コア採取 T-トリプルサンプリング
			標準貫入試験はトンビ法によって行った。

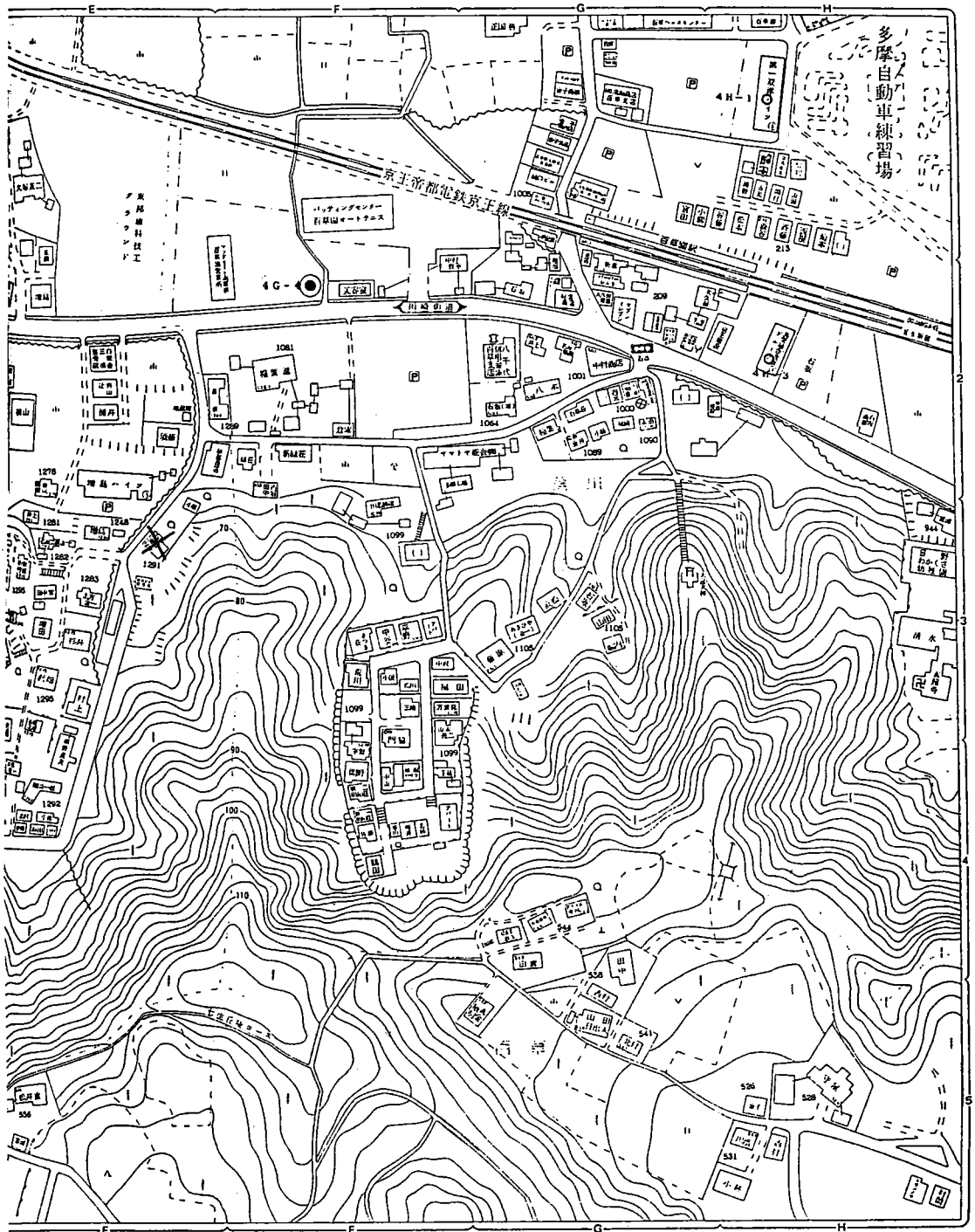




井戸 No. 2

ボーリング番号	No. 4G-4			備 考	
調査名	日野市の地質			TW-シンワールサンプリング	
所在地	東京都日野市落川1040			D-攪乱試料採取	
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			D-デニソンサンプリング	
標 高	+61.000 m	基準	TP	S-サンドサンプリング	
ボーリング工法	ロータリー式	実 施 者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング	
				標準貫入試験はトンビ法によって行った。	

深 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	孔 内 水 位 (m)	層 厚 (m)	試 料 採 取 位 置 (m)	土 質 記 号	色 調	土 質 名	記 事	相 対 貫 入 量 お よ び コ ン シ ス テ ン シ ー	標 準 貫 入 試 験												
											貫 入 深 度 (m)	N	12.7mmの 打撃回数										
													10	20	30	10	20	30	40	50			
0	61.000	0.00		1.10				粘土		-													
1	59.900	1.10		2.20				粘土層部、シルト		層の厚い 部分に多い	1.15												
2											2.15	2.0	25										
3	57.700	3.30		0.50				シルト		中	3.15												
4	57.200	3.80									3.45	19.0	37										
5	56.700	4.30		1.40				粘土層部、シルト		中 層に 多い	4.15												
6											4.45	11.0	17										
7	55.300	5.70		4.30				シルト		層中に 多い	5.15												
8											5.45	50.0	55										
9				51.000							7.15												
10											7.45	50.0	55										
											8.15												
											8.45												
											9.15												
											9.45												



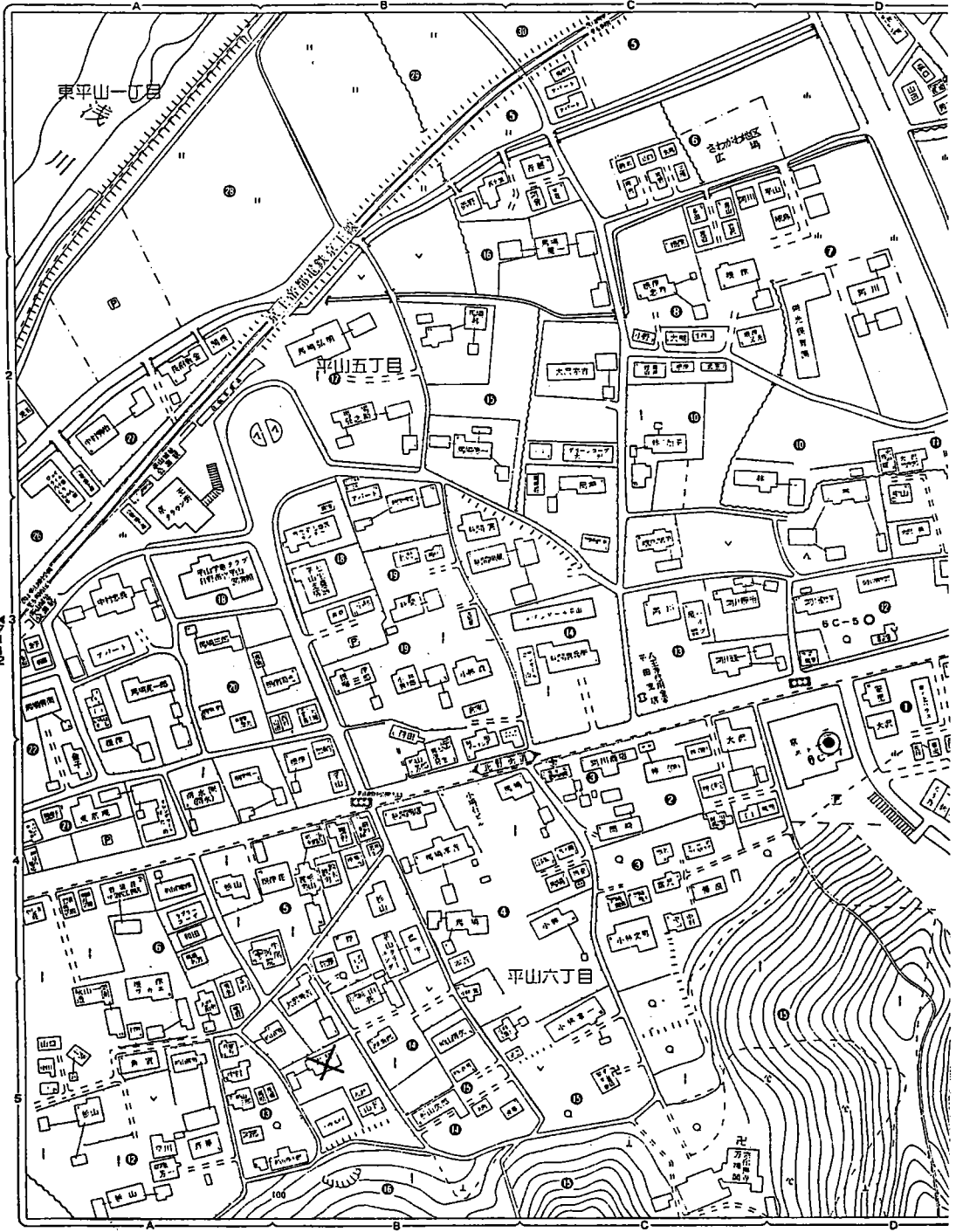
77531

井戸 No. 3

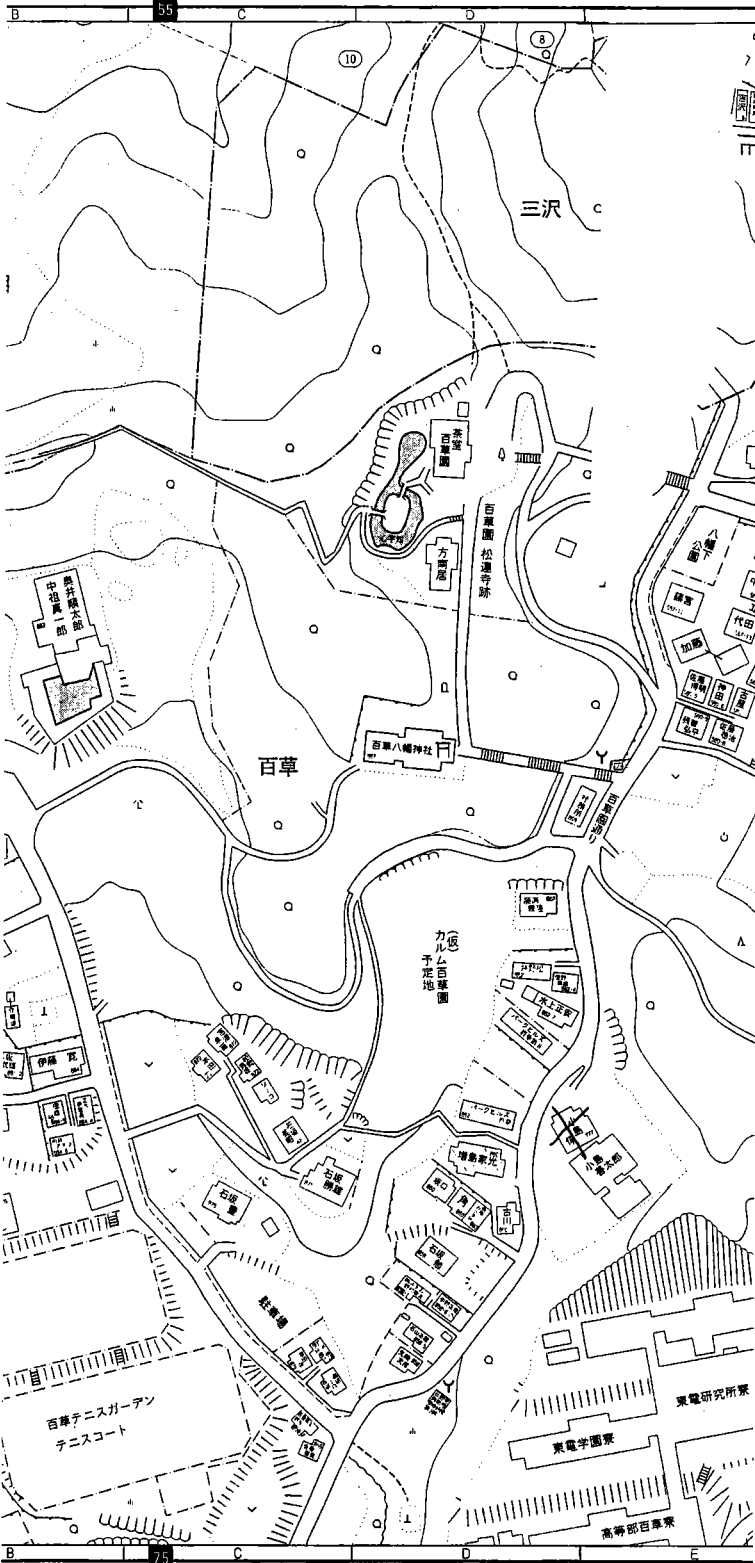
ボーリング番号	No. 6C-7			備 考
調査名	日野町の地質			TW-シンワールサンプリング
所在地	東京都日野市平山6-1-9			P-攪乱試料採取
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			D-デニソンサンプリング
標 高	+93.000 m	基準	TP	S-サンドサンプリング
ボーリング工法	ロータリー式	実施者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング
				標準貫入試験はトンビ法によって行った。

深 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	孔 内 水 位 (m)	層 厚 (m)	試 料 採 取 位 置 (m)	土 質 記 号	色 調	土 質 名	配 率	相 対 湿 度 お よ び 液 性 指 数	標 準 貫 入 試 験											
											貫 入 深 度 (m)	N 値	10cmの 打撃回数			10 20 30 40 50						
													10	20	30	10	20	30	40	50		
0	93.000	0.00		1.50				粘土		中硬	1.00											
1	91.500	1.50		1.35				粘土		中硬	2.00											
2	90.150	2.85		1.75				ローム質粘土		中硬	3.00											
3	88.400	4.60		0.30				砂質シルト		軟弱	4.00											
4	88.100	4.90		1.20				シルト質砂		非常に弱い	5.00											
5	86.900	6.10		2.05				中砂		非常に弱い	6.00											
6	84.850	8.15		2.14				砂		非常に弱い	7.00											
7										非常に弱い	8.00											
8										非常に弱い	9.00											
9										非常に弱い	10.00											
10	82.710	10.29								非常に弱い	10.30											

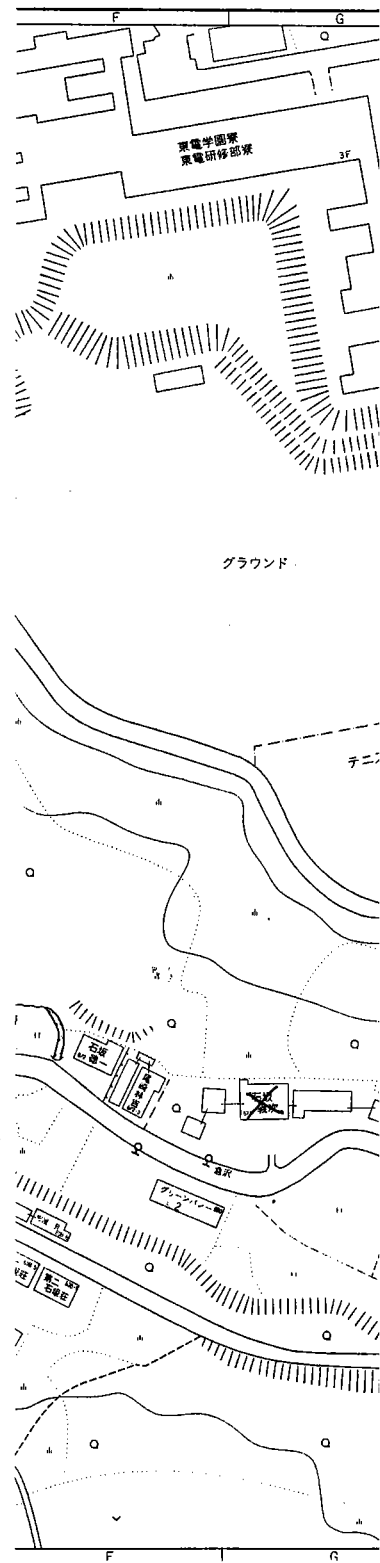
日野市



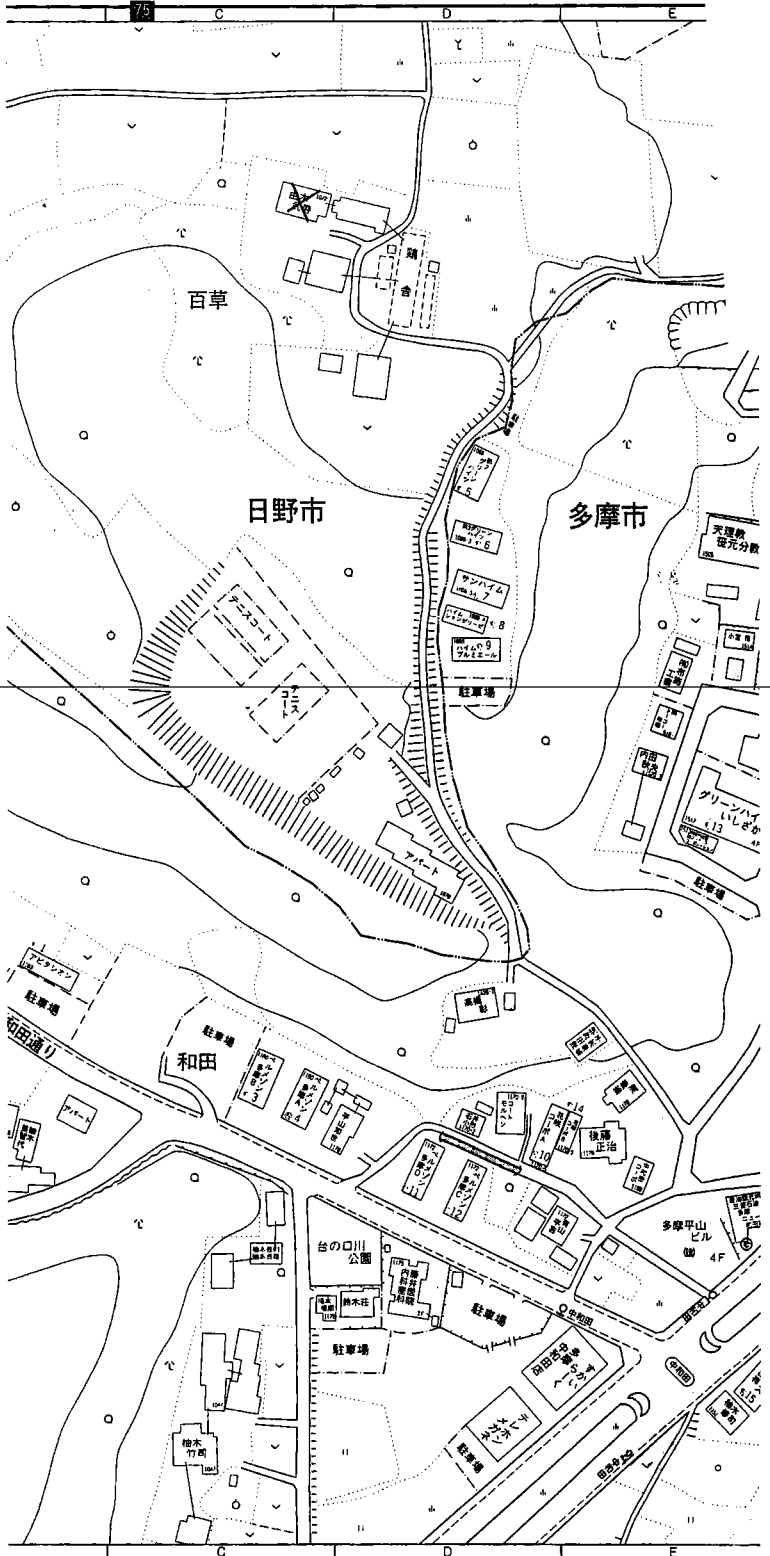
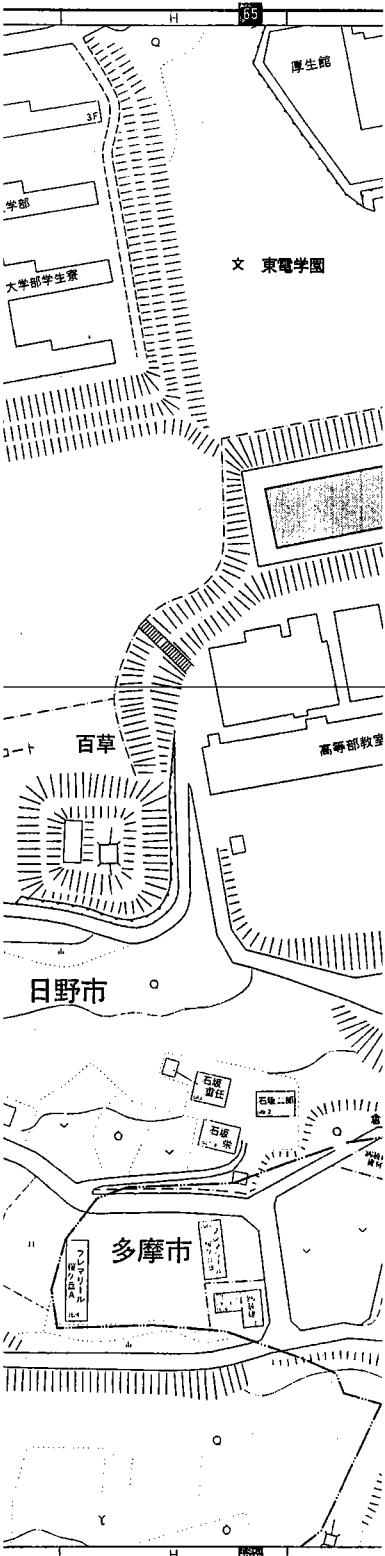
井戸 No. 4



井戸 No. 5



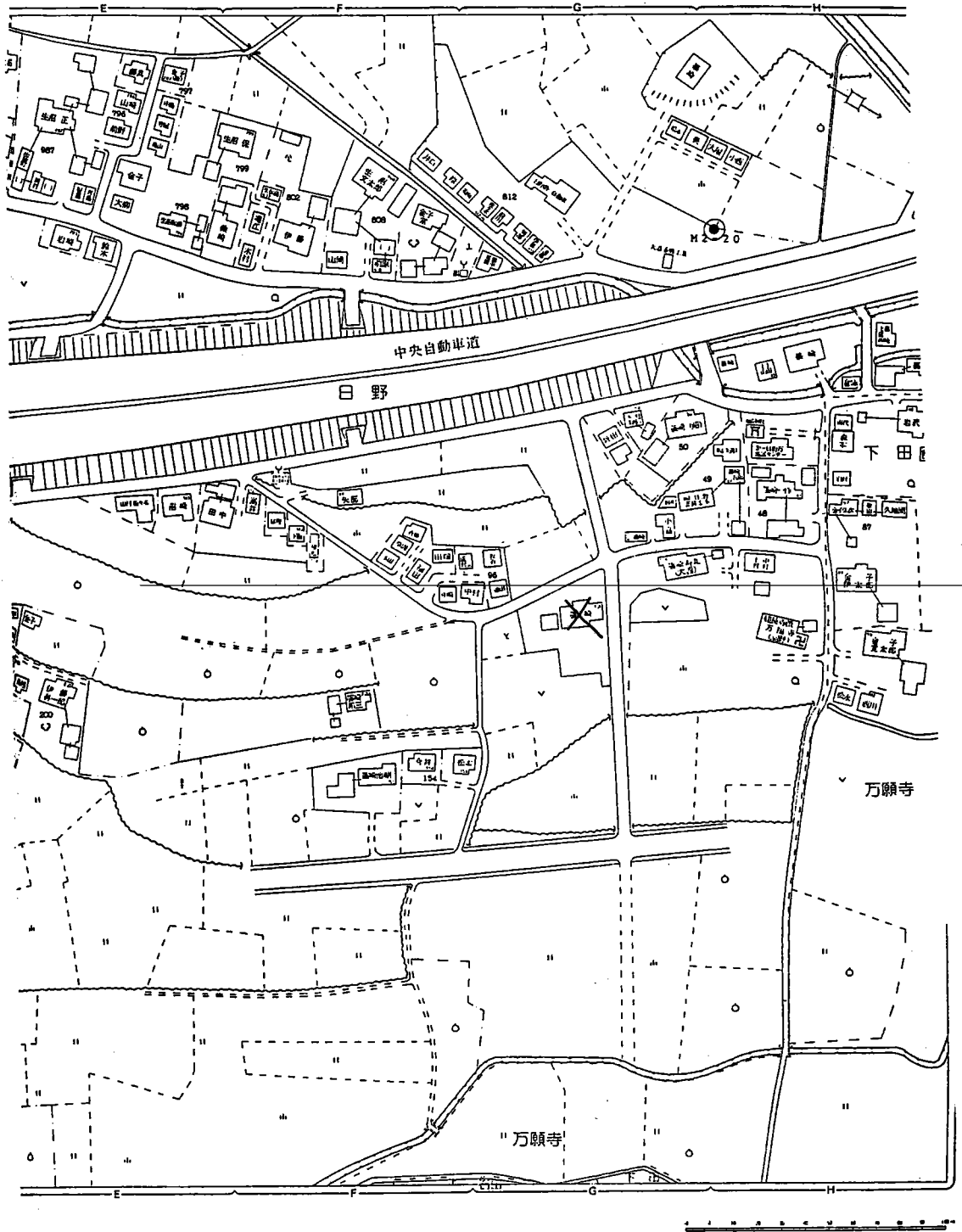
井戸 No. 6





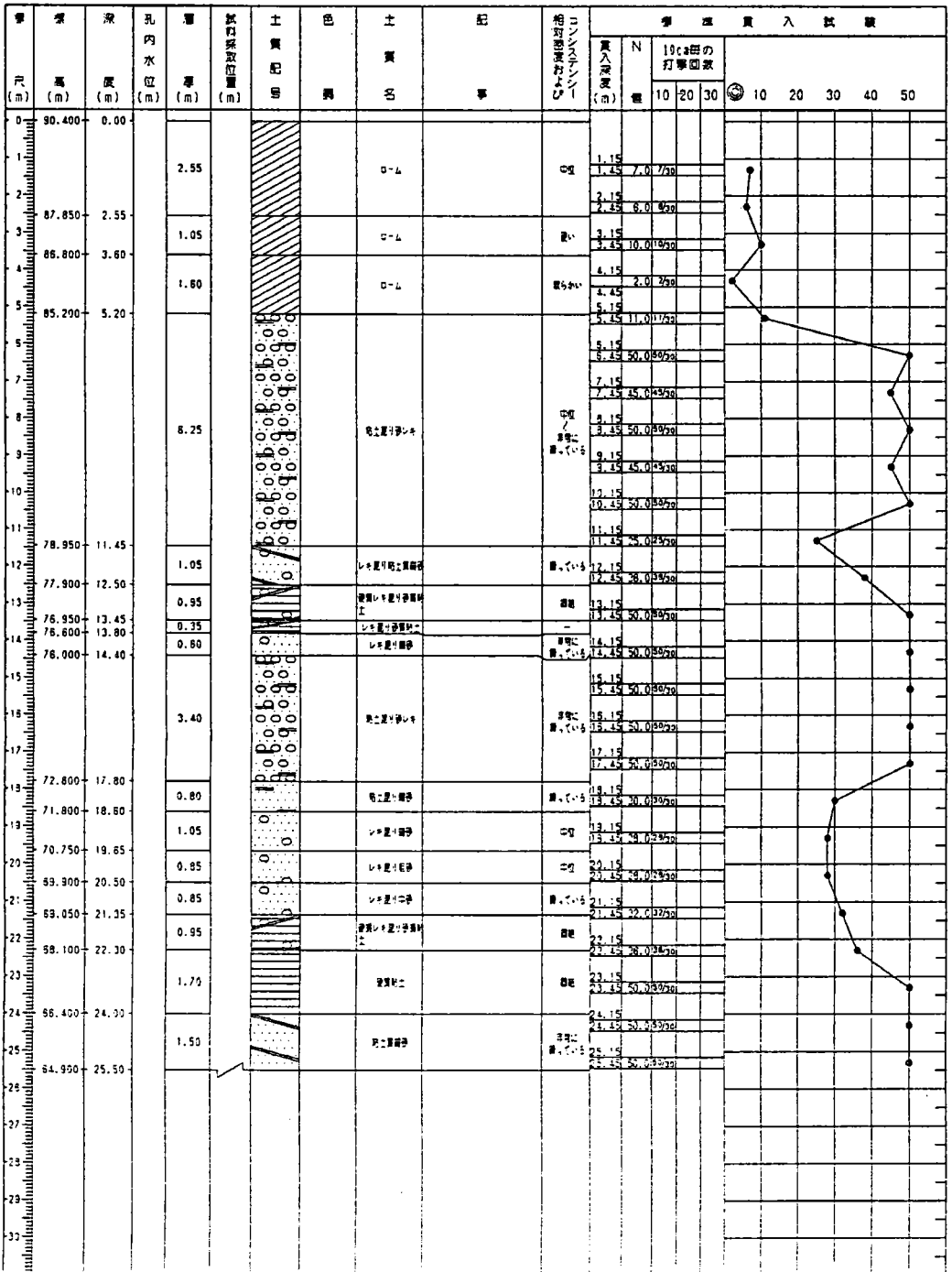
井戸 No. 7

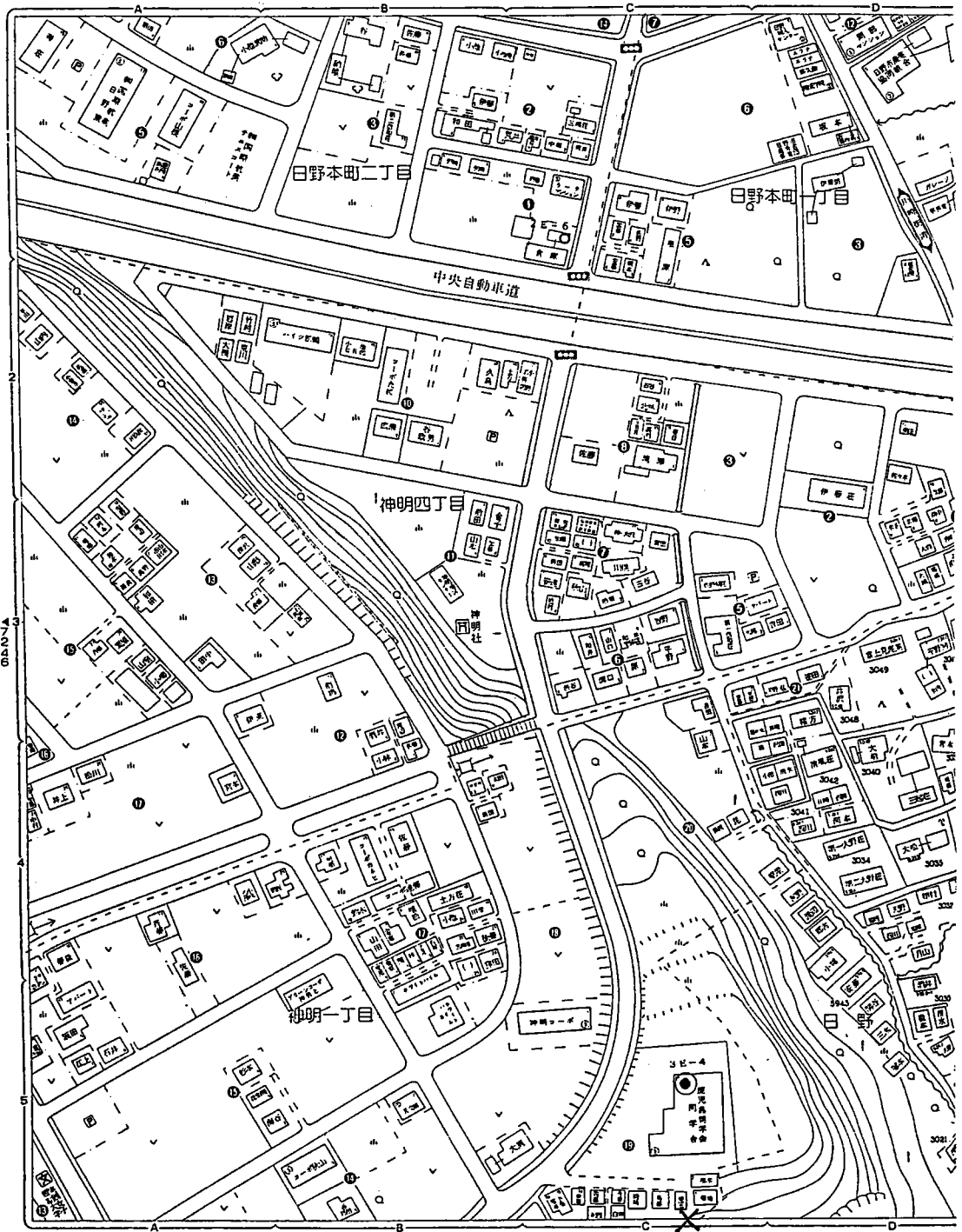
ボーリング番号		No. M2-20						
調査名		万歳等第二地区地質調査委託業務						
所在地		東京都目黒区万歳第一地区区画整理地区内						
調査年月日		平成 1 年 2 月 17 日 ~ 平成 1 年 2 月 17 日						
標高		66.21 m		基点		TP		
ボーリング工法		ロータリー式		美 白 香		管 井 径 之		
深 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	層 厚 (m)	取 付 管 径 (mm)	土 質 記 号	色 質	土 質 名	記 事
0	66.21	0.00						
10								
20								
30								
40								
50								
60								
70								
80								
90								
100								
110			2.20			暗茶褐色	埋 土	全体にローム質土 硬分および瓦礫混入 粒径 2~200 mm 9.6~2.2 m 層褐色か ら暗茶褐色に変化
120								
130								
140								
150								
160								
170								
180								
190								
200								
210								
220	64.01	2.20						
230								
240			0.40			暗黄褐色	玉石混り砂層	粒径 2~40 mm 色変化あり
250								
260	63.61	2.60						
270								
280								
290								
300								
310								
320								
330								
340								
350								
360								
370								
380								
390								
400								



井戸 No. 8

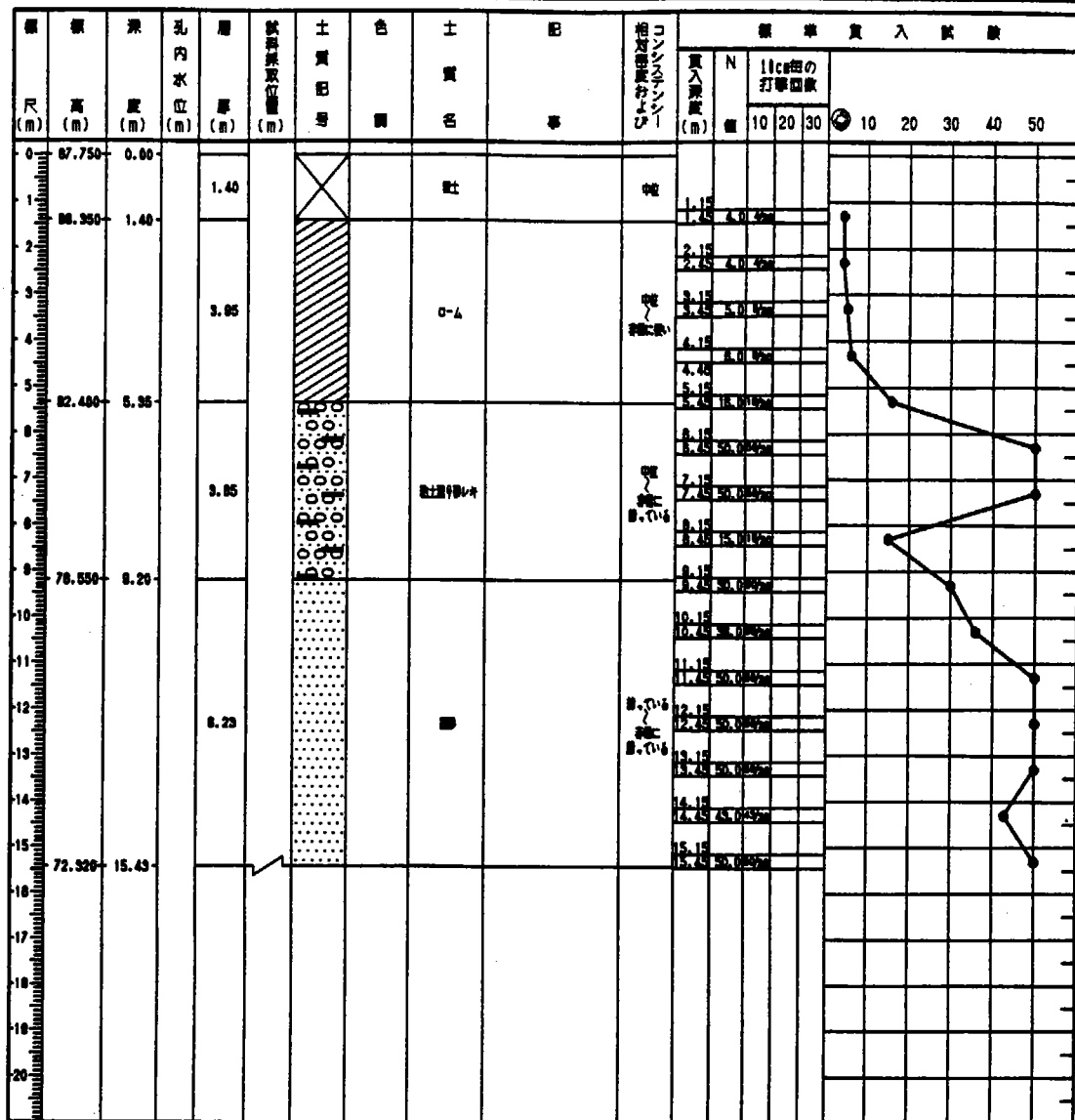
ボーリング番号	No. 3E-4		調査種別	
調査名	日野町の地質		TW-シフウォールサンプリング	
所在地	東京都日野町		P-撓曲試験採取	
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		D-デニンサンプリング	
標高	+90.400 m	基準	S-サンドサンプリング	
ボーリング工法	ロータリー式	実施者	TP	
			C-コア採取 T-トリプルサンプリング	
標準貫入試験はトンビ法によって行った。				

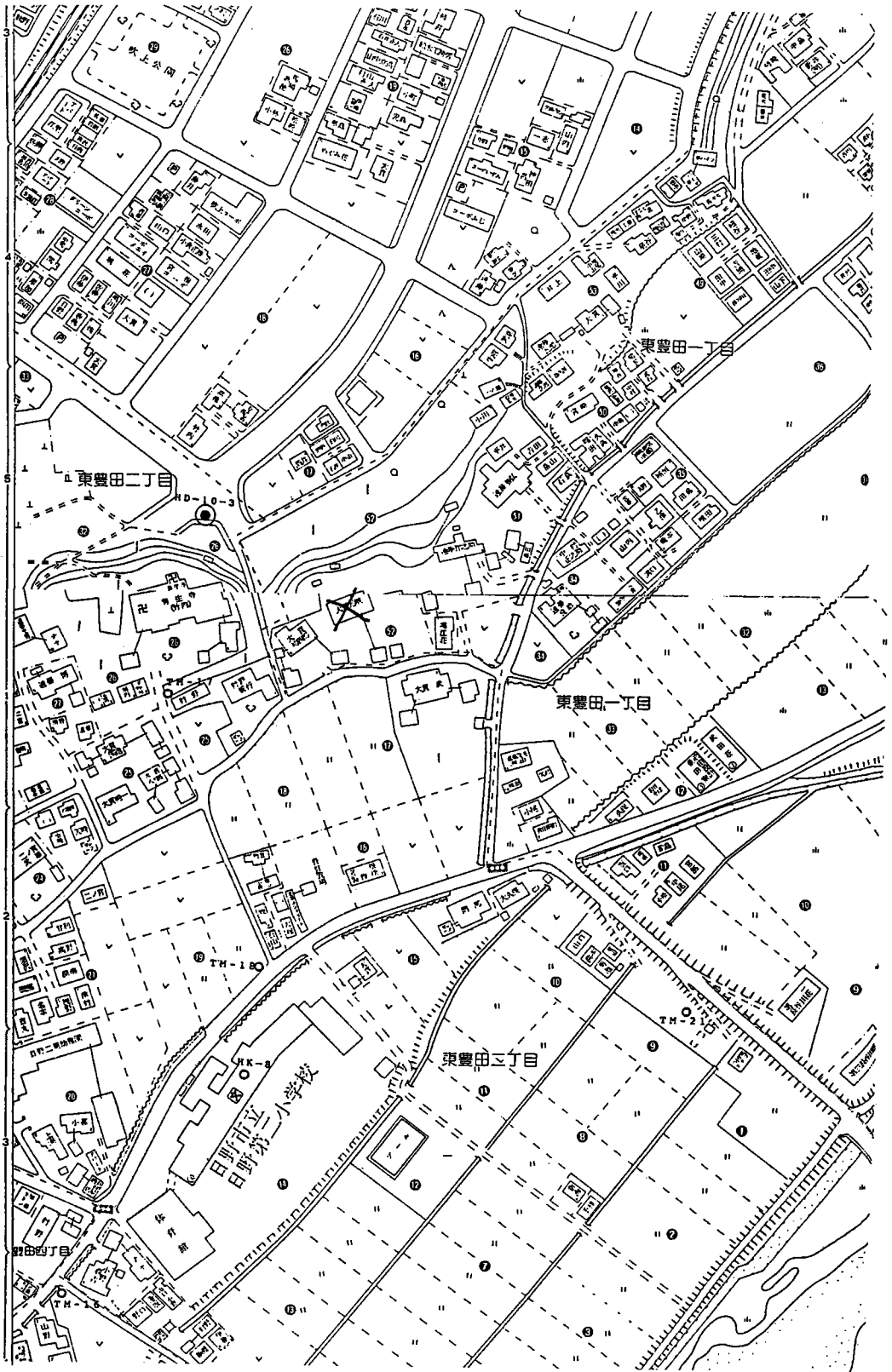




井戸 No. 9

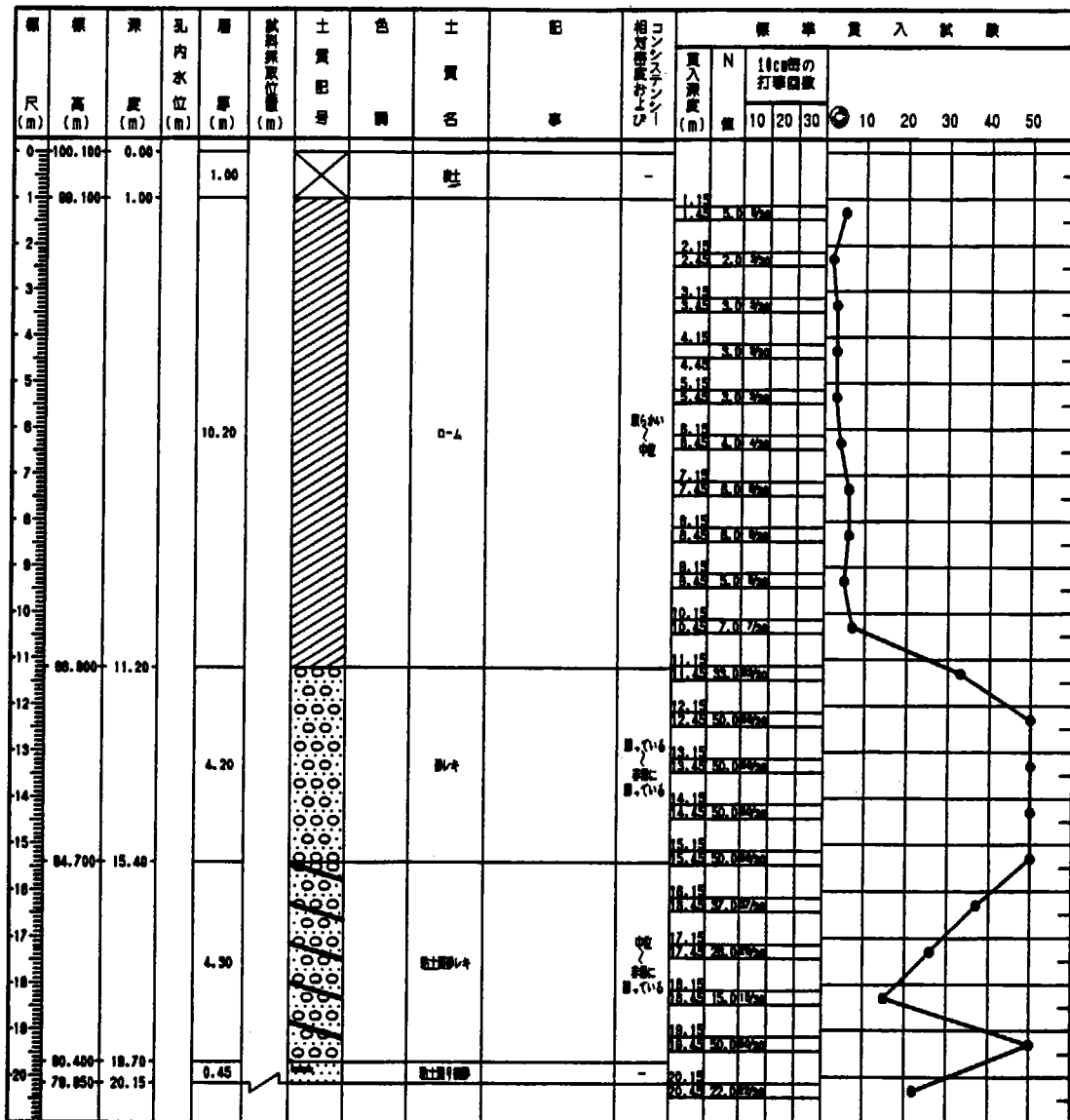
ボーリング番号	No. HD-10-3			備考
調査名	日野市の地質			TW-シミュールサンプリング
所在地	東京都日野市			P-洗孔試料採取
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			D-デニンサンプリング
標高	+87.750 m	基準	TP	S-サンドサンプリング
ボーリング工法	ロータリー式	調査者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング
標準貫入試験はトンビ法によって行った。				

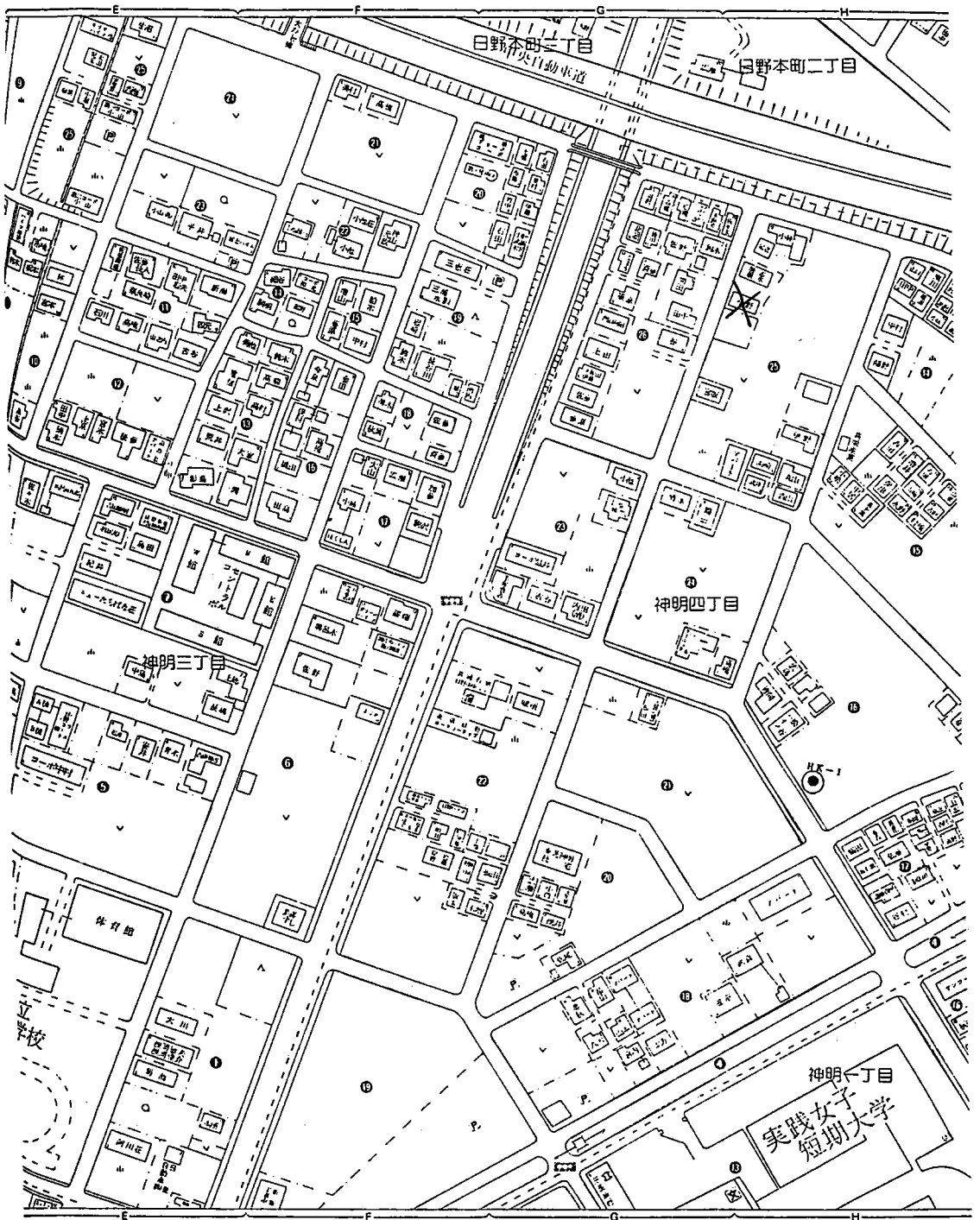




井戸 No.10

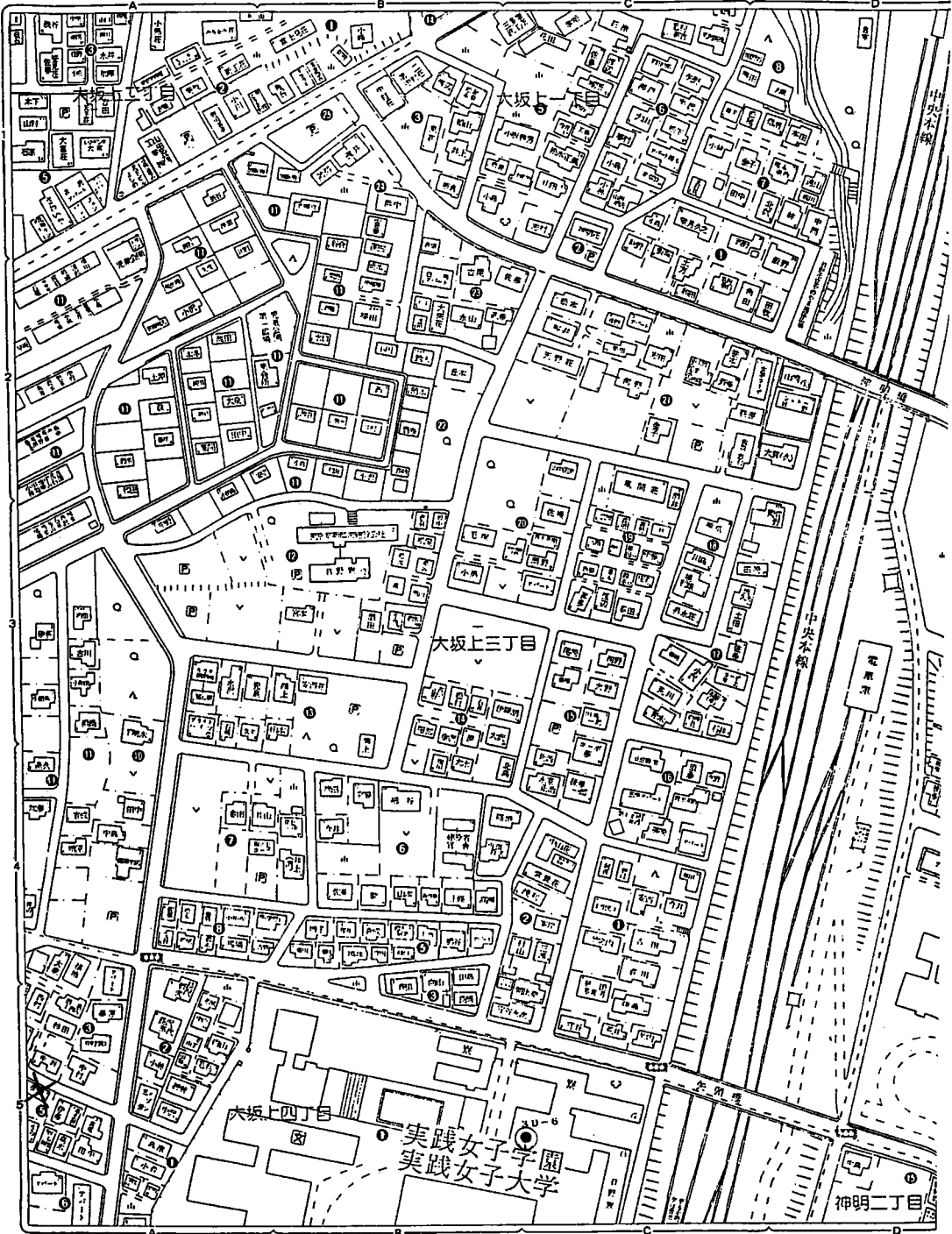
ボーリング番号	No. HK-1			備 考	
調査名	日野市の地質			TW-シミュールサンプリング	
所在地	東京都日野市神明4-16-1			P-洗孔試験採取	
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			D-デニソンサンプリング	
標 高	+100.100 m	基準	TP	S-サンドサンプリング	
ボーリング工法	ロータリー式	業者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング	
				標準貫入試験はトンビ法によって行った。	







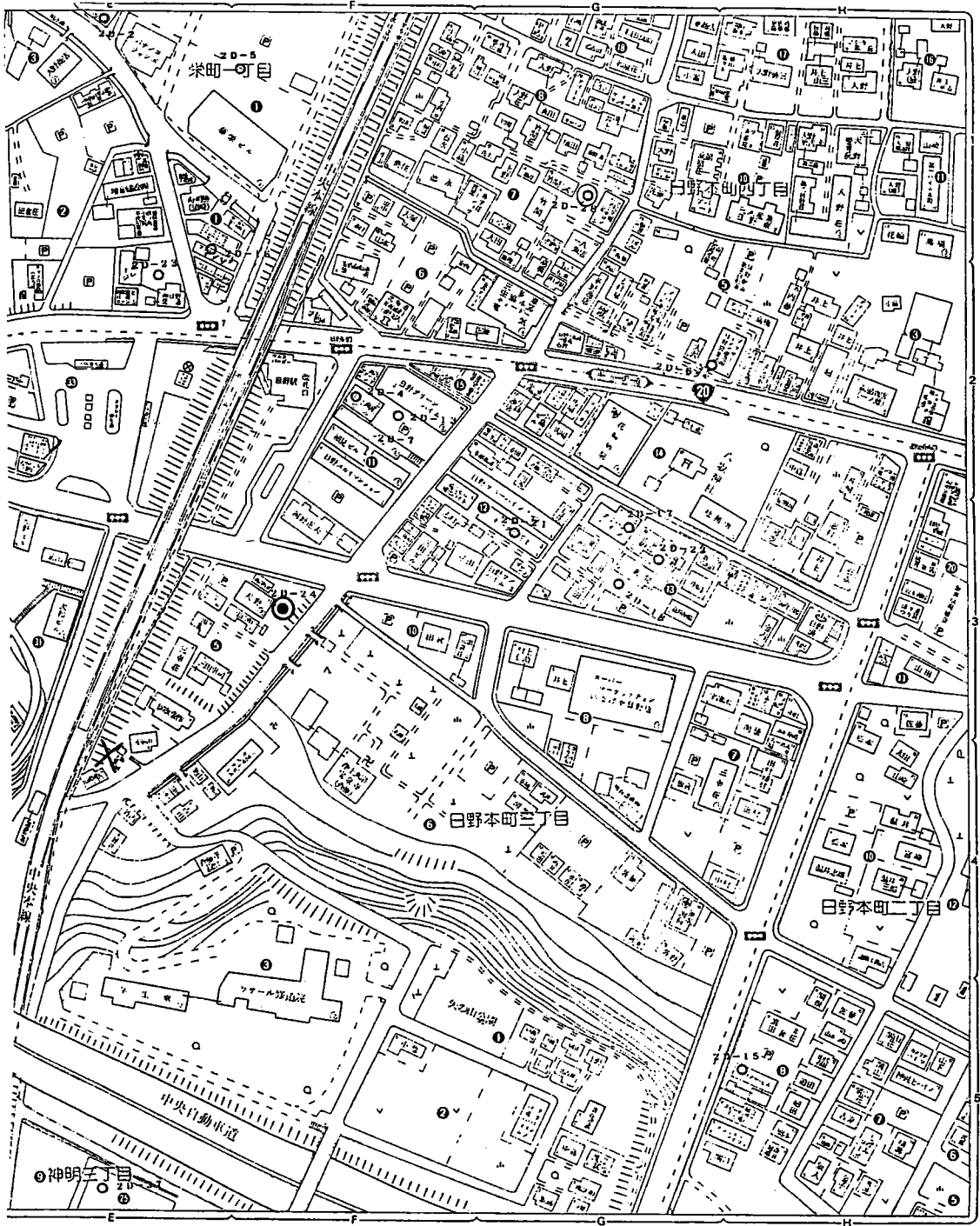




井戸 No.12

ボーリング番号	No. 20-24			備 考	
調査名	日野市の地質			TW-シリンガーサンプリング	
所在地	東京都日野市日野3306-1			P-残品試料採取	
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			O-アネゾンサンプリング	
標 高	+76.000 m	基 準	TP	S-サンドサンプリング	
ボーリング工法	ロータリー式	実施者		C-コア採取 T-トリアルサンプリング	
				標準貫入試験はトンビ法によって行った。	

層 号	層 高 (m)	深 度 (m)	孔 内 水 位 (m)	層 厚 (m)	試料採取位置 (m)	土 質 記 号	色 別	土 質 名	記 事	相対貫入計よび コンシステンシー	標準貫入試験										
											貫入深度 (m)	N	10cm間の 打撃回数								
													10	20	30	10	20	30	40	50	
0	76.000	0.00																			
1				2.10				粘土		硬さかい	1.15										
2	73.900	2.10						砂質粘土		硬さかい	2.15										
3				1.80						中硬	2.15										
4	72.100	3.90									3.15										
5											4.15										
6											4.15										
7								玉石混り砂			4.15										
8				6.50							4.15										
9											6.15										
10	65.600	10.40									6.47										
											7.15										
											7.45										
											8.15										
											8.45										
											9.15										
											9.45										

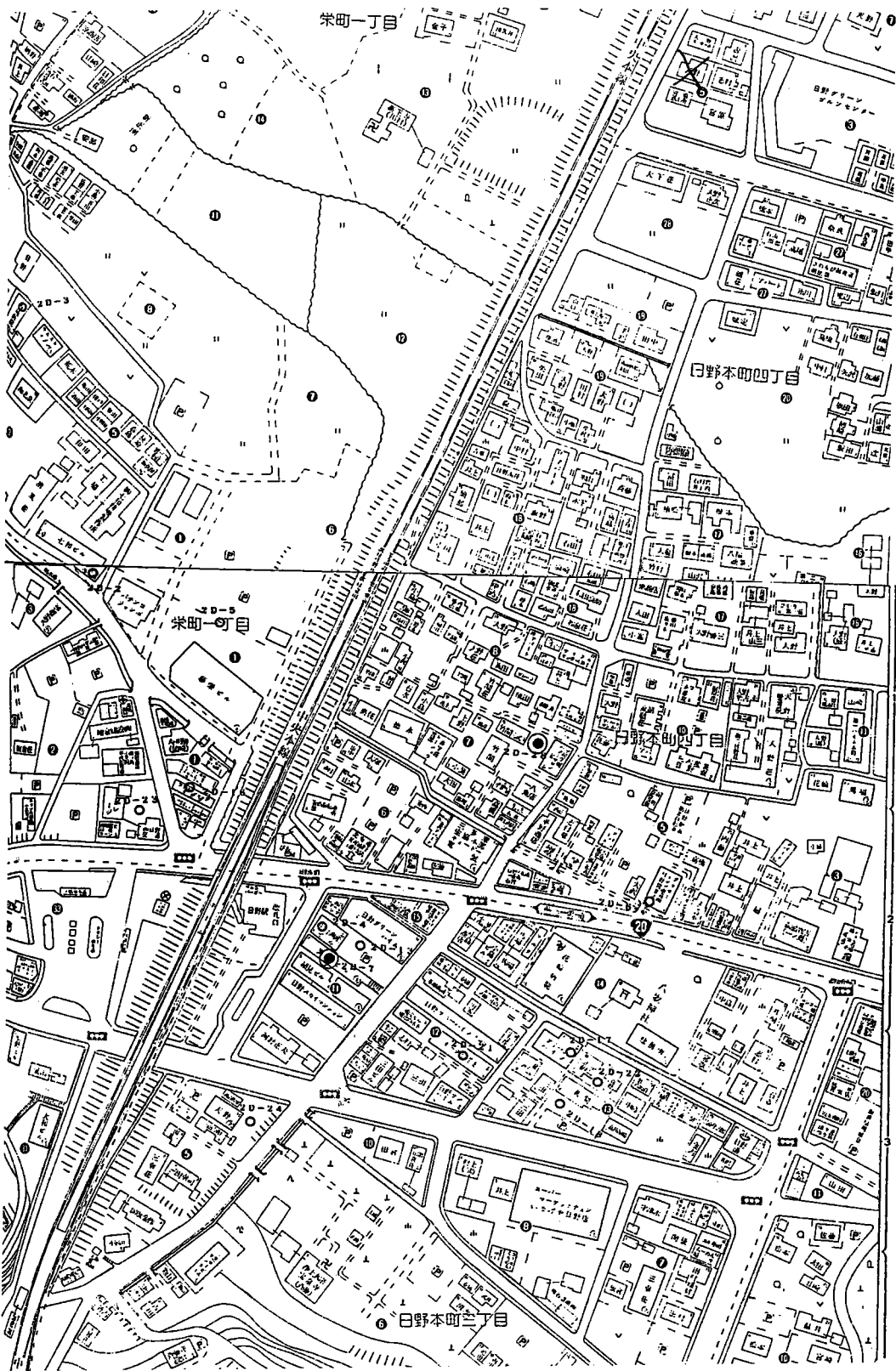


7246

井戸 No.13

ボーリング番号	No. 20-28			備 考
調査名	日野町の地質			TW-シンワールサンプリング
所在地	東京都日野市日野3358			P-塊石試料採取
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日			D-デニソサンプリング
標 高	+75.300 m	基準	TP	S-サンドサンプリング
ボーリング工法	ロークリ-式	実施者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング
標準貫入試験はトンビ法によって行った。				

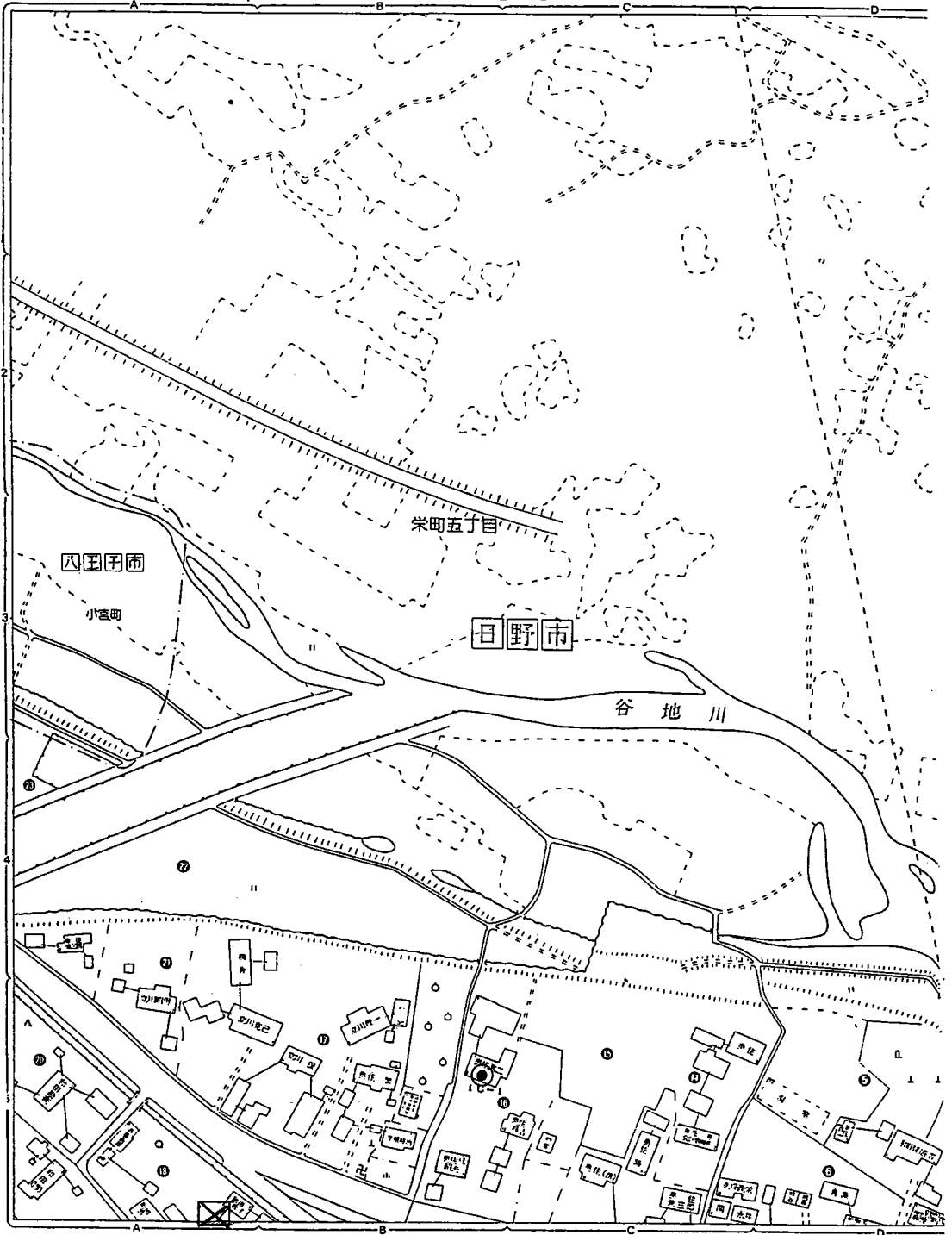
深 尺 (m)	標 高 (m)	厚 度 (m)	孔 内 水 位 (m)	層 厚 (m)	試 験 重 量 (m)	土 質 記 号	色 調	土 質 名	記 事	相 対 貫 入 試 験 値 (kg/cm <sup>2</sup> )	標準貫入試験								
											貫 入 深 度 (m)	N 値	10cmの 打撃回数			◎ 10 20 30 40 50			
0	75.300	0.00		0.70		×		砂											
1	74.600	0.70				○				1.00									
2						○				1.30	12.0	30							
3						○				2.00	20	40	0.4						
4				7.55		○		砂		3.00	30	50	0.8						
5						○				4.00	40	50	0.9						
6						○				4.30	50	0.9							
7						○				5.00	50	0.9							
8						○				5.30	50	0.9							
9						○				6.00	60	0.9							
10	87.050	0.25				○				7.00	70	0.9							
						○				7.30	80	0.9							
						○				8.00	80	0.9							



井戸 No.14

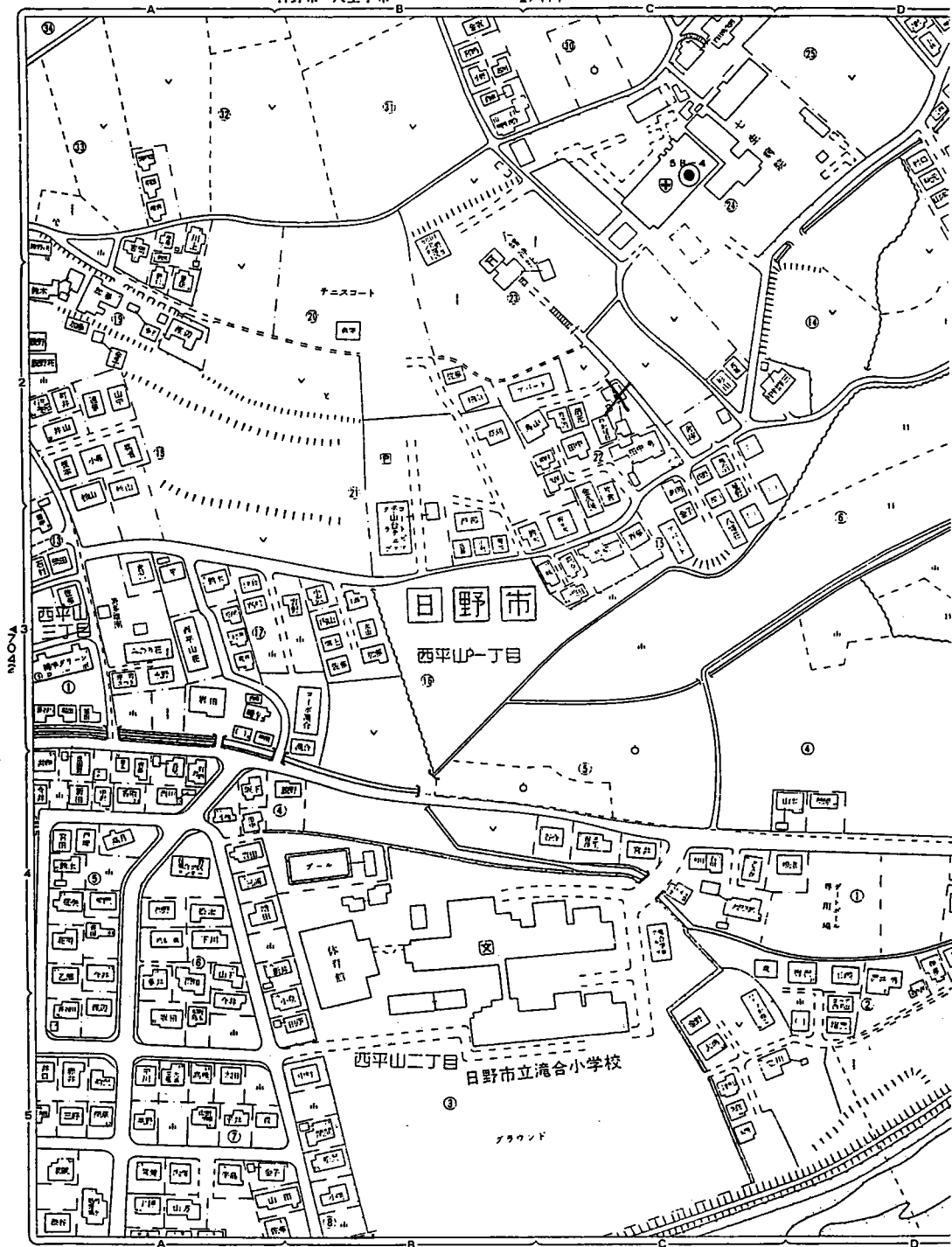
ボーリング番号	No. 1C-1		備 考
調査名	日野町の地質		TW-シンワールサンプリング
所在地	東京都日野町米町5		P-残土試料採取
調査年月日	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		D-アモニウムサンプリング
標 高	+81.500 m	基準 準	S-サンドサンプリング
ボーリング工法	ロータリー式	実施者	C-コア採取 T-トリプルサンプリング
標準貫入試験はトンビ法によって行った。			

深 度 (m)	標 高 (m)	孔内水位 (m)	層 厚 (m)	試料採取位置 (m)	土 質 記 号	色 質 名	記 事	地対地質調査所 コンソリデーション 計測結果	標準貫入試験												
									貫入深度 (m)	N 包	10cm毎の 打撃回数										
											10	20	30	10	20	30	40	50			
0	81.500	0.00	0.60		⊗			-													
1	80.900	0.60			○				1.15												
2			3.60		○	砂		中 粒 に 関 心 す 。	1.45 12.025g												
3					○				2.15												
4	77.300	4.20			○				2.45 50.025g												
5			1.20		○	砂		中	3.15												
6	76.100	5.40			○				3.45 50.025g												
7			3.05		○				4.15												
8					○				4.45												
9	73.050	8.45			○				5.15												
10					○				5.45 25.025g												
					○				6.15												
					○				6.45 35.025g												
					○				7.15												
					○				7.45 46.045g												
					○				8.15												
					○				8.45 43.045g												



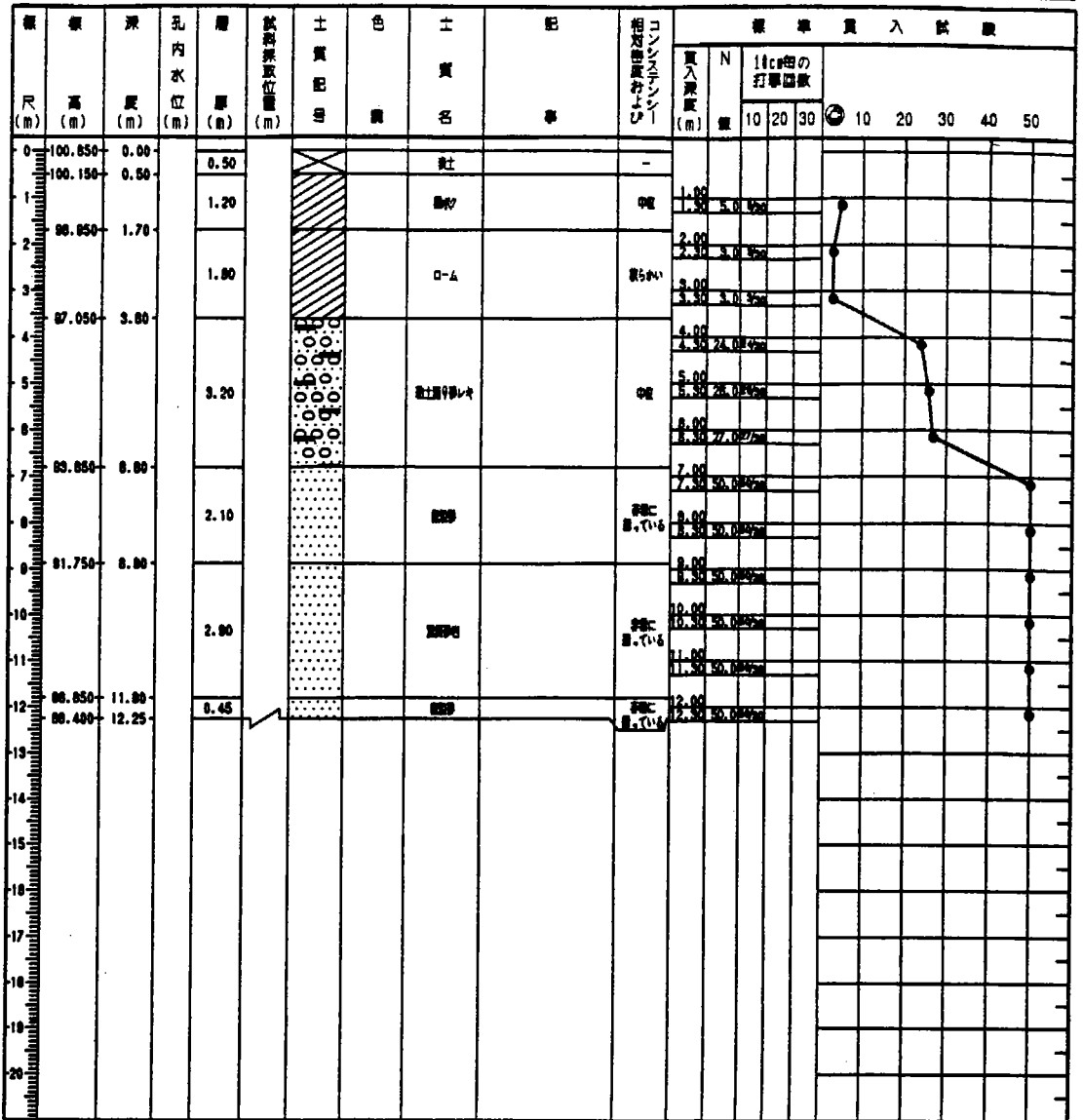






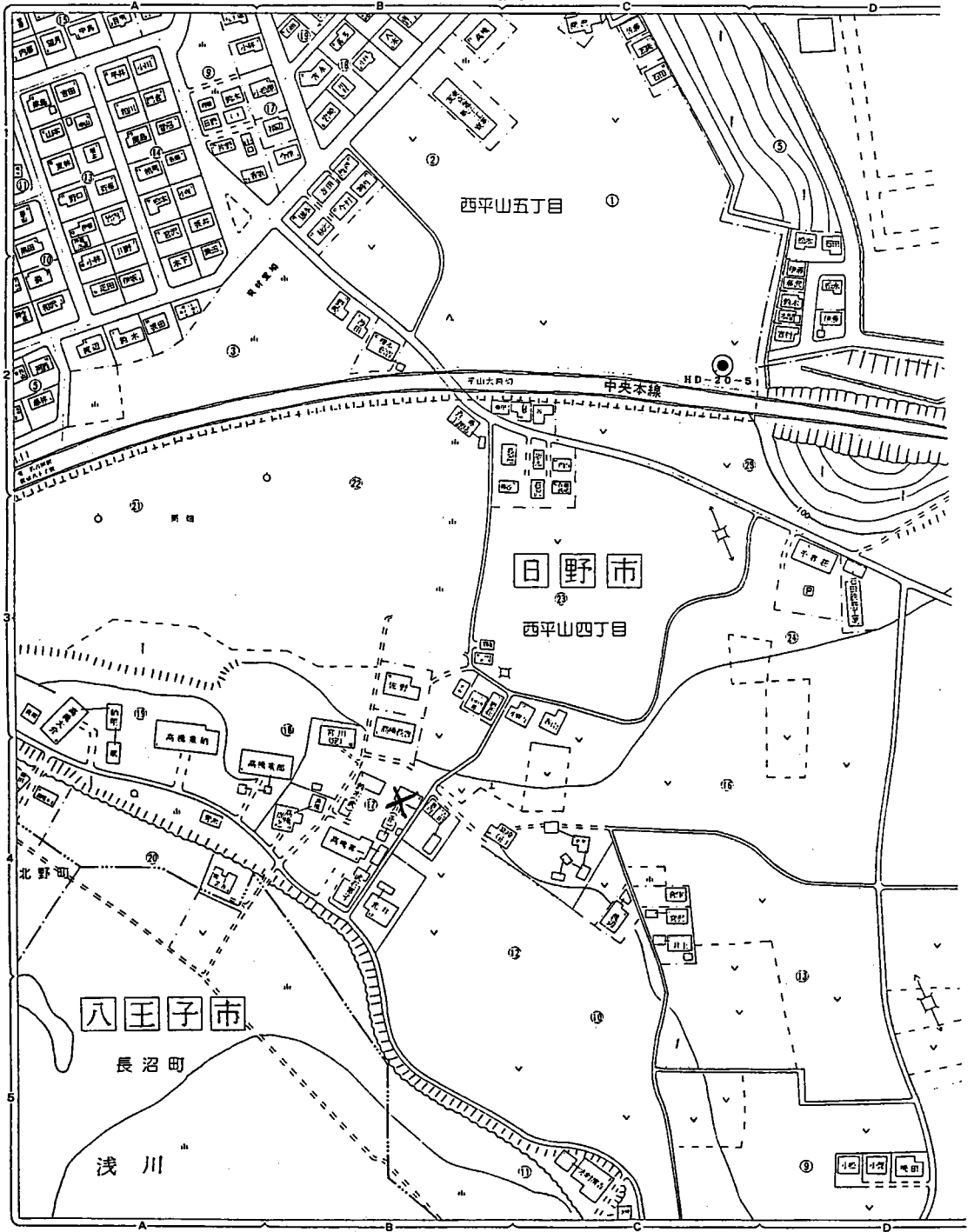
井戸 No. 16

ボーリング番号	No. HD-20-5			備 考	
調査名	日野市の地質			TW-シンワールサンプリング	
所在地	東京都日野市			P-攪乱試料採取	
調査年月日	平成 年 月 日 - 平成 年 月 日			D-デニソンサンプリング	
標高	+100.650 m	基準	TP	S-サンドサンプリング	
ボーリング工法	ロータリー式	実施者		C-コア採取 T-トリプルサンプリング	
				標準貫入試験はトンビ法によって行った。	

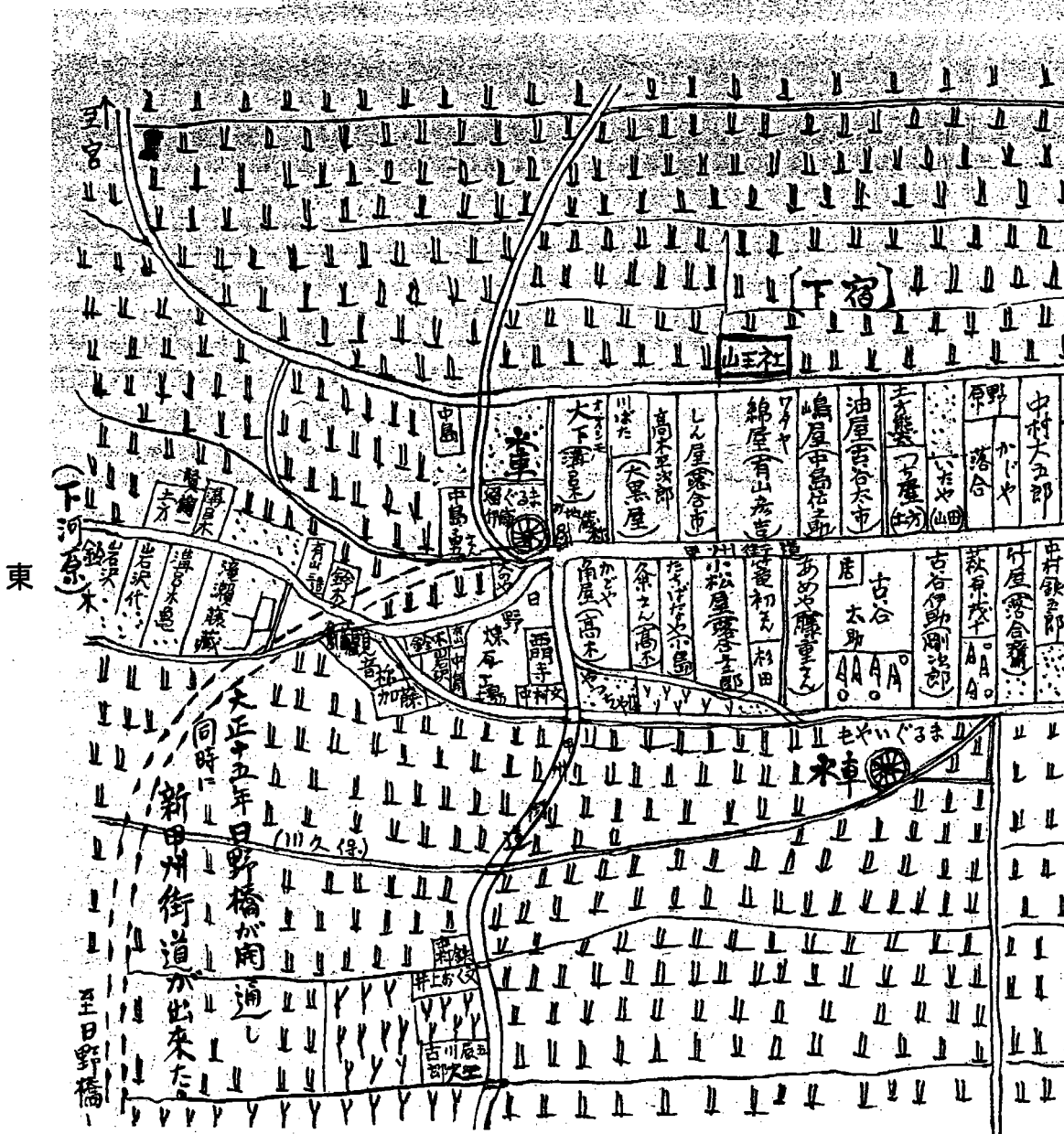


日野市 八王子市

A7040



4.8 日野宿周辺

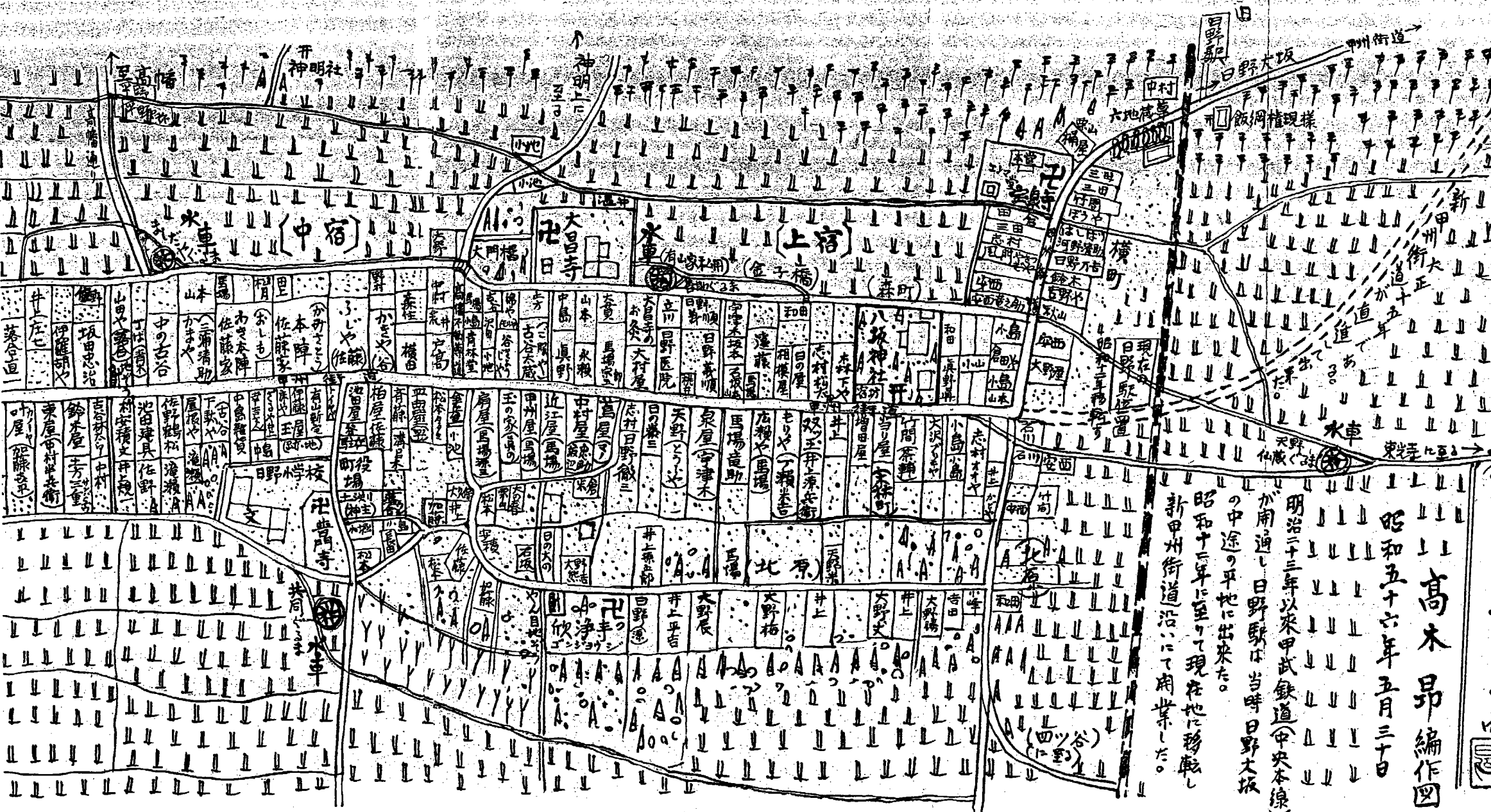


注) 甲州街道(20号線)の両側に立ち並ぶのは商家が多い。八王子方向を<sup>か</sup>上、立川方向を<sup>くだ</sup>下と呼んだ。

②の井戸は中央線の上に見える日野駅のそば、六地藏尊と絵で説明された中にある。周辺には田が広がり、小さな宿場町は浮島のような。道ぞいに流れる用水はいつでも多摩川から引かれ、多摩川に返される用水で、台地の北側に広がる八丁田圃とよばれた美田をめぐるっていた。また、南側は日野台地から豊富な湧水が流れ込み、私用、共同、それぞれに名のついた水車が町をとり囲んでいる。

〔中宿〕の字の下方に甲州街道を上り下りする大名の参勤交替時代の宿舎を勤めた本陣、わき本陣の家が記されている。

# 日野宿(町)の家並



明治から大正までの区割

高木昂編作

昭和五十六年五月三十日

明治二十三年以来甲武鉄道(中央本線)が用通し日野駅は当時日野大坂の中途の平地に出来た。

昭和十二年に至りて現在地に移転し新甲州街道沿にて商業した。

5. 取水装置一覽

	1	2	3	4
1. 井戸はいつ掘ったか	S.30年以降 42年頃	S.30年以降 S.34年頃	S初期 S.10年頃	S.30年以降 大正以前のを埋め際に掘った
2. 井戸の形式は何か	立井戸	浅井戸	立井戸	
3. 掘り下げをした場合の理由	なし	なし	S.25年の濁水	なし
4. 井戸枠は何か		素掘り	コンクリート	コンクリート
5. 水盤 昔と今	多い 多い	多い 多い	多い	少ない 少ない
6. 水質 昔と今	飲めない	良い	良い	良い
7. 水濁れ 昔と今	なし	なし なし	ある	ある なし
8. 雨続きで水が噴くか	なし	なし	梅雨・台風の時ある	なし
9. 水の湧き口はどこか		底の方から	西の脇から	不明
10. 井戸水の流れる方向		浅川の方向へ	浅川の方向へ	土地の低い方向へ
11. 最後の井戸替えはいつか		なし	S.25年頃	なし
12. 井戸水で生活していた時の 水の汲み方	モーターで 家の中へ配水	手押しポンプ・モーターで配水	モーター	モーターで家の中へ配水
13. 水道が入った年	S.47年頃	S.60年頃	S.45年頃	S.55~56年頃
14. 現在の井戸の使い方	植木・庭にまく 金魚の水槽	飲用・植木にまく	植木・庭にまく	飲用・植木にまく・雑用水
15. 井戸で生活していた時の 良かったこと 困ったこと	水が綺麗。夏冷 たく冬温か。	冬温か、夏冷たい。	お茶の味が良かった。東京か らのお客さんに言われた。	水濁れやモーターの故障で 困った。
16. 当時の生活やいわれ		今も井戸に感謝して正月に餅を飾 る。近所のマンション工事で地下 水の変化が心配。	昔は前の山際に清水があつて 3軒で使っても余るほど水量 が多かつた。	古い井戸は濁水の時でも濁れ ず美味しい水と近在でも知ら れていた。

	5	6	7	8
1. 井戸はいつ掘ったか	S.30年以降	明治以前	S.30年以降 S.56年10月	大正初期
2. 井戸の形式は何か				
3. 掘り下げをした場合の理由	なし	なし	なし	なし
4. 井戸枠は何か	コンクリートの丸管	鉄綱り コンクリート	コンクリート	コンクリート 中は鉄綱り
5. 水量 昔と今		多い 少ない	多い 少ない	多い 少ない
6. 水質 昔と今	悪い 雨が降ると濁る	悪い 大腸菌が出た。	良い	良い
7. 水濁れ 昔と今	なし なし	なし なし	なし ある	なし なし
8. 雨続きで水が噴くか	なし	なし	なし	なし
9. 水の湧き口はどこか		不明	まわりから湧く	
10. 井戸水の流れる方向		不明	土地の低い方へ	
11. 最後の井戸替えはいつか	S.40年頃	昭和初期	なし	
12. 井戸水で生活していた時の 水の汲み方	モーターで上げる	手井戸 モーターで上げる	モーターで家の中へ配水	手押しポンプ
13. 水道が入った年	S.50年頃	S.50年頃		
14. 現在の井戸の使い方	使っていない	雑用水	飲用水	雑用水
15. 井戸で生活していた時の 良かったこと 困ったこと	調査の井戸の他にS.40年頃に 掘ったボーリング井戸を使っ ている。	冬温か モーターになる前は 水汲みが大変。	冬温か、夏冷たい。 カルキ臭がない。	
16. 当時の生活やいわれ		萬水2年の 名碑がある。	前の井戸が区画整理で埋めら れたので新たに掘った。	



	9	10	11	12
1. 井戸はいつ掘ったか	明治以前	わからない(昭和初期か?)	S.30年以降	明治31年お堂が消失 S.7年に再建
2. 井戸の形式は何か	堅井戸		わからない	
3. 掘り下げをした場合の理由	なし	水涸れ	水の出が悪くなった	なし
4. 井戸枠は何か	丸石組	コンクリート	コンクリート	昔は石組み 今はコンクリート
5. 水量 昔と今	多い 少ない	多い 少ない	少ない わからない	多い(覗いていた) 少ない
6. 水質 昔と今	良い	わからない	悪い 鉄分が多い	良い
7. 水涸れ 昔と今	なし ある	ある	ない ない	ない ない
8. 雨続きで水が涸くか	梅雨・台風の時ある	ない	なし	
9. 水の湧き口はどこか	底の周辺から	わからない	わからない	底の方から湧く
10. 井戸水の流れる方向	東の方向	わからない	わからない	段丘の上から多摩川の 方向へ流れる
11. 最後の井戸替えはいつか	平成2年	わからない	わからない	平成7年3月手押しポン プを取り替えた
12. 井戸水で生活していた時の 水の汲み方	つるべ・手押しポンプ	S.30年前半は手押しポンプ その後はモーター	モーターで家の中に 配水	
13. 水道が入った年	S.33年頃	S.50年前半	S.37年頃	S.40年代
14. 現在の井戸の使い方	使っていない	使っていない	使っていない	井戸替え以前の 20年位使っていない
15. 井戸で生活していた時の 良かったこと 困ったこと	味が良かった。	おいしい。冬温か夏冷たい。 水涸れで困った。	水が少なくて苦労。 鉄分が多かった。	
16. 当時の生活やいわれ	3軒で使用していた。 外に上総畑の掘り抜き井戸が あった。	S.40年頃越してきた。4軒 で使用。水涸れを起こした。		地藏堂近くは湧水が多 く用水に魚やシジミ 蛤が多く駅前では2mも 深かった。

	13	14	15	16
1. 井戸はいつ掘ったか	明治10年頃	S.30年以降34年頃	S.10年代	終戦後
2. 井戸の形式は何か	石堰井戸			
3. 掘り下げをした場合の理由	なし	なし	水量が少ない	なし
4. 井戸枠は何か	丸石組	コンクリート	素掘り	コンクリート
5. 水量 昔と今	少ない	多い	少ない 多い	多い
6. 水質 昔と今	わからない		良い	良い
7. 水漏れ 昔と今	なし なし	なし	なし 昔ある今なし	ある 昔ある今なし
8. 雨続きで水が噴くか	なし	なし		
9. 水の湧き口はどこか	全体から湧く		底から湧く	
10. 井戸水の流れる方向		南の山の方向から 流れてくる	浅川の方向へ	
11. 最後の井戸替えはいつか	S.40年頃	なし	なし	
12. 井戸水で生活していた時の 水の汲み方	つるべ・手押しポンプ 後にモーターで配水	手押しポンプ 現在モーター配水		手押しポンプ
13. 水遣が入った年	S.52年3月			
14. 現在の井戸の使い方	植木・庭にまく・雑用水	植木・庭にまく 風呂・洗濯	植木・庭にま く・雑用水	使っていない
15. 井戸で生活していた時の 良かったこと 困ったこと	冬温かく夏冷たい	以前の井戸が腐れて 新しく掘った井戸です。	雨が多いと濁 ることがあつ た。	水がおいしい。冬 温か夏冷たく手が 荒れなかつた。
16. 当時の生活やいわれ	昔、部落中が手伝って掘つ た。石は多摩川から馬力で 運んだ。10軒で使用。	井戸だけの時は水が心配 だったが水道と併用出来て 安心。新しい方の井戸は水 量が多かつた。		

## 6. 降水と井戸の水位の関係

このグラフの動きから判るように不圧地下水と降雨は殆ど動きが似ている。その井戸によって大きく影響をうけるもの、又大差のないものもある。長雨で土中の保水率が上昇している時程、地下水涌出量も上がっているのが判る。浅川に近いNo.16の井戸の差は大きい。

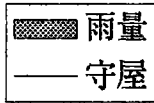
No.7の井戸は唯一多摩川、浅川にはさまれたデルタにあり水は多摩川の方に流れているようだと話されるが、水底はきれいな礫で覆われ、底全体から湧いているように見えた。

## 6.1 井戸別降雨と水位の変動グラフ

No. 1～3の井戸については自記水位計で計測。No. 4～16の井戸は週1回、水曜日に手計り計で計測したもの。又No. 1～6は丘陵地にあり、No. 7は浅川と多摩川にはさまれた沖積低地に、No. 8と9は台地の南寄り斜面に、No. 10と11は台地上にある。

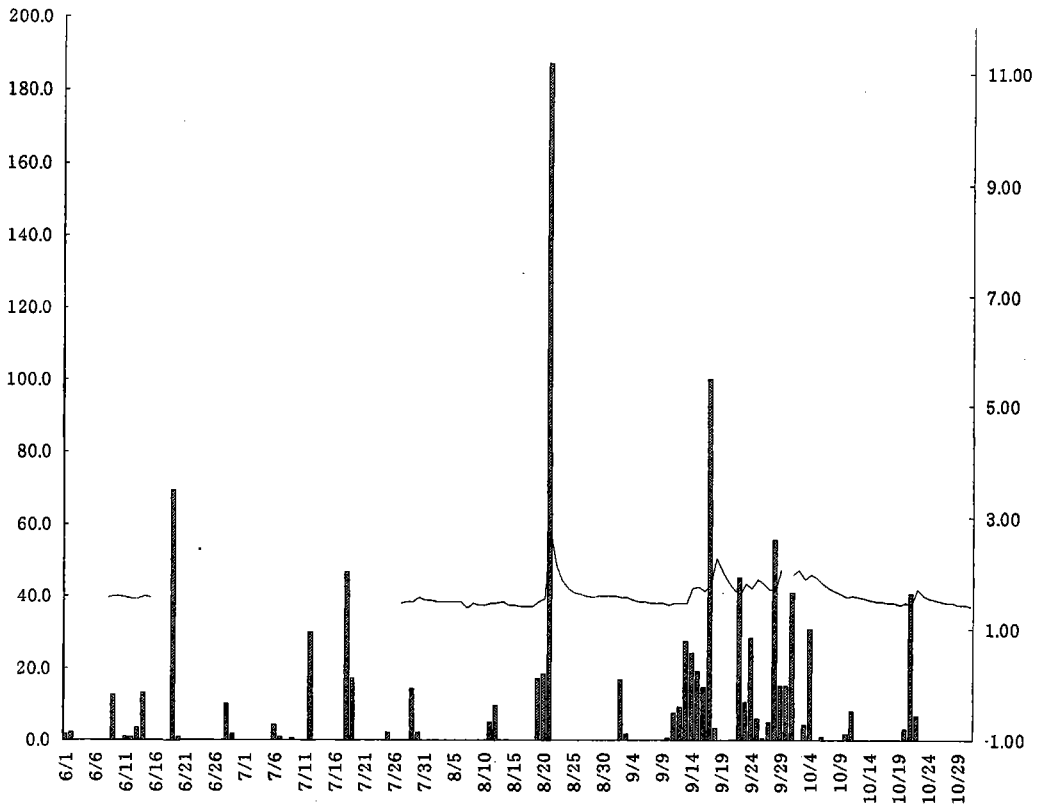
No. 12は台地下東側、No. 14は台地の北、八王子市域に近い坂の下にある。No. 13は多摩川が残した段丘の低位面にある。No. 15と16は段丘西側と南側低位面にある。雨量はいつも日野市役所のデータによる。

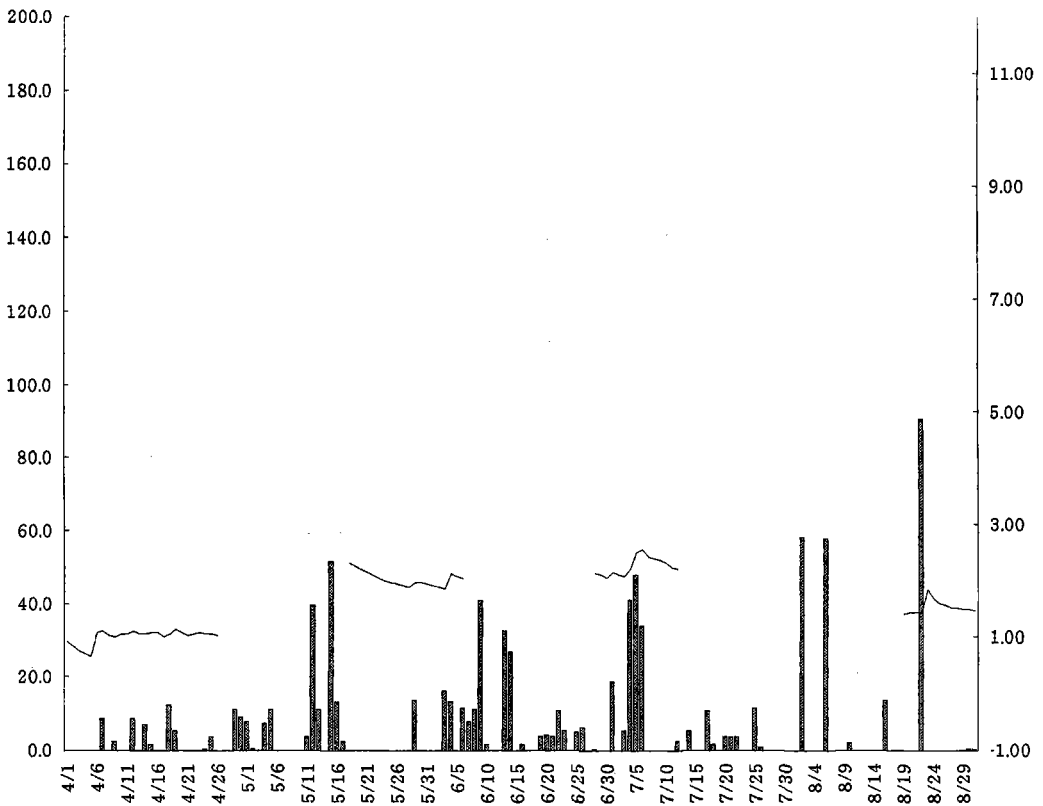
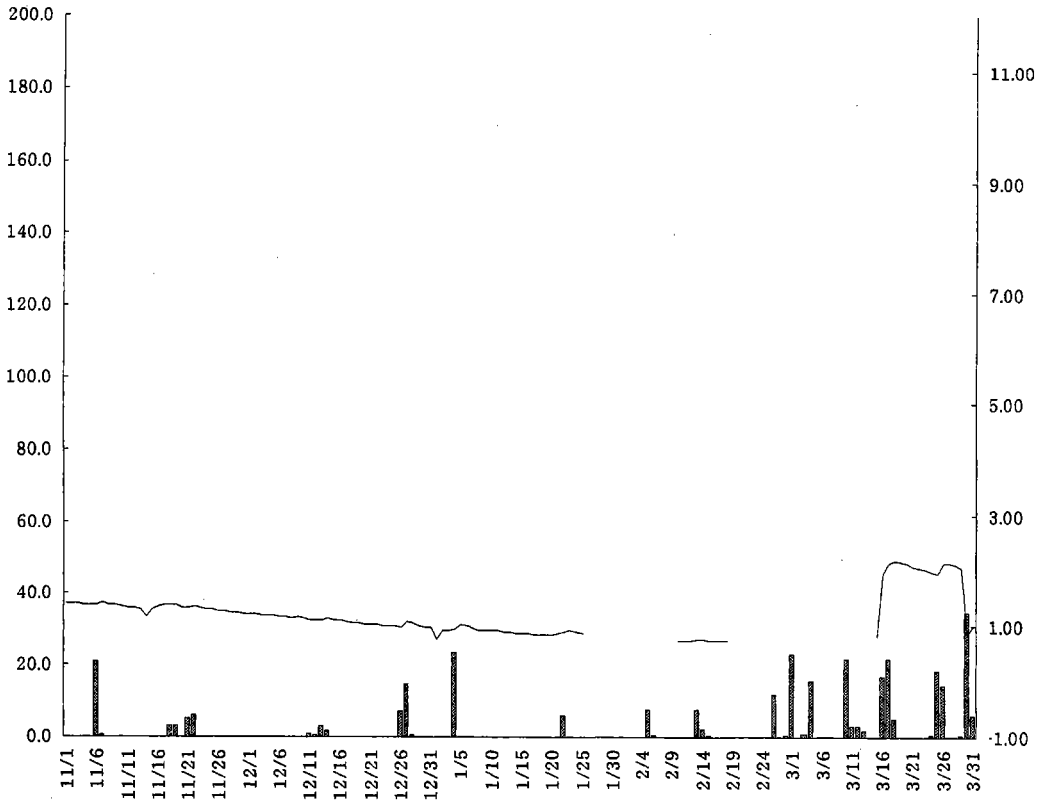
井戸 No. 1



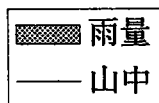
井戸深8.7m

標高67m



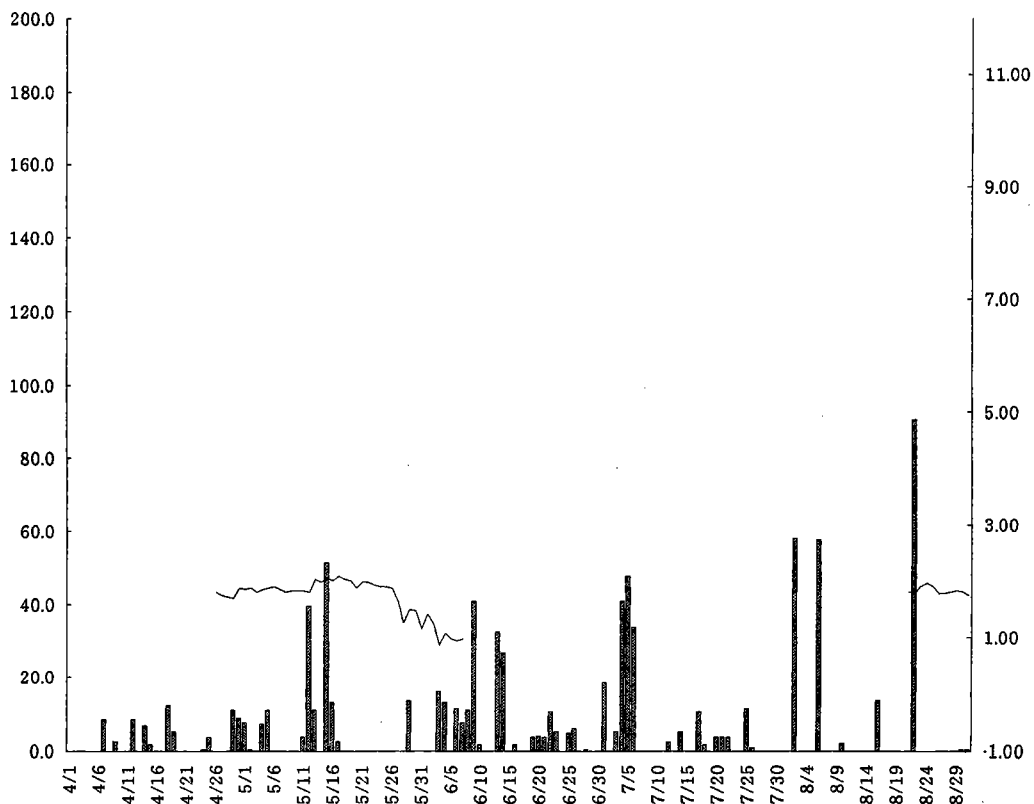


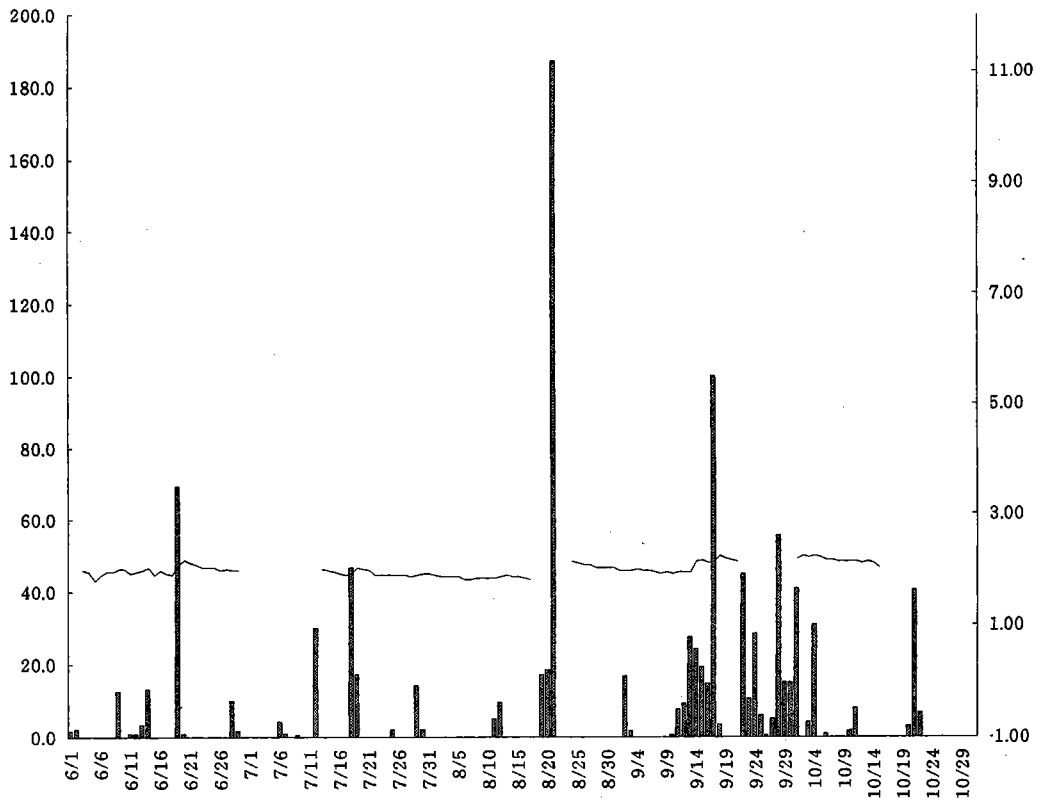
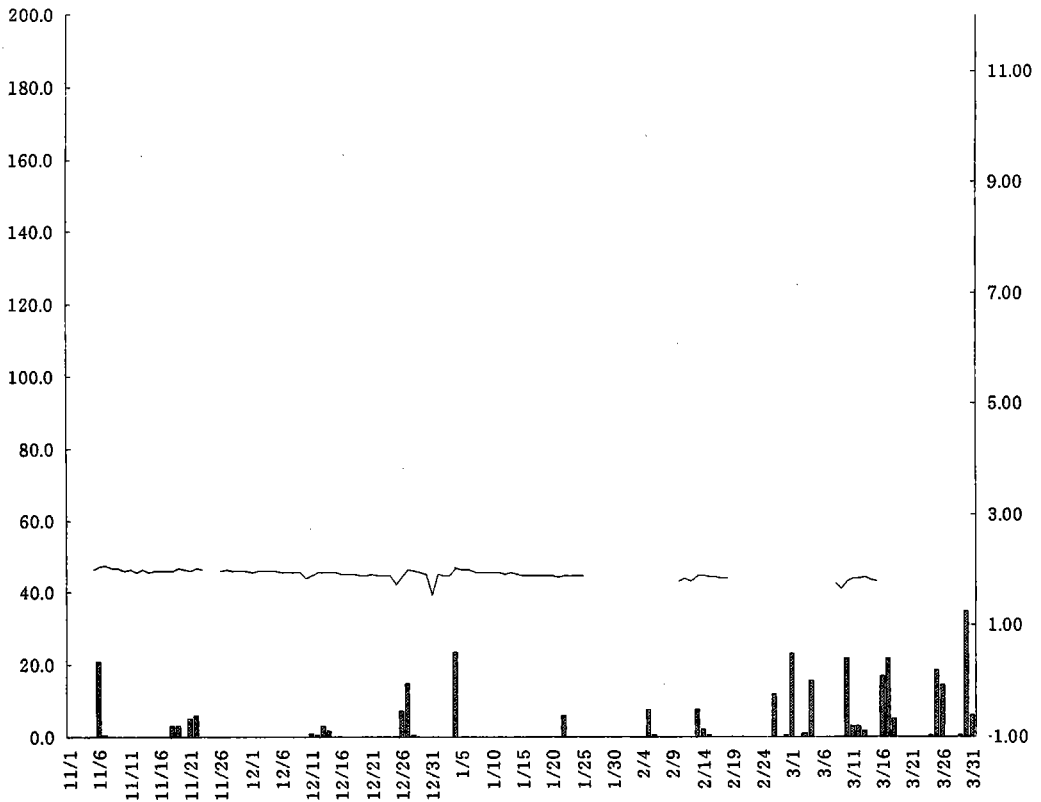
井戸 No. 2



井戸深3.07m

標高65.5m



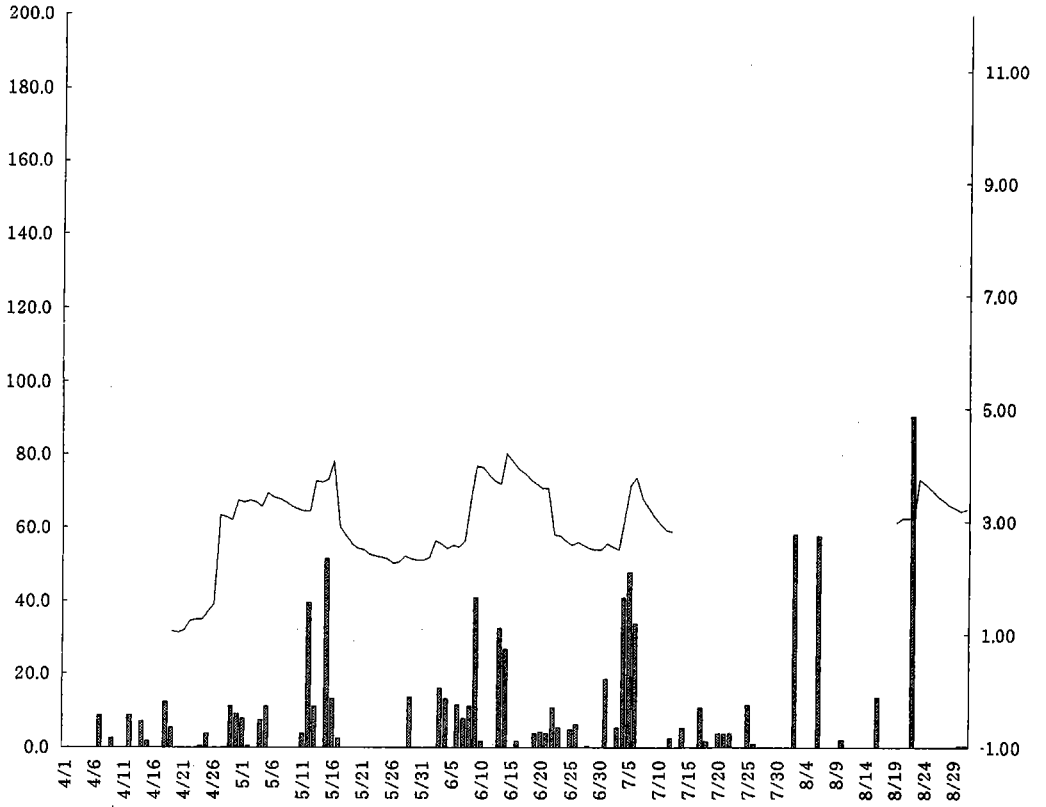


井戸 No. 3

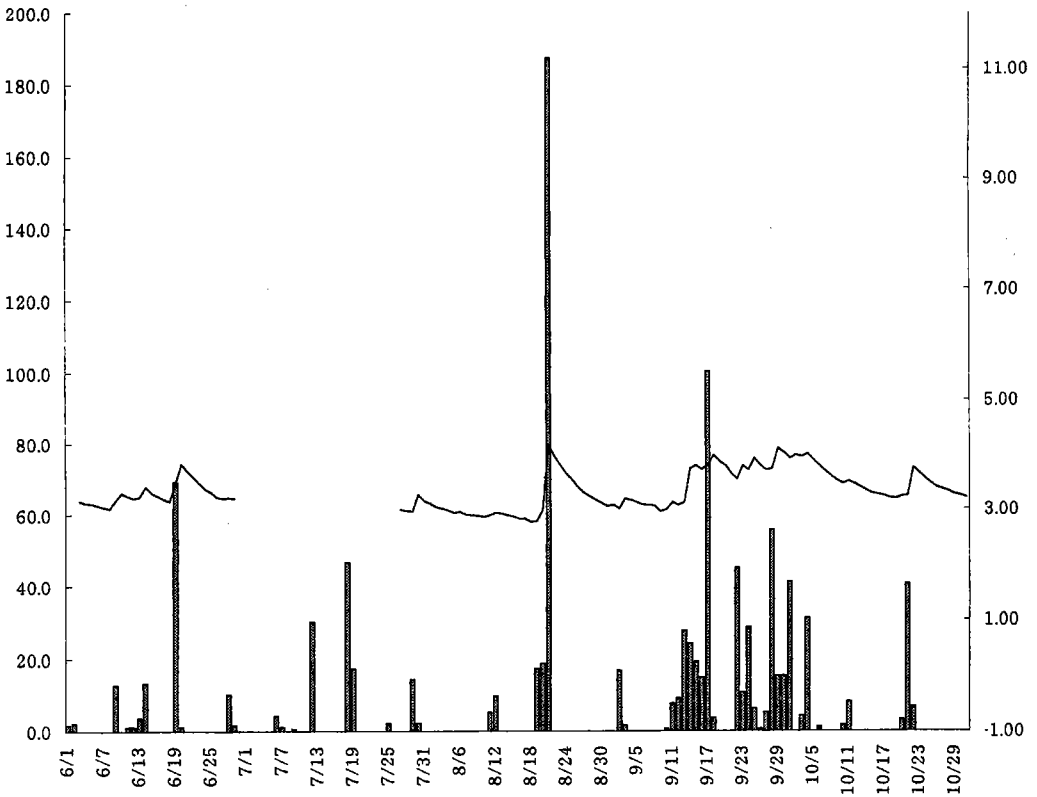
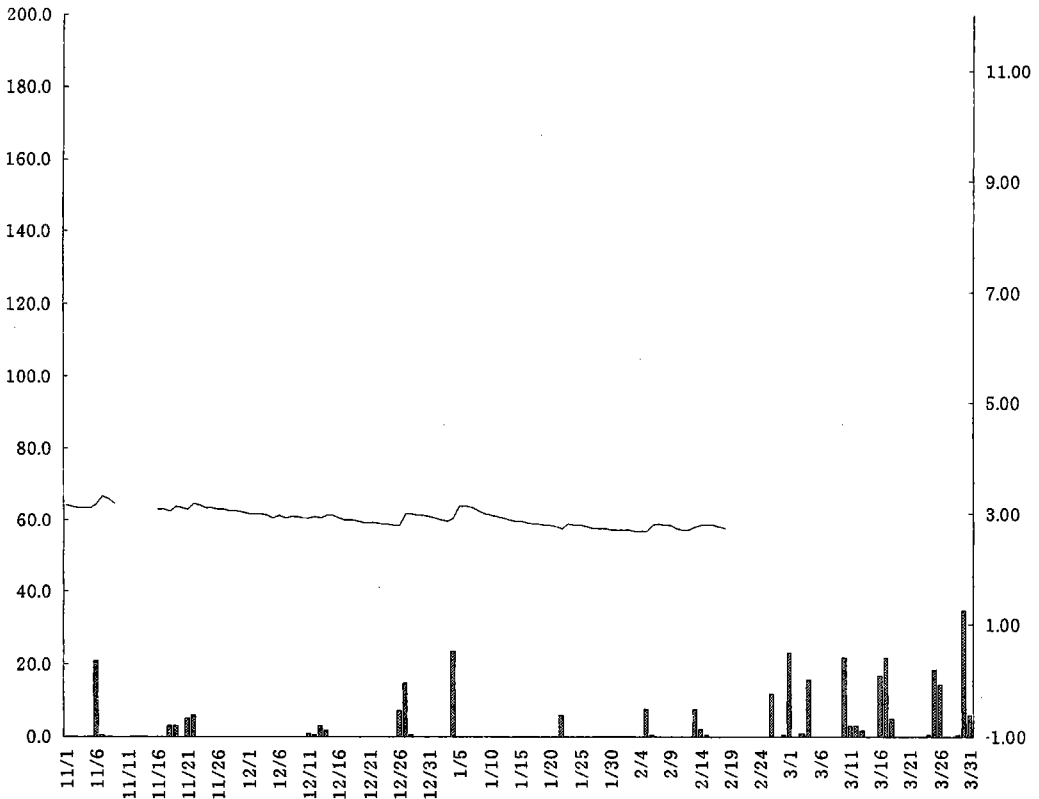


井戸深6.75m

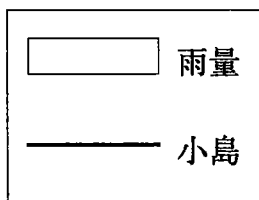
標高96m





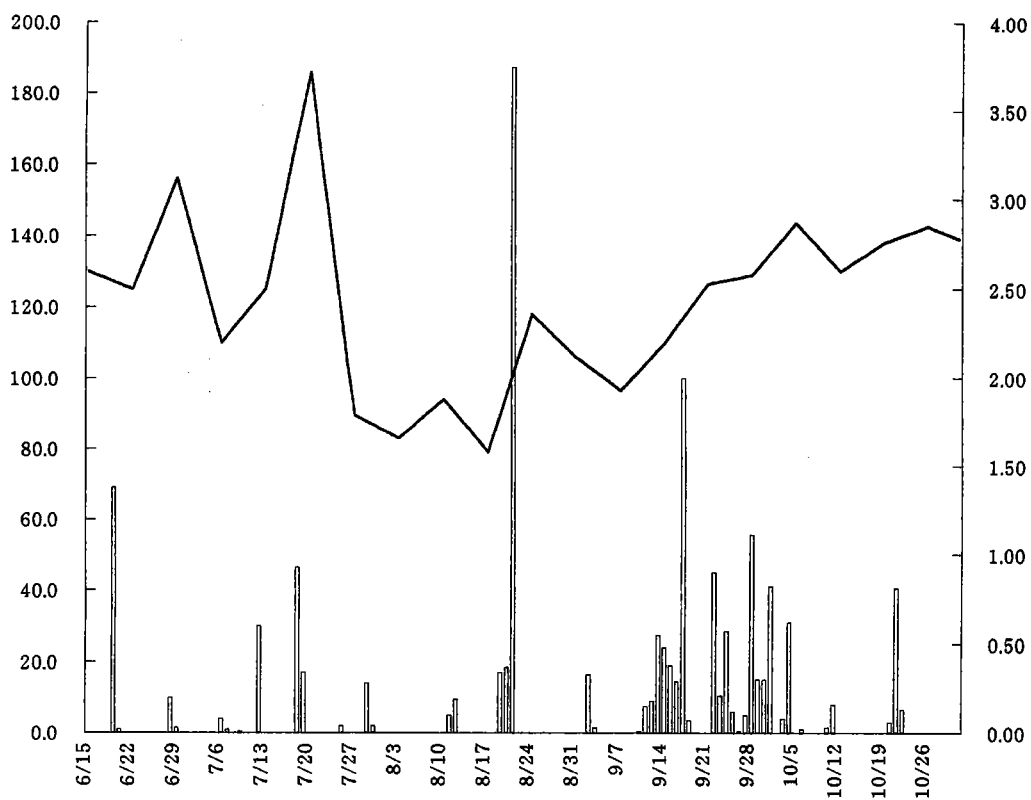


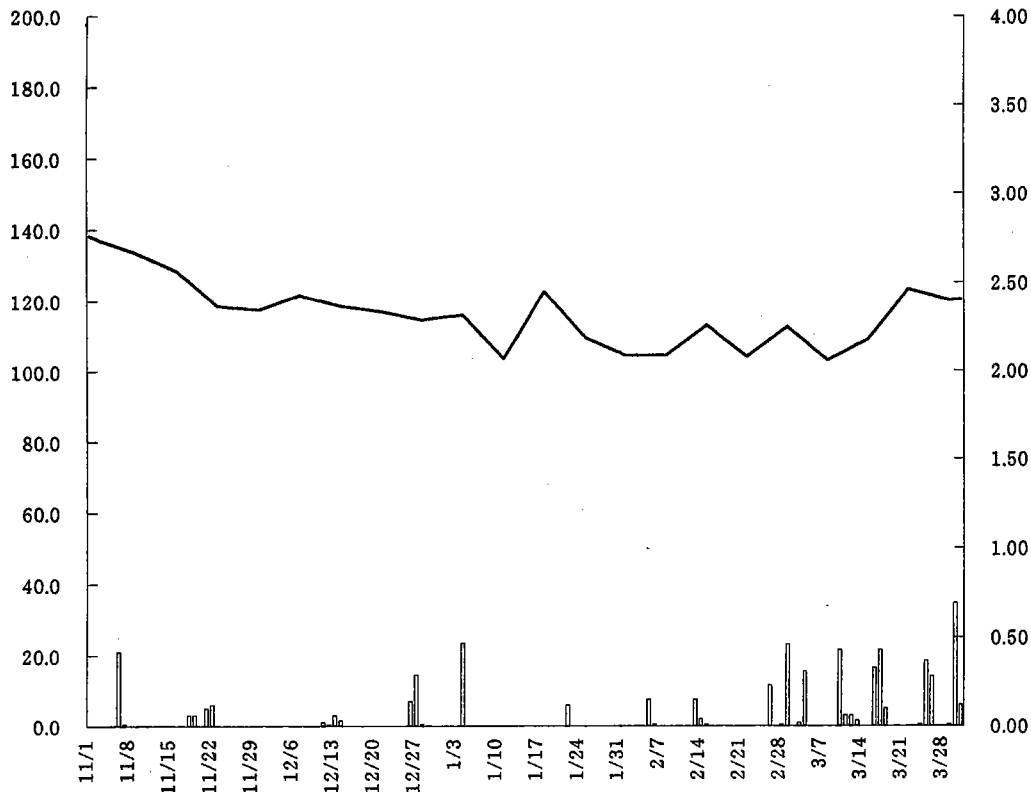
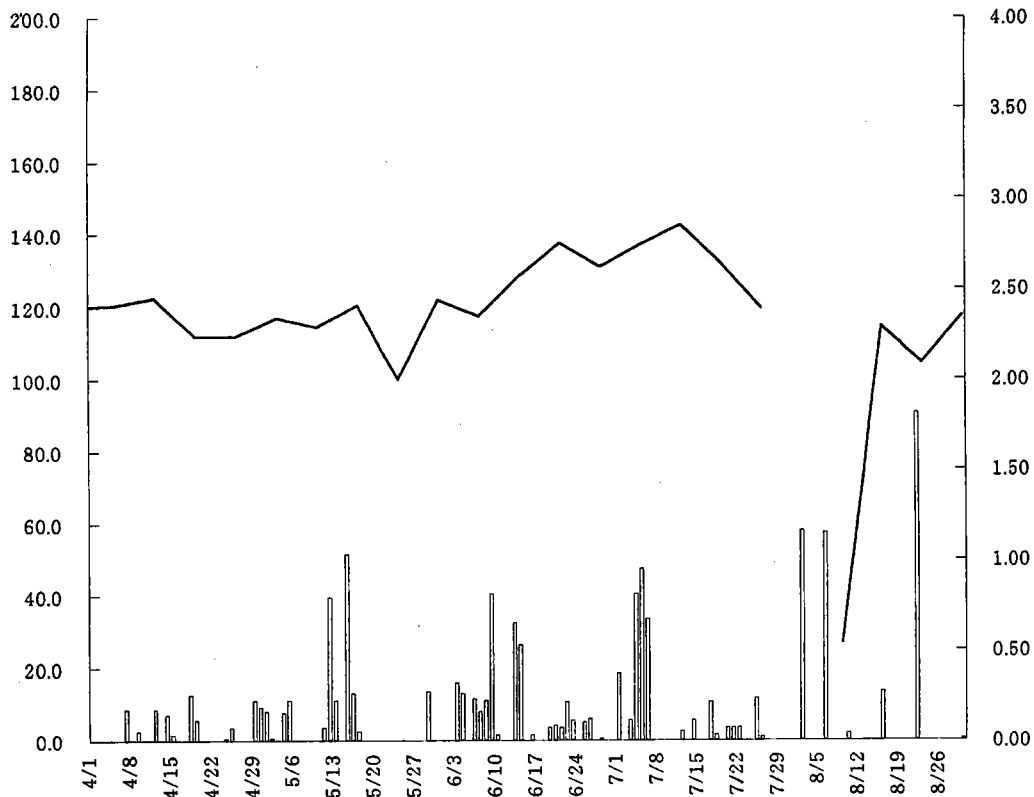
# 井戸 No. 4



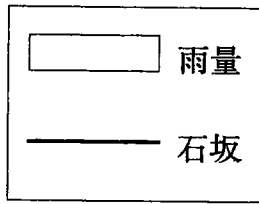
標高 104

井戸深 5.59



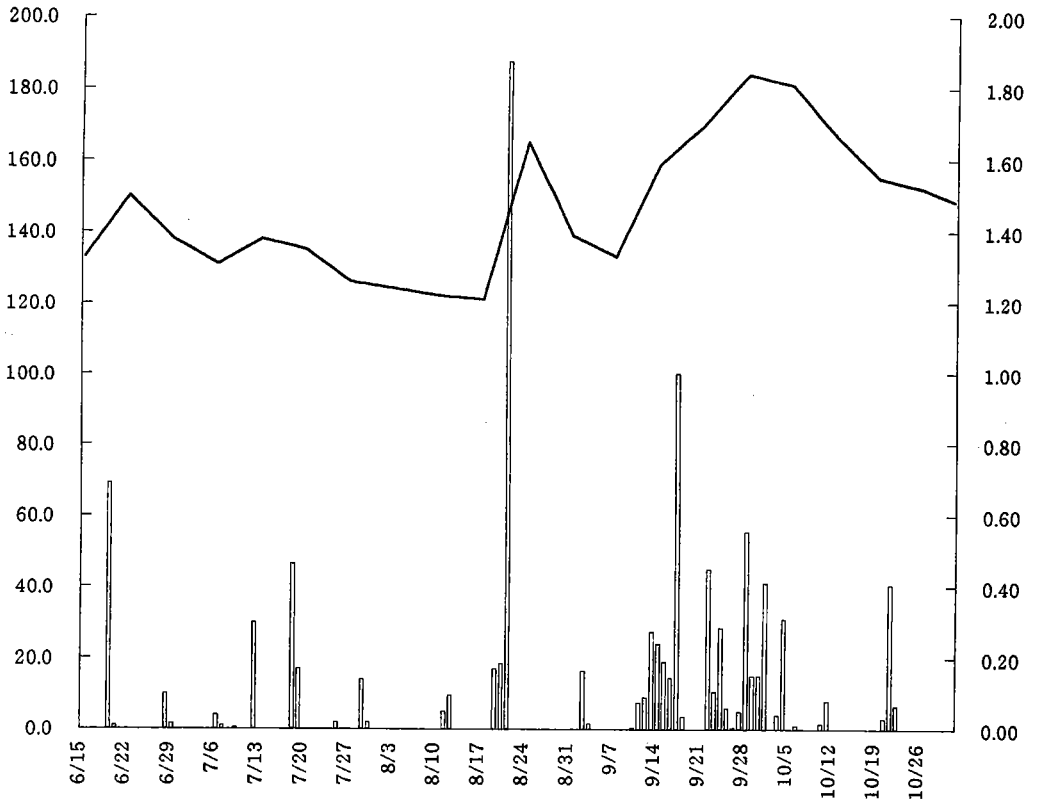


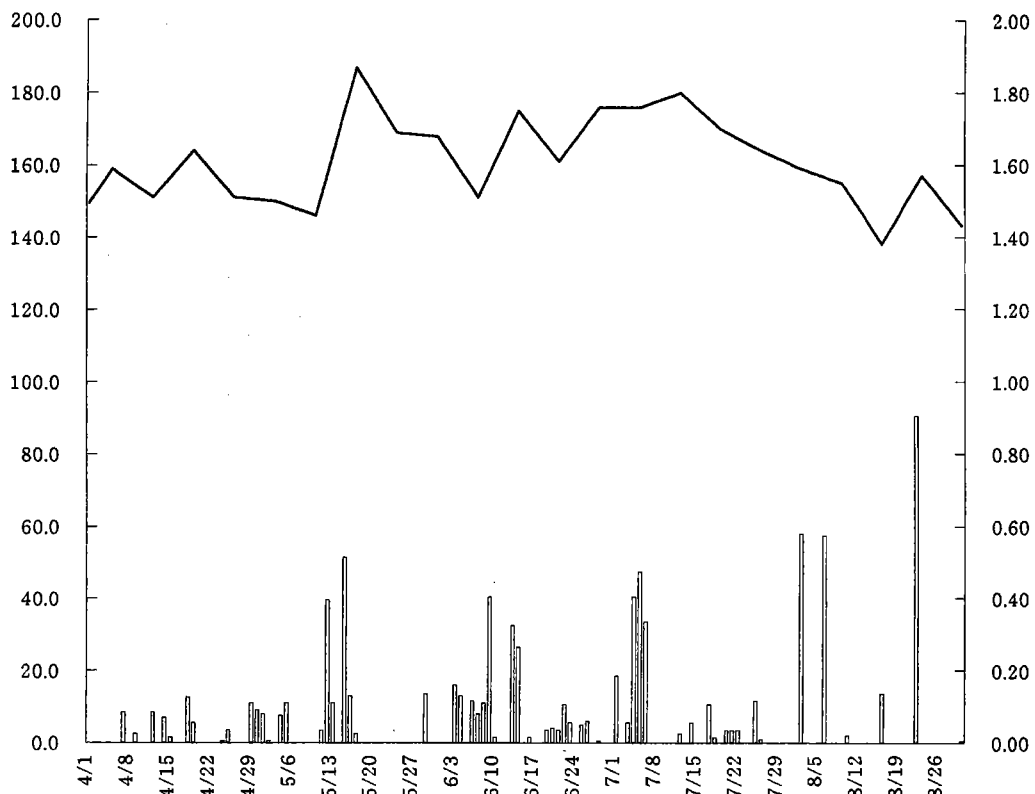
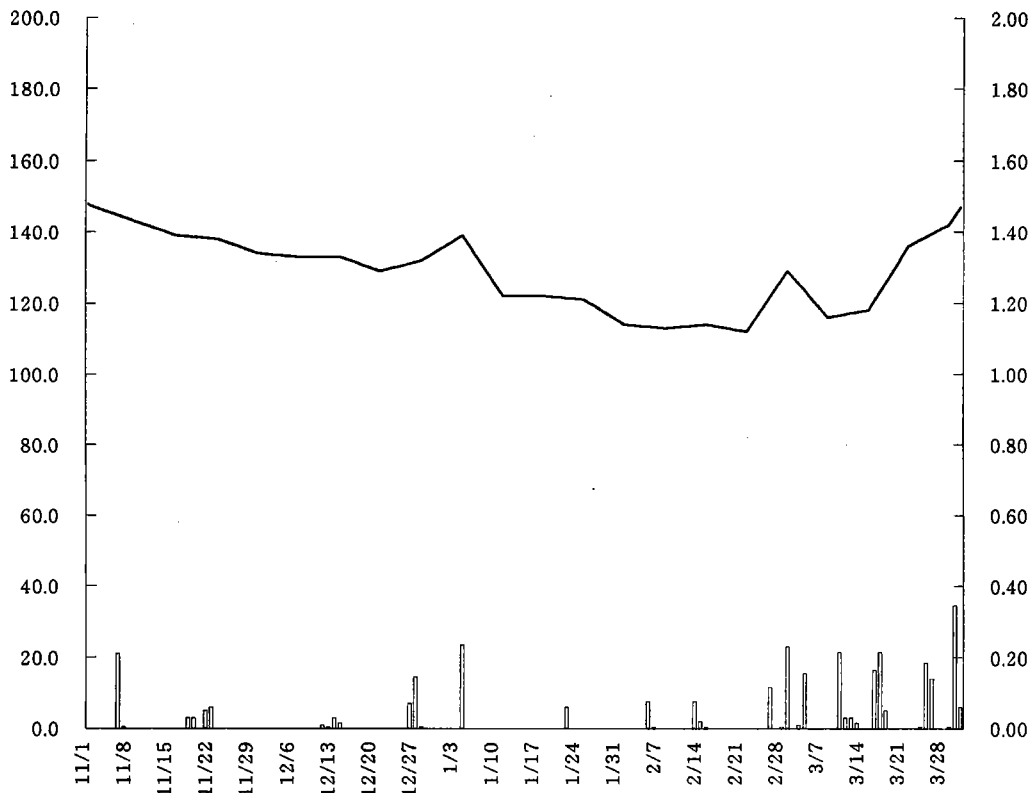
井戸 No. 5



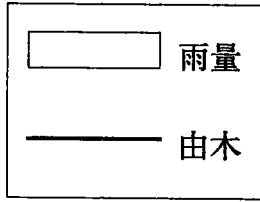
標高 70

井戸深 2.42



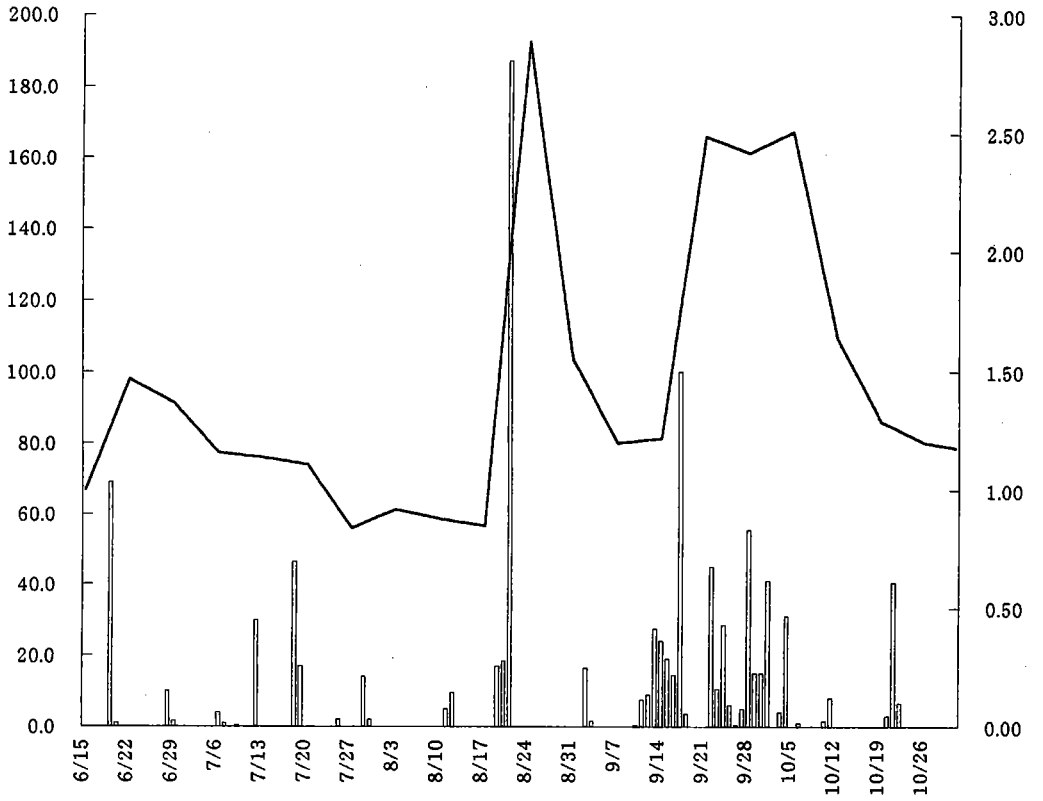


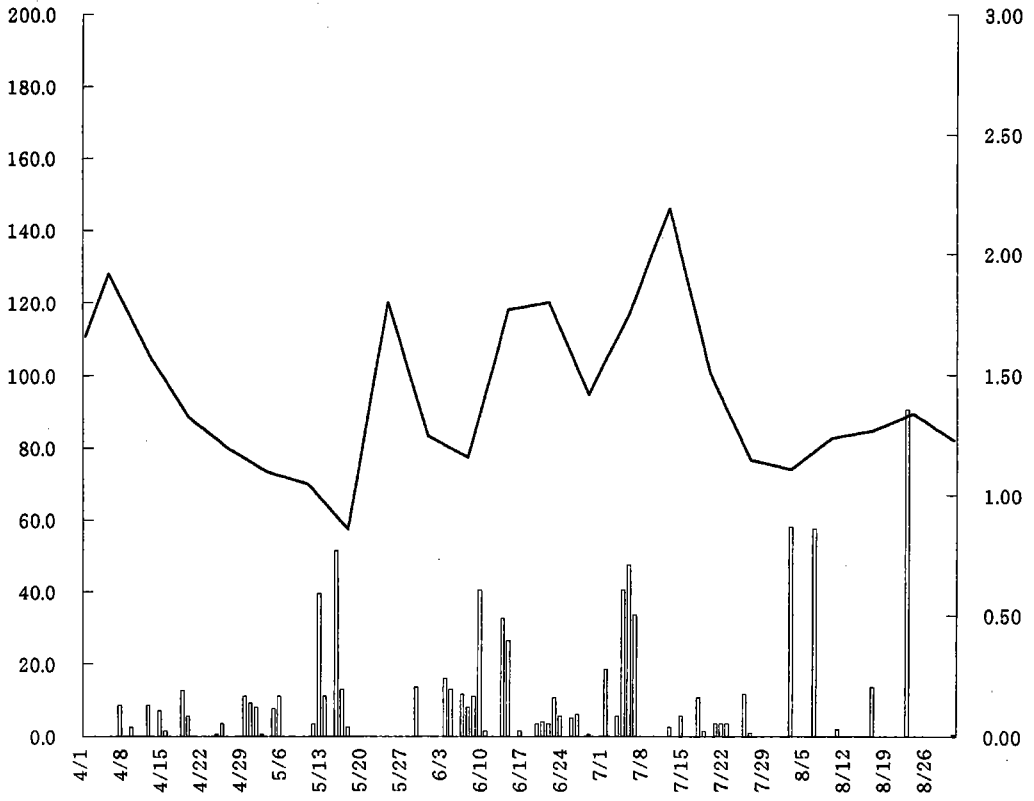
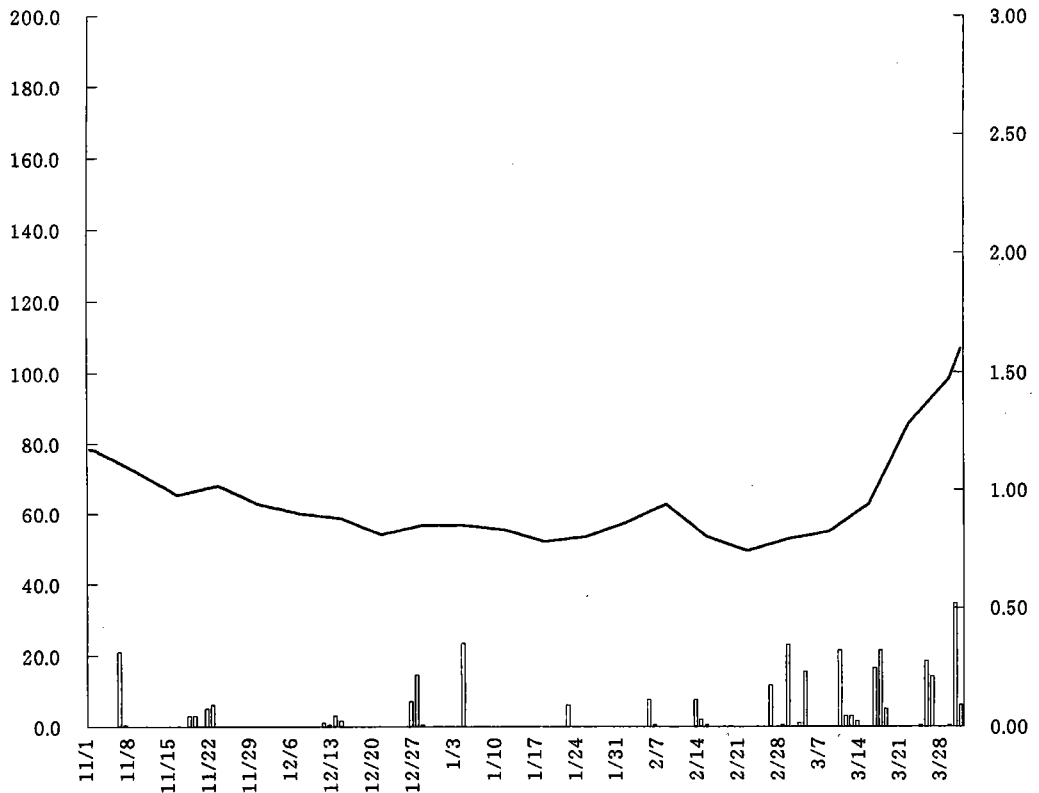
井戸 No. 6



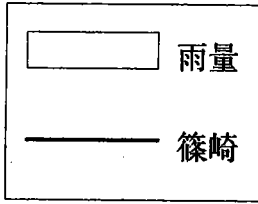
標高 92.3

井戸深 7.47



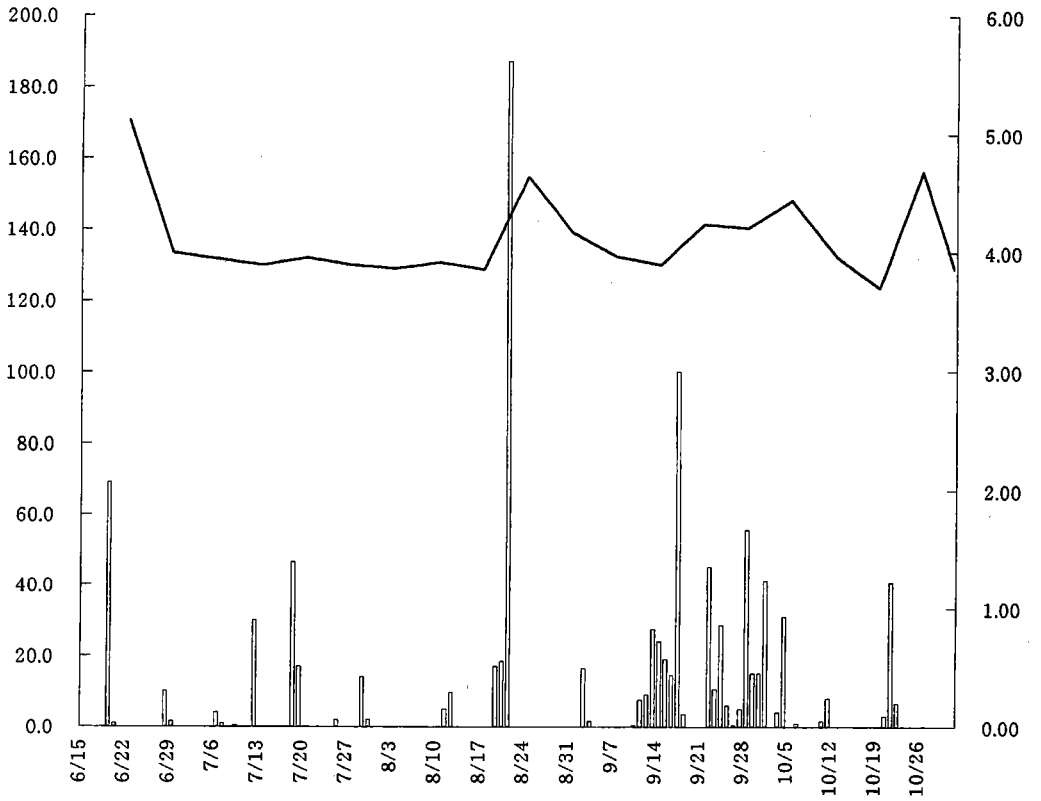


井戸 No. 7

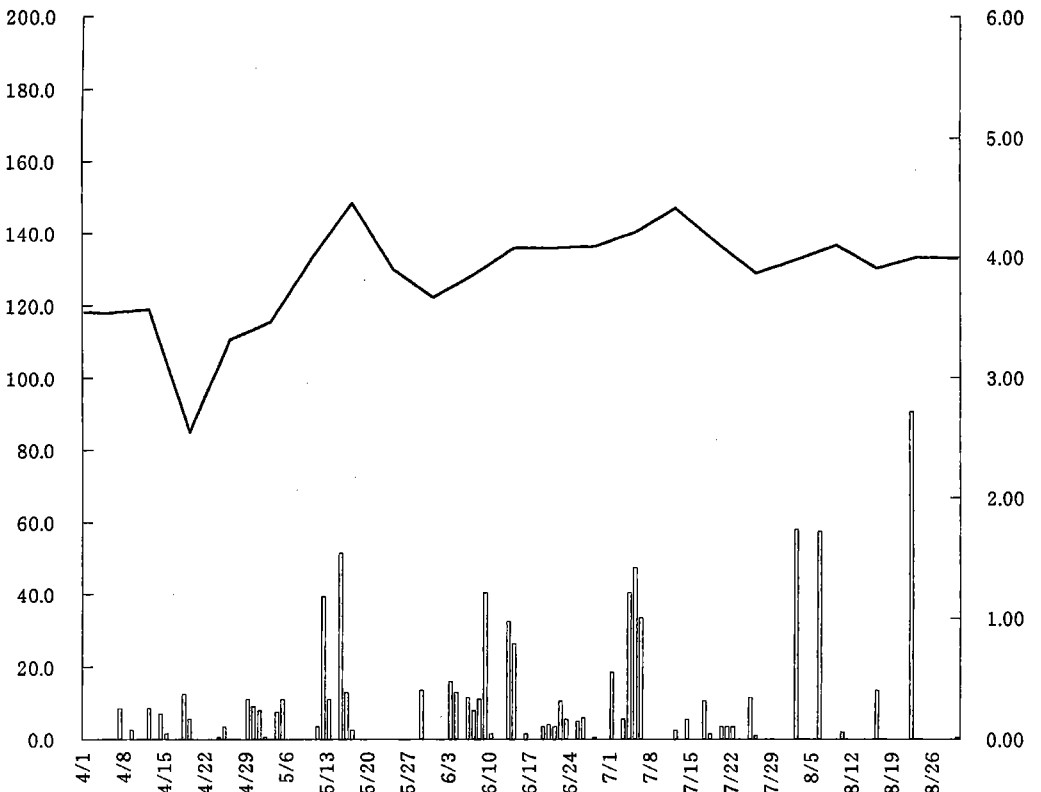
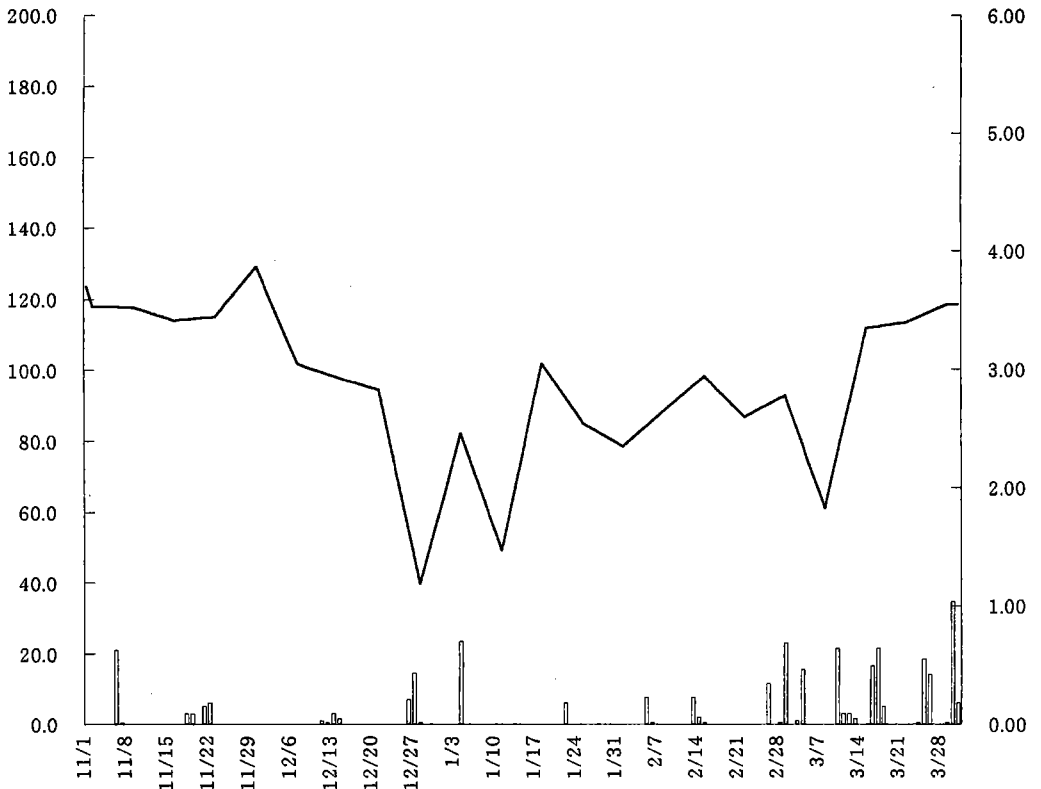


標高 66.5

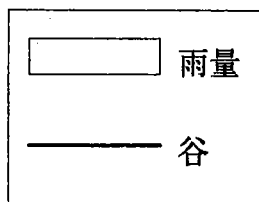
井戸深 8.17





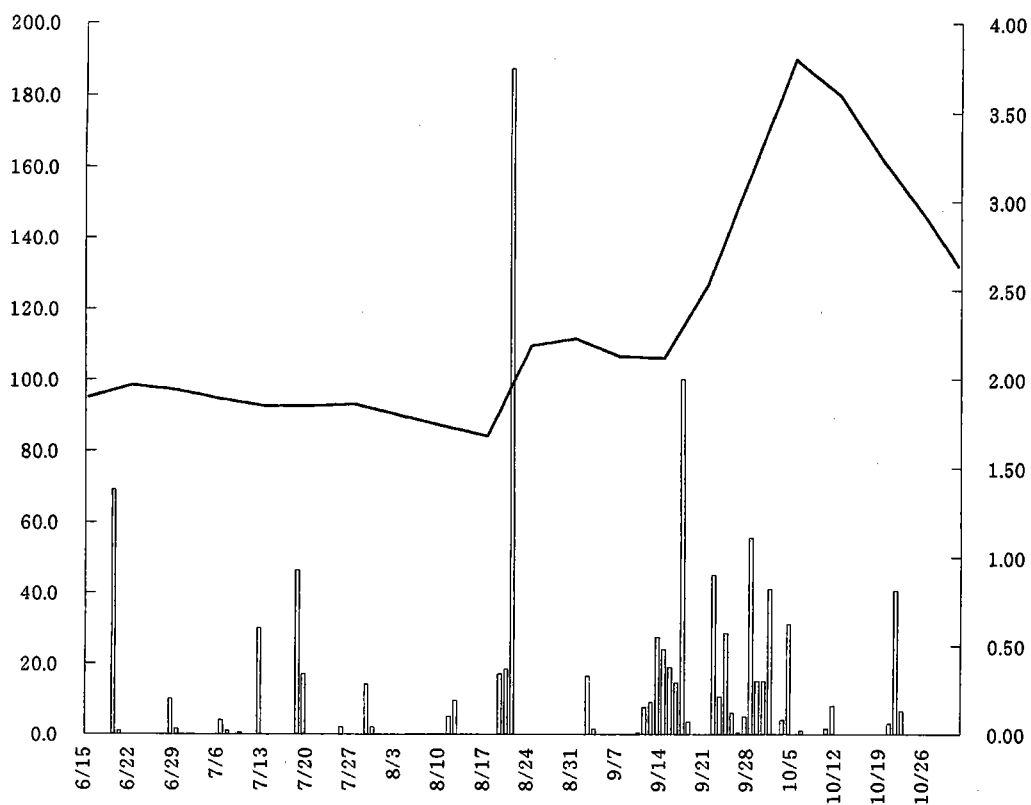


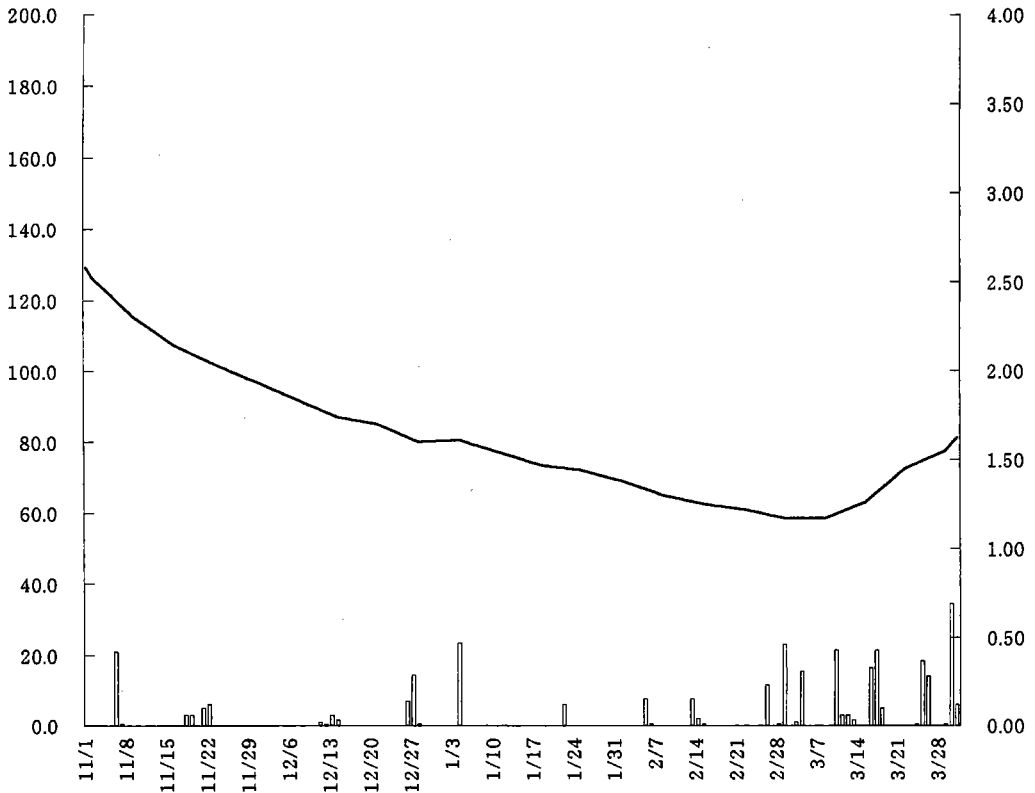
# 井戸 No. 8



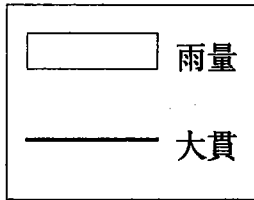
標高 8 2

井戸深 7. 4



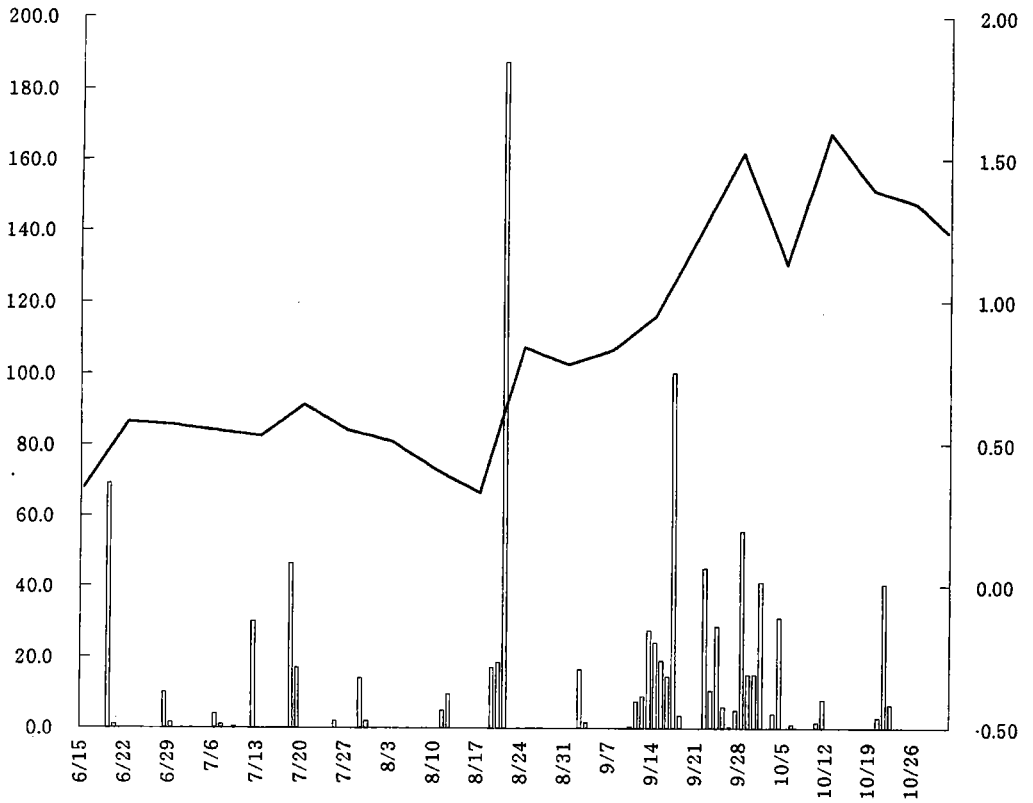


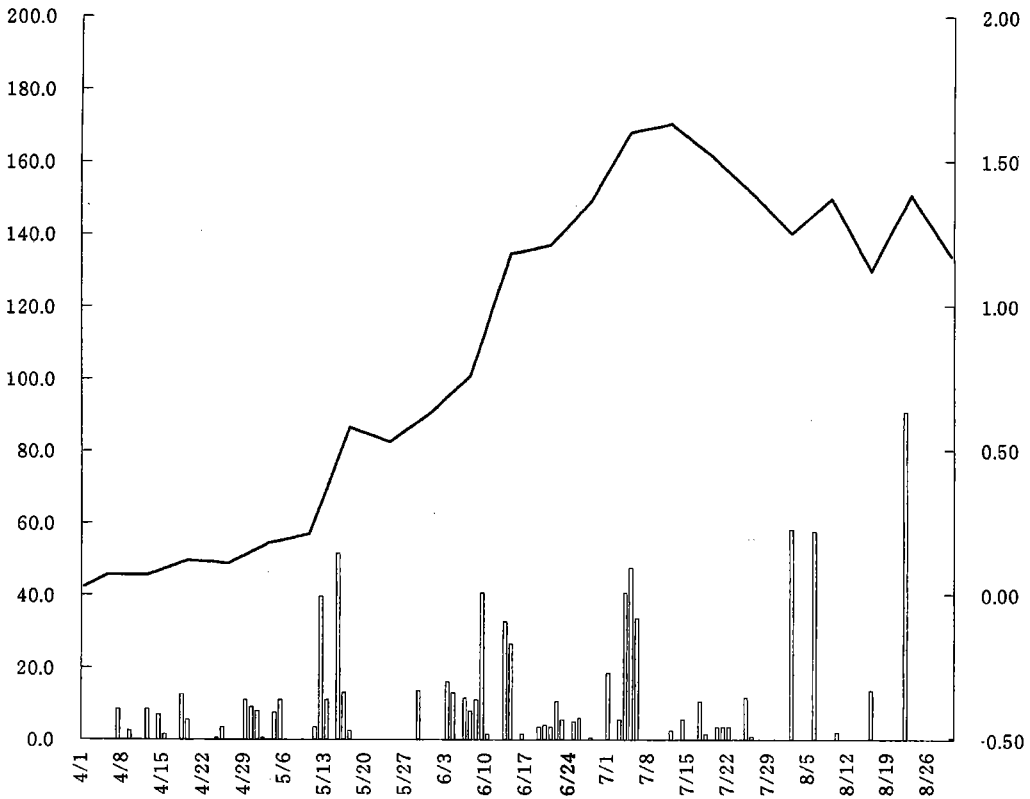
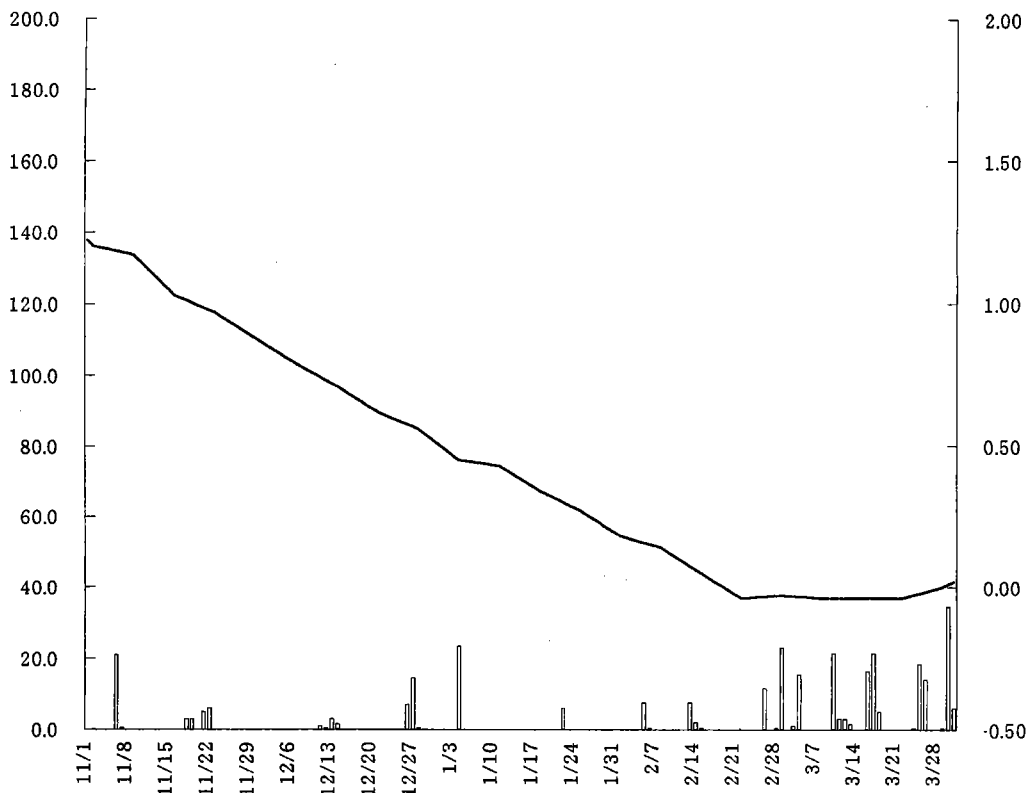
井戸 No. 9



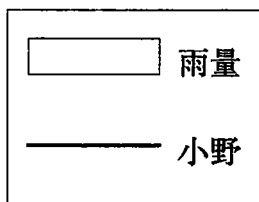
標高 78.5

井戸深 2.83



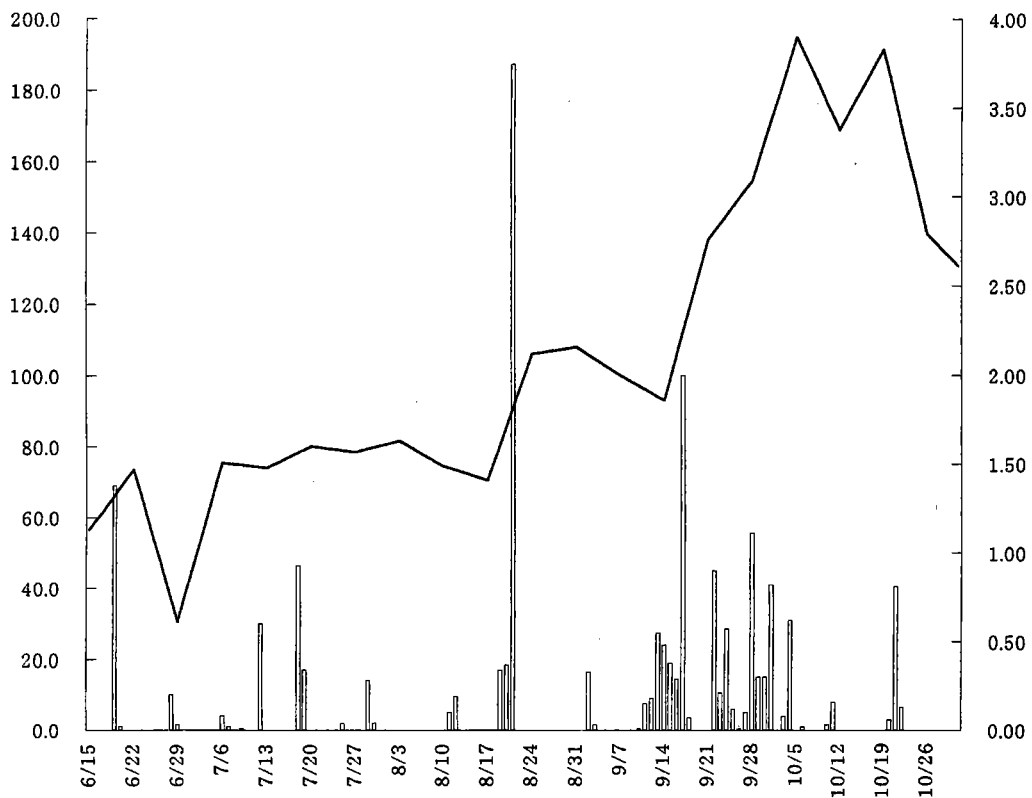


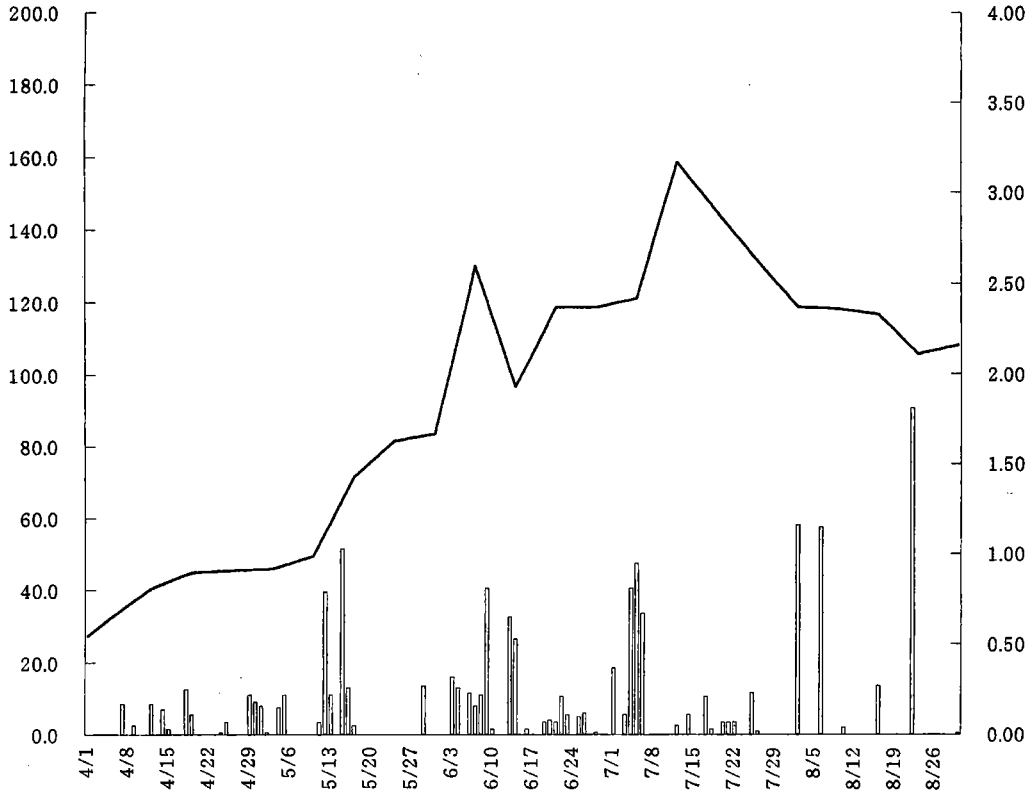
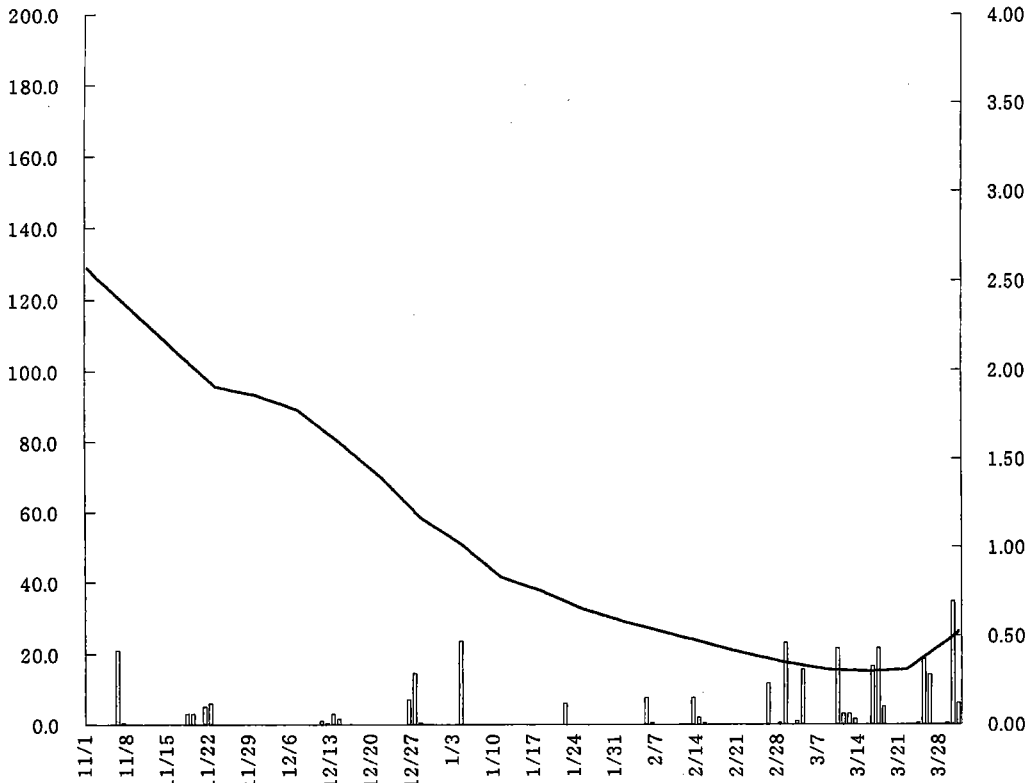
井戸 No. 10



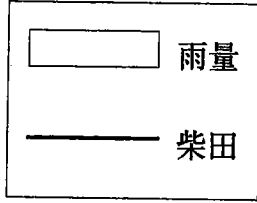
標高 99.5

井戸深 20.33



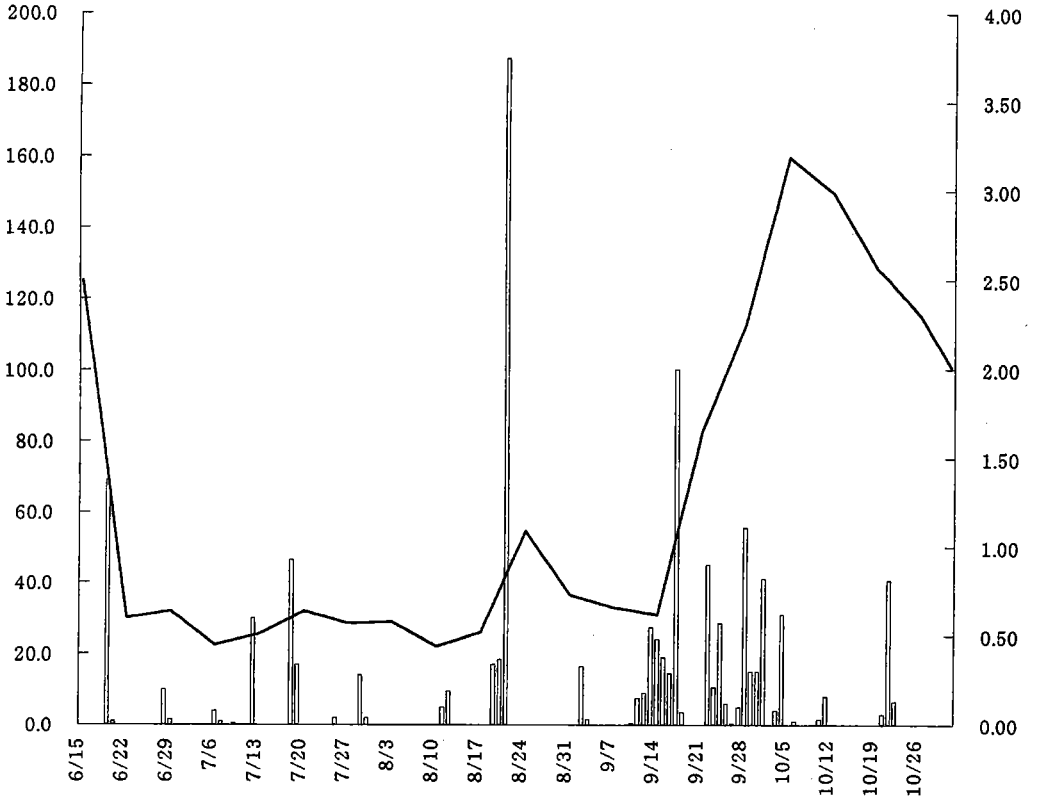


井戸 No. 11

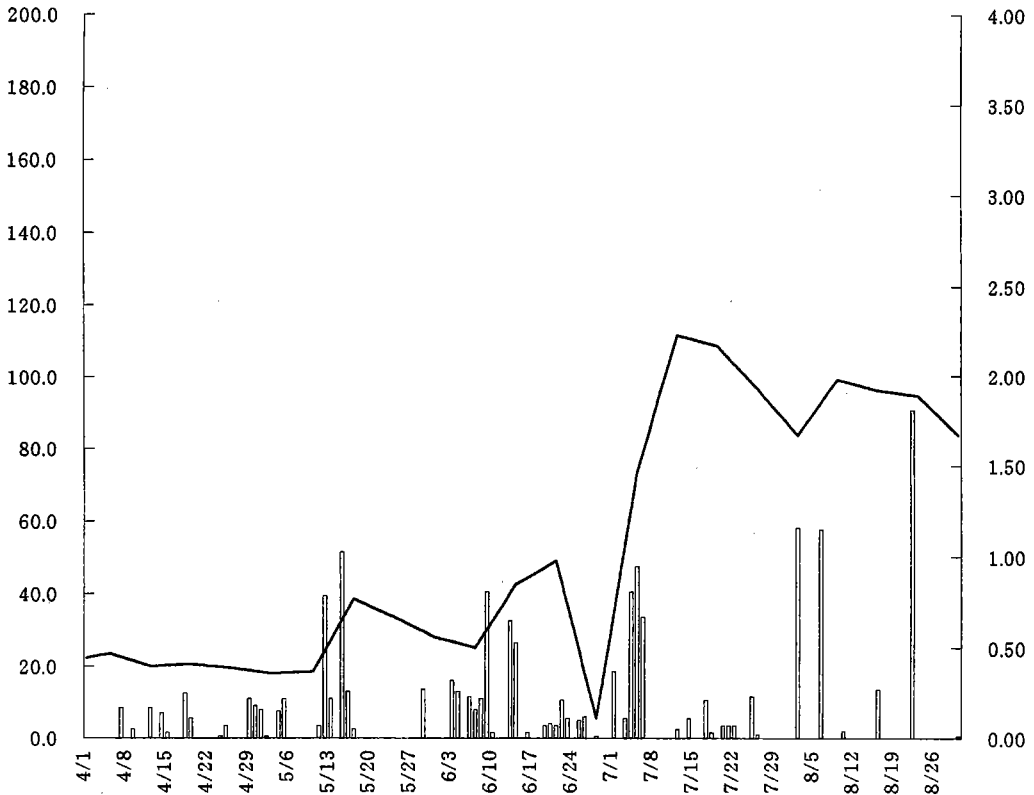
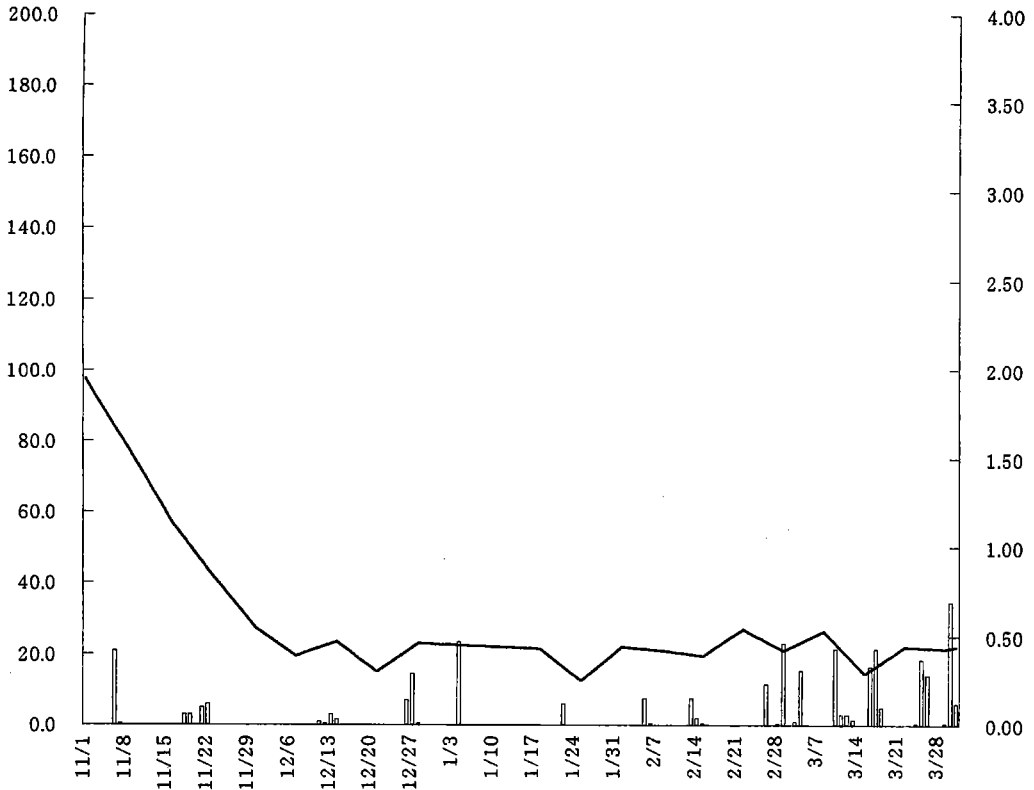


標高 100.8

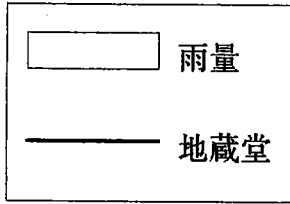
井戸深 16





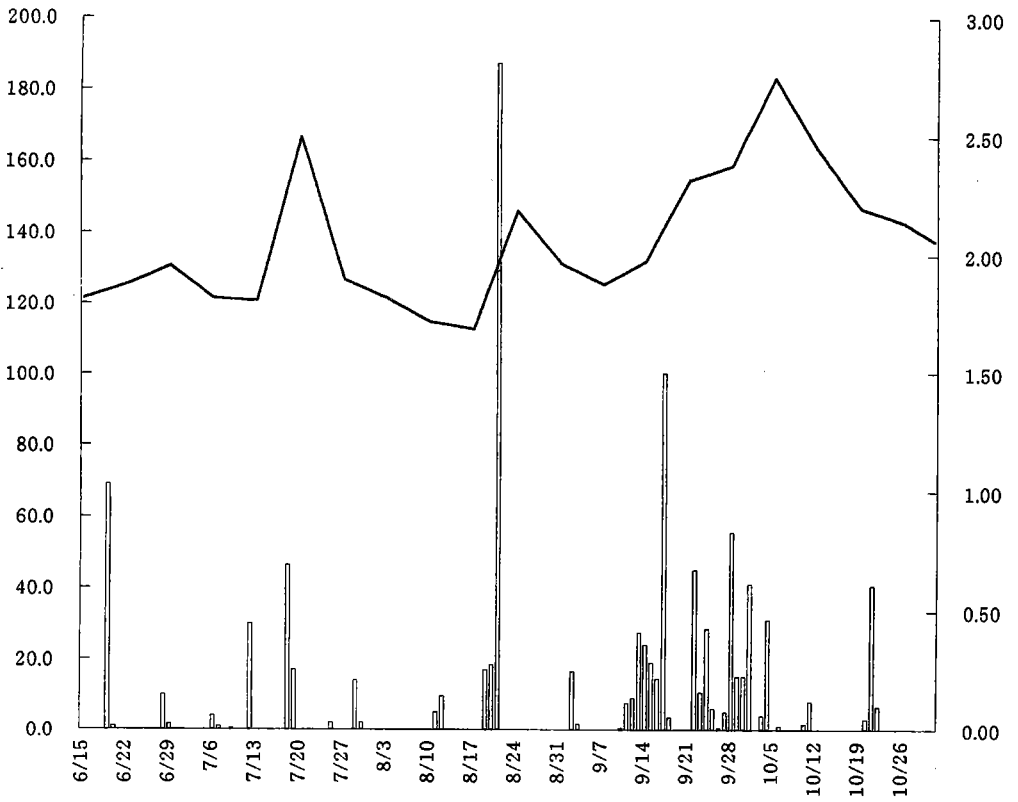


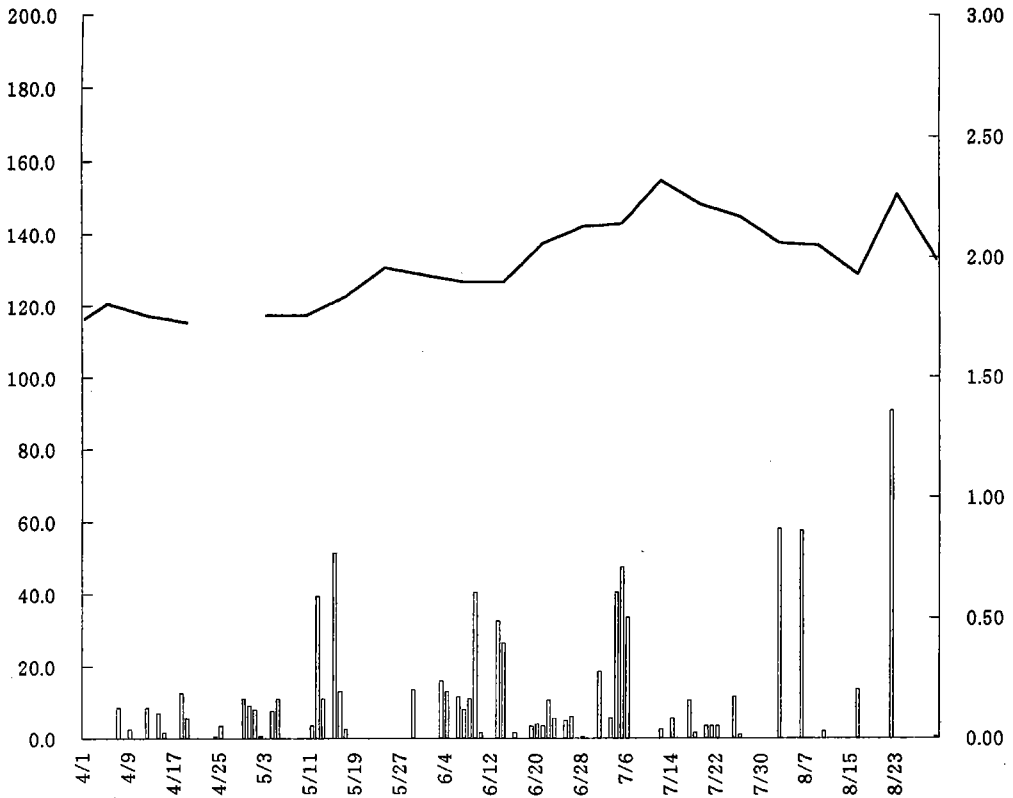
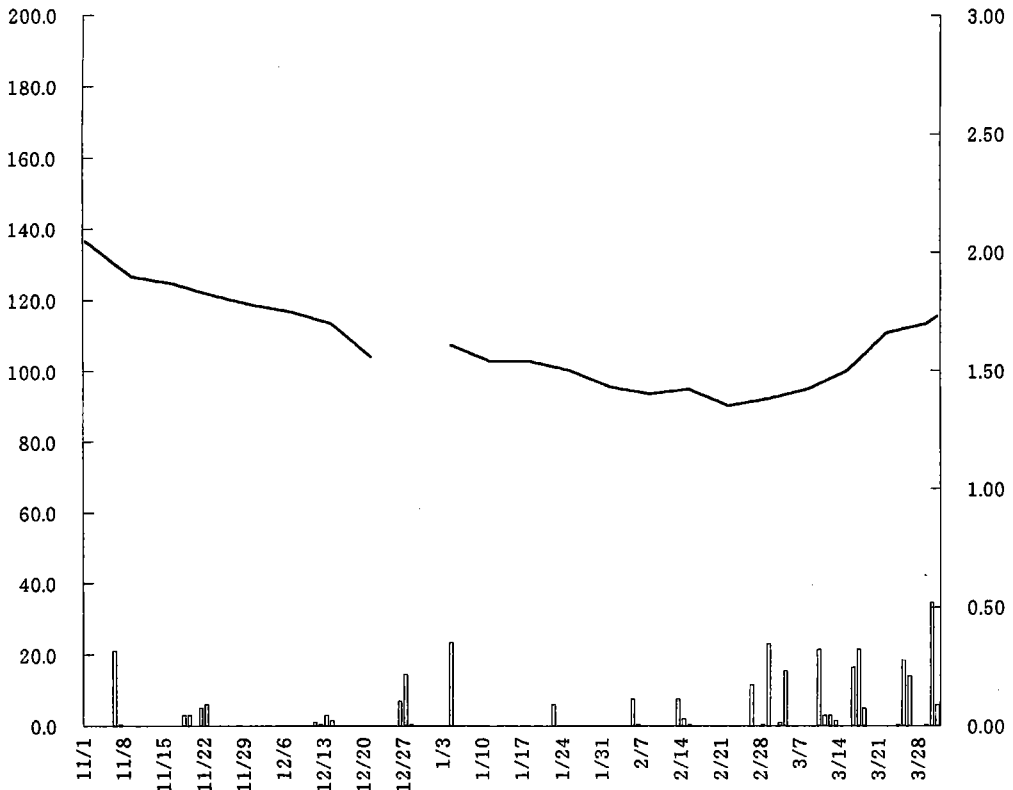
井戸 No. 12



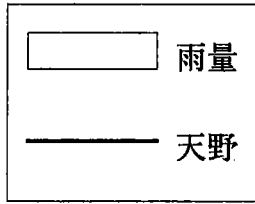
標高 8 5

井戸深 5. 6 6



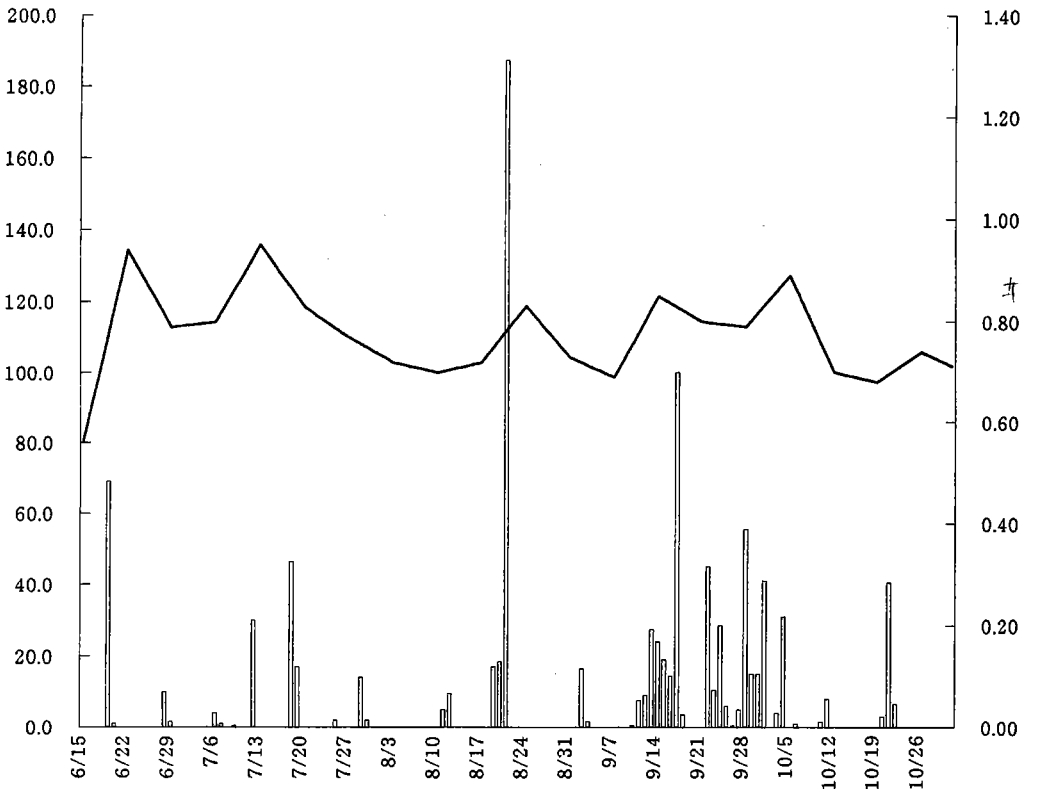


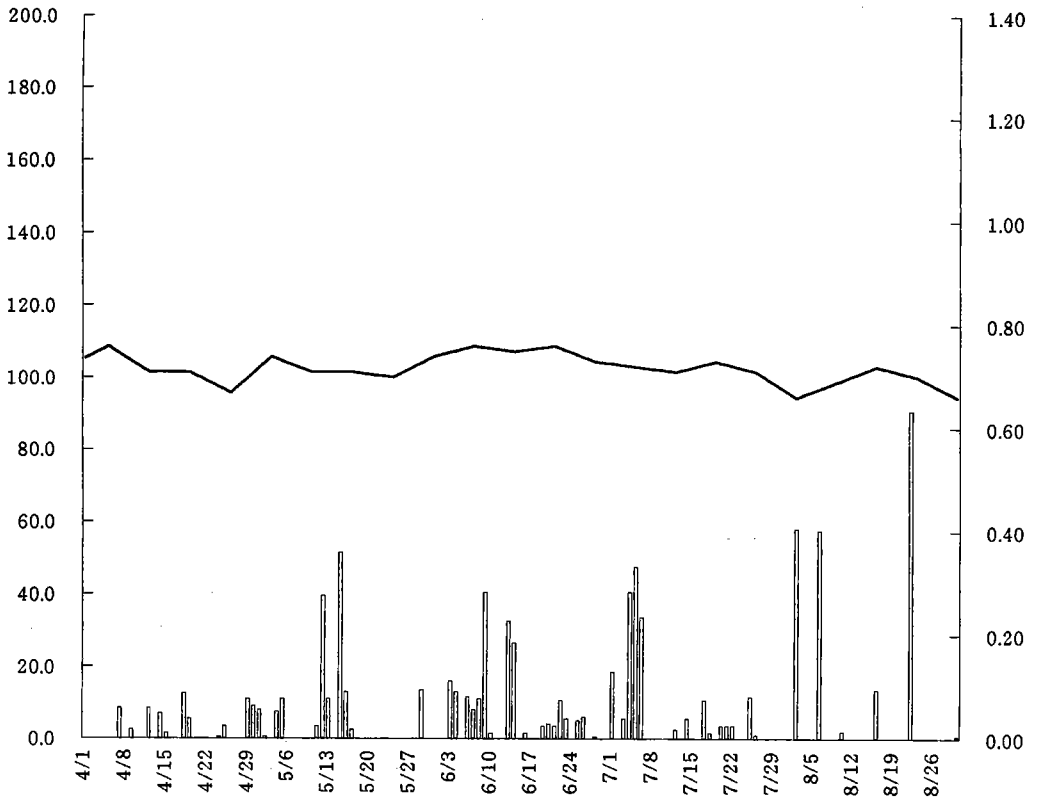
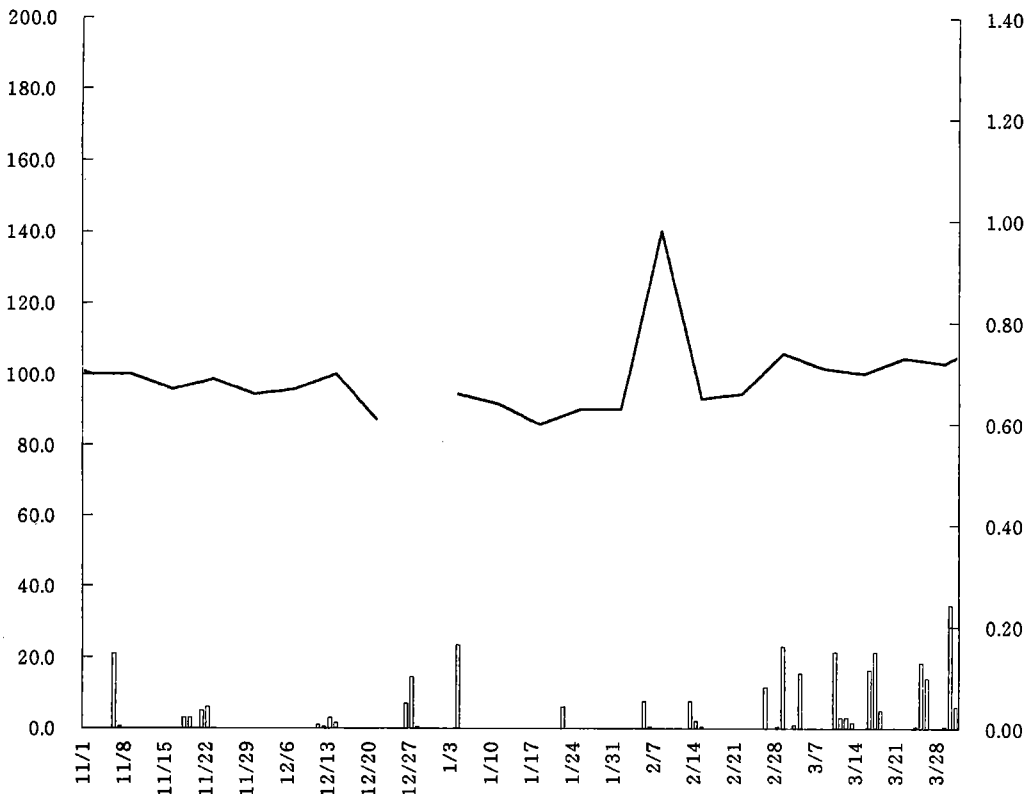
井戸 No. 13



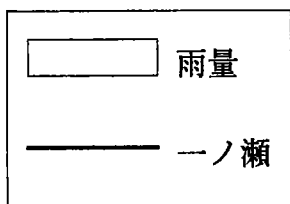
標高 74

井戸深 4.56



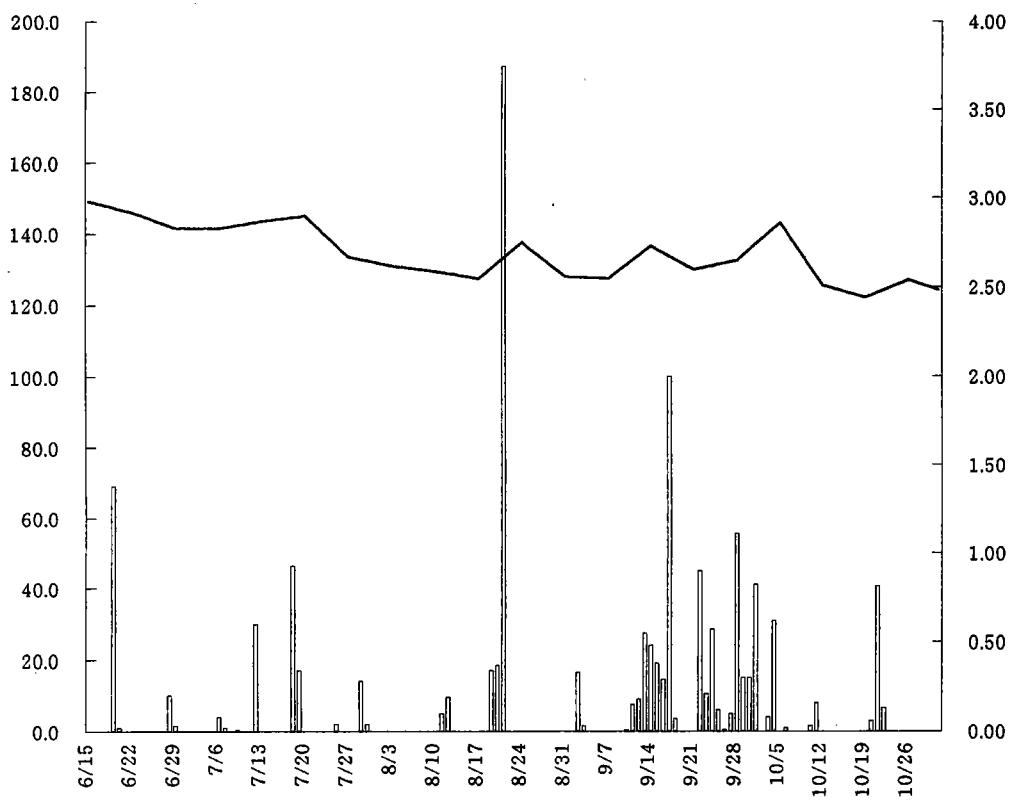


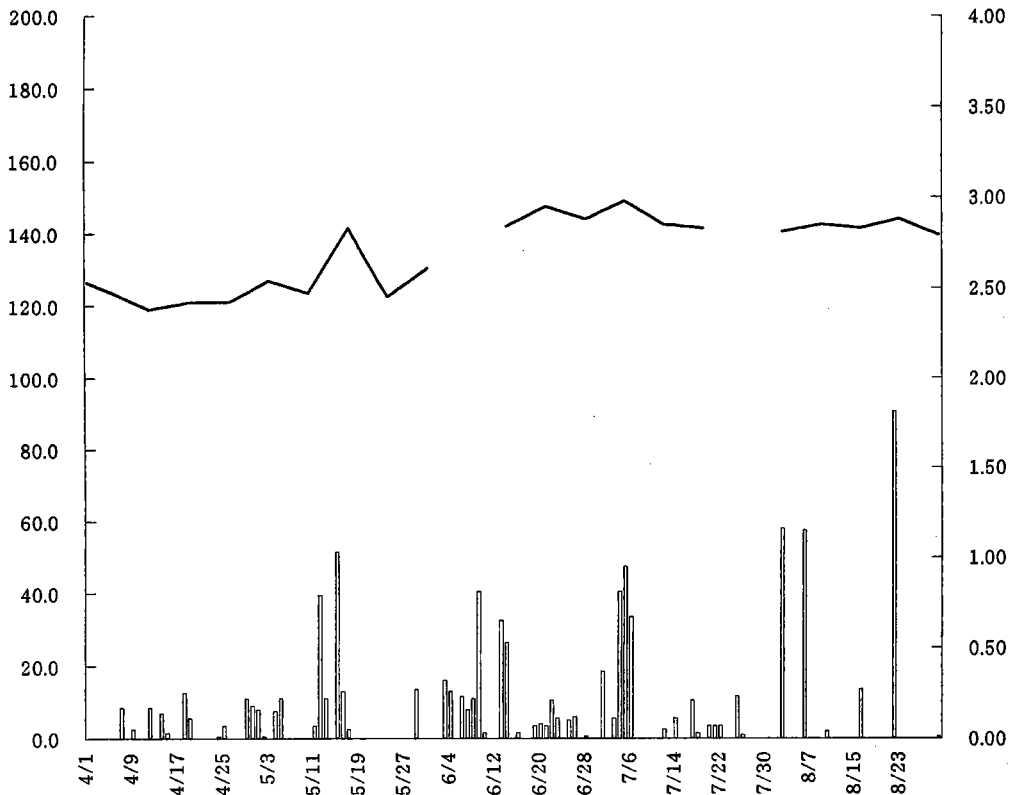
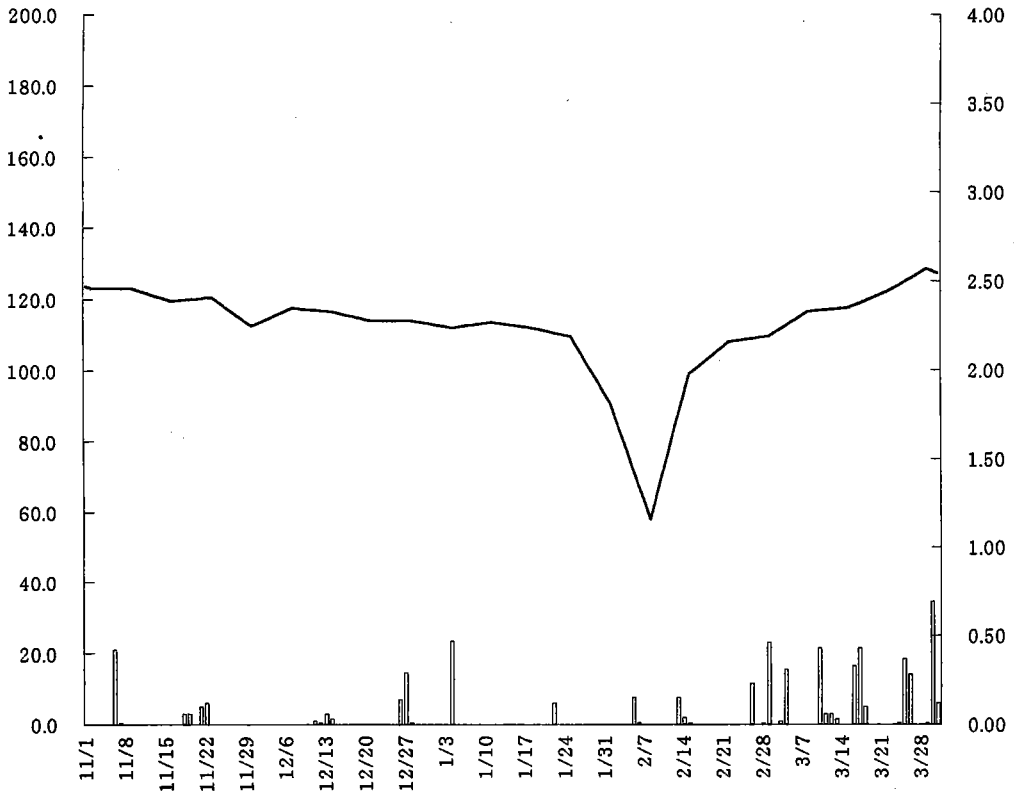
# 井戸 No. 14



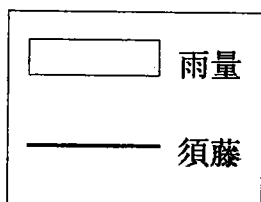
標高 83.5

井戸深 9.13



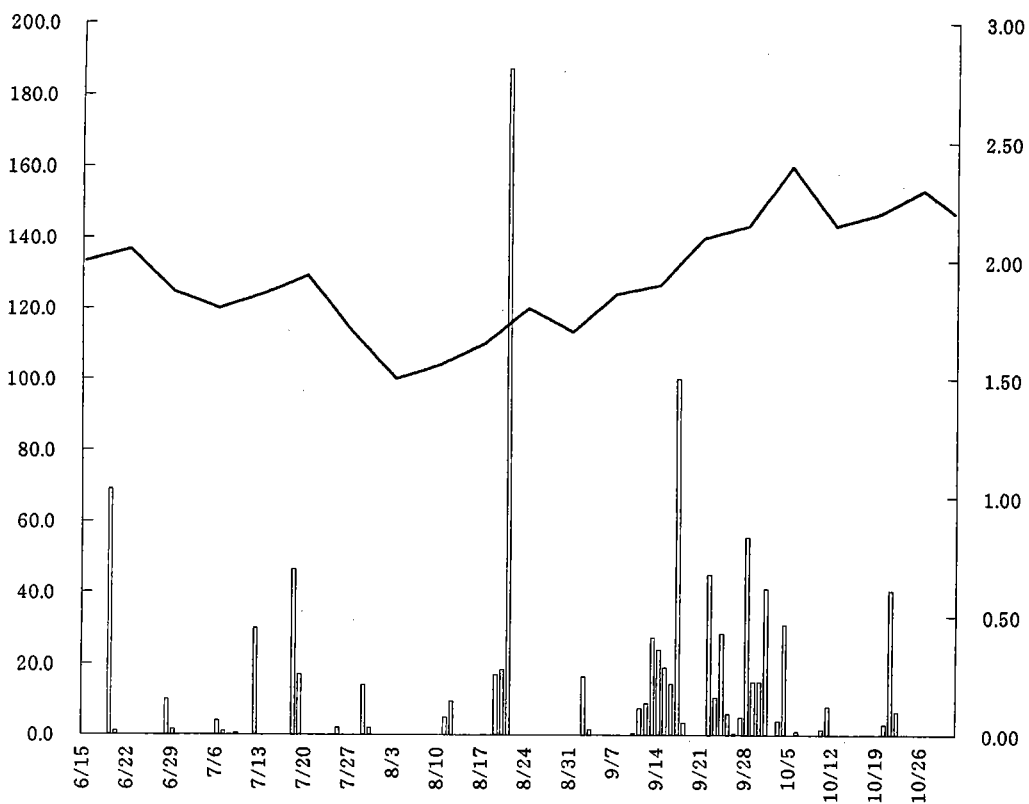


# 井戸 No. 15

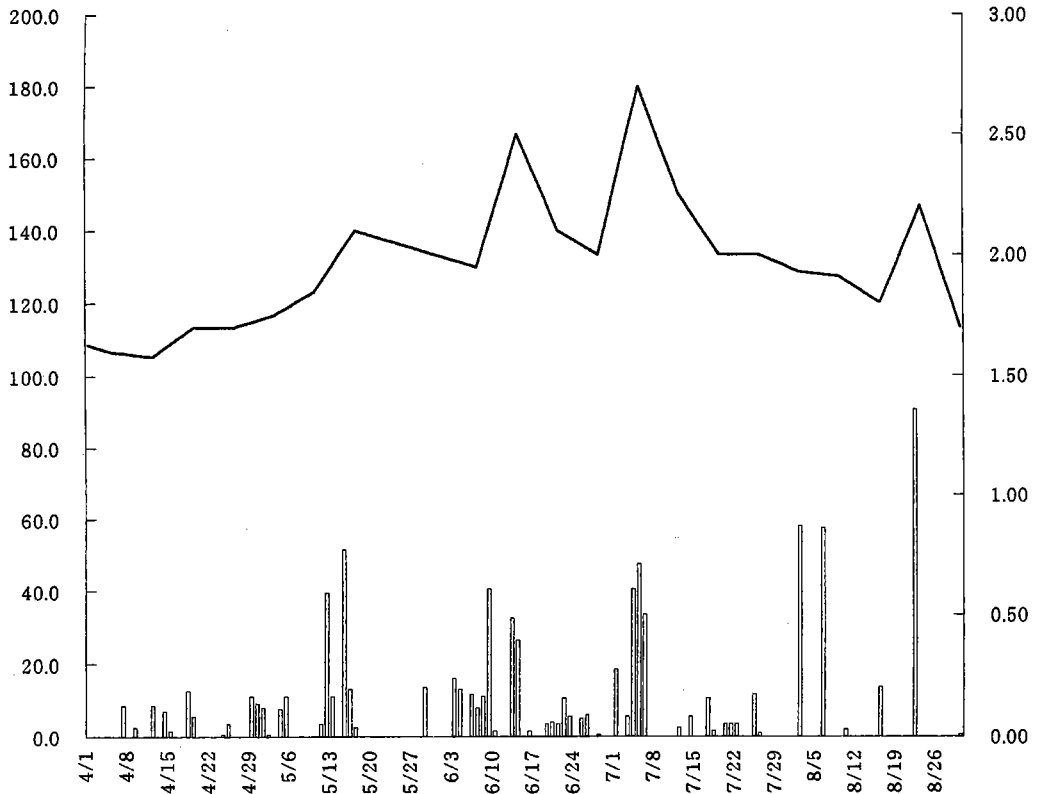
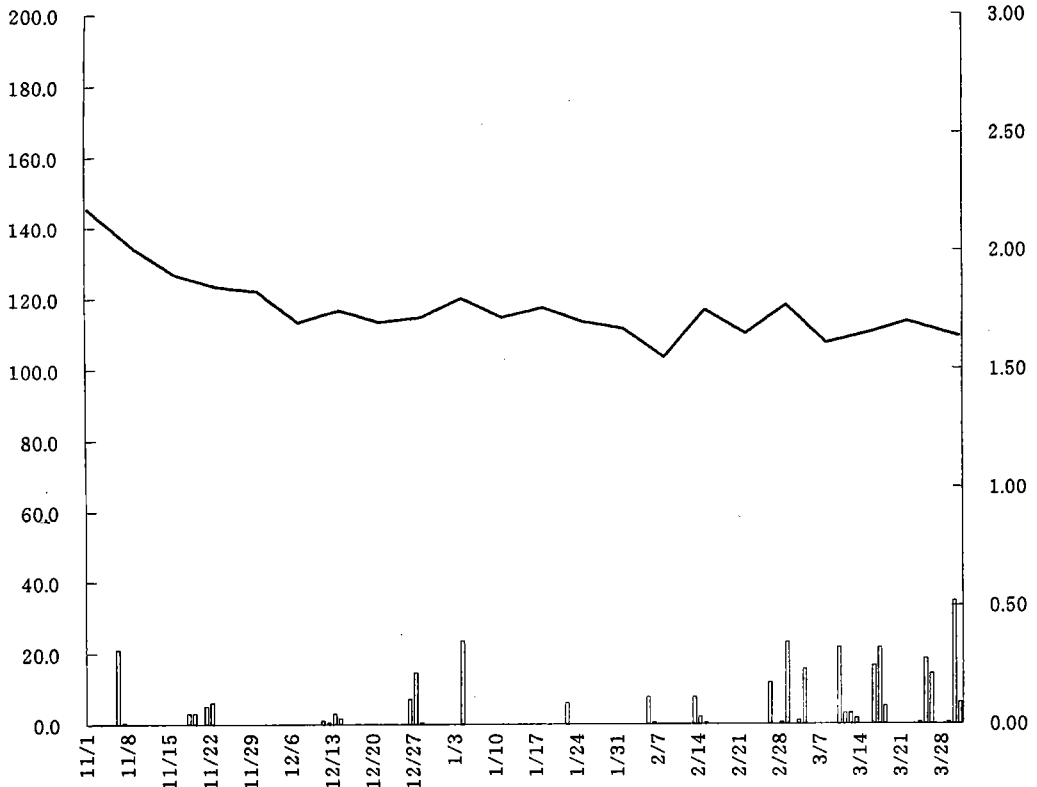


標高 86.5

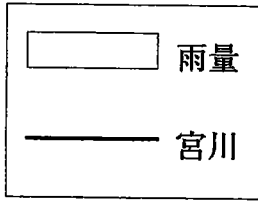
井戸深 4





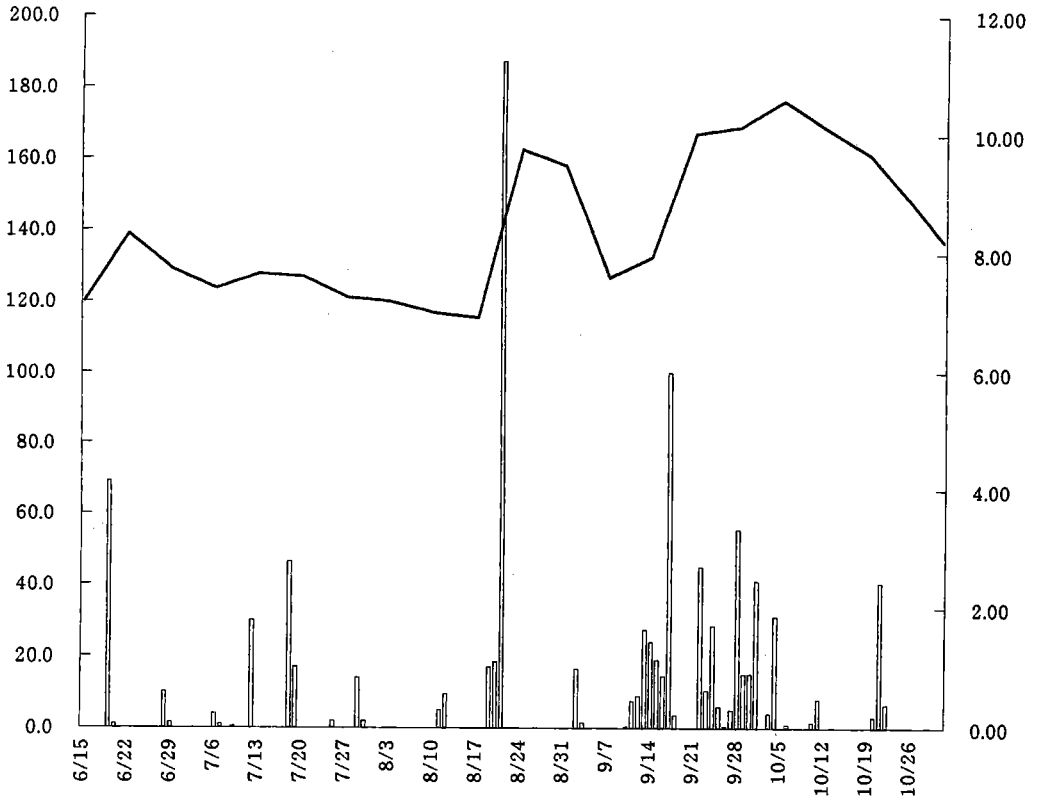


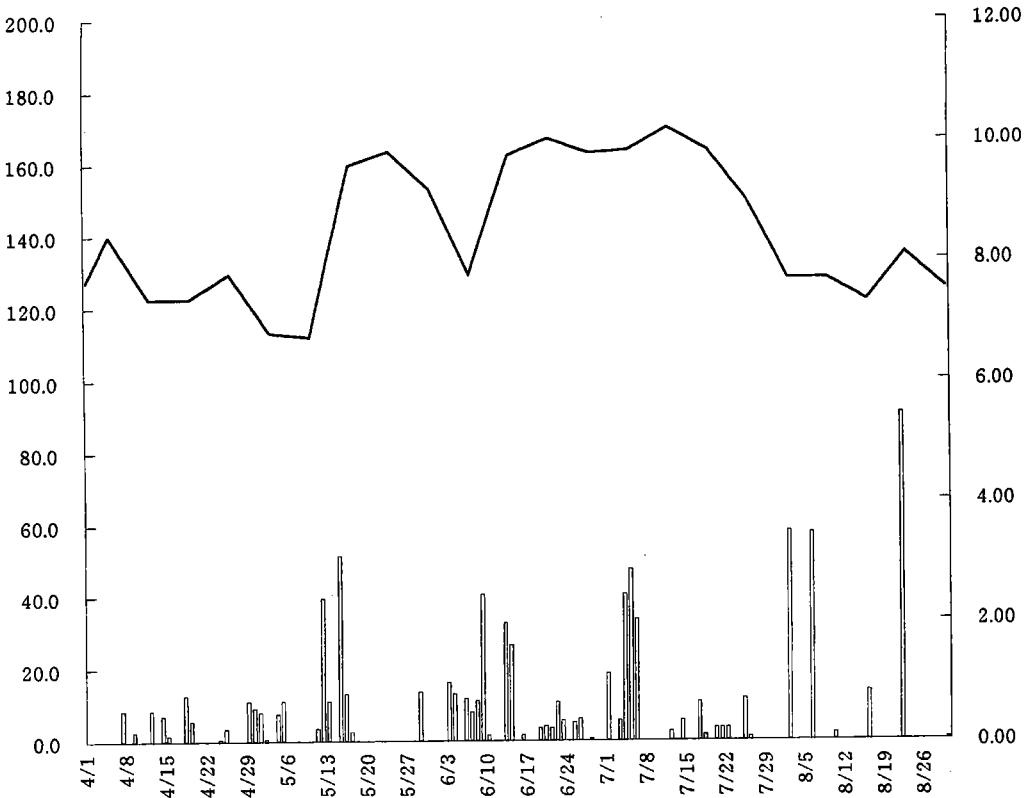
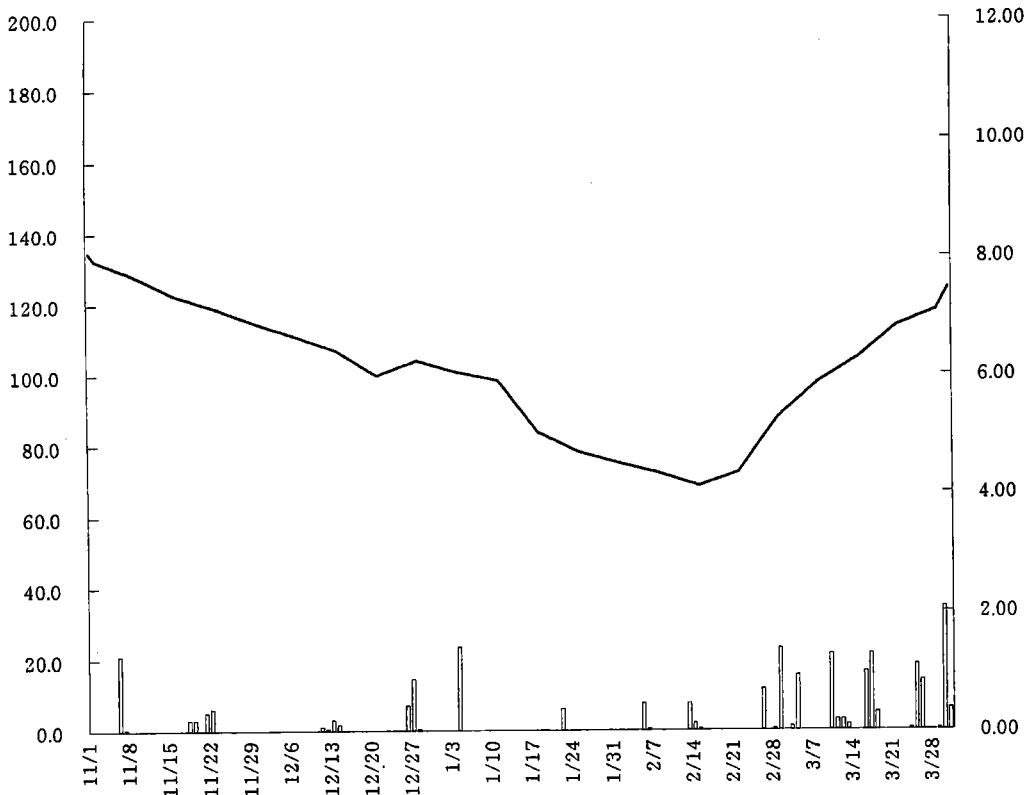
井戸 No. 16



標高 96.5

井戸深 13.68

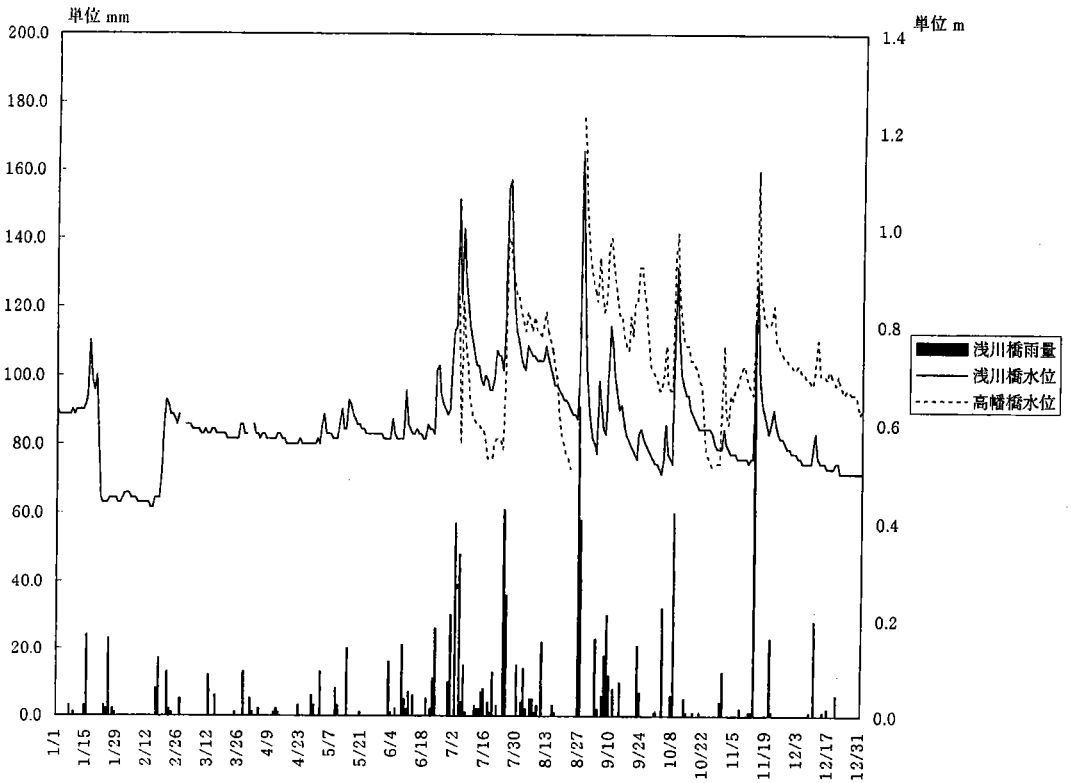




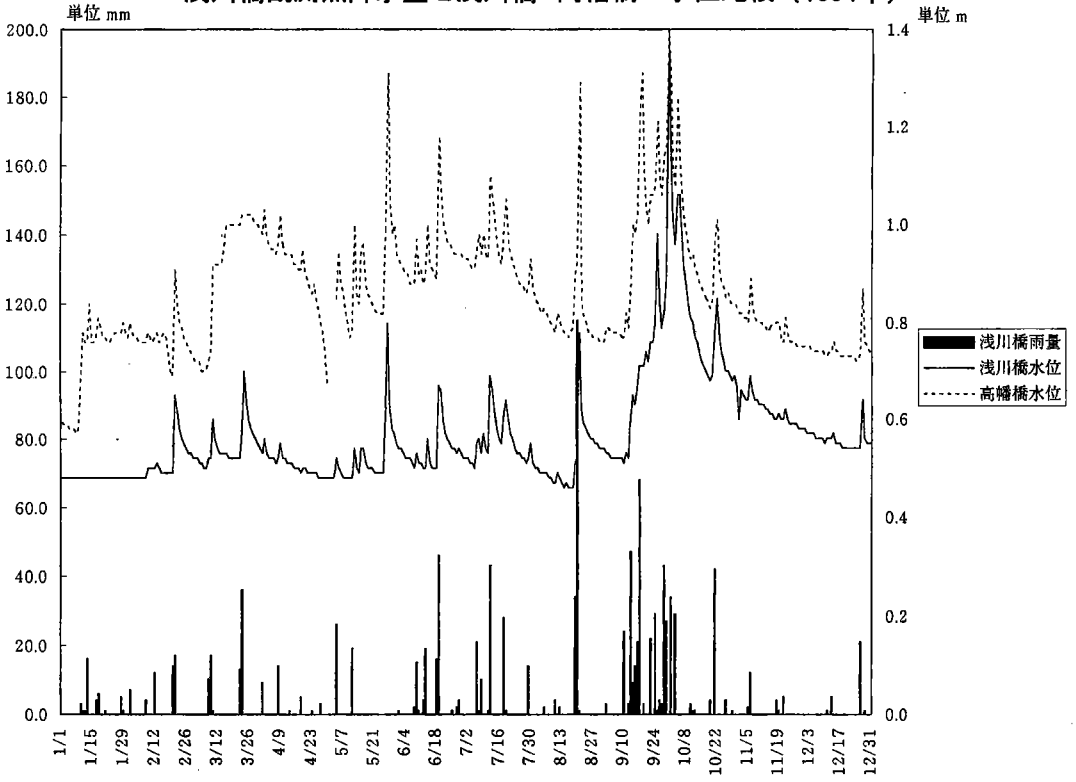
## 6. 2 浅川の水位の変動と降雨量

一本の川すじで、距離的にそう離れてはいないが、日野市役所と、浅川橋での雨量を見ると、降り方が違うのがハッキリしている。気象学からみると又、面白い結果が出ると思うが、この頃は市内でも微気候と云うのか井戸の計測中にも、濡れた舗装、乾いた舗装の道を車で走りぬける。

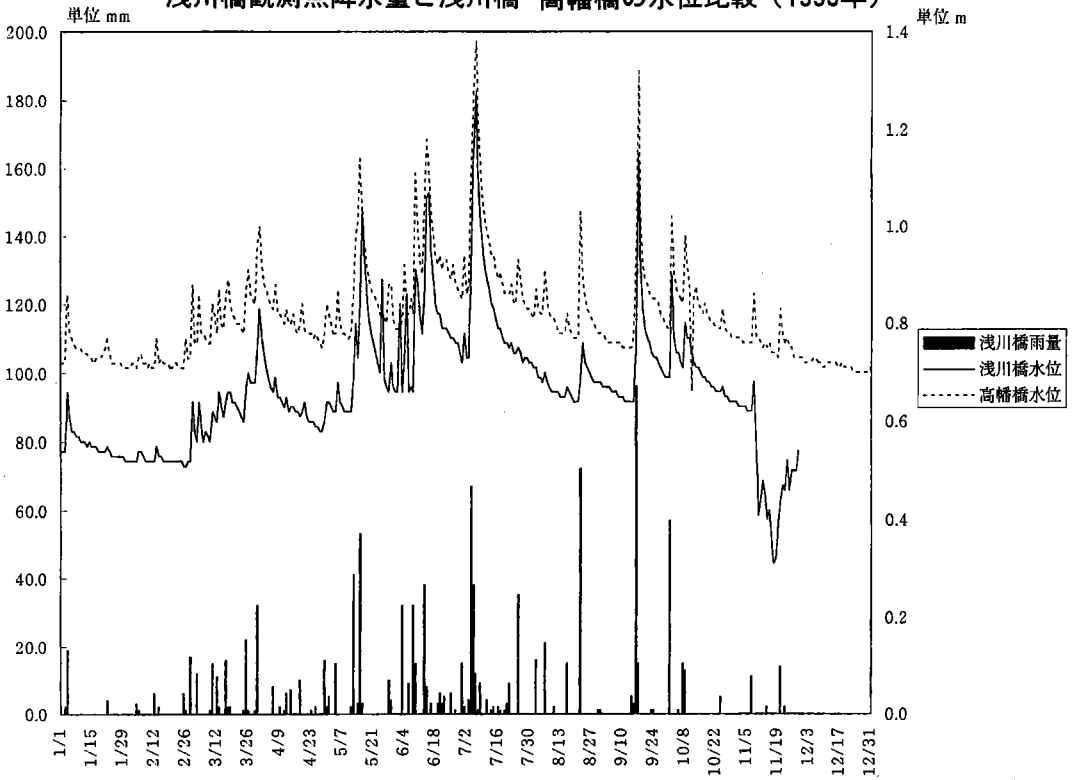
浅川橋観測点降水量と浅川橋・高幡橋の水位比較（1993年）



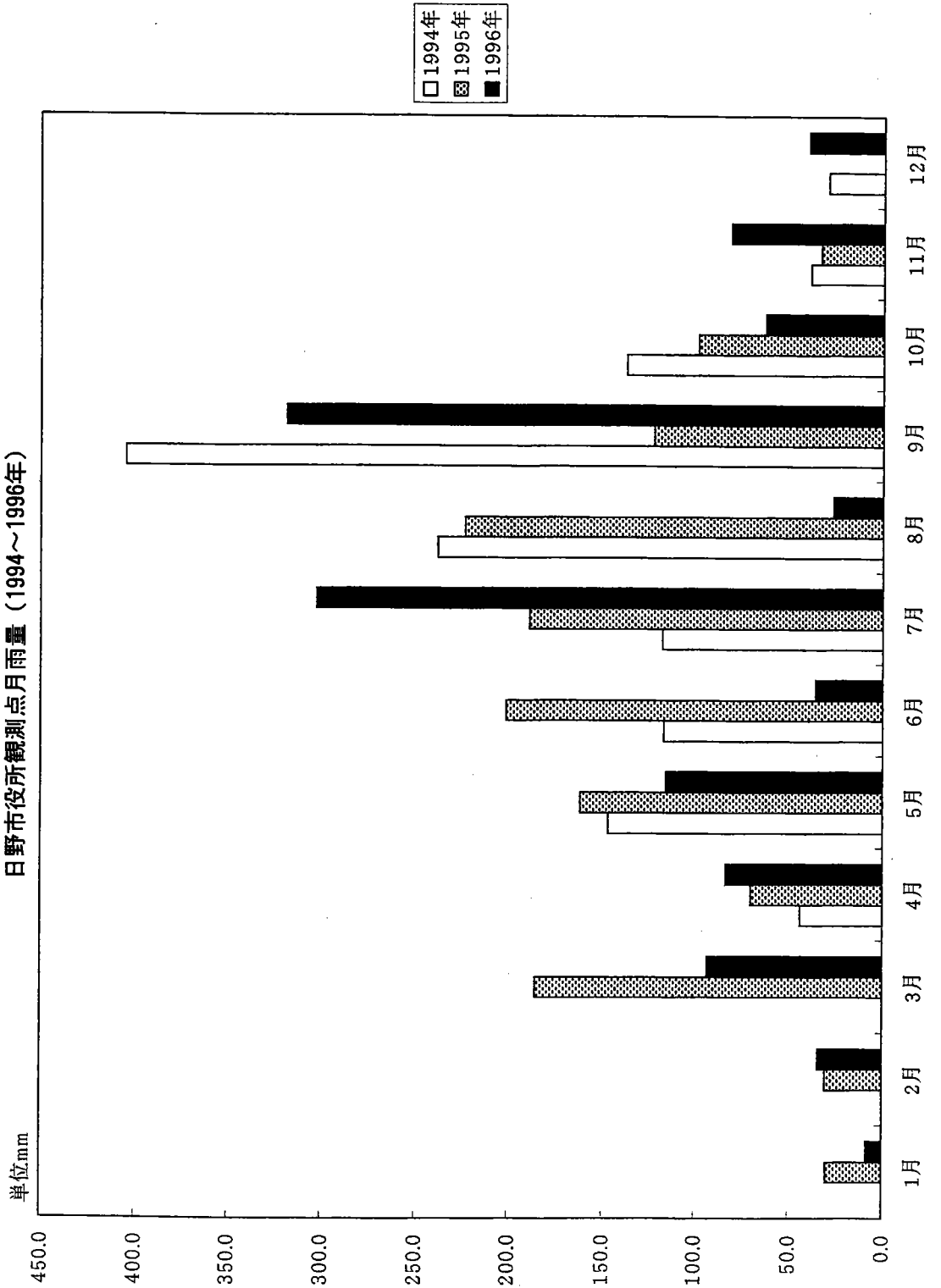
### 浅川橋観測点降水量と浅川橋・高幡橋の水位比較（1994年）



### 浅川橋観測点降水量と浅川橋・高幡橋の水位比較（1995年）

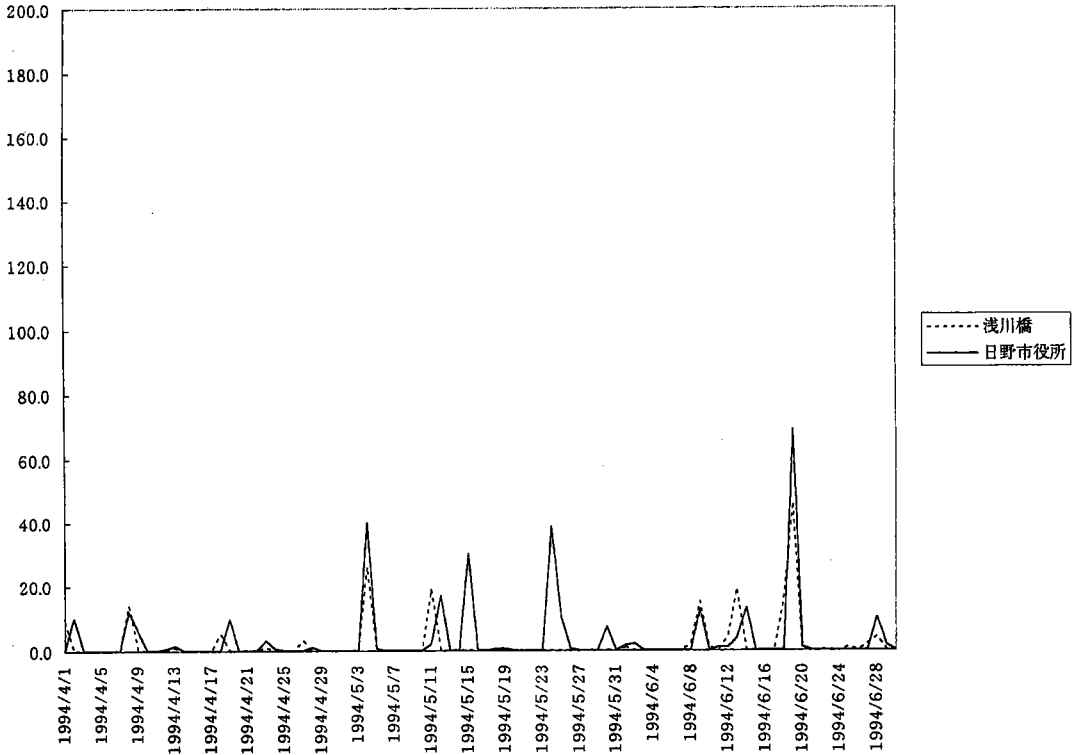


# 7. 浅川の雨量グラフ

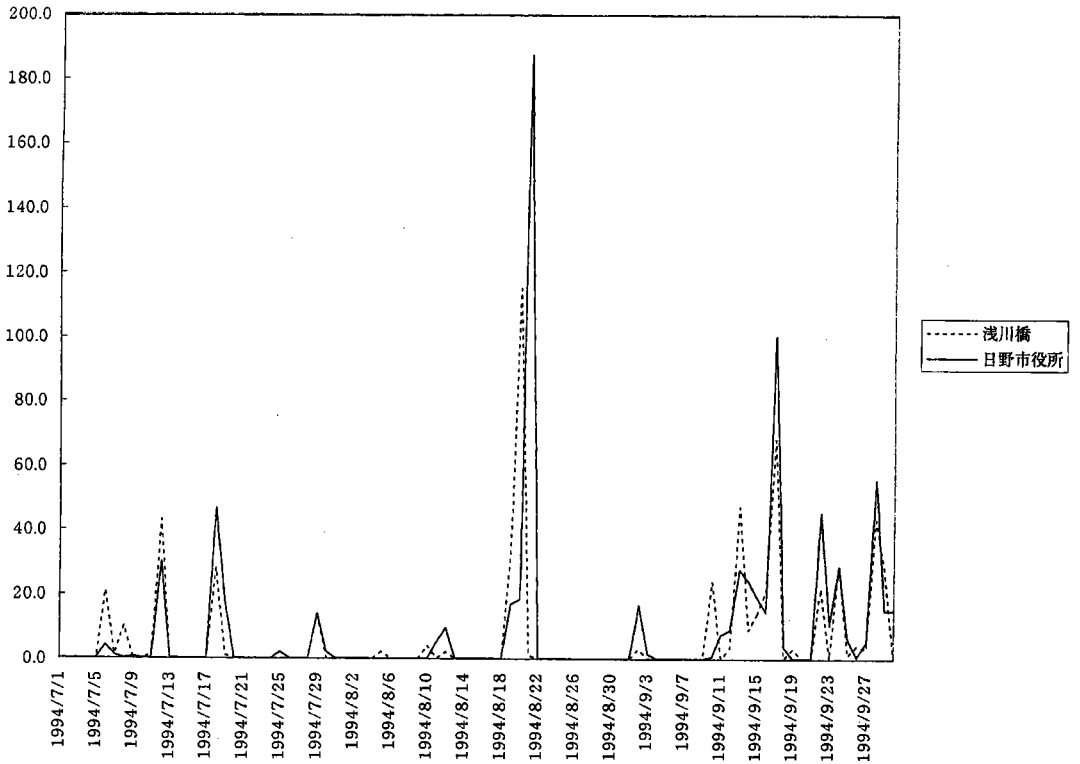


## 7.1 日野と八王子の比較

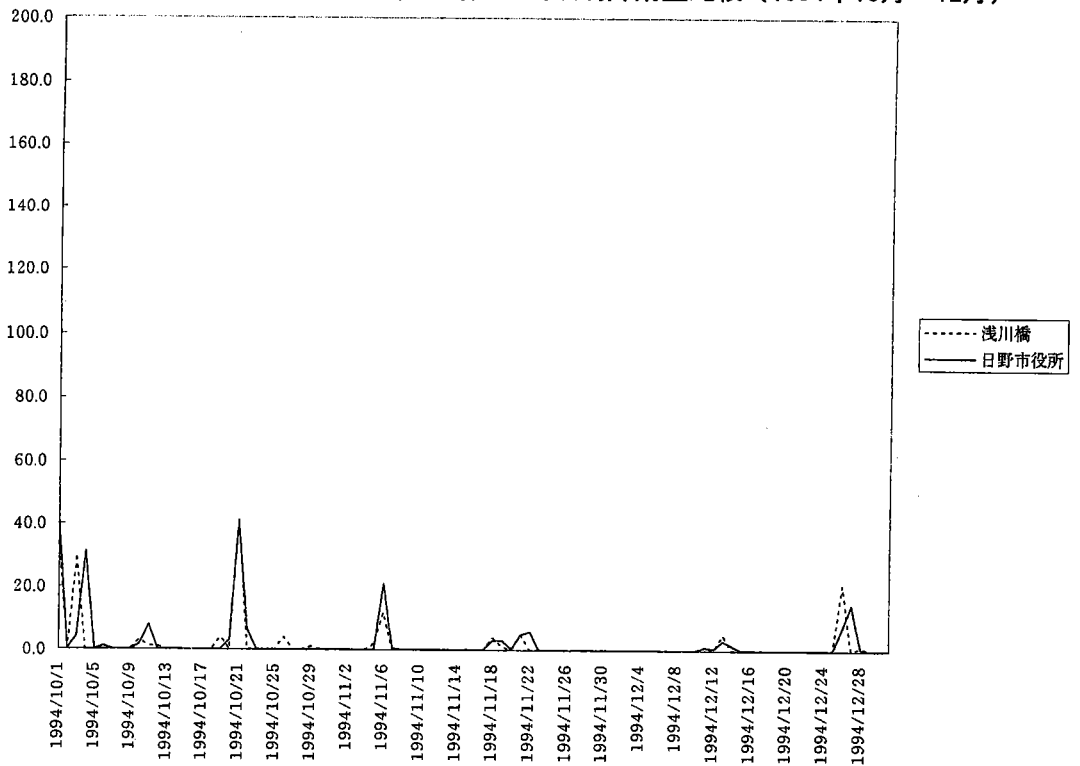
八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1994年4月－6月）



八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1994年7月－9月）

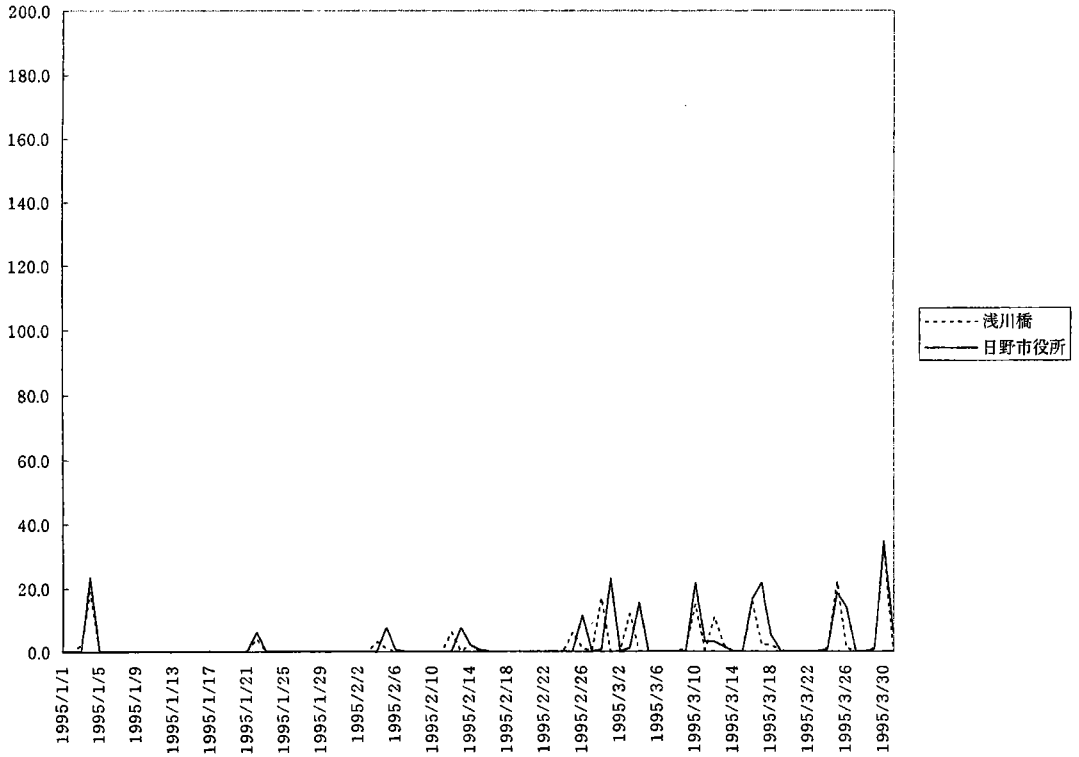


八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1994年10月－12月）

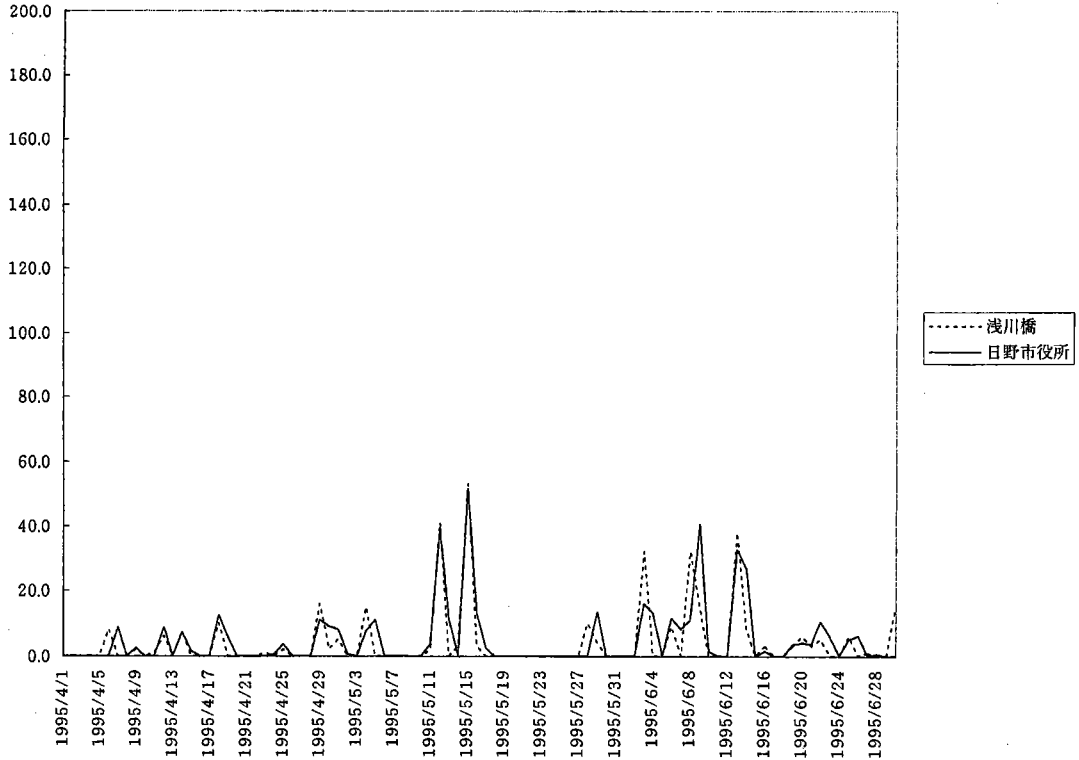




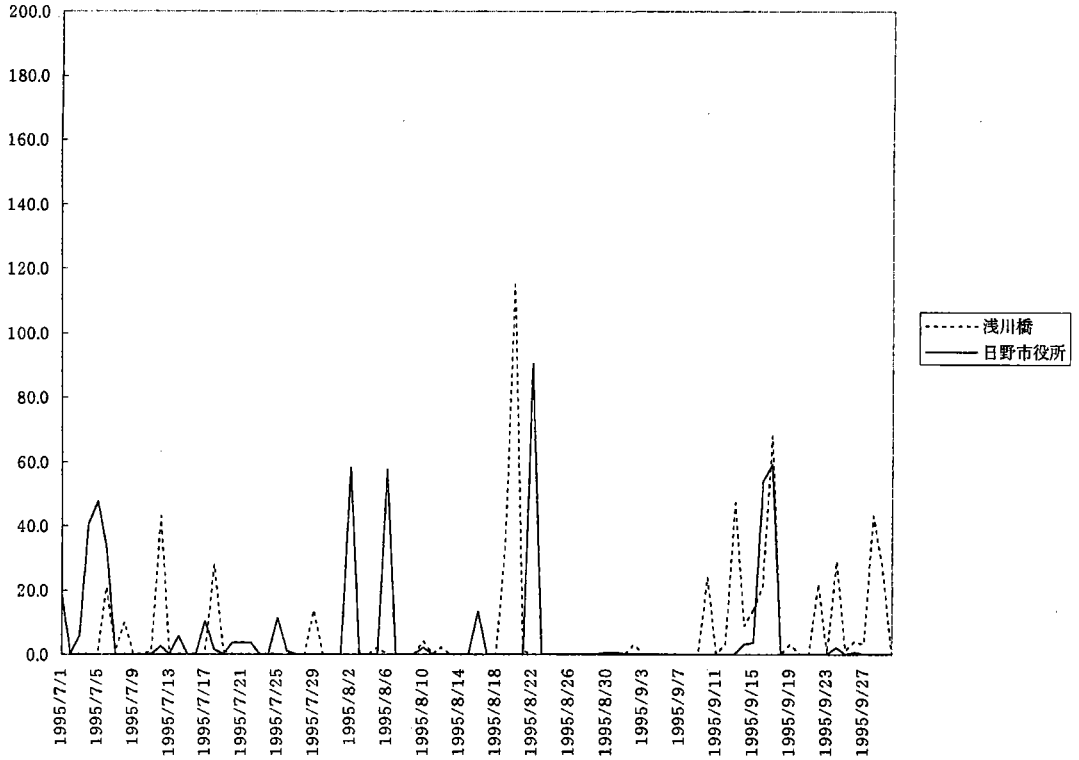
八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1995年1月－3月）



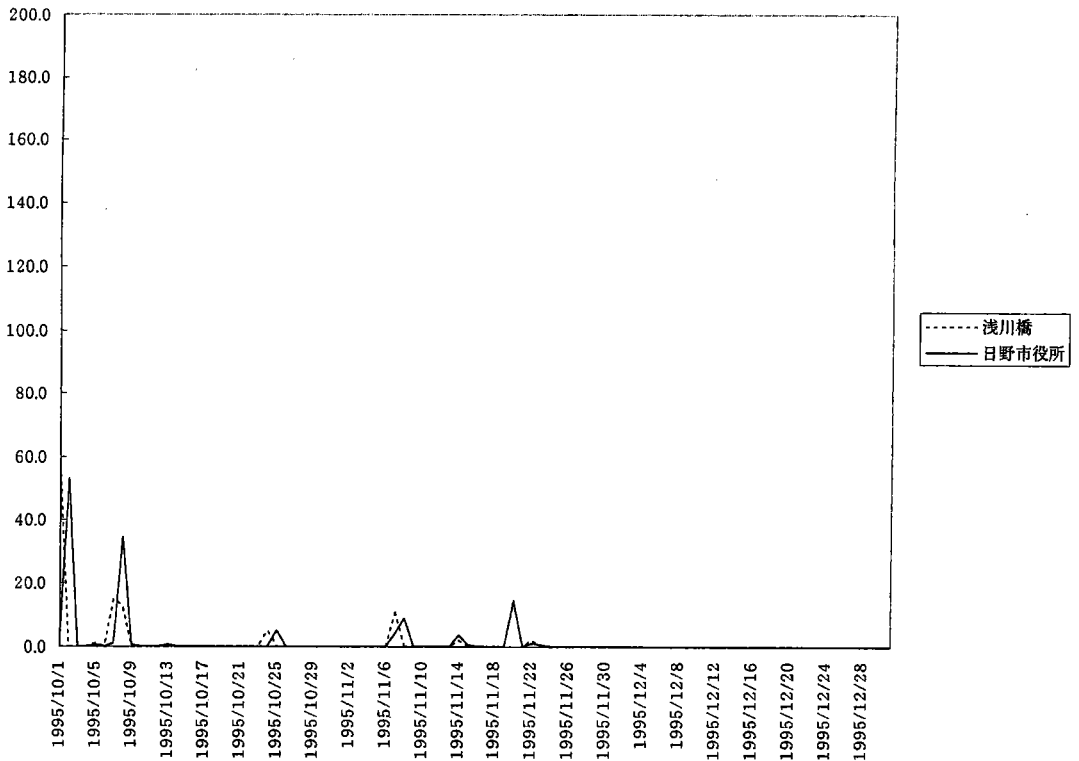
八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1995年4月－6月）



八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1995年7月－9月）



八王子（浅川橋）・日野（市役所）観測点別降雨量比較（1995年10月－12月）



## 8. 調査を通して

日野じゅう歩くということが楽しかった。と、一口で言ってしまうと、ちょっと違う。確かに嘘ではないのだが、時間がないときは、何で目の前の家に行きたいのに、こんなに遠回りになってしまうのかとあせったこともある。

地図で見るとなんのことはない、車で走ればすぐつくところでも、浅川を中にして南と北に小高い台地と、丘陵のあるまち、橋がなければ向こうに行けない。台地にしても上がり下りに、車の通れる道は決まっている。子供のように好きなところから行き来するわけにもいかない。まして丘陵地ともなると、わずかな範囲にアップダウンがある。だが、この町が魅力的なのは、この変化の多さにある。調査や観察会などで人を案内する時に、よく言われる。「いつもこの一本下の道まで子供を送り迎えしているのに、こんな所があったの知らなかった。」「覗いただけでは何があるか、入ってこなければ判らないところね。」

この調査でいくつもの新しい発見と驚きを味わうことができた。しかも、季節と天候がそれを複雑な色に変化させ、いつも新しいものを見る感じがあった。幾筋にも細かく分かれた道を、今日は何が見えるのかと、不思議の国のアリスよろしく通ったものだ。

北斜面と南斜面の雰囲気は違う。土地の人に聞くと、水の味と量も、ほんの一本沢が違えば変わるということだ。地層の傾き、質も複雑に違っているので、細かくボーリングしないと、はっきりしたことは言えない。丘陵や山地の水文は、調査に時間と資金が要ると研究者から聞いたことがある。

ともかく台地は人が多く、丘陵地は生物の層が厚い。崖地の草むらに小さな踏みしだかれた道が見えたり、目の前を大きな蝶が通ったり、青大将が沢の小川をわたって消えていったりと、全てが健康で懐かしさに満ちた土地だ。この町にきてはじめてのころ味わった感激がよみがえった。

段丘の下から、上の台地に出る緑の天蓋におおわれた坂道のなつかしさ、道に沿った細い流れは冬に枯れて、夏には戻る。ほの暗い道をぬけた台地のうえの明るさ、細く残った崖地には、コブシの大木があり、春にはまちかねて足を運んだ。花のさかりは辺りににじむような白さを満喫した。梅に桜に連翹、花の盛りもいいけれど、さまざまな色合いに若葉が萌える頃、その季節には心が浮き立つような幸せを感じる。

とにかく、どこにいても日野の中には、水のある景色があった。台地の上にも濃い緑があり、丘陵の稜線に立っている時さえ、濃い緑につつまれている。しかし、最近の変わりようは激しい。こんな急激な土地の改変を伴う丘陵地の開発は恐ろしい。長い年月を経てつくられた現在を、瞬間に変えてしまう力を人間はもってしまった。目で見て確認されるものだけが変わる。果たしてそうなのだろうか？。地下水の動きを目で見る作業を通して、私たちは色々なことを考えるようになった。山と川の関係、雨と地下水の関係。人の営みと自然の関係。時と自然の関係。雨と井戸の水位の関係と同じように、自然が造った大きなシステムが変化してゆくのは、人には造ることができない「時」が必要だということについて。

今回私たちが関わったのは、地下水の中でも浅い（浅層地下水）地下20mまでのものだった。日野には井戸がたくさんある。一般家庭でも地下100mに近いものが使われている。企業も、この地の良質で豊富な地下水は魅力で、食品関係、機械、印刷、ハイテク等のメーカーが、早くから進出してきている。

湧水の多いことでも内外に知られている。かつて200kmあった用水も、現在は170kmを切ってきた。しかしこの地には目に見えるもの以外に地下水が支えてきた膨大なシステムがある。これは、確信をもって言うことができる。それだけに、目に見えることのみを対象に町の未来を考えるわけにはいかないのだ。

多摩川、浅川、この二本の川が作り上げた街にとって、今がどんな意図を持っているのだろうか。東京都から出版された三多摩地区の地盤地質図をひろげると、あらわしようのない感動に包まれる。台地と水のこんなにも密接な関係、木の根のように、丘陵に伸びる水の道、中には、今は埋もれ閉ざされてしまった水の道も記録されている。気の遠くなるような長い時が記録された地図は、なにか経典を見ているようだ。

川沿いに細くつながる沖積地は、台地の東であわさる、その広い沖積低地は、古代から更に少しずつ川下に伸びてきた。人が住み、やがて稲作が行われ、度重なる洪水にもめげず、更に手を加え土地を生み出してきた。そのために、小高い丘がなくなっている。上耕地、下耕地と呼ばれる地名は、田中山といわれた丘を削って、洪水のたびに沼になっていた低地を埋めて作られたという。今の変革はこんな生易しいものではない。山を削りその土で谷をうめる。長い時が作り出したものは目にみえるものだけではないのだ。

## 8.1 丘陵・沖積地・台地（流域の水の光と影）

すべての川がそうであるように、浅川も気の遠くなるような古代から時を流れ続けて今に至っている。その歴史の殆んどを力がおもむくままに流れを変え、大地を刻み続けて来た。

多摩丘陵の基盤を成す小仏層がつくられた約一億年前の白亜紀、高尾や陣馬の山地が出来た。地質年代では中生代も終りの頃だ。

新生代の前期、海に沈んだ日本列島は海底で盛んな造山運動をくり返し、活発な火山の動きで丹沢山地や五日市盆地を造る。鮮新世と名付けられた新生代の前半～中頃近く、約紀元前500万年から200万年の間に、三浦半島まで続く多摩丘陵の基盤上総層群が生まれた。多摩・加治・狭山・草花・加住・恩方・川口など馴染みの深い浅川源流の段丘はその頃に型づくられ、海は内陸まで入り込んで、山にのぼれなかった海辺近くの大木メタセコイア（和名アケボノスギ）が、南北浅川の合流付近に川底から半化石状（腐れかけた木のような）で姿を見せている。日野市内でも浅川最下流に架かる新井橋の工事中に掘り出されたと言う化石を見た。こちらは固い石になっていた。木目もハッキリした重いもので、 $\varnothing 20\text{cm}$ 、高さ30cm近くあった。灰色を帯びたこの石が、アキシマクジラ・ヒノクジラが泳ぐ海辺を見ていたと想像するだけでも胸が熱くなった。

地球の気温が下がって海が後退し、勾配のきつくなった河道が氷河等によって削られた階段状の段丘、日野や武蔵野の台地が残る。

古富士、箱根の火山爆発で積もった灰が浅川周辺の丘陵、台地に10～15mも積もる関東ローム層なのだ。50～1万年前の出来事が、水を滲透する力、地下で保水する力に優れたと最近その地質的な特性を評価され、この地に多くの河川を流れ続けさせる力ともなっている。P. 6、図2-2-1～3を参照して頂くと、日野台には15～20mもの厚い層が示されている。丘陵地には改変された、つまり開発により峰を削り谷を埋めて平地化された地形が目立つが5～15mのローム層もまだ残っている。

浅川・多摩川の二大河川がつくった平地は沖積層と呼ばれ日野の平地の1/2以上を占める。昔から両河川から引かれた用水は、この川が残っていた土地に開かれた田を結んで流れていた。これは単に川水だけではない。流域の最下部に湧く多くの湧水の受け皿でもあった。

台地の崖からは今でも日量：夏約8,000トン・冬約2,500トン、丘陵地：夏約4,000トン・冬約3,000トン、それに加えて用水の中、堤外地の中、勿論川の中にも川底の砂を吹き上げながら湧いている水が目止まる。（P. 10～11地質推定断面図）

今回特に力を入れたいと思っていた丘陵地は、八王子西部で220m、日野市の地図で昭和63年に出されたものには180mの標高が記された地点もあった。現在100～150mと云われているが、日野から東で次第に低くなり、台地状に変わっている。数多い沢、谷戸地形は豊富な湧水の流れて作られている。起伏が多いと云っても峰は続いている。斜面のひだは波丘地と呼ばれるにふさわしく、一つ一つのひだから生まれる流れの味も違うものらしい。聞き取りの中にもあるが、地質や植物相がその沢の向きによって違う事に由来するのではなかろうか？ 丘陵地の複雑な水文について

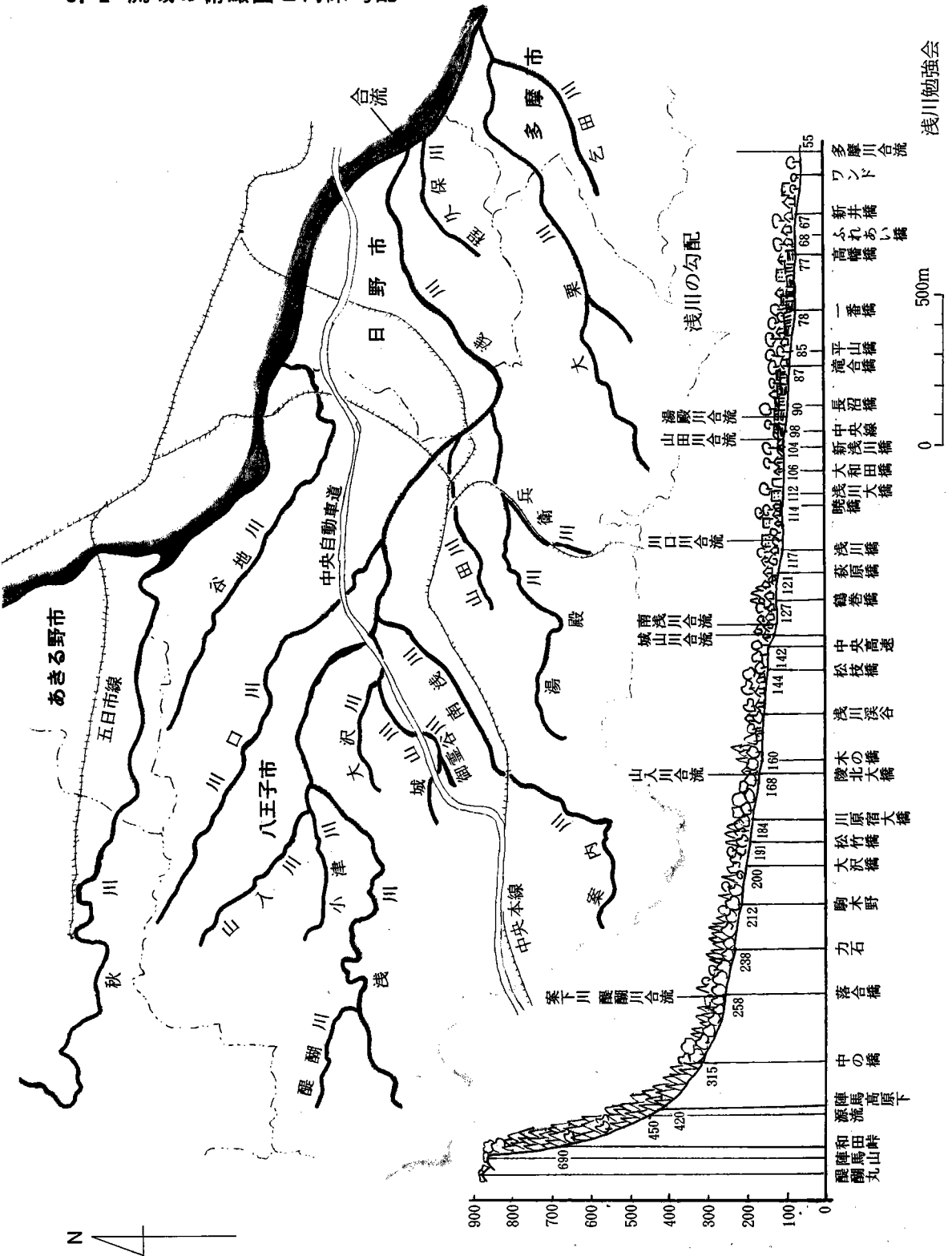
は、素人の計り兼ねるむきもあるが、古くから人の住みついた土地は、それなりに自然条件をうまく利用し日々の糧をその地から得るにふさわしい観察の目も養われている。

そんな人々に触発されながら、今回の調査では改めて、この地の多様さ、内蔵するものの奥深さを感じ取る事が出来た。それと同時に、この地を流れる川の成り立ちを、多くの人々に知って貰いたいとの思いも強まった。目に触れ易い台地の湧水に比べ、丘陵地の数知れぬ細流の湧水は調査から洩れている。私達が知っている事はあまりにも少ない。

昨今のように、川の流量減や濁水が取り沙汰される中で、流域のまちづくりに配慮されなかった地下水、改変された地形の安全性、生態系や従来からの土地利用に対するデータ収集と分析は欠かせないものだろう。

工学的なものや生物学的なものとの融合は、あまりに細分化された専門分野を、人を中心にして最構築する必要がある。大型化した機械力の前にはその作業が急ピッチで行わなければ、修復する作業はあらゆる面で膨大なものになる。過去の災害が示すものに私たちはもう少し謙虚でありたいと、日々改変の止まないこの小さな町の様子を見るたびに考え込んでいる。

## 8.2 流域の俯瞰図と河床勾配



浅川勉強会

## 9. 提 言

○川をとらえる時、地下水を視野に入れるのは今日では常識。

○山間地での調査には莫大な経費を要する。年間を通して水位の調査やボーリングを行うにも、無数の沢や湧水がある。これ等を地元の市民団体に委託できるなら、広い意味での意識の向上、環境行政のPRにもなる。

○聞かなければならないことをマニュアルにしておく、整理や傾向を出す時に役立つ。

この際、機械的にならないよう。遊びや、四季それぞれのつらい事、楽しい事も忘れずに入れる。

○行政とのタイアップ、他団体との連携が出来れば一番。

○この中から見えて来たものは、マップ、パンフレット等判り易い形でまとめる。

○流域で考えなければ表流水も、目に見えない地下水、湧水、降雨等の水循環に関する一つ一つが揃っていても意味をなさない。

○林地の保全、崖地の開発、湧水・水路の保全等すべてに管轄省庁があり、まとまった受皿がない。市民から行動を起こしてテーブルの設定を実現したい。

○地元の大学の研究テーマに取り入れて貰い、学生と一緒にまとめる方法もある。

○いづれにしてもそれをもとに行動を起こすこと。



## 10. まとめ

実踏を終え実際に井戸の計測を開始したのは1994年6月も後半になっていた。多くの空になった井戸、埋めてしまった井戸、これから埋められようとしている区画整理直前の井戸。それを掘った時の苦労話も家族単位だったり村総出だったりだ。中にはどの時代に掘られたものか判らない程古い、というのもあった。いずれも大事にされ、個人財産と言う認識を新たにさせられた。井戸職は、時代を映して「上下水道工事」「〇〇ボーリング」と看板を替えている。

なによりも大変だったのは、近年になって加速された区画整理事業の中で、残された井戸に私達の作った小さな水位計を週一度入れて貰える条件

- (1)蓋に穴がある。もしくは私達の力でずらすことが可能
- (2)定期的に計測できる屋外もしくは半屋外
- (3)家人の協力を得られる
- (4)以上の条件以外に、直線的に見通すことができないような曲った井戸、パイプが邪魔で引っかかるおそれのあるもの

等をクリアーするとすると、かなり難しくなる。このような条件を満たすようなものは農家に多いが、あらかじめ見当をつけて伺うほうが早い。口こみを含め趣意書を用意した。

一年半の間、文字通り雨の日も風の日もで重ねた数字に、様々な形で協力して下さった人々の顔が映っている。浅川勉強会会員の神保エミ子、国分智子、石黒富江、雨宮弘子、島田五十美、荻野二郎・多果子、斎藤健至・俊子、酒井崋久子、板原毅、部外の久須美則子の各氏、毎週計測に協力いただいた井戸所有者の皆様にご心からお礼申し上げます。

円卓会議の「水・そこが問題」に多大のお力添えを頂いた諸先生のおさまざまな分野からのご助言は、水環境に関わるものの立場から、得難いものでした。ほんとうにありがとうございました。その他、有形無形のご協力を多くの方から受けております。

手探りで、おぼつかない私どもの調査に、貴重な機会を与えて頂いた「とうきゅう環境浄化財団」には、当会を代表して心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 参考書（地図）

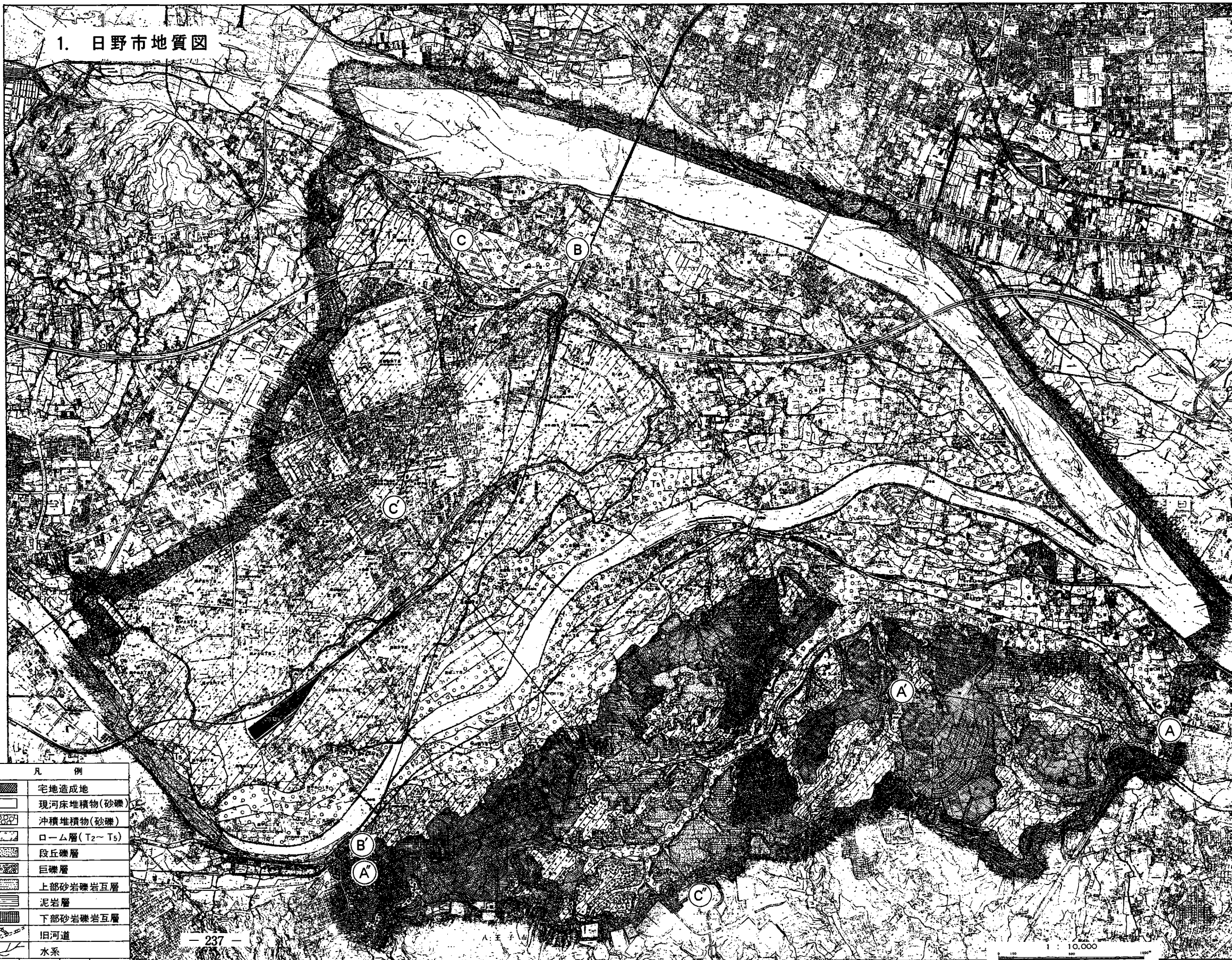
日野市建物利用現況図	日野市
日野都市計画図（平成3年3月）	日野市
日野市建物用途別現況図（昭和63年3月）	日野市
日野市土地利用現況図（昭和63年3月）	日野市
日野市土地用途別現況図（昭和63年3月）	日野市
日野市土地利用現況図（昭和53年）	日野市
日野市土地建物現況図（平成5年2月）	日野市
日野市ボーリング位置図	

## 参考書（図書）

日野市史 通史編一	日野市
とうけい日野（平成6年）	日野市
日野市緑の実態調査報告書	日野市
日野市農のあるまちづくり計画策定調査報告書（平成6年）	日野市
もっと知ってほしい！浅川	建設省
多摩川ハンドブック	建設省
日野市ふるさとの水辺活用事業委託の内 湧水湧出機構解明調査その1（日野台地周辺報告書）（平成2年）	株式会社環境管理センター
河川審議会答申「今後の河川環境のあり方について」（平成7年3月）	河川審議会
河川審議会答中「21世紀の社会を展望した今後の河川整備の基本的方向について」（平成8年6月）	河川審議会
社会経済の変化を踏まえた今後の河川制度のあり方について（平成8年12月）	河川審議会
事業の内容と仕組み（案）（平成8年9月）	建設省
湧水量及び地下水位計測調査業務委託報告書（平成8年3月）	株式会社環境管理センター
ふるさとの水辺活用事業－湧水湧出機構報告書－（平成3年3月）	日野市
日野市の地質資料集（平成5年3月）	日野市
日野市における水路の生物環境、景観要素 および利用意識調査による環境特性の研究（平成元年）	（財）とうきゅう環境浄化財団研究助成 日野の清流研究会 渡部一二（多摩美術大学助教授）
日野市史 別巻 市史余話	日野市
日野台地の開発と水文環境の変化（平成元年）	（財）とうきゅう環境浄化財団研究助成 角田清美（都立小平高等学校教諭）
多摩川ミニ・データブック 多摩川の概要（平成6年）	（財）とうきゅう環境浄化財団
航空写真集「空から東京」多摩	西武新聞社

# 参 考 资 料

1. 日野市地質図



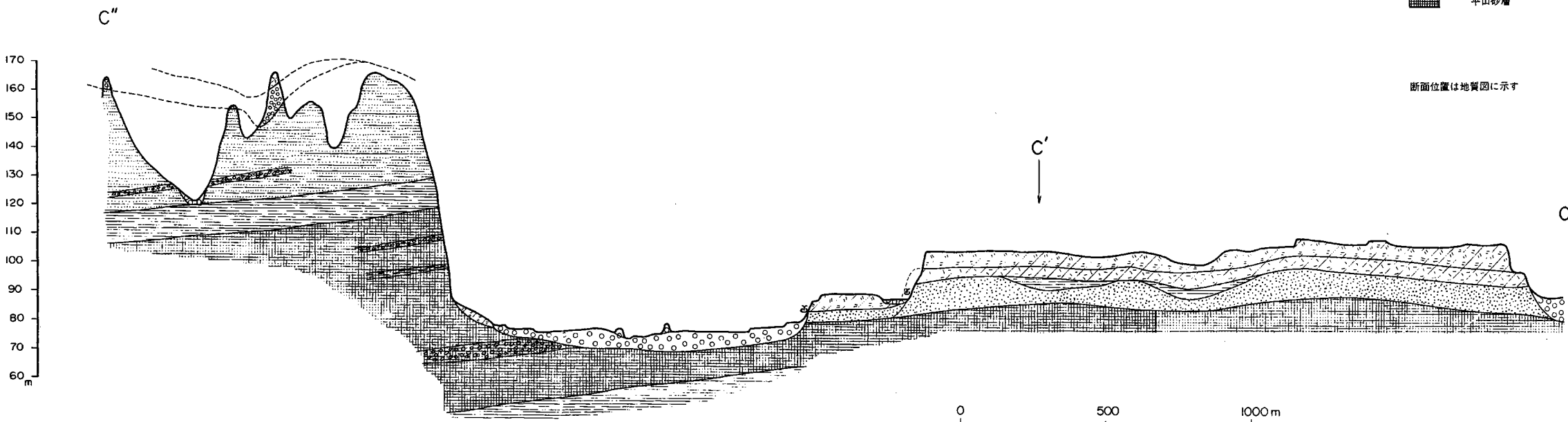
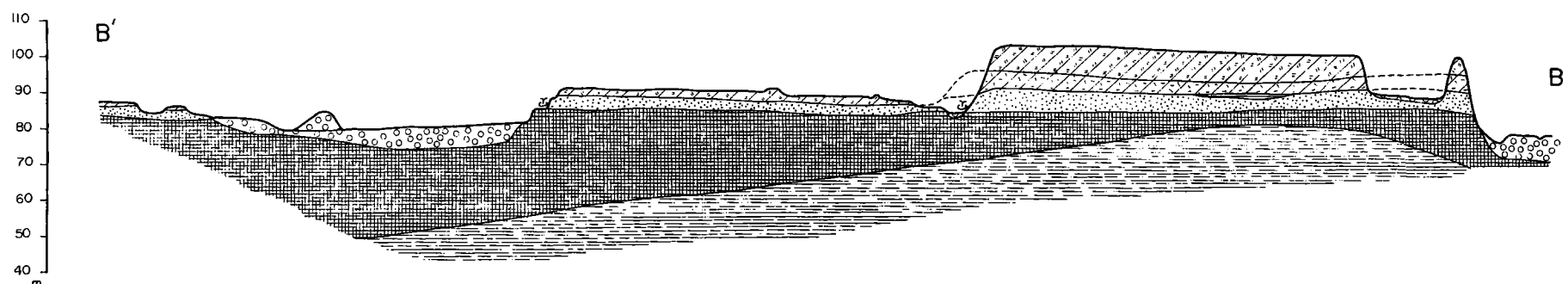
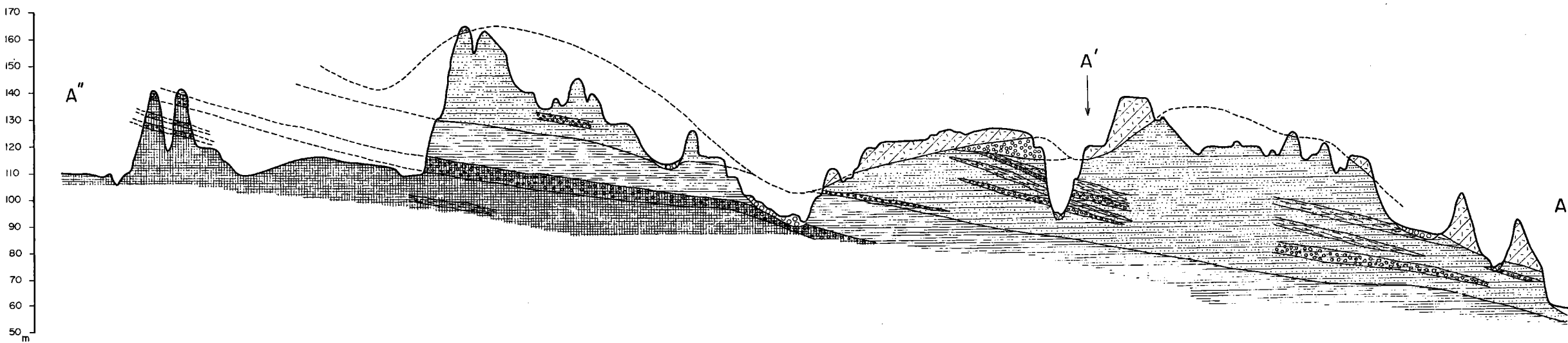
地質時代		凡 例
第四紀	沖積世	宅地造成地
		現河床堆積物(砂礫)
		沖積堆積物(砂礫)
洪積世		ロ-△層(T <sub>2</sub> ~T <sub>5</sub> )
		段丘礫層
		巨礫層
新第三紀	三浦層群	上部砂岩礫岩互層
		泥岩層
		下部砂岩礫岩互層
		旧河道
		水系
		湧水
		A-A' 断面線

— 237 —

1 : 10,000

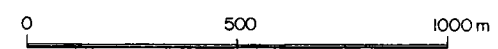
日野市役所

## 2. 地質断面図



- 凡例
- |  |                  |       |
|--|------------------|-------|
|  | 現世堆積物            | — 沖積世 |
|  | 立川・武蔵野ローム層       | ] 洪積世 |
|  | 段丘礫層(立川礫層・武蔵野礫層) |       |
|  | 下末吉ローム層          | ] 鮮新世 |
|  | 段丘礫層(日野礫層)       |       |
|  | 多摩ローム層           |       |
|  | 御殿砂層             |       |
|  | 稲城砂層             |       |
|  | 蓮光寺互層            |       |
|  | 平山砂層             |       |

断面位置は地質図に示す



3. 実測による日野市内の井戸の水位表一覧

標高 井戸No	No.4		No.5		No.6		No.7		No.8		No.9		No.10		No.11		No.12		No.13		No.14		No.15		No.16	
	小島	石坂	由木	横崎	谷	大貫	小野	柴田	地藏堂	天野	一ノ瀬	須藤	宮川													
標高	104.0	70.0	92.3	66.5	82.0	78.5	99.5	100.8	85.0	74.0	83.5	86.5	96.5													
井戸深	5.59	2.42	7.47	8.17	7.40	2.83	20.33	16.00	5.66	4.56	9.13	4.00	13.68													
6/15	2.99	1.09	6.47	1.00	5.50	2.46	19.20	13.50	3.84	4.00	6.15	2.00	6.47													
6/22	3.09	0.92	6.00	1.47	5.43	2.25	18.86	15.40	3.78	3.62	6.21	1.95	5.35													
6/29	2.47	1.04	6.10	1.37	5.46	2.26	19.72	15.36	3.70	3.77	6.30	2.13	5.93													
7/6	3.39	1.11	6.31	1.16	5.51	2.28	18.82	15.55	3.84	3.76	6.30	2.20	6.26													
7/13	3.09	1.04	6.33	1.14	5.55	2.30	18.85	15.49	3.85	3.61	6.26	2.14	6.01													
7/20	1.87	1.07	6.36	1.11	5.55	2.19	18.73	15.36	3.16	3.73	6.23	2.06	6.06													
7/27	3.80	1.16	6.63	0.84	5.54	2.28	18.76	15.43	3.76	3.79	6.46	2.30	6.41													
8/3	3.93	1.18	6.55	0.92	5.60	2.32	18.70	15.42	3.84	3.84	6.51	2.62	6.48													
8/10	3.71	1.88	6.62	0.85	5.66	2.42	18.84	15.56	3.94	3.86	6.54	2.59	6.67													
8/17	4.01	1.58	6.21	1.21	5.72	2.50	18.92	15.48	3.97	3.84	6.58	2.55	6.75													
8/24	3.23	2.36	6.77	1.65	5.72	2.50	18.92	15.48	3.97	3.84	6.58	2.55	6.75													
8/31	3.47	2.12	6.03	1.39	5.60	2.05	18.17	15.27	3.69	3.83	6.57	2.56	6.41													
9/7	3.66	1.93	6.27	1.20	5.27	2.13	18.33	15.34	3.78	3.87	6.58	2.55	6.07													
9/14	3.39	2.20	6.83	1.59	5.28	2.12	18.47	15.38	3.68	3.71	6.40	2.73	6.48													
9/21	3.06	2.53	6.72	1.70	4.87	2.53	17.57	14.35	3.34	3.86	6.53	2.60	6.67													
9/28	3.01	2.58	6.84	1.81	4.24	3.16	17.24	13.75	3.28	3.77	6.48	2.65	6.56													
10/5	2.72	2.87	6.61	1.67	3.60	3.80	16.43	12.81	2.91	3.67	6.27	2.86	6.30													
10/12	2.99	2.60	6.75	1.67	3.80	3.60	16.95	13.01	2.99	3.86	6.62	2.51	6.35													
10/19	2.83	2.76	6.87	1.55	4.17	3.23	16.50	13.43	3.46	3.88	6.69	2.44	6.00													
10/26	2.74	2.85	6.90	1.52	4.50	2.90	17.54	13.70	3.52	3.82	6.59	2.54	6.84													
11/2	2.84	2.75	6.95	1.47	4.87	2.53	17.79	14.11	3.63	3.86	6.67	2.46	6.73													
11/9	2.92	2.67	6.99	1.43	5.09	2.31	18.00	14.48	3.76	3.86	6.67	2.46	6.99													
11/16	3.02	2.57	7.03	1.39	5.25	2.15	18.21	14.87	3.79	3.89	6.74	2.39	6.33													
11/23	3.22	2.37	7.04	1.38	5.36	2.04	18.42	15.17	3.84	3.87	6.72	2.41	6.55													
11/30	3.24	2.35	7.08	1.34	5.46	1.94	18.47	15.45	3.88	3.90	6.88	2.25	6.80													
12/7	3.16	2.43	7.09	1.33	5.56	1.84	18.55	15.61	3.91	3.89	6.78	2.35	7.03													
12/14	3.22	2.37	7.09	1.33	5.66	1.74	18.73	15.53	3.96	3.86	6.80	2.33	7.27													
12/21	3.25	2.34	7.13	1.29	5.70	1.70	18.92	15.70	4.10	3.95	6.85	2.28	7.69													
12/28	3.30	2.29	7.10	1.32	5.80	1.60	19.16	15.54	4.46		6.85	2.28	7.44													
1/4	3.27	2.32	7.03	1.39	5.79	1.61	19.31	15.55	4.05	3.90	6.89	2.24	7.64													
1/11	3.52	2.07	7.20	1.22	5.86	1.54	19.50	15.56	4.12	3.92	6.86	2.27	7.78													
1/18	3.14	2.45	7.22	1.22	5.93	1.47	19.58	15.57	4.12	3.96	6.89	2.24	8.66													
1/25	3.40	2.19	7.21	1.21	5.96	1.44	19.68	15.75	4.16	3.93	6.94	2.19	8.99													
2/1	3.50	2.09	7.28	1.14	6.02	1.38	19.75	15.56	4.23	3.93	7.32	1.81	9.18													
2/8	3.50	2.09	7.53	0.94	6.10	1.30	19.81	15.58	4.26	3.58	7.97	1.16	9.35													
2/15	3.33	2.26	7.28	1.14	6.15	1.25	19.87	15.61	4.24	3.91	7.15	1.98	9.57													
2/22	3.51	2.08	7.30	1.12	6.18	1.22	19.93	15.46	4.31	3.90	6.97	2.16	9.34													
3/1	3.34	2.25	7.13	1.29	6.23	1.17	19.98	15.58	4.28	3.82	6.94	2.19	8.41													
3/8	3.53	2.06	7.26	1.16	6.34	1.17	20.02	15.47	4.24	3.85	6.80	2.33	7.82													
3/15	3.41	2.18	7.24	1.18	6.41	1.26	20.03	15.71	4.16	3.86	6.78	2.35	7.41													
3/22	3.13	2.46	7.36	1.19	6.47	1.15	20.02	15.57	4.00	3.83	6.69	2.44	6.86													
3/29	3.19	2.40	7.00	1.42	6.50	1.80	19.86	15.43	3.96	3.80	6.65	2.48	5.29													
4/5	3.18	2.41	7.01	1.51	6.57	1.83	19.68	15.53	3.85	3.80	6.75	2.38	6.33													
4/12	3.14	2.45	7.08	1.64	6.56	1.84	19.52	15.60	3.90	3.85	6.71	2.42	6.33													
4/19	3.35	2.24	7.14	1.33	6.56	1.84	19.43	15.59	3.93	3.85	6.71	2.42	6.33													
4/26	3.35	2.24	7.27	1.20	6.51	1.79	19.42	15.61	3.99	3.89	6.71	2.42	5.91													
5/3	3.25	2.34	7.02	1.10	6.51	1.79	19.41	15.64	3.90	3.82	6.74	2.54	6.89													
5/10	3.30	2.29	7.42	1.05	6.52	1.78	19.34	15.63	3.90	3.85	6.66	2.47	6.96													
5/17	3.18	2.41	7.55	0.86	6.52	1.19	18.90	15.23	3.82	3.85	6.30	2.83	4.10													
5/24	3.59	2.00	7.73	1.69	6.51	2.24	18.70	15.33	3.70	3.86	6.68	2.45	4.58													
5/31	3.15	2.44	7.74	1.68	6.51	2.22	18.66	15.44	3.73	3.82	6.73	1.93	3.87													
6/7	3.24	2.35	7.31	1.16	6.53	1.57	17.73	15.50	3.76	3.80	6.52	2.61	4.49													
6/14	3.02	2.57	7.75	1.77	6.49	2.54	18.40	15.15	3.76	3.81	6.29	2.84	3.94													
6/21	2.84	2.75	7.81	1.61	6.47	2.64	18.40	15.15	3.76	3.80	6.18	2.95	3.66													
6/28	2.97	2.62	7.66	1.76	6.05	1.42	17.96	15.02	3.60	3.83	6.25	2.88	3.90													
7/5	2.85	2.74	7.72	1.75	6.47	2.83	17.91	15.89	3.53	3.84	6.15	2.98	3.86													
7/12	2.74	2.85	7.80	2.19	6.33	3.47	17.16	13.77	3.34	3.85	6.28	2.85	3.48													
7/19	2.95	2.64	7.70	1.70	6.48	3.22	17.44	13.83	3.44	3.83	6.30	2.83	3.85													
7/26	3.20	2.39	7.64	1.64	6.32	2.81	17.71	14.07	3.49	3.85	6.30	2.83	3.85													
8/2			7.83	1.59	6.36	1.11	17.96	14.33	3.60	3.90	6.32	2.81	4.71													
8/9	5.05	0.54	7.87	1.55	6.23	1.24	17.97	14.02	3.61	3.87	6.28	2.85	6.00													
8/16	3.30	2.29	7.80	1.38	6.20	1.27	18.00	14.08	3.73	3.84	6.30	2.83	6.37													
8/23	3.50	2.09	7.85	1.57	6.13	1.34	18.22	14.11	3.40	3.86	6.25	2.88	5.59													
8/30	3.24	2.35	7.89	1.43	6.24	1.21	18.17	14.33	3.67	3.90	6.34	2.79	6.16													

浅川勉強会

注) 30歳堂4/26、5/3は工事中のため5/7に計測。(5/3に記入) 井戸深6.60m → 5.66

小島8/2 激しい雷雨のため計測中止。

小島8/9 家人前日留守の停止忘れれたモーターが焼けたとのこと。

大貫底さいり95.2月1日井戸深40深くなる。2.83m → 2.87

---

げんちかんそくもと ひのし みずかんきょうほぜんかん  
「現地観測に基づく日野市の水環境保全に関する  
すいもんがくてまけんきゅう  
水文学的研究」 (研究助成・B類 NO. 103)

著者 やまもと ゆみこ  
山本 由美子

発行日 1997年3月31日

発行 財団法人とうきゅう環境浄化財団  
〒150 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141

---